千葉大学附属図書館亥鼻分館館報

# らいぶらりい 亥の鼻 8

1983. 3

●目次●

今日の亥鼻分館　林　豊――2
亥鼻分館新営構想の試案について　江口　元――3
**広場**
時のながれ　平野英男――5
医学図書館訪問記　I　岩沢　明――6
近日雑感　西林聰武――7
ニューヨークシティをぶらついて　新田宏子――8

図書館を10倍上手に利用する方法　I　――10
JOIS　利用案内・利用状況　――12
閲覧室から…　――16
**談話室**　大寒に思う　阿部和子――18
寄贈著書ありがとうございました。――18

亥鼻分館の〝ルーツ〟とも言うべき「長尾文庫」が建設されたのは、明治33年のことである。「長尾文庫」は、長尾精一氏の在職20年を記念して建設のはこびとなった。長尾精一氏は明治13年に千葉に赴任して以来、千葉病院が県立千葉病院、第一高等中学校医学部、第一高等学校医学部、千葉医学専門学校と、昇格と発展を重ねる毎に常にその長となり、全生涯を通じて本学前身の発展と充実に努力してきた「創業者」の１人である。

「長尾文庫」については、

「図書館の建設は学業に伴ふ欠くべからざる必須の条件であって、軈てこの文庫が年を逐うて完備するに到れば、千葉医学の文運を開く、蓋し勘少に非ざるべし」と望みをかけていたという。この氏の理想は、今も生き続けているはずである。

「長尾精一傳」、「千葉大学医学部八十五年史」より

# 今日の亥鼻分館

林　豊

千葉大学附属図書館亥鼻分館がこの地区の4部局の複合分館として誕生してから5年目を迎えました。書庫の拡張、コンピュータによる情報検索、ホロチェックゲートシステムとそれによる夜間開館などが実現された分館には、夜10時でも灯がともっています。私は、昨年4月以来、分館長としてその一員に加えていただき、かつての単なる書庫的な施設から脱却させて今日の図書館を育ててこられた先人のご苦労が如何に大きかったかを実感している昨今であります。同時に、現代の図書館としてはスタートラインについた段階であることをも感ぜざるをえません。

亥鼻地区には、大学の発展の過程で古くから集積されてきた約20万冊の図書があり、そのほぼ半分が分館に納められています。そこには、歴史的にも貴重な古典も含まれています。利用状況も重要で、昨年前期の入館者数はのべ24,000人をこえています。情報化社会の中にあって、文献の検索にはコンピュータによるレファレンスサービスの重要性が増しています。しかし同時に、開架制のとられている書架の間を文献を渉猟して歩き、手にした書物から直接に情報をえる方法も依然として重要性を失っていません。

日常抱いている潜在的な疑問が、その時の目的とは別の有用なタイトルとして眼にとまることは、限られた生物医学情報の中でしばしば経験されるところです。その他、文献検索と関連して、図書館利用のオリエンテーションは、これを行う時期を学部のどの学年にすべきか、また、他の職種の人にも対象を広げるべきかなどの検討が必要と思われます。

多数の書架を並べて個別の利用者を待つという図書館では情報の流れがマスコミのとる形の逆方向をゆく場面があるといわれます。個々の利用者が何を求め、利用し、その結果がどうであったかについての答えは、たとえそれが断片的であっても、図書館の改善のための資料となります。係へ話していただいたり、投書箱やアンケート調査を利用して多数のご意見をいただけることを願っています。とくに、コンピュータによる検索の場合には、利用者の要求にどのように応じえたかを知るまでは、担当館員の質的な向上はあまり期待できないとさえ考えられます。いずれの方法でも、利用者の要求は極めて個別的な内容であり、館員との個別的な接触が是非とも必要であると考えます。また、日頃、図書館を利用される際に種々のご意見を下さっている方々に心から感謝しています。米国の大学のなかには、館員が大学病院の回診に同行して患者の診療に必要な文献検索を引き受け、情報を短時間のうちに医師に知らせるシステムをもつところがあることを聞き、館員のレベルアップ、図書館の近代化は際限もない仕事であると思わざるをえません。

現代の図書館像の夢は止めどなくふくらむものですが、控え目にみても、戦後の図書館の復興期ともいえる時代に文部省に設けられた国立大学図書館改善研究会の基準（昭和27年）が夢であるとは思われません。「新学制における大学図書館は、教室の延長またはその一部として、学生が日夜これに親しみ、充分に利用する気風をいっそう普及すること」（要項6．イ）、また、「学生のための閲覧席は、学生総数に対する相当数（10%ないし20%）用意するようにつとめる」（要項6．ホ）、の提案を考慮するとき、分館は日本でも数少い夜間、日曜開館実施の施設であることが誇りに思われます。しかし、座席の点では3%にも満ちておらず、旧医学部基礎棟を改修してつくられた 1,800m²余の書庫の床にかけられる

荷重は、書庫としては半分の利用価値をもつにすぎません。この地区の情報センターとして基本的に整備された分館の実現が強く望まれます。

そこで、分館新営の実現を期して、亥鼻分館運営委員会と図書館のスタッフが検討中の案にもふれたいと思います。詳細は、別にのべられることでしょうが、その分館は亥鼻地区のほぼ中央にあり、1階には18万冊の研究図書の配架ができ、2階には学生のための学習図書をおき、いくつかのグループ学習室と、やや長期にわたる利用者のための個室をつくり、3階には歴史的にみて貴重な専門図書その他をおきます。

そして、地下にはコーヒーブレイクの可能なブラウジングルームをつくることも望まれます。これらは、分館の最小限の姿であるべきでしょう。一方、利用者に提供される資料の新しさの点について、年々増加する莫大な情報量に対応した学術情報システムの開発が国の規模での急務となっています。昭和55年以来、文部省でその研究、開発が続けられている事実がありますが、残念ながら大学側からみた具体的、有機的な案をつくれる段階には至っていません。

その昔、千葉を含めた5つの官立医大による附属図書館協議会（昭和2年）の相互貸借制度は、図書館の近代化の口火を切りました。今日、いくつかの大学で面目が一新されているように、亥鼻分館の建物、設備が新営されることが切望されます。同時にまた、利用者に提供しうる資料の充実と奉仕の内容の斬新性は如何にして求められるかは、常に関係者の身をひきしめさせ、たゆまざる努力を決意させる課題であります。大学が最高の教育と研究の機関であり、その図書館のはたす役割りが大であることをご考慮下さり、一層のお力添えを切にお願いいたします。

（附属図書館亥鼻分館長）

# 亥鼻分館新営構想の試案について

江　口　　元

（経緯と問題点）

亥鼻分館は、亥鼻地区四部局（医学部・看護学部・附属病院・生物活性研究所）の複合図書館として、昭和53年度発足した。

今の建物、施設は、元医学部分館として昭和46年度第1期工事として閲覧室（開架式）と事務室等管理部門の計1,128m²が建てられ、第二期工事予定の書庫等については、都合で計画変更となり中断されたまま書庫のない不便な図書館として運営されてきた。昭和56年度には、医学部の移転に伴い旧医学部基礎棟の一部1,854m²を改修し、応急的に書庫として使用することとなり分館専用の現有面積は、2,982m²となった。

この仮書庫が出来たことにより長年分散管理されていた多くの図書の約70%（約8万冊）を配架することができ、図書館としての機能が一応回復された。しかし、この建物は、医学部の教室、研究室等として建築設計されたため、床の耐荷重量が小さく、脆弱なため書

庫としての面積利用度は50%以下である事等からなお約30%（約３万５千冊）の図書が配架できない現状である。更には、現有閲覧スペース等を改善したくも全くその余地がなく、又、閲覧座席については、対象者約 2,500人に対し57席で必要座席数の約2.5%と極めて少なく図書館利用者に大変不便をかけている。

（図書館近代化と使命）

近年、我が国の学術情報システムの整備において、全国各大学図書館は重要な基礎部分として位置づけられている。当亥鼻分館は学内において、医科学学術情報のセンターとして学術情報サービスをはじめ、ファクシミリ、ＶＴＲ、マイクロシステム等図書館の機械化、近代化の整備充実を図り、更に、全国ネットワークにおける情報活動の場となることが急務と考える。このためには端末機器の設置場所とそのサービスエリアを必要とする。

更に当亥鼻地区では我が国唯一の国立大学看護学部を有し、看護学研究のため、広範に文献、資料を収集整備し、看護学資料センター的役割を持つ任務があると考える。

以上の理由からも利用対象者を充分考慮した閲覧スペース、書庫及び情報化に対処し得るに必要な面積の確保、機能的かつ近代化された医科学情報センターとしての使命を持つ亥鼻分館の新営が必要と考える。

（新営計画の検討結果）

当亥鼻分館運営委員会においては、56年度から図書館新営を計画検討し、予算要求してきたが来る59年度の概算要求に当っては新営構想を実現に移すべく検討が進められている。一方、亥鼻地区各部局に図書館のアンケート調査を依頼し、その資料を有意義に活用し図書館進展の指針としたいと考えている。現在までに委員会で検討した構想を次に列挙してみた。

１．位置

キャンパスの中央に位置することが望ましい。

２．建築構想　　約 延 5,000㎡

利用上の便宜、運営上低層建築が望ましい。なお、将来増築可能な設計を取り入れると共に省エネ対策としてソーラーシステムの採用等を考慮する。

〔１階〕……（主として研究用）約2,300㎡

①新着雑誌(和、洋)、洋雑誌、参考図書の配架スペースと積層書庫の関連

②カウンター、情報検索室、目録、書庫等のスペース

③管理部門、事務室スペース

④新聞、一般雑誌（軽読書）スペース

〔２階〕……(主として学習用）約1,500㎡

①和雑誌、単行書、貴重書の配架スペース

②演習室、展示コーナー、ＶＴＲ、ＬＬ、個室、ブラウジングコーナー等の利用スペース

〔３階〕……（文化遺産の保存管理）約 600㎡

①貴重書庫

②展示室…教育、研究成果の標本等の展示

③保存庫…博物館的機能を持たせ医科学を主とした資料の保存。

〔地階〕……（管理施設、省エネ施設）約 600㎡

①機械室、蓄熱層、消毒室、倉庫

②ブラウジングルーム（軽喫茶）

※この計画構想は亥鼻分館運営委員会の中間結果を簡単に列挙したもので、具体的な計画に当っては、本学事務当局の専門知識による指導とご尽力を期待するものである。

（附属図書館亥鼻分館事務長）

# 広場

## 時のながれ

平野英男

おだやかな暮から新春を迎えて亥年に改まった。

相送当門有修竹　為君葉々起清風

この心を古人は，君子情純の心情とたたえ、千利休はこの心に一期一会をおしえる。

静かな正月の世情を眺むるに、生活も大変に変り，自らの経験のなかから，その変貌に驚き入るばかりである。

乳児死亡率が 400以上の江戸時代に，わが子の生長は神仏の加護とした感謝の心は、いつしか外見の華美に変った。商家の営業策によるところが大きい。一族の部落形成、家族の集団生活のなかに育ち培かわれて来た風習は、後世に受けつがれてゆくであろうかなどと美酒と共に論じていた。

私どもが関係している労働環境も、かつてのきびしい労働条件から機械化へと変換が進み、ロボットの稼動も進出している世の中である。大・中・小と呼ばれる企業の労働実態は、巾広いものとなった。

医学の進歩も含めた科学・技術の発展は、疾病管理の面から積極的に健康管理へと歩み、科学・技術の進歩に裏付けされて、労働者に対する衛生教育も拡充されてきた。幾つかの例を挙げると、粉じん作業に従事する全労働者に対して、じん肺症とは、粉じんの有害性は、などと教育が行われ、有害化学物質を取扱う作業者に障害防止教育、酸素欠乏の恐れのある場所で働く作業者に、鉛取扱い作業者、有機溶剤取扱い作業者に夫々障害防止教育がなされ、測定技術の講習も行われている。これらは数年来増加傾向を示している。まさに，生涯教育の時代となった感が強く、健康で福祉の時代である。これらの講師は、産業医が担当しているが、我々も一部分担している。多種多様な職業の人に接する機会が多いが、残念なことに労働現場の実態に接する機会が少なく、十分納得のゆく話しが出来ているか自問の連続である。

必然的に、私どもの分野の研究テーマは、社会的な要望が多い。現在、私達が行っている鉛の生体影響に関する研究も、微量鉛の生体影響を主に、鉛作業者の鉛特殊健診の折に研究を進めて来た。

現在の鉛研究の主流は、1963年にLichtmanとFeldmanの“In vitro pyrrol and porphyrins synthesis in lead poisoning and iron deficiency”と題する論文が嚆矢となった。この論文は、貧血患者のPorphobilinogen synthetaseの測定中に鉛中毒患者の本酵素活性が極めて低いことから、鉛に鋭敏に反応し活性低下を来すことを教示した始めのもので、本酵素に関する研究は、ポルフィリン・ヘム合成系の研究を進めてきた生化学者に、衛生学、中毒学の研究者も加わって進められて来た。

それ以来、鉛中毒の研究は、臨床的な段階より、亜臨界症状のレベルに移行し、生体影響は“metabolic disorders”のレベルで論じられるようになった。加えて，原子吸光計の出現は、鉛の測定をmgの桁からngの桁に下げ、測定試料も極めて微量で測定可能に飛躍させた。その功績は大きい。

その結果として、研究は酵素レベルで、生体膜へと細分化されて行き、数多くの発表がなされて来た。このことは生体内で鉛の関与する部分が多いことを物語っており、鉛の暴露でみられる様々な反応が説明できるようになるまでに、幾年も要するであろう。細部の研究発表に、一部の人から、ppm学会とかＡＬＡＤ学会とかという御不満の声も聞かれた

が、必ずや近い将来、細分化された研究も時の経過と共に集約され、統合されてゆくであろう。これが研究の常道であり、本来の姿と考える。

鉛中毒について、鉛を主役にして中毒の症状が講義される日が来るであろう。

（衛生学教室）

# 医学図書館訪問記 Ⅰ 独協医科大学図書館

岩沢　明

亥鼻分館の新営計画促進のため、今年度は比較的新しい医学図書館を見学して参考にしようとの方針が立てられ、分館長とともに逐次見学した。以下はその報告であるが、独断と偏見による印象記なので、あらかじめご容赦願うと同時に、お断りしておきたい。

東武宇都宮線の「おもちゃの駅」に着いたのは、まだ暑い頃でした。駅前から一見閑静な風景の中をバスは、程なく病院前に到着した。

図書館は3階建で特に目立つ建物ではなく全体としては、プレーンで使いやすいと思われた。一番強烈な印象を受けたのは、2階のメインフロアー入口への通路で、少し離れた病院、各研究室、講義室等に通じており、すべて風雨にさらされることなく往来できることであった。さらに大学理事会の歯学部設置計画に従って、諸般の事情を勘案しながら増築を完成させ、5,800m²の図書館となっていたことである。狭くて困ると歎いている者にとってはうらやましい限りであった。

内部の調度品等は逐次整備されることと思われるがたっぷりした空きスペースがあった。

1階は主として単行書（一般教養を含む）と1964年までの雑誌のＢＮが手動の集密書庫に配架されていたが、ＢＮ用の集密書庫スペースがもっと欲しいと思われた。

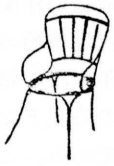
2階はメインフロアーで、利用者の出入りは一ヶ所に限定されていて、入口を入るとすぐカウンターがあり、その前には新着誌が大きな机の上にならべられており、さらに1965年以降のＢＮがずらりと勢揃いしていた。カウンターの内側はそのまま間仕切りもなく事務室となっていたが、騒音などのクレームはないとのことであった。事務室につづいて参考図書コーナーがあり、ここで機械検索を行っているとのことであったが、検索室は独立させた方がよいのではないかと思われた。

3階は増築との関連からこれから整備されるとのことで、ほとんど空きスペースであったが、グループ演習室が大・小あわせて4室設けられ、この日も3室は使用中であった。亥鼻分館新営の際は、是非同程度の部屋を確保したいと感じた。

閲覧関係備品類は、全体的に私学としては質素な感じで独協学園の伝統かと思われた。閲覧机も本学のものとほとんど同じ個席が多く、4人掛用のは少なかった。個室は利用が少ないとの事であったが、少し手狭な感じであった。

この図書館は従来のスタンダードな図書館であるが、館長、事務長が非常に熱心で、図書館に関する造詣が深いことが感じられ、職員の皆様も感じのよい人達ばかりであった。

（亥鼻分館）



# 近　日　雑　感

西　林　聰　武

先般タレントの三波伸介が動脈瘤で他界されたとの報道がありました。テレビでは三波伸介を偲び、弟子達が集り座談会が放映されていました。私はたまたまその番組を見るとはなしに見ておりました。

私は芸人の世界は全く知りませんし、またそれまでは、どちらかといえば芸人達のつくる人間集団を軽く見ておりました。しかしこの番組を見て感動し、それまでの自分の気持が恥ずかしくなったのでした。

三波伸介が師匠として一流かどうかは人によりその評価はまちまちでしょう。しかし師匠として弟子達をかばい、弟子達の事を考えまた弟子達にとってはいなくてはならない御師匠様であった事を知らされました。そこには師匠を中心とし、タレントが到達すべき理想を目指し、温かい雰囲気があり切瑳琢磨があったのです。そして自分達医師の仲間と比べておりました。

芸人の世界と医師の世界はもちろん違います。しかし師匠を中心として理想を打ち立てその理想を目指し切瑳琢磨する事に違いはないと思います。そして師匠が弟子達を心配し弟子達は師匠を慕う気持は同じだと思います。

茶道では一座建立という言葉があるそうです。作家の井上靖はこの言葉をこんなふうに説明しております。

『茶会を開いた時、茶室という特定な空間の中に展開される和敬静寂の高い雰囲気も一座の者が互いに心を合わせ、その気になって初めて造り上げられるものである———そういうことを一座建立という言葉でいい現わす』

私は三波伸介の追悼の座談会を見ていて、この一座建立という言葉を思い起していました。三波伸介を師匠とし、その弟子達の間にこの一座建立というべき境地があったかどうかは異論があるかもしれません。しかし一座の全員が集り、タレントの到達すべき理想を目指し、ある雰囲気を造り上げていた事は、事実でした。

現在はドライな時代で、個人主義がますます発達している時代です。師匠と弟子なんて旧くさいといって軽視され勝ちのようです。しかし師匠と弟子との関係は旧くさいといって見捨てられる関係なのでしょうか。

人間は誰れしも皆生まれる時は、何も知らない赤子です。その赤子が親に養育され育ちます。やがて知識を得つつ子供となり青年ついには成人に達します。成人になり、社会に生き抜くには先達のすぐれた知識が不可欠のものです。この知識を得るために師匠が生まれ、弟子ができると思います。

師匠と弟子の間には、何の取引関係もないと思います。たまたま教え、たまたま教わったという関係だけの純粋な人間関係です。人生の邂逅のすばらしさではありませんか。この師匠と弟子との人間関係は、一座建立という特殊な雰囲気で浄化され、師弟愛に変貌していくように思えるのです。

茶会でいう茶室に相当するものが、我々の世界では治療室あるいは研究室にあたるのでしょうか。こんな事を言うと古い権威主義の復活のように聞こえるかもしれませんが、治療室あるいは研究室でうまれた師匠と弟子との人間関係は、一座建立という雰囲気で浄化され、やがて咲いた花が師弟愛となるような気がいたします。そしてこの場合の雰囲気は和敬静寂というよりはむしろ和敬厳粛といった方が的確かと思えます。少なくとも私のすごした皮膚科や病理ではそのようなものでした。古いものでも残すべきものは多々あります。一座建立のもとに咲いた師弟愛という大きな花を大切に育ててゆきたいと願っている今頃です。

（皮膚科研究生）

# ニューヨーク・シティをぶらついて
## —そして、New York Public Libraryの事

新　田　宏　子

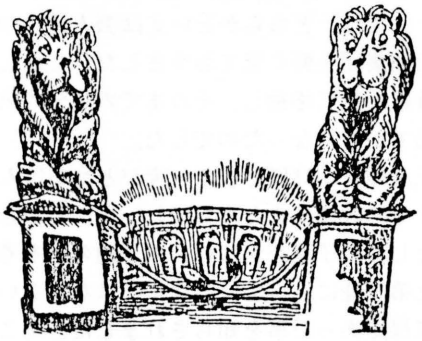
噂には聞いていたけれど、まずびっくりしたのは New Yorker 達が平気で信号を無視すること。東西に走る Street と南北にのびたAveneuできれいに区切られたManhattanの街では、Streetはほとんど One Way（一方通行）なのです。だから誰でも車の来る方を見て来ないのを確認したら、どんどん歩きだす。信号はDon't Walk でも。これが個人主義の国だなんてこんなところで感心しました。そして私も早速、Don't Walk を無視して歩きだす。すると不思議と根っからのNew Yorker みたいな気分になってしまう。少しだけスリルを味いながらも、快感。ただどうしてもNew Yorkerになりきれないのは、One Wayなのに、ついつい右見て左見てそしてもう一度右を確認してしまうこと。子供の頃教えこまれた事ってなかなか抜けないのですね。

でもそんな風に信号無視で自由に歩きはじめると、Manhattan はあっという間に自分の街になってしまう、みたい。だからスキップしながらBroad Way を下って行くと、Times Square へ出る。ここで前々から目をつけていたミュージカルの当日券（半額!!）を手に入れたのです。ますますゴキゲンで、幕が上がるまでの間に 5 th. Ave. へ行こうじゃないの、と足をのばす。

5番街といえばティファニー、ティファニーといえば breakfast というくらいだけれど、ここにはエンパイア・ステートビルもあれば、そうNew York Public Library もあるのです。そう言えば〝ティファニーで朝食を〟のシーンの中にもありましたね。

New York Public Library というのは、たくさんのBranch Library（分館）から構成されていて一つのネットワークを形づくっているのです。ここ5th. Ave. & 42nd. St. の古い建物は、Central Research Libraryといって正面には、三越のライオンみたいなのが2匹も座っている。これにはちゃんと〝Patience〟と〝Fortitude〟という名前がつけられていて、N.Y.のシンボルになっているそう

THE NEW YORK PUBLIC LIBRARY



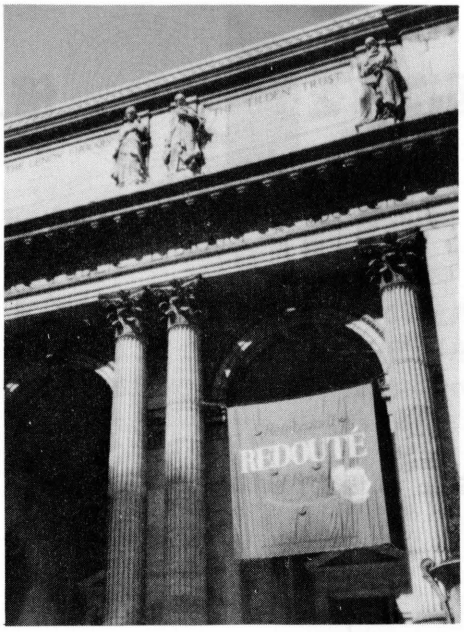
です。中に足を踏み入れると、図書館というよりは、博物館や美術館という印象。なんと1911年建設だから、なかなかの歴史と風格を持っているのです。そして2階のPublic Catalog Room では、利用者が黙々とカードを引いている。ここでは1972年に古い目録が廃止され、今では Computer に inputされていて、2本立ての目録となっている。ただしここは Research Library だから、貸出はしてくれない。貸出はその他のBranch Library へどうぞ、というシステムなのだ。ちょっぴり詳しい話も聞きたかったけれど、むずかしい英会話はお手上げなので、パンフレットを読んでがまんしました。残念。でもどうしても話をしなくちゃいけなかったエピソードを一つ。中で写真を撮ったら、警備のお兄さんにおこられてしまったのです。そして〝Private only〟とサインをさせられました。もうびっくりして何を言われてるのかさっぱり聞きとれなかった。でも彼だってあせったでしょうね。

全体の感想としては、図書館に関する限りでは、日本よりも10年以上は進んだ国だということですね。利用者を見ただけでもその差はわかるし、何よりもあのBranch Libraryのネットワークシステムがうらやましいと感じました。

さて外に出てみると、あのライオン像の前でうれしそうに写真を撮っているアメリカ人親子がいるのです。日本人のおのぼりさんの私は、このアメリカ人おのぼりさんを見ながら、ホントに本当に今、New Yok にいるんだな、としみじみ思いました。

サア、次はエンパイア・ステートビルへ！

（亥鼻分館）




## “らいぶらりいゐのはな”をどうぞよろしく!!

### —千葉大学附属図書館亥鼻分館館報のタイトル変更について—

昭和53年４月、亥鼻分館が発足し、同年７月、五十嵐裕二氏（現国立歴史民族博物館）が主となって〝いのはな分館ニュース第１号〟が発行された。その後第７号まで順調に発行されていたが、昭和56年、医学部基礎部門の移転に伴う図書館蔵書の移動、配架等の準備作業等に追われ、途絶えていた。昨年４月、館内の人事異動もあり、ようやく落着いた時期に来て、館報の発行について検討されてきた。昨年10月より編集委員会が発足し、その中で、館報の体裁、版組、タイトル等について検討を行ない、その体裁については、今迄発行されていた分館ニュースの型を受けつぐこととした。

さて、亥鼻分館の所在地である、千葉大学亥鼻キャンパスは、その歴史をたづねるとなかなか由緒ある場所であることがわかる。そこで先づ〝ゐのはな〟を使用することに合意し、それに図書館であることを明示して、ここに〝らいぶらりいゐのはな〟とタイトルを変更することになった。

なお、〝らいぶらりいゐのはな〟発行に当り、千葉大学工業意匠学科出身の中村真弘氏に本紙のデザインをお願いいたしました。紙上よりお礼申し上げます。

（編集子）

# 図書館を10倍上手に利用する方法

## Ⅰ．アプローチ

「図書館は迷路だ!!」

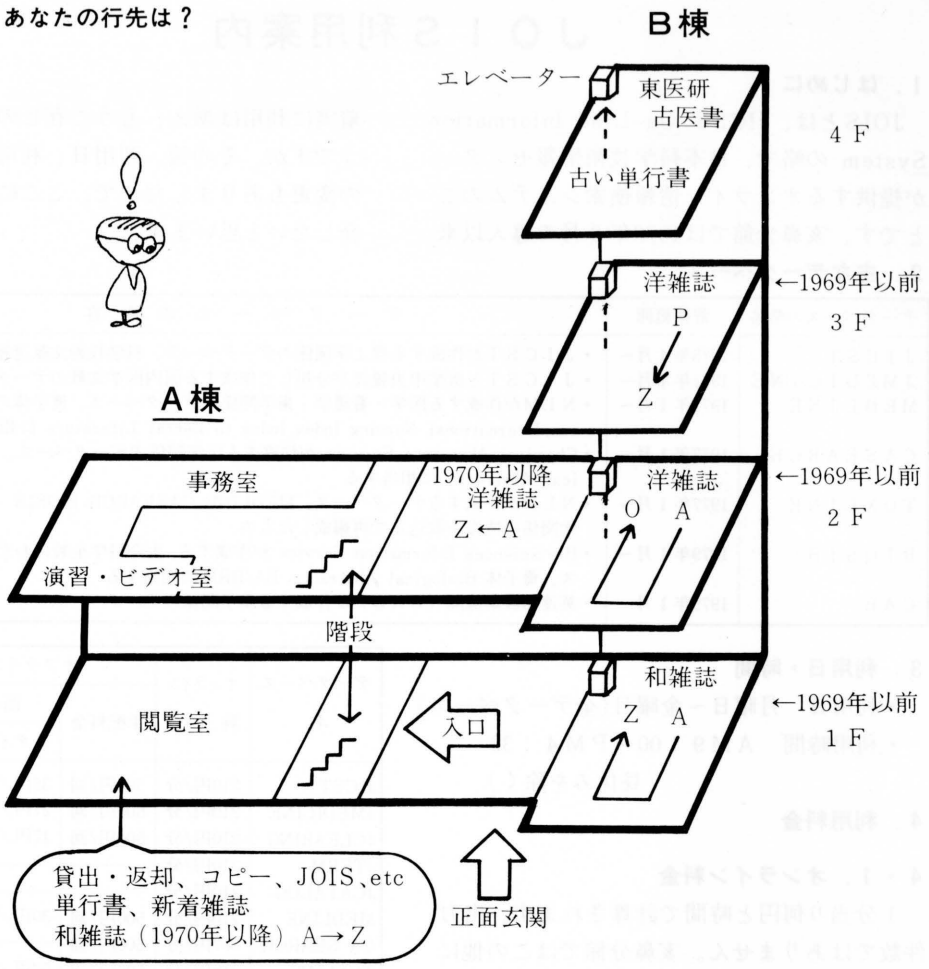
残念ながら多くの利用者の方の中には、そう感じておられる方もいることと思います。この図書館は、昨年の改修工事以後、書庫スペースが広くなったのですが、そのためわかりにくくなったところもあるようです。そこで、図書館を10倍も20倍も有効に使うためにまず、自分の目的と行先をはっきりさせましょう。

**—Step 1　図書館利用の目的は？**

- 学　習 → 閲覧室
  - グループ学習 → 演習・ビデオ室
- 図書閲覧 → 閲覧室
- 貸出・返却 → 閲覧室
- 文献検索 → 閲覧室
- コピー
  - 公用 → 閲覧室・書庫Ａ－２Ｆ
  - 私用 → 閲覧室
- 雑誌利用
  - 新着（最近１～２年ぐらい） → 閲覧室
  - バックナンバー
    - 和雑誌
      - 1970年以降 → 閲覧室
      - 1969年以前 → 書庫Ｂ－１Ｆ
    - 洋雑誌
      - 1970年以降 → 書庫Ａ－２Ｆ
      - 1969年以前
        - Ａ→０ → 書庫Ｂ－２Ｆ
        - Ｐ→Ｚ → 書庫Ｂ－３Ｆ

あなたの利用目的によって行先が違うのです。そこで次のstep 2をご覧下さい。

—Step 2　あなたの行先は？




さて、step 2の図を見ておわかりでしょうか？。つまり図書館はA棟とB棟から成っています。まず、1階の閲覧室が入口になります。この閲覧室は、図書館のcentral nervous ststemです。貸出・返却、文献複写、文献検索etc、カウンターに何でもお気軽におたずね下さい。この2階には、事務室等と演習・ビデオ室、そして書庫があります。演習・ビデオ室は、ビデオ閲覧やグループ学習にご利用下さい。書庫には、洋雑誌のバックナンバー（1970年以降）があり、公用専用複写機も備えてあります。

そして、この書庫がB棟と通じています。B棟は、1階から4階まですべて書庫です。書庫といっても開架式ですから、自由な出入りが可能です。しかし、雑誌の配置の複雑さが図書館を迷路にしている原因のようですね。新書雑誌（1年前ぐらいまでの未製本の雑誌）は、閲覧室にあります。バックナンバー（製本雑誌）の配置が少々わかりにくいかもしれませんが、実は簡単なのです。まず和・洋ともに、1970年で分けられています。そして1969年以前の古い雑誌は、すべてB棟の書庫へ配置されています。1970年以降の雑誌は、和雑誌が閲覧室、洋雑誌はA棟2階書庫にあります。

というわけで、step 1、2で頭の中に地図を描くことができたでしょうか？　これで図書館は迷路ではなくなるはずです。でも、どうしてもわからない事がありましたら、迷わずカウンターへどうぞ。

（運用係・新田）

# ＪＯＩＳ利用案内

## １．はじめに

JOISとは、JICST On-Line Information System の略で、日本科学技術情報センターが提供するオンライン情報検索システムのことです。亥鼻分館では1978年９月の導入以来着実に利用は増え、もうご存じの方も多いようですが、その後、利用日、利用料金、等々の変更もありましたので、ここに概略をご紹介したいと思います。

## ２．主なデータベース

| データベースの略名 | 蓄積範囲 | データベースの内容 |
|---|---|---|
| ＪＩＣＳＴ | 1975年４月～ | ・ＪＩＣＳＴが作成する理工学関係のデータベース、科学技術文献速報に相当する |
| ＪＭＥＤＩＣＩＮＥ | 1981年４月～ | ・ＪＩＣＳＴと医学中央雑誌が分担して作成する国内医学文献のデータベース |
| ＭＥＤＬＩＮＥ | 1972年１月～ | ・ＮＬＭが作成する医学・看護学・歯学関係のデータベース、冊子体のIndex Medicus, International Nursing Index, Index to Dental Literature に相当する |
| ＣＡＳＥＡＲＣＨ | 1977年１月～ | ・Chemical Abstracts Service が作成する化学関係のデータベース、冊子体 Chemical Abstracts に相当する |
| ＴＯＸＬＩＮＥ | 1977年１月～ | ・ＮＬＭが作成するデータベース、MEDLINE, CASEARCH, BIOSIS などから毒物学関係の情報を取込んで再編成したもの |
| ＢＩＯＳＩＳ | 1979年１月～ | ・Bio Sciences Information Service が作成する、生命科学全般にわたるデータベース、冊子体 Biological Abstracts, BA/RRMに相当する |
| ＣＡＢ | 1979年１月～ | ・英連邦農業機関（ＣＡＢ）が作成する農学関係のデータベース |

## ３．利用日・時間

・利用日　月曜日～金曜日(全データベース)
・利用時間　ＡＭ９：00～ＰＭ４：30
（昼休みを除く）

## ４．利用料金

### ４・１．オンライン料金

１分当り何円と時間で計算されます。出力件数ではありません。亥鼻分館ではこの他に電話料金（20円／分）と雑費50円／回をいただきます。

ex.　MEDLINE を10分使用の時
(210×10)＋(20×10)＋50＝2,350円

### ４・２．オフライン料金

出力件数がおよそ30件を越える時、また抄録を見たい時（但し抄録のついているのは、MEDLINE、JMEDICINE、TOXLINE、JICST のみで全文献についているわけではない）には30件以下でも、オフラインを利用されると割安になります。プリントは速達で郵送されます。計算方法は、手配料金＋(件数×１件当りの料金）です。

ex.　MEDLINE を抄録付きで50件出力
500＋(50×30)＝2,000円

| データベース名 | オンライン料金 | オフライン料金 | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 手配料金 | 回答出力料金 | |
| | | | Ａタイプ | Ｆタイプ |
| JICST | 210円/分 | 500円/回 | 35円／件 | 17円／件 |
| JMEDICINE | 210円/分 | 500円/回 | 27円／件 | 17円／件 |
| JCLEARING | 210円/分 | 500円/回 | 17円／件 | 17円／件 |
| JTERM | 210円/分 | ―― | ―― | ―― |
| JCATALOG | 210円/分 | ―― | ―― | ―― |
| MEDLINE | 210円/分 | 500円/回 | 30円／件 | 20円／件 |
| CA SEARCH | 307円/分 | 500円/回 | ―― | 52円／件 |
| TOXLINE | 348円/分 | 500円/回 | 53円／件 | 35円／件 |
| BIOSIS | 342円/分 | 500円/回 | ―― | 17円／件 |
| CAB | 256円/分 | 500円/回 | 90円／件 | 72円／件 |
| MESH | 210円/分 | ―― | ―― | ―― |
| CASNAME | 307円/分 | ―― | ―― | ―― |

（昭和58年４月１日より）

### ４・３．ユーザＳＤＩ料金

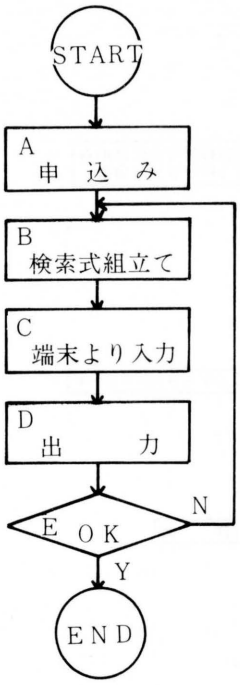
SDIとはSelective Disseminatron of Information の略で、データベースの更新時(CASEARCH は２週間に１回、他は月１回）に、ＳＤＩ用に登録された質問について、自動的に検索を行ない、検索結果を利用者に速達便で郵送されるというものです。これはあるテーマに関する最新情報を継続的に入手したい時に役に立ちます。料金は、基本料金＋(件数×１件当りの料金）と計算されます。

ex.　MEDLINE を１回10件出力
1,630＋(10×30)＝1,930円

| データベース名 | 基　本　料 | 回答出力料 |
|---|---|---|
| JICST | 1,630円／回 | 35円／件 |
| JMEDICINE | 1,630円／回 | 27円／件 |
| MEDLINE | 1,630円／回 | 30円／件 |
| CA SEARCH | 1,630円／回 | 42円／件 |

## 5．検索手順

検索フローチャート




**A**　昨年11月にカウンター奥に機械検索室を設け、そこで申込みを受付けています。備付けの用紙「ＪＯＩＳオンライン文献検索」に質問事項など記入していただきます。

**B**　申込書をもとに、係員は利用者と会話しながらＭＥＳＨなどの検索補助マニュアルを参考にして検索語を決め検索式を立てます。ここをしっかりやっておかないと望むような結果が得られませんので、多少時間がかかってもお許しいただきたいと思います。また係員は医学などの専門用語について知識が浅いので、何を望まれるのか明確に示して下さい。検索はキーワードだけでなく、著者名、分類コード、化合物登録番号(Registry Number)からもでき、言語、発行国などで限定することもできます。またキーワード集に載ってなくても、そのままの形、自然語（フリータームム）で入力できます。機械検索が有効なのは、論理演算子（論理積、論理和、論理差）を用いた論理式検索です。論理式を用いない単一キーワードのみの検索は機械検索によらないでIndex Medicusなどを通覧されることをお勧めしています。

**C**　検索式ができ上りますと、端末から入力することになります。入力する際は利用者に立会っていただきますが、これは検索途中で式を変更するかとか、出力をオンラインにするかオフラインにするかなど、利用者の判断をあおぐことがあるためです。先ず、ＪＩＣＳＴへ電話をかけ、つながると音響カプラへ受話器をセットし、ディスプレイを見ながらキーインしていきます。そしてシステムと会話しながら検索を進めていきます。

**D．E**　適当な件数になるとオフラインプリントを指定するか、またはオンライン出力にします。オンライン出力の場合、５件毎にシステムから継続するかどうかきいてくるので、望むような結果が出ない時は検索語を追加するなどして式を変更してみます。そして再入力します。検索式の修正に時間がかかるような時には、一時退避（１回 360円）することもできます。但し30分以内に再開しなければなりません。検索するファイルが２個以上ある時（ex. ＭＥＤＬＩＮＥはファイルが３つに分かれています）にはファイルを変えて繰り返します。

## 6．結び

これで検索は終りました。出力された結果をどうぞ再確認して下さい。とかく利用者の皆さんはすぐ資料探しに席を立たれますが、私達担当者は常に検索結果が皆さんの要求と合致しているのかどうか、もれがあるのではないかなど非常に気になるところです。結果の可否について一言伝えて下さるようお願いします。そのことは次の検索にきっと役立つことでしょう。　　（運用係・太田）

**（参考文献）**


１．日本科学技術情報センター　ＪＯＩＳII テキスト１、管理の手引き　昭和56

２．日本科学技術情報センター　ＪＯＩＳニュース　No.13　1982


**（注記）**

４月１日より、利用料金が変更になり、それに伴いCASEARCH及びCABの両データベースについてオンライン回答出力料金が加算されることになりました。

CASEARCH　30円／件

CAB　64円／件

MEDLINE ファイル検索例

```
        JICST ON-LINE SERVICE
     U: ¥JOIS 13J-0350,OKA
     S: ﾊﾟｽﾜｰﾄﾞ ﾊ ?
     U: ##############
     S: ｻｰﾋﾞｽ ｵ ｶｲｼ ｼﾏｽ   1981.04.10
     U: ¥FILE 110/0-2
     S: MEDLINE     ( 1979.01 - 1981.03 )   566,002 ( 17:00 ﾏﾃﾞ )
        ｼﾂﾓﾝ ｵ ｶｲｼ ｼﾏｽ 15:09:36  ｶｲﾜ ﾊﾞﾝｺﾞｳ  594
        NLM COPYRIGHT
[ 1] U: STRESS, PSYCHOLOGICAL
     S:     2000 ｹﾝ
[ 2] U: STOMACH ULCER
     S:     1163 ｹﾝ
[ 3] U: 1*2
     S:       40 ｹﾝ
[ 4] U: ¥P A,1,3
#0001
CN= 80222201
TI= PSYCHOLOGICAL STUDIES OF STRESS ULCER IN THE RAT.
AU= PARE WP
JN= 0361-9230 BRAIN RES BULL
VN= VOL.5 SUPPL 1 PAGE.73-9 '80
CI= (EN       ) (USA) (82)
KW= ADAPTATION, PSYCHOLOGICAL/PHYSIOLOGY; ANIMAL; CONFLICT (PSYCHOLOGY); MOTOR
     ACTIVITY/PHYSIOLOGY; RATS; RESTRAINT, PHYSICAL; REVIEW; *STOMACH
    ULCER/ETIOLOGY; STOMACH ULCER/PSYCHOLOGY; *STRESS,
    PSYCHOLOGICAL/COMPLICATIONS
AB= The behavioral animal models of stress ulcer in the rat include
immobilization, conflict, predictability, coping and avoidance responding.
Research with these ulcer techniques is briefly reviewed. The activity-stress
ulcer model is described and recent findings summarized. Physiological
investigations of stress ulcer have produced considerable information
regarding the proximal causes of ulcer disease. Behavioral scientists can make
 significant contributions to the study of stress ulcer by evaluating
predisposing variables and by observing the relevant precipitating
environmental events which lead to ulcer development.

     S: ｼﾕﾂﾘｮｸ ｵﾜﾘﾏｼﾀ              NLM COPYRIGHT
[ 4] U: ¥END
***     ﾃﾞｰﾀﾍﾞｰｽ      ﾘﾖｳｷﾝ  ｼﾞｶﾝ  ¥OFF 1       ¥OFF 2       ﾀｲﾋ
***     MEDLINE        ¥630    3    0(      0)   0(      0)   0
***     ﾙｲｹｲ           ¥630    3

     S: ｶｲﾜ ｵ ｼﾕｳﾘﾖｳ ｼﾏｽ  1981.04.10  15:11:43
```

抄録付で3件目から1件プリント命令

シソーラスキーワード

抄　録

# ＪＯＩＳ利用状況 －昭和56年度－

## 1．学部別・データベース別利用内訳

昭和56年度中に、亥鼻分館で実施したオンライン検索及びオフラインの学部別・データベース別利用内訳を表1に示しました。総件数は 295件で前年度の 231件の約27％増しになっています。但し昭和57年２月より、１検索にバックファイルも併せて検索する時は別ファイルとして計算されるので（ex. ＭＥＤＬＩＮＥは３ファイル)、実際の検索数は 267で、約16％増しとなります。データベース別の内訳は、ＭＥＤＬＩＮＥが 270件（全データベース中の約92％)、2,690分（約93％)、ＣＡＳが18件(約6％)、144分(約5％)で、この他のデータベースの利用は非常に少なくなっています。

学部別では医学部が最も多く（但し病院所属の医員などの利用者も含む)、236件で全利用件数の80％、時間は2371分で約82％となっ

ています。

なお１回当りの検索時間は10分弱となっていますが、昭和57年２月より蓄積年によってファイルが分れているのでその分を考慮すると、10分を多少オーバーするものと考えられます。

オフラインの利用回数は23回、文献数は3,776件となっていて、回数はあまり多くないのですが、１回当りの文献数は約 164件とかなり多いようです。オフラインの場合は抄録付きのデータベースがありますので、今後も大いに利用してほしい出力方法です。

**表１　学部別・データベース別利用内訳**

（時間の単位は分）

| 所属＼データベース名 | MEDLINE | | CAS | | TOXLINE | | BIOSIS | | JMED | | オンライン合計 | | オフライン | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 件数 | 時間 | 件数 | 時間 | 件数 | 時間 | 件数 | 時間 | 件数 | 時間 | 件数 | 時間 | 回数 | 文献数 |
| 医学部 | 224 | 2,258 | 8 | 87 | | | 1 | 9 | 3 | 17 | 236 | 2,371 | 19 | 3,205 |
| 附属病院 | | | | | | | | | | | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 看護学部 | 9 | 91 | | | | | | | | | 9 | 91 | 1 | 84 |
| 活性研 | 14 | 136 | 4 | 28 | 1 | 6 | 1 | 12 | | | 20 | 182 | 0 | 0 |
| その他 | 23 | 205 | 6 | 29 | | | | | 1 | 16 | 30 | 250 | 3 | 487 |
| 合計 | 270 | 2,690 | 18 | 144 | 1 | 6 | 2 | 21 | 4 | 33 | 295 | 2,894 | 23 | 3,776 |

## ２．階層別利用内訳

表２に階層別利用内訳を示しましたが、これによると、教授・助教授・講師の利用数が少なく合せても59件（全利用数の20％）で、助手の87件（全利用数の約29％）より少なくなっています。その他には研究生、大学院生が含まれていますが、この77件（約26％）は利用の多い層といえます。この表からもわかるように、ＪＯＩＳは助手以下の比較的若い階層の研究者の利用が多いサービスと思われます。

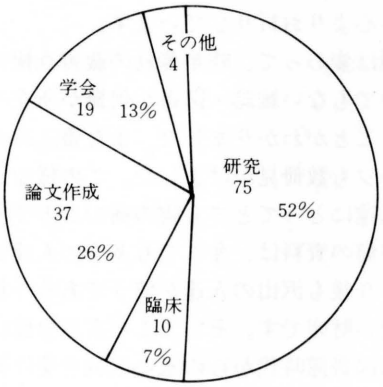
**表２　階層別利用内訳**

| 所属＼階層 | 教授 | 助教授 | 講師 | 助手 | 医員 | その他 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 医学部 | 25 | 12 | 16 | 74 | 42 | 67 | 236 |
| 看護学部 | | | | 5 | | 4 | 9 |
| 活性研 | 4 | 2 | | 8 | | 6 | 20 |
| その他 | | | | | | | 30 |
| 合計 | 29 | 14 | 16 | 87 | 42 | 77 | 295 |

## ３．利用目的別内訳

表３に利用目的別内訳を示しました。この数は「検索申込書」の利用目的の項目を集計したもので、総計が141となっていて、実際の利用数よりかなり少ないのですが、それは記入もれや用紙に書かれなかったり、失なったりしたものと見られます。ですからこの数字は大体の傾向とみて下さい。

**表３　利用目的別内訳**




## ――おわりに――

以上昭和56年度の利用統計及び簡単な分析を行なってみましたが、何分56年度のものなのでデータが古くなっています。次号には今年度の利用統計をご紹介致しますので、お待ち下さい。

# ＢＬＬＤを知っていますか？

あなたは、国内の雑誌総合目録をみて所蔵のない時に、もう入手できないものとあきらめてはいませんか？BLLDはそんな時にお役に立つ機関の１つです。

ＢＬＬＤとはBritish Library Lending Division の略で、1973年英国で設立されたBritish Libraryのサービス部門の１つLending Divisionのことです。亥鼻分館は発足当初からＢＬＬＤで行われている文献複写サービスを利用しています。また単行書の現物貸出も可能ですが、これまでの所利用したことはありません。

ＢＬＬＤは約150,000種の雑誌(このうち、56,000種が継続受入誌）及び約2,255,000冊の単行書その他を所蔵し、貸出・複写サービスを行なっています。また、ＢＬＬＤが所蔵してなくても、英国内の図書館(Back-Up Libraries）にあるものなら入手可能です。

申込方法は所定のクーポン券(1枚1,150円）と申込書を送れば良くて、ＢＬＬＤは到着後36時間以内に処理し発送してくれるので、２～３週間で届きます。Back-Up Libraries所蔵の文献ならば多少日数を多くみて下さい。

複写サービスの料金は10頁以内でクーポン１枚、10頁増すごとに更に１枚づつ必要となります。その他に送料、封筒代がかかるので、例えば15頁の文献を申込むと、2,300円（クーポン２枚）＋ 170円（送料）＋10円（封筒代）で合計2,480円かかります。国内所蔵のものよりかなりかかるようですが、必要な文献ならば致し方ないでしょう。以上簡単に説明しましたが、詳しくはカウンターへおたずね下さい。

## 閲覧室から…

新年を迎えたと思う間もなく学年末が迫り、学生の皆さんには期末試験あるいは卒業試験国家試験と、忙しくまた緊張の日々が続くことでしょう。カウンターの私達も皆さんのご健闘を心よりお祈りしています。

話題は変わって、昨年暮れの蔵書点検の際貸出中でもない雑誌・図書が何冊か所在不明であることがわかりました。また書込みのあるページも数冊見かけました。この様なことは、私達にとってとても胸の痛むことです。

図書館の資料は、今までも多くの人達が利用し、今後も沢山の人達が使うであろう利用者共通の財産です。そしてこの亥鼻分館には、医学部図書館時代からの永い伝統を受け継いだ二度と入手できない貴重な資料もあるのです。

利用者の皆さんへの信頼の上に、皆さんが少しでも気持よく資料を利用できるようにと、私達図書館員も努めております。図書館利用のマナーはきちんと守って、無断持ち出しや書込みなどは絶対に慎んでいただきたいと思います。お互いに不愉快な思いはしたくないものです。

私達からのお願いばかりになりましたが、図書館について、この点をこうして欲しいとか、こんな本を購入して欲しいとか、お気付の点はどしどしカウンターへ申し出て下さい。投書箱や電話でもお待ちしております。

# 1983年購入雑誌変更について

## 〔国内雑誌〕

### ●新　規

| | |
|---|---|
| 母子保健情報 | 助　産 |
| 病理と臨床 | 病　態 |
| 月刊福祉 | 図書館 |
| 自律神経 | 神　内 |
| 日本農薬学会誌 | 農医研 |
| 脳波と筋電図 | 神　内 |
| 脳卒中 | 神　内 |
| 臨床精神病理 | 精　看 |
| 社会福祉研究 | 図書館 |
| 社会保障 | 図書館 |
| 神経病理学 | 神　内 |
| 失語症研究 | 神　内 |
| 障害者問題研究 | 図書館 |
| ソーシャル・ワーク研究 | 図書館 |

### ●中　止

| | |
|---|---|
| Audiology Japan | 耳　鼻 |
| Asca V. Service | 毒　性 |
| 日本コンタクトレンズ学会誌 | 眼　科 |
| 老年医学 | 成看1 |

## 〔外国雑誌〕

### ●新　規

| | |
|---|---|
| Compendium on Continuing Education for the Practicing Veterinarian. | 動実験 |
| Cancer Letters. | 生化1 |
| Carcinogenesis. | 生化1 |
| Index to Scientific & Technical Proceedings. | 図書館 |
| International Journal of Immunopharmacology. | 内　2 |
| International Rehabilitation Medicine. | 理療法 |
| Issues in Comprehensive Pediatric Nursing. | 小　看 |
| Medical Physics. | 放技校 |
| Physics in Medicine and Biology. | 放技校 |
| Scientific American. | 生理2 |
| World Journal of Urology. | 泌　尿 |

### ●中　止

| | |
|---|---|
| Acta Radiologica: Oncology. | 整　外 |
| Archives of Dermatological Research. | 皮　膚 |
| British Journal of Venereal Diseases. | 皮　膚 |
| Clinical and Experimental Dermatology. | 皮　膚 |
| Cumulative Book Index. | 図書館 |
| International Journal of Dermatology. | 皮　膚 |
| Journal of Speech and Hearing Research. | 耳　鼻 |
| Microbiology Abstracts. Sect. A. | 図書館 |
| Revue de Stomatologie et de Chirurgie Maxillo-Faciale. | 耳　鼻 |
| Sabouraudia. | 皮　膚 |
| Zentralblatt fur Hals-, Nasen, und Ohrenheilkunde Plastische Chirurgie an Kopf und Hals. | 耳　鼻 |

## 大寒に思う

### —“らいぶらりいゐのはな„ 原稿公募によせて —

阿　部　和　子

我が国文壇の最長老作家であった里見淳氏が1月20日鎌倉市内の病院で亡くなられた。氏は兄、有島武郎らとともに白樺派を興して70年余、男女の情痴の世界を得意としながら、自分の心は偽らない「まごころ哲学」を貫き、晩年まで現役で活躍されたという。私は氏の生きざまに、敬意を表し、のこされた文化的遺産に折あらば、眼を通したいと思う。

処で、「らいぶらりいゐのはな」の原稿募集に当り、内々思ったことは、亥鼻分館は生物医学系を志す方々で豊かな人間性に裏づけられているのだという確固たる自信と期待によるものであり、折にふれて、心静かに原稿を書かれ、投稿して戴けることを心待ちにしている。当初はその数は少なくとも徐々にその数を増してきて、嬉しい悲鳴をあげるようになるのではないかと、ひそかに思案するものである。

折しも「里見弴氏をしのぶ」という一文に接し（昭58.1.24朝日新聞）その筆者が、本学の卒業生であることが明記されており、親しくその文章に読みふけったのであった。

「里見弴氏をしのぶ」　藤枝静男　より

私が最後にお会いしたのは1979年の6月に鎌倉の大仏前の華正桜という中国料理屋で催された九十歳卒寿祝いの際である。ニコニコした氏のわきに堀口大学が座っていたのは珍しかったが座敷は錚々たる鎌倉文士で一杯であった。勿論美人の花束贈呈もあった。そして里見さんはこのとき実にわれわれに掉尾の愛嬌をふりまいて喜ばせてくれたのである。——つまり里見さんは大力らしい一人に命じて自分をかかえあげさせ、花束をささげたお嬢さんの頬に首をのばしてチュッと接吻されて満場の拍手大喝采を受けたのであった。

ふじえだ　しずお（本名勝見次郎）
昭和11年千葉医科大学卒業。志賀直哉に私淑、浜松市で眼科病院長をしながら創作活動を続け、今は文筆に専念

（亥鼻分館）

## ♥ 寄贈著書ありがとうございました ♥

**稲垣義明**　〔第3内科学〕
循環器疾患の非侵襲的検査－有用性と限界　稲垣義明編　朝倉書店1982（WG103）

**木村　康**　〔法医学〕
血痕鑑定　木村康著　中央公論社　1982（中公新書654）（QY415）

**熊谷　朗**　〔第2内科学〕
実験的内分泌異常　伊藤真次　熊谷朗編　共立出版　1981（WK100）
内分泌疾患の免疫遺伝学　熊谷朗　伊藤真次編共立出版　1981（WK100）

**高見沢裕吉**　〔産婦人科学〕
婦人科癌の化学療法　高見沢裕吉編（産婦人科シリーズ32）南江堂　1982（WP100）
臨床婦人科カラーアトラスTinball, V.R.著　高見沢裕吉監訳　南江堂　1982（WP17）

**林　豊**　〔肺癌研・病理〕

病理学　林豊等編著（現代看護学基礎講座6）真興交易医書出版　1982（WY100）

**堀越達郎**　〔歯科口腔外科学〕

口腔外科学現代の進歩 Irby, William B編　堀越達郎等訳　書林　1982（WV600）

**本田良行**　〔第2生理学〕

現代看護学基礎講座9　本田良行　石川稔生編　真興交易医書出版　1982（WY100）

現代の生理学　古河太郎　本田良行編　金原出版　1982（QT4）

（1982年1月～12月）

## 運営委員会の役割と報告

千葉大学附属図書館亥鼻分館（以下亥鼻分館という）は医学部、看護学部、生物活性研究所、医学部附属病院及び各種学校の教育研究に必要な図書館資料を収集管理し、職員、学生及び研究生に供することを目的としている。この目的のため亥鼻分館の重要事項を審議するのが運営委員会である。

委員会は亥鼻分館長と医学部、看護学部、生物活性研究所、医学部附属病院の図書委員長他、四部局より、それぞれ選出された専任講師以上の教官1名と附属図書館事務部長の10名により構成され、図書館長より委嘱されている。

## 現運営委員の紹介

委員長（分館長）医学部　教授　林　豊

副委員長　看護学部図書委員長

教授　平山　朝子

委員　医学部図書委員長

教授　降矢　震

医学部　教授　本田　良行

看護学部　助教授　野口美知子

生物活性研究所図書委員長

教授　畝本　力

生物活性研究所

助教授　西村　和子

医学部附属病院図書委員長

教授　中島　博徳

医学部附属病院

教授　山口　豊

附属図書館事務部長　東　米吉

## 主たる審議事項

1．亥鼻分館の新営計画について

昭和57年、58年度に引続き、59年度に概算要求を行ない早期実現を目指し、検討中である。

2．文献複写サービスについて

国内はもとより、外国へも申込みを行なっている。特にBLLD（英）NLM（米）KNAW（蘭）による敏速なサービスは定着している。

3．情報検索サービスについて

JOIS（日本科学技術情報センターによるオンライン情報検索システム）やUTOPIA（筑波大学学術情報センターによるオンライン情報検索システム）等と公衆回線（電話）による検索を行なっているが、今後益々多様化する、学術情報システム構成について、更に検討をつづけている。

4．合同校舎改修工事及び資料配架について

医学部移転後の合同校舎改修工事及びそれに伴う移転作業、各講座よりの返戻資料の配架について検討した。

その他の図書館業務サービスについて

○コンテンツサービス。従来一教室5誌を限度としていたが10誌に増加サービスした。

○時間外開館サービス。研究者が夜間でも利用出来る特別利用制度（ホロチェックゲートシステム）の採用と、日旬開館（（試行）の実施。平日3時間、土旬日4時間の時間外開館を行っている。

○ビデオ室の設置により学生に解放している。

○展示コーナーの設置により貴重書等を紹介している。

○書架見出板を設け詳細に図書案内をしたこと。

○図書館環境整備について。新聞、軽続書コーナーの模様替修理、冷暖房の完備により快適な勉学が出来るようにしている

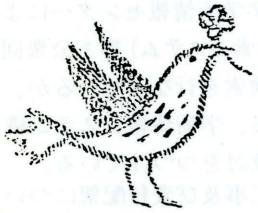
（総務係）

## 原稿募集のお知らせ

次号は6月10日発行の予定です。本誌は皆様の声を反映し、皆様といっしょにつくっていきたいと思いますので、奮って原稿をお寄せ下さい。なお、カットも募集しますので、どうぞよろしく!!

### 投稿規定

1．「広場」　1600字程度で、例えば外国留学記、学習・研究活動の中からの随想、情報の集め方、雑感、その他。
2．「談話室」　600字程度で、図書館に望むこと、各種の話題、その他。
3．400字詰原稿用紙（横書き）を使用する。
4．原稿には題名及び氏名、所属（連絡先）を明記して下さい。匿名のものは掲載しません。
5．原稿の掲載については編集委員会に御一任下さい。
6．原稿〆切　昭和58年4月28日（木）
7．提出先・お問合せ　亥鼻分館2階事務室　阿部（内線2805）



## 編集後記

亥鼻分館館報を復刊させたいという気持の高鳴りを編集委員会にぶつけたのは昨秋10月の末であった。どんな体裁でどのような内容にしたらよかろうかと鳩首がくがくのすえ、林分館長江口事務長に館報発行の方針について、ご了解を得て〝広場〟〝談話室〟の公募をはじめたのが12月1日。ポスター、ちらしをたづさえて、各部局事務局を訪問し原稿公募について協力をお願いした。

明けて正月5日、待望の原稿到着、これが西林聰武氏の玉稿「近日雑感」であった。公募原稿の到来にはづみをつけて、編集をはじめたのが1月10日、そしてようやく到着した最終原稿を待ちうけて、2月4日編集を終る。さてどんな〝らいぶらりいゐのはな〟第8号になることやら、こわい様なうれしい様な気持で一杯である。ご協力いただいた皆様、どうもありがとうございました。（あ）

**千葉大学附属図書館亥鼻分館館報〝らいぶらりいゐのはな〟No.8**　1983年3月18日発行
発行人：江口　元　　編集委員：阿部和子・太田葉子・新田宏子
千葉大学附属図書館亥鼻分館　　千葉市亥鼻1－8－1　電話 0472(22)7171

千葉大学附属図書館亥鼻分館報

# らいぶらりい 亥のはな 9

1983. 7

●目次●

分館零歳の頃 ――萩原彌四郎―――― 2

広場

日本語と日本人 ――内海 滉―――― 4

アンケートの結果報告 ―――― 5

〈JOURNAL 紹介〉生化学 ――森田哲生―――― 9

〈JOIS にゅーす〉CANCERLIT がん文献ファイル―――― 10

**「七天王塚」** 医学部本館の裏手に五つの塚がある。旧東金街道を挟んだ西隣に二つの塚があって、里人はこれらを七天王塚と言う。いずれの塚もほぼ10m径の円ないし類円形をし、高さからみて構外の二つは小円墳、構内の五つは旧千葉城の土塁跡のように見える。写真の塚は信者の言う3号塚である。この七天王塚の由来については種々の伝承があるが、千学集抄の記載に従って千葉氏が亥鼻に居城した際(1126年)、守護神・仏の一つとして祭た堀内牛頭天王(ホリノウチゴズテンノウ)跡であるとする説が強い。なお、この塚はこれまでに様々の祟(タタ)りを具現したとして恐れられている。7塚のすべてにうっそうと生い茂った数本の老木を見る。木の種類は5号塚の樟(クス)を除けば、残りのすべてがクス科の椨(タブ)である。天を圧するようにそそり立っていた7号塚の老松は惜しいことに昭和54年の晩秋に力尽きて枯れてしまった。樹木の幹周りから推定して、200年の樹齢を越えるものはない。

(解剖学第三　大谷克己)

# 分館零歳の頃

萩原　彌四郎

袴着の祝というのをご存知だろうか。少し前までは七五三の五歳の男児の祝を袴着と言った。本来の意味は男子に始めて袴をはかせる儀式、つまり男子としての人格が認められる祝のことである。亥鼻分館は今年の4月で満五歳となり、まさに袴着の祝を受けるにふさわしい見事な成長を遂げている。しかし、振返って見るとその誕生は決して安産と言えるものではなかった。

昭和50年に当時の図書館長の石田教授が打ち出した「生物医学情報センターを亥鼻地区に」という構想は誠に素晴らしいものであったが、胎教が悪かったのか、陣痛期が長すぎたせいか、生まれて来たのは“とりあえず「複合分館」として„の亥鼻分館であった。しかもその前身である医学部分館と違って、医学部事務局のお世話になるわけには行かず、千葉大学附属図書館（本館）のブランチ・ライブラリイとして、亥鼻地区で半独立的に生きて行くように運命づけられていた。

早い話が鉛筆一本、紙一枚無い所から出発し、光熱水料等のランニング・コストも自前である。ざっと試算してもこれまでの倍は費用がかかる。それなのに予算的には昨年通りで、不足分は亥鼻地区の各部局から調達せよという。その上各部局とも現在ほどの理解がなかった。まるで望まれざる子の誕生のようであったと言えば言い過ぎになろうか。初代の事務長、総務係長として着任した桜木、泉水両氏は、初期の体制作りと経理のやりくりに奔走し、徐々に関係各機関の了解と協力を得て行ったが、まことにシンドイことであった。

一方、分館の使命として遅滞なく行なわれなくてはならない整理、閲覧の業務は、幸い経験豊かな医学部分館時代からの館員が、岩沢、中垣両係長のもとで既に活動を始めてくれていたが、本来なら少くとも3名の人員増が必要のところ、増員は全く行なわれず、逆に対象とする講座等は増えている事もあって、これまたシンドイことであった。それにしてもユーザーとは仲々にわがままなものである。上述のような分館の内状には一切おかまいなしに、やれコンテンツ・サービスのタイトル数を増やせ、やれ閉館時間をもっと遅くせよ等々と申し入れて来る。これらの申し入れに対する館員の対応は、私にはほとんど感激的なものであった。図書館の人々というものは図書館が利用されることに無上の使命感と喜びとを持ち、そのために身を捧げると言って良い位努力する。コンテンツ・サービスは9月には5タイトルから7タイトルに、その後10タイトルにまで増えた。

開館時間の延長も秋になって行なわれたが、この方は超過勤務であるので無制限にというわけには行かない。しかし、臨床医などで普通の時間には図書館の利用がむずかしい人達のために何とかしたい。そこで思いついたのが銀行のキャッシュカードのようなものを用いて、閉館後でも図書の検索ができるようにしようというものであった。館員のいない図書館に自由に入れるということは、図書の管理面で問題があろうかと考えられたが、思い切って断行することにした。翌年度からホログラム・チェックカードシステムと呼ばれて実施されるようになった（私は当初セブン・イレブン方式などと名付けていて、今でもその呼び方が懐しい）。さらに日本科学技術情報センター（JICST）の回線の増えることを聞き込み、見切り発車的に取り入れることとし、オンラインシステムによる情報検索ができるようにしたのも、各講座における重複図書を出来るだけ少くしようと、個々の教室の図書責任者との面談を行なったのも、分館誕生の年のことで、まさに分館零歳の一年は慌しく過ぎて行ったように思う。

編集子からのご依頼は、亥鼻分館の５年の歩みについてという事であったが、すでにかなりの紙幅を使ってしまった。書庫の移転、閲覧スペース増加と使い良さへの配慮、医学部本館の改築に伴う教室図書の返戻と、これを期とした図書中央化への努力、旧基礎棟の合同校舎への衣更えと、開架書庫の拡大利用等々、その後もその年々の仕事は続々とあったが、これについてはまた後日に述べることがあるかも知れない。ここでは、ぼう大な冊数の図書の整理と移動とに多くのパートタイマーの方々のお力を得たことに感謝の意を表するにとどめておく。

人事面では昭和55年４月から江口事務長、浜田総務係長（後に伊藤総務係長）時代となり、日曜開館を行ない、貸出図書返納のためのブックポストの増設、閉館時における夜間利用者のためのホログラム・カードの導入等、きめの細かいサービスが行なわれるようになった。これらの中で、昭和56年暮に片腕とも頼んだ林誠副委員長の急逝に遭ったことは痛恨の限りであった。

昭和57年４月からは林豊分館長を迎えることになり、誠実な新分館長によって再び昔の石田構想に根ざした分館新営の計画が進められている。亥鼻分館は今やよちよち歩きの幼児ではない。袴着を迎えた立派な男子である。やがて新営の夢が実現し、今度は元服の式を挙げるであろう日が、１日でも早いことを祈っている。

（医学部長）

## 亥鼻分館のあゆみ

昭53.4　生物医学情報図書館構想に基づき、亥鼻地区４部局（医学部・看護学部・附属病院・生物活性研究所）の複合分館として亥鼻分館設置．分館長に萩原弥四郎教授就任（57年３月まで）

7　亥鼻分館ニュースNo.１発行

9　JOIS オンライン情報検索サービス開始

55.4　亥鼻分館新築へ向けて検討を開始

8　医学部移転に際し図書３万6000冊返戻．返戻図書整理作業開始

10　日曜開館（試行）開始．午後１時～５時（開館）

56.2　特別設備費により Science Citation Index 1965－1975を購入

3　研究者のための入館管理システム（ホロチェックゲートシステム）開始

7　旧同仁会・旧生化学教室を仮書庫としていた資料の集中化のため整理作業実施

10　旧医学部基礎棟（現合同校舎）の改修工事竣工．その一部を書庫として使用するため、10月８日～17日の10日間休館して、移転作業実施
移転終了後、ビデオ・演習室を設置

57.4　分館長に林豊教授就任

58.3　らいぶらりいゐのはな（旧亥鼻分館ニュース改称）No.８発行

6　55年から続けられていた返戻図書整理作業終了

# 広場

## 日本語と日本人

内海　滉

最近、某出版社の依頼で余暇をみつけて一冊の本を作っている。それは、「英語で医者にかかる法」という本である。同じような本は数多く出版されており枚挙にいとまないが、すでに出された本の多くは、あまりにも専門的であったり、ひとつの症例の会話が長く続いたりして、あまり役に立たないのだそうである。そこで、なるべくやさしく、そして、沢山の症状が言えるような、辞書のようなものを作ることにした。各科の疾患の症状を並べればよいぐらいに考えて、私もあっさり引き受けてしまったが、それは何という難かしい仕事であったことか。

まづ驚ろくべきことは、日本語の症状の表現の豊富さである。「お腹がヅキヅキ痛い」「チクチク痛い」皮膚が「ヒリヒリする」「ピリピリ痛い」「ビリビリしびれる」「手がガサガサになった」「カサカサになった」「顔にシッシンが出来た(eczema に非ず)」「ヒンケツがおきる(anemia に非ず)」「歯が痛い」「歯がシミる」等々。そばにいる外人に一生懸命説明してみるのだが、首をかしげるばかりである。しかし日本語のこれらの表現の微妙な差は、日本人である私には確かに感ずる。こんなことなら専門用語の方がずっと楽なのだが、依然としてこの困難な作業を続けている。逆に愛着を感ずるようになったからだ。

日本の民衆は、とくに病気に対する感覚がすぐれているのではないだろうか。日本語にある豊富な凝声語は、論理が支配するヨーロッパの言語には乏しい。虫のなき声すら聞こえないのである。

(看護継続教育研究部)

## 医科学大事典

Encyclopedia of Medical Science をご存知でしょうか？　閲覧室の百科事典コーナーにあるこの事典は、一見、英文の百科事典のようですが、実は、日本語でかかれた初の臨床医学総合大事典です。

この事典は、「医学用語辞典」を中心に慣用されている用語が、読みがなの50音順に並らべて解説されています。図説・図解に重点が置かれており、写真やイラスト等も豊富で、とても理解しやすくなっています。最新の医学の研究成果とその総合的・学術的知識が網羅的・体系的にまとめられています。また刊行後も、毎年、増補別巻が加えられ、最新の医学知識・医療情報が提供されます。

全50巻、和文・欧文索引完備で、A 4 版変型(297ミリ×225ミリ)、特装版です。

## 研究者アンケート結果

## 「もっと資料を集めて」「閲覧席を増やして」「亥鼻分館の新築を望む」など

亥鼻分館では、本年２月亥鼻地区にある４部局（医学部・看護学部・附属病院・生物活性研究所）の教官・医員・研修医・大学院生研究生等を対象にアンケートを実施した。

これは、亥鼻分館の運営の改善及び将来計画の参考とする資料をえるため行ったもので、年度末の繁忙期にも拘らず469人の方々から回答が寄せられた。

その結果の概要は、次のとおりである。

○　実施期日　　58年２月15日～２月19日

○　結果の概要　過去１年間に亥鼻分館を利用した者は、回答総数469人のうち435人（92.8%）であり、その利用者のうち毎月利用している者は376人（86.4%）で、その中でも151人（34.7%）は毎週利用している者であった。

研究者が図書館を必要とするときはいつでも利用できるシステムとしてのホログラム・カードについては、知っている者が352人（75.1%）で、知っている者のうち、カードを持っている者は153人（43.8%）であった。

亥鼻地区で購読中の新着雑誌の記事内容を速報するコンテンツ・シート・サービスは、知っているとした者が257人（54.8%）であった。

掲示については、目につかないとした者が262人（54.8%）で半数を超えていた。

亥鼻分館の新営（新築）については、必要とした者が408人（87%）であった。

### できるところから改善を

亥鼻分館長　林　豊

このたびのアンケートにつきましては，お忙しい中を多数の方々の御協力をえることができ、誠に有難うございました。

御承知のとおり、当分館は、研究図書館的な性格・機能を大きくもっており、今回は、主に亥鼻地区の研究者を対象に当分館について御意見等を承ったわけですが、寄せられた回答を拝見しますと当分館への期待の大きさが痛感され、分館職員とともに、一層の充実に意をそそいで参らなければと身のひきしまる思いがいたしております。

アンケートの回答数が、配布数の半数にわずかではありますが及ばなかったことは、職務・研究の態様等からやむをえない面もあり、大勢を知る上での貴重な資料がえられたと思っております。

回答の中には、図書館員に対し感謝のことばを記入されたものが約20通もあり、恐縮いたしており、今後、さらに図書館サービスの充実に努めなければと思っております。

館内の配架表示や掲示など不評であったことは、早速、改善に着手いたします。また、閲覧座席数が少い、書庫内での検索の不便などの御意見が多くありましたが、今の施設では御期待にそえる改善は難しいと思われます。この問題解決のためには、亥鼻分館の新営を促進し、皆様の御期待にこたえられる図書館の実現に一層の努力をしていきたいと思います。

投書箱を大きくしましたので、図書館への御意見・御要望など、どしどしお寄せ下さるようお願いいたします。

## A．回収結果

| | 医学部 | 看護学部 | 附属病院 | 生物活性研究所 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|
| 配布数 | 362 | 93 | 449 | 43 | 947 |
| 回答数 | 156 | 56 | 222 | 35 | 469 |
| (回収率)% | (43.1) | (60.2) | (49.5) | (81.4) | (49.5) |

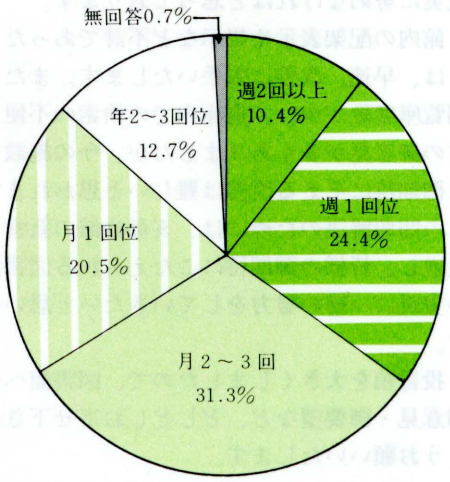
配布総数947枚、回答469枚、回収率49.5%であった。部局別では医学部43.1%、看護学部60.2%、附属病院49.5%、生物活性研究所81.4%であった。

## B．利用の有無

回答のあった469人のうち過去1年間に435人（92.7%）が図書館を利用し、利用したことがない者は34人（7.3%）であった。

## B-1)-イ　利用回数

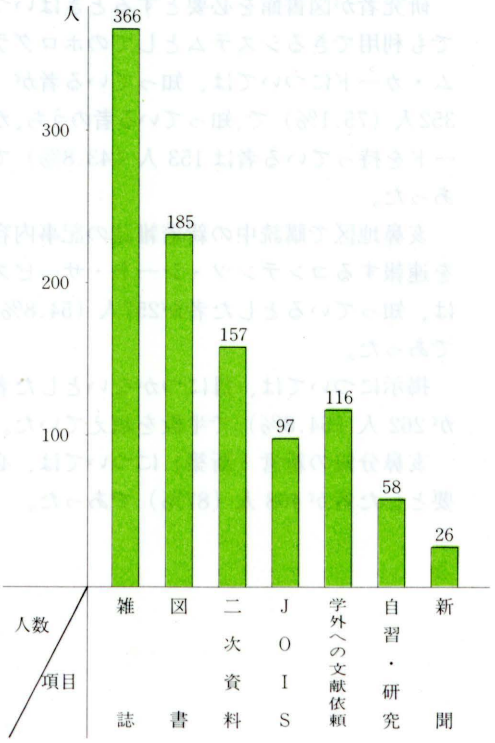
| | 医学部 | 看護学部 | 附属病院 | 生物活性研究所 | 合計(%) |
|---|---|---|---|---|---|
| 週2回以上 | 22 | 7 | 12 | 4 | 45(10.4) |
| 週1回位 | 42 | 17 | 44 | 3 | 106(24.4) |
| 月2~3回 | 42 | 16 | 67 | 11 | 136(31.3) |
| 月1回位 | 22 | 11 | 42 | 14 | 89(20.5) |
| 年2~3回 | 19 | 2 | 32 | 2 | 55(12.7) |
| 無記入 | 2 | — | 2 | — | 4( 0.7) |
| 計 | 149 | 53 | 199 | 34 | 435(100.0) |




利用回数では、月2～3回が131人（31.3%）、次いで週1回位が106人（24.4%）、月1回位、年2～3回位、週2回以上の順であった。月2～3回、週1回、週2回以上をまとめると3分の2に当たる287人（66.0%）となる。

## B-1)-ロ　利用目的　（複数回答）

| | 医学部 | 看護学部 | 附属病院 | 生物活性研究所 | 合計(%) |
|---|---|---|---|---|---|
| 雑誌 | 128 | 46 | 161 | 31 | 366 (34.7) |
| 図書 | 75 | 40 | 104 | 12 | 231 (21.9) |
| 二次資料 | 53 | 15 | 83 | 6 | 157 (14.9) |
| JOIS | 41 | 7 | 34 | 15 | 97 ( 9.2) |
| 新聞 | 9 | 9 | 7 | 1 | 26 ( 2.3) |
| 学外への文献依頼 | 64 | 15 | 34 | 3 | 116 (11.0) |
| 自習・研究 | 20 | 16 | 20 | 2 | 58 ( 5.5) |
| グループ研究 | 1 | — | 2 | — | 3 ( 0.3) |
| その他 | 1 | — | — | — | 1 ( 0.1) |
| 無記入 | 1 | — | — | — | 1 ( 0.1) |
| 計 | 393 | 148 | 445 | 70 | 1,056 (100.0) |



利用目的は、雑誌の利用が最も高く 366 人（34.7%）、次いで図書利用の 231 人（21.9%）、二次資料 157 人（14.9%）、学外への文献依頼 116 人（11.0%）、JOIS 利用97人(9.2%）となっている。雑誌の利用が最も多いことは予想されたが、二次資料・JOIS・学外への文献依頼を文献検索（収集）としてまとめると 370 人（35.1%）となる。

### B-1)-ハ　図書館内での資料の探し方

（複数回答）

| | 医学部 | 看護学部 | 附属病院 | 生物活性研究所 | 合計 (%) |
|---|---|---|---|---|---|
| 直接書架 | 110 | 36 | 120 | 24 | 290 (37.1) |
| カード目録 | 27 | 23 | 36 | 1 | 87 (11.2) |
| 雑誌目録 | 80 | 27 | 107 | 20 | 234 (29.9) |
| 係員にきく | 52 | 24 | 77 | 9 | 162 (20.7) |
| その他 | 2 | 2 | 3 | 1 | 8 ( 1.0) |
| 無記入 | 1 | — | — | — | 1 ( 0.1) |
| 計 | 272 | 112 | 343 | 55 | 782 (100.0) |

館内での資料の探し方は、直接書架へいく者が 290 人(37.1%)で、雑誌目録で探す者が 234 人(29.9%)、係員にきく者は162人(20.7%）であった。

### B-1)-ニ　図書の配架表示

| | 医学部 | 看護学部 | 附属病院 | 生物活性研究所 | 合計 (%) |
|---|---|---|---|---|---|
| わかりやすい | 91 | 22 | 113 | 25 | 251 (57.7) |
| わかりにくい | 25 | 14 | 57 | 6 | 102 (23.5) |
| その他 | 16 | 12 | 15 | 2 | 45 (10.4) |
| 無記入 | 17 | 5 | 14 | 1 | 37 ( 8.4) |
| 計 | 149 | 53 | 199 | 34 | 435 (100.0) |

館内の配架表示については、わかりやすいが 251 人（57.7%）であり、わかりにくいは 102 人（23.5%）であった。

### B-2)　利用したことがない　（過去１年間）

利用したことがない者は、合計34人で、そのうち場所が遠いとした者が15人（44.1%）、次いで資料集めは外部の人に依頼する者が13人(38.2%)、図書館を利用する必要がない者は５人(14.7%)であった。

### C．ホログラムカード

| | 医学部 | 看護学部 | 附属病院 | 生物活性研究所 | 合計 (%) |
|---|---|---|---|---|---|
| 知っている | 121 | 39 | 164 | 28 | 352 (75.1) |
| 知らない | 34 | 15 | 58 | 6 | 113 (24.1) |
| 無記入 | 1 | 2 | — | 1 | 4 ( 0.8) |
| 計 | 156 | 56 | 222 | 35 | 469 (100.0) |

ホログラム・カードは、知っているとした者が 352 人（75.1%）、知らない者は 113 人（24.1%）あった。

### C-1)　カード所持の有無

ホログラム・カードを知っているとした352人のうちカードを持っている者は、153 人であった。(なお、アンケート調査時のカード発行枚数は351枚、調査後の希望者は66名で、5月末現在では 417 枚と急増している。)

### C-1)-(1)　カード使用の有無

カードを持っている 153 人のうち使っている者は、95人（62.1%）で、これは図書館を利用した 435 人中の21.8%であった。

### C-1)-(1)-②　カード使用頻度

使用頻度は、月２～３回が57人(60.0%)、年２～３回が19人(20.0%)、週１回位が15人（15.8%）と続いており、月２～３回以上の使用は74人（78%）である。(なお、57年度１年間のホログラム・カード使用実績は、事務用などを除いて延べ 2,086 回で、深夜・早朝を問わず24時間利用されている。)

### C-1)-(2)　カードを持っていない理由

カードを持たない 197 人のうち必要がない者は、72人(36.6%)、手続きが面倒とした者は54人（27.4%）であった。

## D．コンテンツ・シート・サービス

| | 医学部 | 看護学部 | 附属病院 | 生物活性研究所 | 合計 (%) |
|---|---|---|---|---|---|
| 知っている | 104 | 40 | 78 | 35 | 257 (54.8) |
| 知らない | 51 | 16 | 144 | — | 211 (45.0) |
| 無記入 | 1 | — | — | — | 1 ( 0.2) |
| 計 | 156 | 56 | 222 | 35 | 469 (100.0) |

コンテンツ・シート・サービスは、知っているとした者が257人（54.8%）、知らないとした者が211人（45.0%）であった。

### D-1）どのくらい見ているか

コンテンツ・シート・サービスを知っているとした257人のうち、確実に見る、よく見るとした者が135人（52.6%）、見たことはあるとした者が112人（43.6%）であった。

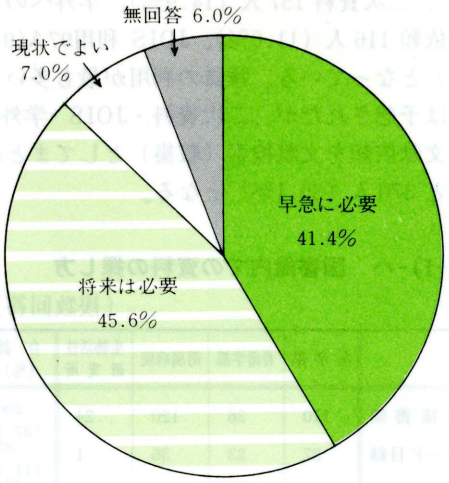
## E．図書館についての掲示

| | 医学部 | 看護学部 | 附属病院 | 生物活性研究所 | 合計 (%) |
|---|---|---|---|---|---|
| 目につく | 36 | 20 | 34 | 9 | 99 (20.8) |
| 目につかない | 75 | 23 | 145 | 19 | 262 (54.9) |
| 場所を増やす | 25 | 8 | 30 | 3 | 66 (13.8) |
| どこかよい | 1 | 2 | 8 | — | 11 ( 2.3) |
| 無記入 | 19 | 4 | 12 | 4 | 39 ( 8.2) |
| 計 | 156 | 57 | 229 | 35 | 477 (100.0) |

掲示は目につかないとした者が、半数以上の262人（54.9%）にのぼり、目につくとした者が99人（20.8%）、場所を増やしてほしいとした者が66人（13.8%）であった。

## F．図書館の新営計画

| | 医学部 | 看護学部 | 附属病院 | 生物活性研究所 | 合計 (%) |
|---|---|---|---|---|---|
| 早急に | 67 | 27 | 80 | 20 | 194 (41.4) |
| 将来は | 64 | 24 | 113 | 13 | 214 (45.6) |
| 現状でよい | 13 | 3 | 16 | 1 | 33 ( 7.0) |
| 無記入 | 12 | 2 | 13 | 1 | 28 ( 6.0) |
| 計 | 146 | 56 | 222 | 35 | 469 (100.0) |




新営計画については、早急に必要・将来は必要とした者が408人（87%）、現状でよいとした者が33人（7%）であった。

以上のほか、各項目及びその他として具体的なコメントが118種235件あった。そのうち主なものを列挙すると次のとおりである。

1. 閲覧室が狭すぎる・座席数が少なすぎる。
2. 部局・教室所在の雑誌の図書館への集中化。
3. 亥鼻地区の中央に新営を、など位置に関して。
4. 新刊・主要雑誌等資料の充実を。

なお、このアンケート結果についてご質問等ある方は、運用係まで申し出下さい。

（亥鼻分館）

〈JOURNAL 紹介〉

# 生　化　学

森田哲生

生化学は生命現象を化学的立場から解明しようとする学問である。生化学の進歩は非常に著しく、医学研究上その貢献は大である。生化学を学ぶためには、現在の現時点の生化学的知識を着実に正確に把握しなければならない。そのためには寿命の短い概説書とともに、生化学に関する新しい雑誌に絶えず目を通さなければならない。しかし生化学の分野の広がりとともに、例えば、他の領域において生化学の研究手法が用いられたり、あるいは生化学に他領域の手法—免疫学—等が導入されたりして、その情報は膨大な量になっている。今回、本学医学部生化学第一、第二講座で行なわれている研究（がん、薬物代謝、リポプロテイン合成、ピリミジン合成、尿素合成、オルガネラ生成等）を行なう上で読まれる代表的な雑誌を紹介する。

1. Journal of Biological Chemistry.

生化学雑誌の中で信頼度もcirculationも高く、生化学を常にleadしている研究が掲載されている。米国生化学会が編集しており、全世界から投稿されている。基礎、臨床を問わず、必読誌と考える。

2. Biochemistry.

米国化学会の編集誌である。Pure chemistry の論文が多い。例えば蛋白質の構造と機能、動力学等。

3. Biochimica et Biophysica Acta.

オランダで発行されているヨーロッパの代表的雑誌である。現在、6分野別に編集されている。

4. Biochemical Journal.

イギリスで発行されている。Pure から Applied に至るまで巾広く投稿されている。

5. European Journal of Biochemistry.

オランダで発行されており、ヨーロッパ生化学会で編集されている。Circulation が良い。

6. Journal of Biochemistry.

日本生化学会編集の欧文雑誌である。日本で発行されている学術誌の中で最も審査の厳しい雑誌の1つであろう。

7. Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America.

米国で発行されている。生化学以外の分野の論文もある。生化学およびその境界領域関係論文では1つのリーダー誌になっている。

8. 代表的な短報誌としては、次に掲げる。

- Biochemical and Biophysical Research Communication.
- FEBS Letters.
- Biochemistry International.

9. 生化学およびその関連領域で代表的な雑誌を掲げる。

- Analytical Biochemistry.
- Archives of Biochemistry and Biophysics.
- British Journal of Cancer.
- Cancer Letters.
- Cancer Research.
- Carcinogenesis.
- Cell.
- Chemico-Biological Interactions.
- Experimental Cell Research.
- Hoppe-Seyler's Zeitschrift für Physiologische Chemie.
- Journal of Cell Biology.
- Journal of Clinical Investigation.

- Journal of Lipid Research.
- Journal of Molecular Biology.
- Journal of the National Cancer Institute.
- Journal of Nutrition.
- Lancet.
- Molecular and Cellular Biochemistry.
- Nature.
- Naturwissenschaften.
- New England Journal of Medicine.
- Nucleic Acid Research.
- Science.
- Zeitschrift für Krebsforschung und Klinische Onkologie.

10. Review誌として以下を掲げる。
- Advances in Cancer Research.
- Advances in Enzyme Regulation.
- Advances in Enzymology.
- Annual Review of Biochemistry.
- Federation Proceedings.(学会、シンポジウム等)
- Progress in Nucleic Acid Research and Molecular Biology.
- Year Book of Cancer.

(医学部　生化学第一教室)

〈JOIS にゅーす〉

## CANCERLIT がん文献ファイル

JOISに、この4月より新たにCANCERLIT がん文献ファイルが加わりました。これは米国National Cancer Institute (NCI)が作成し、National Library of Medicine (NLM)が提供する「がん」に関連する文献を広く収録した文献ファイルで、約3000種の雑誌、モノグラフ、会議録、学位論文等から年間約50,000件を収録しています。

| | | |
|---|---|---|
| 収録期間 | 1963年～ | |
| 収録件数 | 1963年～1979年 | 195,000件 |
| | 1980年～ | 132,000件 |
| 料金 | 210円/分 | |

現在「がん」に関してはMEDLINEでも検索できますが、MEDLINE中のC4.&(がんを扱う項目)が年間33,886件に対して、CANCERLITの方は53,826件となっていて、文献数の面では優位に立っているといえます。更にCANCERLITには全文献に抄録が付けられているので(MEDLINEは40%程度)、内容を知りたい方にはこちらをお勧めできます。また、処理が早く、原報発行の2ヶ月後にはファイルに入るということです。

検索語にはキーワードとしてはMEDLINEに用いられるMeSHのほか、enrichment term(「がん」の概念を明確にする目的で付与される用語)などが使用できます。ただし、これらが使用できるのは1980年以降のファイルのみで、それ以前には使用できません。またMEDLINEで使用できるTree Numberによる下位語を含む検索ができないのは不便ですが、近い将来JICSTで付与する方針とのことです。

以上、簡単に紹介しましたが、今後、「がん」に関する検索にはCANCERLITも併せて利用されることをお勧めします。

## 医学中央雑誌がモデルチェンジしました—

日本の文献検索でおなじみの医学中央雑誌は、83年4月より、データベースを志向したコンピュータ利用による編集で生まれ変りました。

主な変更点は

1. 月3回の発行になり、各号に索引がつきます。
2. 1年分の累積索引が発行されます。（これにより、1年分の検索がまとめてできます。）
3. 件名索引が大きく変わります。
   この索引では、文献はキーワード（「医学用語シソーラス」登録語）のもとに、一連の文献番号によって導かれます。そしてキーワードより狭い主題を表わすために、副標目でさらに限定されています。（下図参照）
   「医学用語シソーラス」は、Index Medicus 方式のキーワード集で、ここに登録されたキーワード以外では検索できません。これは将来のオンライン検索を志向したものです。

図書館には、すでに続々と新しい医学中央雑誌が到着しています。使い方等、ご不明の点は、係員におたずね下さい。

### 件名索引

キーワード　副標目　文献番号

**気管**—外科的療法……011819,011820,011834
**気管支**—解剖学・組織学……011767
——／X線診断……011586
**気管支炎**……010427,010454
——／診断……010418,010423,010429

### お　知　ら　せ

**・ビデオデッキ（VHS方式）購入**
希望の多かったVHS方式の機種を購入しました。従来のベータ方式と併せてご利用下さい。

**・新着雑誌は月・水・金に！**
7月1日より新着雑誌は、展示書架が一台増えて、月・水・金と週3回、1日おきに展示することになりました。

### 亥鼻分館運営委員交替（58.4.1）

医学部（前）教授　降矢　震
　　（新）教授　永野　俊雄

### 人　事（58.6.1）

[redacted]

## 昭和58年度　開館日程表

| 区　分 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 通常開館<br>週日　9：00－17：00<br>土曜日　9：00－12：00 | | | | | | | | 4(金) 7(月) | 24(土) | 5(木) | | |
| 時間外開館<br>週日　17：00－20：00<br>土曜日　12：00－16：30 | 11(月) | | | 23(土) | | 5(月) | | 4(金) 7(月) | 24(土) | 9(月) | | 17(土) |
| 日曜開館<br>13：00－17：00 | 17,24 | 1,8,15<br>22,29 | 5,12,19<br>26 | 3,10,17 | | 11,18,25 | 2,9,16<br>23,30 | 6,13,20<br>27 | 4,11,18 | 22,29 | 5,12,19<br>26 | 4,11 |
| 休館日 | | | | | | | | 5(土)<br>創立記念日 | 26(月)4(水)<br>年末年始 | | | |

## 原稿募集のお知らせ

次号は10月発行の予定です。皆様の声をお待ちしております。どうぞよろしく!!

1. 「広場」　1600字程度
2. 「談話室」　600字程度
3. 俳句、短歌、カット等
4. 400字詰原稿用紙（横罫）を使用する。
5. 原稿には題名及び氏名、所属（連絡先）を明記してください。匿名のものは掲載しません。
6. 原稿の掲載については編集委員会に御一任下さい。
7. 原稿〆切　昭和58年9月15日
8. 提出先・お問合せ　亥鼻分館2階事務室　阿部（内線2805）

## 編集後記

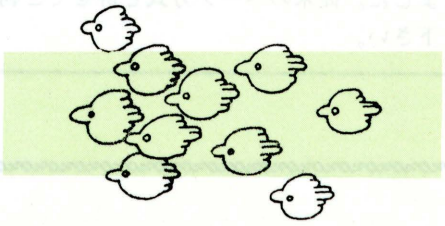
◆梅雨の季節も終りいよいよ夏の到来です。本号は亥鼻分館発足満5年を迎えて、萩原弥四郎先生（前分館長）より一文をお寄せいただきました。

◆本年2月に研究者を対象に実施したアンケートの結果をおとどけ致します。

◆利用の手引きとして、かねてより“Journal紹介„を取り上げたいと思っておりましたが、生化学森田哲生先生により、その第一歩がはじまりました。

◆表紙には今回より大谷克己先生のご指導のもとに“ゐのはな„の歴史をたどってみることにしました。

なお、写真は看護学部の牧孝氏のご協力を得ております。（お）



千葉大学附属図書館亥鼻分館報“らいぶらりいゐのはな„ No.9　1983年7月15日発行
千葉大学附属図書館亥鼻分館発行　　発行者：林　豊
千葉市亥鼻1－8－1　　電話 0472(22)7171(大代表)

千葉大学附属図書館亥鼻分館報

# らいぶらりい 亥のはな 10

1984. 1

●目次●

広場
亥鼻図書館回想――桑田次男――――――2

図書館を10倍上手に利用する方法　II. Index Medicus の使い方――――――4
JOIS 検索例　1. MEDLINE ――――――6

著作権法と図書館――――――9

**「七天王塚」**　七つの塚の老樹の根元には、数基の石碑がひっそりと並んでいる。写真は7号塚の石碑である。7塚に奉納された石碑は、最も年代の古い安永2年（1773年）のものから最も新しい昭和53年（1978年）のものまで8種類を数える。最も古い石碑の表には牛頭（ゴズ）天王と刻まれている。石碑の奉納年月、前述した老木の樹齢、千学集抄、總葉概録および妙見実録千集記の記載などから推測すると、妙見宮の摂・末社のひとつとして妙見宮第31代座主（1769～1780）の常妙法印によって造営されたらしい。牛頭（ゴズ）天王は新羅（シラギ）からわが国の筑紫にもたらされた土俗的信仰である。平安時代に播磨の明石、広峯、山城の北白川および八坂郷に次々と遷座されている。この間、御霊信仰と習合して行疫神（厄神）と見なされ、祭れば疫病その他の災厄を免れうると信じられた。八坂郷の祇園社は明治になってから八坂神社と改名され、祭神も牛頭天王から素戔嗚尊（スサノオノミコト）になった。

（解剖学第三・教授　大谷　克己）

広場

# 亥鼻図書館回想

桑田次男

私は旧制高校時代、一時は将来ドイツ文学を専攻しようかと思ったことがありました。そんな私にとって、ゲーテその他の古典は勿論のこと、ホーフマンスタールやトーマス・マン、リルケの作品などもよくそろっていた高校の図書館は大変夢をさそってくれたものでした。新着の本の柵にインゼルやフィッシャー版のドイツ文学の本を見つけては刺激されたことを想い出します。ところが旧千葉医科大学に来て見ると、第一独立した図書館がないのには失望しました。図書室は10数人も入れば一杯になるような狭い部屋で、古い教科書が金網の向うの柵に並べられて、およそ医学に対する若者の意欲をかき立てるような雰囲気はありませんでした。その旧図書室に入ると、左側の壁の上に白衣の若い研究者が顕微鏡を前にした大きな日本画の肖像が掲げられていたのでした。この肖像のいわれについては当時でも殆ど誰も知らなかったようでした。私は偶然の機会から、それが旧千葉医科大学細菌学教室の先輩で、ロッキー山紅斑熱病原リケッチアの研究中に感染して斃れた菅田孝卿氏*の肖像であることを知ったのでした。旧図書室が現在の位地に医学部図書館として移転した時、この肖像はもはや壁にはかけないということでしたので、私が申し出て微生物学教室に移され、現在第一微生物学教室に保管されております。私はこの絵を見ると自分の青春の一時期をまざまざと想い出します。

旧医科大学に入学して、狭く貧弱な図書室に失望した私でしたが、恩師の羽里彦左衛門先生のご好意で学2の頃から当時の細菌学教室に出入を許されて、医学の文献を読むようになるにつれ、図書館にも段々と満足を覚えるようになって行きました。単行書は昔も乏しかったが、雑誌類は決して少なくなかったと思います。当時はドイツの雑誌がよく読まれた時代でしたが、微生物学の領域ではアメリカの J. Exp. Med. やイギリスの Brit.J. Exp.Path.(病理学教室保存)、フランスのAnn. Inst.Pasteur なども重要な雑誌で、閲覧可能でした。発疹チフスリケッチアの卵黄嚢内接種について最初に報告した Barykine の論文を Bulletin de l'Office International d'-Hygiene Publique で読むこともできました。しかし Cox その他、アメリカの NIH 関係の研究者のリッチケアについての論文は専ら Pub. Health Rep. に発表されており、それらを読むためには当時東大に行かねばならなかったものでした。発疹チフスがシラミで媒介されることを証明して、1928年ノーベル賞を受賞したCharles Nicolle が創始者である Arch. Inst.Pastur de Tunis も本学になく、北里研究所の図書室に読みに行ったことも懐しい想い出です。現在は相互貸借制度によって、他大学から論文のコピーを送って貰えるのは大変有難いことです。

戦時中は外国からの雑誌の輸入が全く途絶え、暗い時代が長く続きました。それだけに戦後外国雑誌の輸入が再開され始めた時の喜びは大きかったものです。ところで、研究所の図書室と異なり、学部の図書館は学生のための図書館でもあるわけですから、研究者と学生の両者に対する設備が必要でしょう。各教室の研究者は図書館で新着雑誌に目を通すなり文献をコピーしたりするでしょうが、論文を図書館で読むことは比較的少ないことでしょう。しかし学生は図書館が勉強の場ですから閲覧室は充分なスペースと良い雰囲気を

持っていなければならない筈です。その点について言えば、亥鼻分館は昔も今も甚だ不充分といわねばならないでしょう。教室員にとっても図書館に勉強の場が少ないのは残念なことです。よい研究室とはそこに入ると自ずと研究意欲をかき立てられるような所である、と言った誰かの言葉を覚えていますが、同じように良い図書館とは勉強意欲をかき立てられる雰囲気を持つものと言えるかもしれません。

購入雑誌の選択の問題その他、図書館に対する注文も色々とありますが、一方では現在の亥鼻分館が十二分に活用されているかどうかも問題でしょう。講座費も決して潤沢ではない日本の現状では、とにもかくにも世界の重要な雑誌が揃えられている図書館は有難い存在です。私は自分なりにこの亥鼻の医学部図書館で楽しく充実した時を過ごすことが出来たことを幸せと思っております。私の研究意欲をかき立てるよすがとなった図書館に感謝し、それが今後更に充実されて行くことを願っております。

＊緒方規雄、中島元徳：ロッキー山紅斑熱（Das Rocky Mountain Spotted Fever）の研究室内感染例に就て。謹んで此一篇を故医学士菅田孝卿氏の霊前に捧ぐ
千葉医学会雑誌　9：1041－1068、1931

（名誉教授）

**2階・展示コーナー紹介**

## 「ゲッチンゲン医学古典文庫」 —覆刻版—

第一次大戦後、労働科学研究所は、ゲッチンゲン大学所蔵図書の一部3千冊の譲渡を受けた。

これは、17・8世紀の医学・自然科学に関する図書で、1977年、この図書目録刊行に際して「ゲッチンゲン医学古典文庫」と名づけられた。この中には、マルピーギ全書（1686）をはじめ多くの医学関係の古典が含まれている。

今回の展示は、次の4人のものの覆刻版である。

**マルピーギ**　Malpighi, M（1628－1694）
イタリア
マルピーギ全書（1686）
顕微鏡的解剖学の始祖

**スメリー**　Smellie, W（1697－1763）
イギリス
解剖図表：説明付解剖図譜及び産科の症例集に関する論文を説明することを目的とした産科の実際の要約（1758）。

**ビドロー**　Bidloo, G（1649－1713）イタリア
人体解剖書、図は画家の Gerard de Lairesse による105点。

**ハーベイ**　Harvei, G（1578－1657）イギリス
動物の心臓ならびに血液の運動に関する解剖学的研究（1628）。動物の生成に関する研究（1651）。

# 図書館を10倍上手に利用する方法

## Ⅱ.Index Medicusの使い方

現代の日々進歩している医学研究及び医療技術を吸収し、活用するためには、医学文献から情報を最大限に収集しなければならない。Index Medicus（以後ＩＭと略す）は医学分野においては最も基本的な文献情報を探すための道具（これを図書館用語では二次資料という）であり、この資料の使い方は医学を学ぶ者にとって、知っておかねばならないものの一つである。

**生いたち**

1879年米国陸軍の軍医総監 John S. Billingsによって創刊され、現在ではNational Library of Medicine（NLM）が、MEDLARS(Medical Literature Analyais and Retrieval Systemコンピュータによって ＩＭの編集と検索を行うシステム）により刊行している。

収録誌は1983年現在2709タイトル、そのうち日本の雑誌は120タイトルである。

**発行形式**

月刊版と、それをまとめた年刊版とがある。年刊版のタイトルはCumulated Index Medicusである。

**構成**

月刊版、年刊版いずれも Subject SectionとAuthor Section の大きく2つの部分に分かれている。他に総説論文だけを集めたBibliography of Medical Reviewsがある。

**Subject Section**

自分の知りたい主題から文献を探すことができる。ただし、どんな言葉でもよいというわけではなく、MeSH（Medical Subject Headings）に載っているキーワードでひかなければならない。例えばKawasaki Diseaseについて探す時は、Mucocutaneous Lymph Node Syndromeでひくようになっている。

> MeSHとは……ＩＭ用に作成された医学用語のリスト。用語の同義語を整理し、意味上の階層関係など用語間の関連をまとめたシソーラスの一つ。Alphabetic List（アルファベット順リスト）と、Tree Structures（階層別カテゴリーリスト－医学の概念を大きくA~N'の14のカテゴリーに分け、それをさらに細分したリスト）に分かれている。毎年用語は改訂され、ＩＭのNo.1、Part 2として発行されている。このMeSHのひき方を知ることが、ＩＭを利用する上での重要なポイントである。

ここで例を今話題の〝AIDS〟（後天性免疫不全症候群）にとって、ＩＭをひいてみよう。〝AIDS〟は83年のMeSHには、キーワードとしてまだ載ってこないので、Immunologic deficiency syndromesで探す。

**〈図１〉MEDICAL SUBJECT HEADINGS ALPHABETIC LIST**

IMMUNOLOGIC DEFICIENCY SYNDROMES
C20.673+
70
X ANTIBODY DEFICIENCY SYNDROME
XU DIGEORGE SYNDROME

**〈図２〉SUBJECT SECTION 1983 MAY**

IMMUNOLOGIC DEFICIENCY SYNDROMES

COMPLICATIONS

Disseminated Mycobacterium avium-intracellulare infection in homosexual men with acquired cell-mediated immunodeficiency: a histologic and immunologic study of two cases. Sohn CC, et al. Am J Clin Pathol 1983 Feb; 79(2):247-52 (54 ref.)

Down's syndrome: problems of immunodeficiency. Ugazio AG. Hum Genet [Suppl] 1981;2:33-9

Deficient autologous mixed lymphocyte reaction in Kaposi's sarcoma associated with deficiency of Leu-3+ responder T cells. Gupta S, et al. J Clin Invest 1983 Feb;71(2):296-300

June の号になって初めて Acquired Immunodeficiency Syndrome として登場する。これによって説明すると、まずこの主題についての一般的文献、続いて Complications の観点から書かれたもの、そして Diagnosis の観点から…と続いている。この Complications. Diagnosis 等を Subheading（副見出語）といって全部で76種ある。使い方の説明は MeSH に書かれている。論題を角カッコでくくってあるのは英語以外の言語の文献であることを示している。(日本語の論題は英訳名になっている。)

著者は第1著者のみで、第2著者以降は et al で略されている。誌名は略誌名になっている。フルタイトルは収録誌リスト List of Journals indexed in Index Medicus で調べることができる。

〈図3〉 SUBJECT SECTION 1983 JUNE

ACQUIRED IMMUNODEFICIENCY SYNDROME

IASP (or IBA), not AIDS [letter] Soothill JF. Lancet 1983 Mar 5;1(8323):526

① COMPLICATIONS ③ ④ ⑤

Acquired immune deficiency syndrome: the past as prologue. Curran JW, et al. Ann Intern Med 1983 Mar;98(3):401-3 ②

The acquired immunodeficiency syndrome and Mycobacterium avium-intracellulare bacteremia in a patient with hemophilia. Elliott JL, et al. Ann Intern Med 1983 Mar;98(3):290-3

[Acquired immunodeficiency syndrome and opportunistic infections in a female] Thornton E, et al. Schweiz Med Wochenschr 1983 Jan 8;113(1):28-30 (Eng. Abstr.) ⑥ (Fre) ⑦

DIAGNOSIS

Relation between sexual practices and T-cell subsets in homosexually active men. Detels R, et al. Lancet 1983 Mar 19;1(8325):609-11

① 論題
② 著者
③ 収録誌名（略誌名）
④ 発行年月
④5 巻・号・ページ
⑥ 英語の抄録付
⑦ 言語

## Author Section

著者名から文献を探すことができる。第2著者以降の著者の項には第1著者を参照するようになっている。

記入の形式は姓と名のイニシャルが2字までとなっている。〈図4〉では Hagiwara T という著者の文献が共著の分も含めて8件あるが、全部同一著者のものとは判断できない。個々の論文の内容を見て判断しなければならない。

論題は Subject Section が英語以外の言語の場合英訳名が角カッコでくくってあるのに対し、このセクションでは原語のままとなっている。オリジナルタイトルを知りたい時はこのセクションの方が役に立つ。(日本語の文献は英訳名となっている。)

〈図4〉 AUTHOR SECTION

Hagiwara T, Katsube Y, Imaizumi K: Oocyst formation in cats survived after intraperitoneal inoculation of Toxoplasma cysts. Nippon Juigaku Zasshi 1981 Jun; 43(3):345-9

Hagiwara T, Katsube Y, Muto T, Imaizumi K, Daigo Y: Experimental feline toxoplasmosis. Nippon Juigaku Zasshi 1981 Jun;43(3):329-36

Hagiwara T, Katsube Y, Imaizumi K: Fate of Toxoplasma in cats after oral administration. Nippon Juigaku Zasshi 1981 Jun;43(3):337-43

Hagiwara T, Katsube Y: Detection of Toxoplasma infectionin pork by Sabin-Feldman's dye test with meat extract. Nippon Juigaku Zasshi 1981 Oct;43(5):763-5

Hagiwara T, Kimura K, Obata T, Sho S, Kamijo K: Increase in tryptamine oxidation activity of hog kidney mitochondrial monoamine oxidase by treatment with triton-X 100 and sodium cholate. Jpn J Pharmacol 1982 Feb;32(1):202-4

Hagiwara T see Kamiyama T

Hagiwara T see Katsube Y

Hagiwara T see Yamamoto H

Hagiwara Y see Suzuki Y

Hagiyama M see Arata J

Hagler AN, De Oliveira RB, Mendonça Hagler LC: Yeasts in the intertidal sediments of a polluted estuary in Rio de Janeiro, Brazil. Antonie Van Leeuwenhoek 1982;48(1):53-6

## Bibliography of Medical Reviews

月刊版の最初と、年刊版の第1分冊に掲載される。総説論文は Subject Section にも載るが、総説論文のみを調べたい時はこのセクションの方が便利である。文献の記述の最後には参考文献の数が示される。

以上概略したが、実際に利用してわからない点があれば、カウンターの係員までおたずね下さい。

# JOIS検索例　1. MEDLINE

医学文献を探す方法として、従来はIM等二次資料のページをめくって行くことであった。ところが、文献量は年々増加してくるので、自分に必要な主題について何年分もの文献を調べるには大変な手間と時間がかかるようになってきた。そこで1964年に登場したのがコンピュータによる文献検索システムMEDLARSで初めはバッチ検索、後にオンライン検索へと移行した。それがMEDLINEである。

MEDLINEにはIndex Medicusの他、Index to Dental Literature, International Nursing Index からも収録されているので、歯学、看護学文献も検索できる。JOISでは1972年まで遡及できる。

**MEDLINE検索の特徴**

1．検索時間を短縮できる。
2．複数主題の組合せ（論理和、論理積、論理差）による検索が容易にできる。
3．MeSHのTree Numberの前方一致を使用することにより、あるカテゴリーの下位語も含む概念の検索ができる。（例えば、抗生物質全部を検索したい時、IMではそれぞれの抗生物質を見ていかねばならないが、MEDLINEではD20、85.&と入力すればよい）
4．MeSHに載っていない主題、薬品名等による検索ができる
5．対象生物、姓別、年齢層、言語、発行年等が指定（除外も含めて）できる。
6．抄録も出力できる。（ただし40%程度）

**MEDLINEにおけるMeSH**

機械検索用のMeSHはIM検索用のとは別にあって、Alphabetic ListとTree Structures及びPermuted MeSHがあり、説明もより詳しくなっている。MEDLINEでは、最初に的確にMeSHから検索語を探し当てることが重要である。そうしないと検索のやり直しをすることになりそれだけ経費がかさむことになる。

検索語の選び方を順を追って説明すると

1．Permuted MeSH (MeSHターム中のどの語からも探せるリスト）を見て、どんなキーワードになっているか探す。なければ同義語を探すか、自然語（フリーターム、キーワードに対して）を使用。
2．そのキーワードをAlphabetic List に当って説明文を読む。（検索における注意が書いてある。特に注意すべき点は別稿「ＩＭの使い方」で説明したSubheading である。）検索の意図に合致し、またTree No. に＋がついてなければ、それを検索語とする。
3．Tree No. に＋がついていれば、Tree Structures を見る。下位語を通覧して必要であれば、Tree No. の前方一致検索とする。

概略するとこうなるが、実際はもっと複雑であり、ケースバイケースといえる。

では、実際に検索例を見ながら、検索の過程を追ってみよう。

**検索例１　子宮癌末期症例におけるBleomycin の薬物療法**

子宮癌のMeSHタームはUterine Neoplasmsで、Tree No. に＋がついているので〈図１〉、Tree Structures を見る〈図２〉。下位語も必要なので検索語はC4.588.945.418.948.& とする。そして薬物療法のSubheading（ＤＴ）を／（スラッシュ）で付加する〔１〕。またBleomycinsは同様に下位語があるので〈図３〉、D20.85.75.236.&〈図４〉を検索語とし、治療的利用のSubheading（TU）を付加する〔２〕。これらの論理積をまず求め〔３〕、そして臨床のKW＝Humanと、言語指定のLN＝JA＋EN を加える〔4〕〔5〕.

**MEDICAL SOBJECT HEADINGS**

**ALPHABETIC LIST**

〈図1〉

**UTERINE NEOPLASMS**
C4.588.945.418.948+ C13.371.852.762
fibroma = LEIOMYOMA (IM) + UTERINE NEOPLASMS (IM); /anal /blood supply /secret /ultrastruct permitted; coord IM with histol type of neopl (IM); CERVIX NEOPLASMS is available

〈図3〉

**BLEOMYCINS**
D20.85.75.236+ D22.204.106.244+
do not use /analogs /defic /physiol
81; was BLEOMYCIN 1972-80 (Prov 1972-73)
use BLEOMYCINS to search BLEOMYCIN back thru 1972 (as Prov 1972-73)
XU PHLEOMYCINS

**MEDICAL SUBJECT HEADINGS**

**TREE STRUCTURES**

〈図2〉

| | |
|---|---|
| UTERINE NEOPLASMS | C4.588.945.418.948 |
| CERVIX NEOPLASMS | C4.588.945.418.948.170 |
| CERVIX DYSPLASIA・ | C4.588.945.418.948.170.170 |

〈図4〉

| | |
|---|---|
| BLEOMYCINS | D20.85.75.236 |
| PHLEOMYCINS・ | D20.85.75.236.758 |

〈図A〉

```
[ 1] U:  DT/C4.588.945.418.948.&
     S:        371  ケン
[ 2] U:  TU/D20.85.75.236.&
     S:        330  ケン
[ 3] U:  1*2
     S:         15  ケン
[ 4] U:  KW=HUMAN
     S:         14  ケン
[ 5] U:  LN=JA+EN
     S:         10  ケン
[ 6] U:  ¥P  S,3
#0001
CN=  82184081
TI=  BLEOMYCIN AND MITOMYCIN-C (BLM-M) IN RECURRENT SQUAMOUS UTERINE CERVICAL
     CARCINOMA
AU=  BOICE C[illegible] FREEDMAN RS; HERSON J; WHARTON JT; RUTLEDGE FN
JN=  0008-54[illegible] CANCER
VN=  VOL.49  NO.11  PAGE.2242-5  '82
CI=  (EN        ) (USA) (        )
```

### 検索例2　小児糖尿病患者の自己管理能力

小児糖尿病のMeSHタームDiabetes Mellitus, Juvenileを選び〔13〕、自己管理能力については、Self Careの下位語Self Medicationを含んだE 2,900、&〔14〕と、フリータームとしてSelfとControlの組合せ〔17〕との論理和を求め、〔13〕との論理積を作る〔18〕。

〈図B〉

```
[13] U:  @DIABETES MELLITUS, JUVENILE
     S:       1216  ケン
[14] U:  @E2.900.&
     S:        384  ケン
[15] U:  FT:SELF
     S:      10377  ケン
[16] U:  FT:CONTROL
     S:      57846  ケン
[17] U:  15*16
     S:       1032  ケン
[18] U:  13*(14+17)
     S:         34  ケン
[19] U:  LN=JA+EN
     S:         30  ケン
[20] U:  ¥P  S,3
#0001
CN= 83247973
TI= DIABETES IN CHILDREN: FAMILY RESPONSES AND CONTROL.
AU= KLUSA Y; HABBICK BF; ABERNATHY TJ
JN= 0033-3182  PSYCHOSOMATICS
VN= VOL.24  NO.4  PAGE.367-9,  372  '83
CI= (EN        ) (USA) (36)
```

〈注〉@はそのキーワードが論文の中心主題となっていることを示している。

**検索例 3　AIDS**

別稿「ＩＭの使い方」の例で示したように、AIDS は83年の６月から登場したので、６月以後と６月以前の分を別々に求めなければならない。まず６月以後の分は Tree No. で入力する〔20〕。(Acquired…は字数が32字を越えるので不可)

そして６月以前の分については、文中にどのような形で表現されるか考慮しながらフリータームを組合せ〔22〕～〔29〕、Immunologic Deficiency SyndromesのTreeNo.〔21〕との論理積を作る〔30〕。〔20〕と〔30〕との論理和315件が1980年よりのAIDSに関する全文献である。そのうち英語と日本語の文献は 286 件となる。

〈図Ｃ〉

```
[20] U:  C20.673.65.
     S:        234  ケン
[21] U:  C20.673.
     S:       1236  ケン
[22] U:  FT:ACQUIRED
     S:       5112  ケン
[23] U:  FT:IMMUNODEFICIENC&
     S:        914  ケン
[24] U:  FT:IMMUNOLOGIC
     S:      16111  ケン
[25] U:  FT:IMMUNE
     S:      21156  ケン
[26] U:  FT:DEFICIENC&
     S:      13353  ケン
[27] U:  FT:AIDS
     S:       1982  ケン
[28] U:  22•23
     S:        293  ケン
[29] U:  22•(24+25)•26
     S:        161  ケン
[30] U:  21•(27+28+29)
     S:         84  ケン
[31] U:  20+30
     S:        315  ケン
[32] U:  LN=JA+EN
     S:        286  ケン
[33] U:  ¥P  S,3
```

```
#0001
CN= 83281114
TI= EPIDEMIC OF THE ACQUIRED IMMUNODEFICIENCY SYNDROME: A NEED FOR ECONOMIC AND SOCIAL
    PLANNING.
AU= GROOPMAN JE; DETSKY AS
JN= 0003-4819 ANN INTERN MED
VN= VOL.99 NO.2 PAGE.259-61 '83
CI= (EN        ) (USA) (      )
```

## ホログラムカードの保管にご注意を

最近、夜間利用の時、ホログラムカードをリーダに差込んでもドアが開かないという届け出が多くなっています。

ホログラムカードとは、レーザーを使用して作られる非常に微細な縞模様－これをホログラムという－に数字などの情報が記録できるという技術（ホログラフィー）を利用したカードです。そして、カードに記録された数字をリーダが読みとり、メモリーに登録されているかどうか判定し、ゲートを開くという仕組になっています。

多少の傷には影響を受けませんが、熱・日光に弱いのが特徴です。例えば、カードを車内に放置する、窓辺に置いて日光にさらされる、ストーブの傍に置くなどします。そうするとカードは変質します。（銀行などのカードと方式が違います）特に保管に注意を要するわけです。

カードの再発行には、登録申請書の他に、再発行届、損傷届が必要で、１週間程度かかります。今後、カードの粉失・損傷の際には実質弁償も検討せざるを得ない状況になってきていますので、十分ご注意下さい。

# 著作権法と図書館

最近、著作権法が新聞紙上などを賑すことが多くなりました。この著作権とは、小説・論文・楽曲・絵画等著作物の利用について、その作者に認められる権利です。例えば、ある教授がある論文を書いたとします。するとその時点で著作権が発生し、その論文の出版・放送・複製等の利用に関する権利は、すべて著作者である教授が独占することになります。つまり利用に際しては、そのつど著作者に許諾を得なくてはなりません。著作権法とは、このように一定の期間著作者の権利を保護する規範であり、文化の発展に寄与することを目的としています。

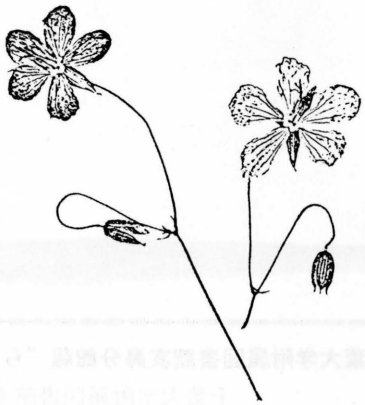
しかし著作物を自由に利用できる場合もあります。〝私的利用のための複製〟や〝図書館等における複製〟がこれにあたります。〝私的利用のための複製〟とは文字通り個人的なものに限られ、それにより利益を得ることは許されません。今問題の貸レコードはこの点で争われています。次に〝図書館等における複製〟について簡単にご説明しましょう。図書館（政令で指定されたもの）において複写する場合、

1．営利を目的としないこと
2．図書館所蔵の資料であること
3．調査研究を目的とすること
4．著作物の一部分の複製であること
5．一人につき一部提供であること

などの条件を満たしていれば著作権法で認められているのです。

さて、著作権法の改正が、今問題となっています。盗作などの古典的問題と異なり、最近の論議はもっぱら複製に関する事です。現代はコピー全盛の時代です。雑誌のコピー1枚からレコード・ビデオまで私達はコピーの恩恵を受けることに慣れっこになってしまいました。特に学術分野では、コピーによる情報入手が必須となっています。しかしコピー量増大の一方で、学術出版物は売行不振のため出版が困難になってきています。このままだと論文発表の場が狭められる危険性もあります。大学に所属する皆さんは情報の受け手であるばかりでなく情報の生産者（あるいは将来の生産者）でもあるわけで、この問題には他人事ですまされない事でもあるでしょう。ヨーロッパでは売行不振に対処するため、学術論文を印刷形態ではなくデータベース化し、利用者の求めに応じてコピーを提供するという計画も持ち上がっています。また複写機がこのように普及した現在では、もはや個人では著作権を管理できない状況にあります。これに対してアメリカ・西ドイツ等では、著作権を集中的に管理する機関を設けています。日本でも、今この方向で検討が進められています。

技術革新とそれに対応する人間のルールとして、著作権法も新しい問題への対処に迫られているといえましょう。これからもいやおうなしに著作権に関わっていくだろう私達も、著作権法の行方をしっかりと見守っていかなくてはなりません。



# 学会誌所蔵者はご連絡を

雑誌の収集について、主要な雑誌は分館と各学部・教室等を通じて亥鼻キャンパス全体ではカバーされていますが、一部学会誌に昭和54年頃より購入を中止しているタイトルがあります。リストは右記の通りです。これらは利用者の要望が多い雑誌ですが、学内に所蔵を確認できないで困っております。これらを所蔵していられる方で、学内者の閲覧を認められる方はご連絡下さるようお願いします。

他にも教室では所蔵しているが、分館にないタイトルがありますが、併せてご連絡下さるようお願いします。

| タイトル | 希望巻年 |
|---|---|
| 1．アレルギー | 28（昭54）以降 |
| 2．日本不妊学会雑誌 | 21（昭51）以降 |
| 3．日本化学療法学会雑誌 | 29（昭56）以降 |
| 4．日本血液学会雑誌 | 42（昭54）以降 |
| 5．日本内科学会雑誌 | 68（昭54）以降 |
| 6．日本消化器病学会雑誌 | 76（昭54）以降 |

## 人　事

58.10.1

放送大学学園教務部　岩澤　明

教務課図書係長へ転出　（亥鼻分館運用係長）

58.12.15～

亥鼻分館事務長事務代理　東　米吉

（附属図書館事務部長）

亥鼻分館事務長病休　谷島良次郎

## 原稿募集のお知らせ

次号は4月発行の予定です。皆様の投稿、ご意見・ご要望を心からお待ちしております。どうぞよろしく!!

詳しくは、総務係（内線2802）へお問い合わせ下さい。

千葉大学附属図書館亥鼻分館報“らいぶらりいゐのはな„ No.10　1984年1月1日発行

千葉大学附属図書館亥鼻分館発行　発行者：林　豊

千葉市亥鼻1－8－1　電話 0472(22)7171(大代表)

千葉大学附属図書館亥鼻分館報

# らいぶらりい 亥のはな 11

1984. 4

●目次●

広場

近況――三浦義彰――――――2

〈Journal紹介〉

科学総合雑誌、医学・看護学総合雑誌――――――4

ビデオで効果的な学習を！――――――6

1984年購読雑誌変更リスト――――――7

## 図書館と学生

林　豊

「広く、長く、天井が高く、左右に窓のたくさんある建物であった。書庫は入口しか見えない。……必要の本を書棚からとりおろして、胸いっぱいにひろげて立ちながら調べている人もある。三四郎はうらやましくなった。……本郷より高い所で……紙のにおいをかぎながら、読んでみたい。読んでみなければわからないが、何かあの奥にたくさんありそうに思う。」

（漱石「三四郎」より）

三四郎は一年生だから書庫へ入る権利がなかった。

今日の亥鼻分館では書架の間を歩き、図書を手にすることは自由で、必要があれば係員が図書利用の相談相手になることになっている。研究図書館と、学習図書館の二つの機能をもつ分館で、後者の機能の拡充には利用者の要望や熱意が重要と思われる。



講義で学ぶ内容は、当然、エッセンスとして最も重要であるが、限られた時間で得られる情報源には限りがある。一定の課題について、いくつかの教科書にあたってみるのもよいし、さらに深く文献を調べてみればその深さを知ることが出来るであろう。備えられているIndex の利用や、研究面ではコンピュータによる検索が必要となっている。

実例をあげてみよう。喫煙と肺癌とが密接な関係をもつことに疑いはないが、肺癌も多種多様で、喫煙、その他の外因と関係の深い肺癌は限られている。

どのような形の肺癌が、どの位の頻度で喫煙と関係しているものか、また、科学の進歩と裏腹に生じた環境の汚染との関係はどうか、などについても調べてはどうであろうか。そこに単一の原因と称されるものと結果を短絡させられない事情がある。また、加齢とともに誰にでも起こる動脈（粥状）硬化症を例にとってみるとその発生には、生活様式までをも含めた種々の要因が考えられる。リアリティのかなりの部分を省略して得た結果だけを覚えた優等生になる必要はないのではなかろうか。その点では、コンピュータによる検索であっても、いつでもそのものズバリの情報で済ませることは、マニュアルで間に合わせるだけの技術者となる恐れもある。その時でさえも、情報の真偽や有用性などの価値判断は、それぞれの人の持つ知見、経験によることになる。

連日の講義、実習に追われ、図書館で色々と調べる余裕がないのが実情かもしれない。しかし、ますます専門分化が進んで精細になってきた科学を学ぶ者にとって、全体像や関連する諸科学が重要であることを思う時、若くて柔軟な、知識欲の旺盛な学生時代にこそ関連する諸科学、さらに人や社会についても広い知見を得ておくことが望まれる。読書の間には種々のことを考え、また、その際、思わぬ知見をも得られるものである。まず、書架の間を歩き、書物を手にしてみることをおすすめしたい。

（附属図書館玄鼻分館長）

# 広場

## 近　況

三　浦　義　彰

1981年に停年退職と同時にサントリーに顧問として入れてもらった。サントリーといってもウイスキーやワインとは無関係で、医薬品部門である。まだ何も売り出していないからもっぱらウイスキーやビールの収益で研究をさせて頂いている部門だが、いわゆるバイオテクノロジーをめざして生化学の新しい分野の研究が主である。

組換DNAの技術といっても、この頃はめざすＤＮＡ断片は合成も出来るし、生物のＤＮＡを適当に切るのにはそれに適したハサミ（酵素）も市販されて科学（サイエンス）ではなく技術（テクノロジー）の領域になってしまっている。しかしＤＮＡの世界にはEnhancerとかModulatorとかPromotorなどと呼ばれる呪文のような部分があって、これがないとＤＮＡはＲＮＡに読みかえられない。

これらの呪文はオベリスクに書かれた古代エジプト文字のようにいずれは読解されるだろうが今のところはまだ五里霧中である。したがって私の出番があるわけで、世界中で研究されているＤＮＡの配列を眺めては暗号の読解を試みている。

こういった世界中の文献をみるにはコンピューター検索は私の助手をつとめて下さる伊藤京子君がコンピューターにも強いし、英仏独三ヶ国語に明るく、おまけに化学の知識があるので、専ら彼女にたよることになる。

コンピューター検索はサントリーの研究所でも出来るが、しかし時折は図書館を訪ねないと本当の仕事は出来ない。何気なくページを開いているうちに大発見をしたり、他の領域の雑誌に探している問題が出ていたり、図書館は現在でも私の仕事には欠かせない。

東京では東大の医学図書館、大阪では阪大の中之島図書館を専ら利用するが、時には助手の伊藤君に母校の京大を訪ねてもらう。しかし、私個人はやはり千葉大の亥鼻分館が最も使いやすい。どこに行けばどの書棚に何があるか大体わかるせいもあるが、やはり使いやすく出来ているのではないだろうか。

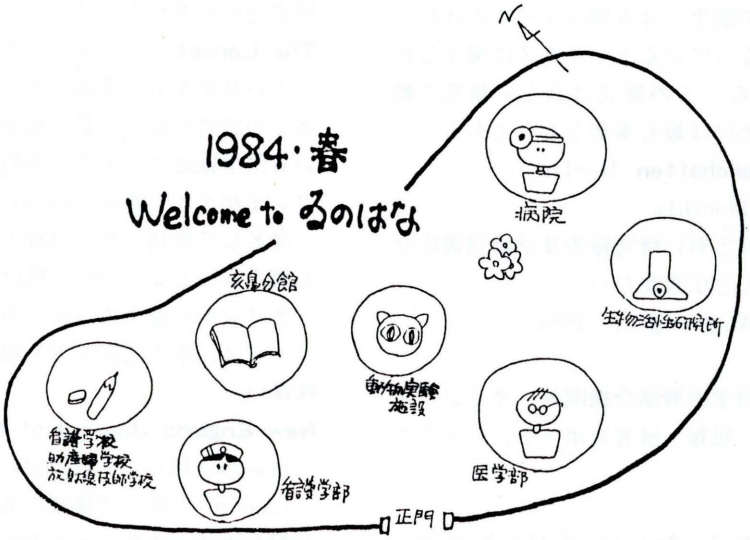
学生時代、徳川末期の武鑑をしらべる必要があって，当時、私達に皮膚科を教えて下さった太田正雄教授（ペンネーム木下杢太郎）にどこへ行けばみつけられますかという質問をしたことがあった。太田先生はそれは東大の中央図書館の２階のどの棚の上から何番目にあるよとすぐに教えて下さった。太田先生もかなり本の虫であったようである。

私も妙な縁で、三十歳台から日本医師会の図書委員になり、千葉大に移ってから亥鼻の医学部図書館長などをしていたが、60歳を過ぎてから千葉大の図書館本館の館長に任命されて、いわゆる図書行政にも関係するようになった。若い時海軍の軍医だった頃一度はカン長というものになって船を動かしたいものだと思ったが、自分がカン長と呼ばれると何か本当に艦長になったような気がして嬉しかった。海軍の同期生の山村雄一君は、今、阪大の総長をしている。彼にいわせると総長では暴力団にでもなったようで、カン長の方がいいという。きっと香月前学長も同じかもしれない。旧海軍の残党は時々失言をするようである。

千葉大の亥鼻分館には旧佐倉順天堂文庫という宝がある。江戸時代の解剖図とか南ばん医学の図とか、小笠原先生（前人文学部長）によると重要文化財にもなりますよといわれた逸品がそろっている。時には展観もした方がよい。

亥鼻分館は、将来、生物医学系の情報センターになるべくして生まれたものである。この案は石田館長がつくられたもので私が継承したが、分館に昇格するところまでで終ってしまった。廃案になってはいないので、図書館の建物の新築とともに何とか実現したいものだと思う。

（名誉教授）



〈ジャーナル紹介〉

# 科学総合雑誌　医学・看護学総合雑誌

今回のジャーナル紹介は、今春から亥鼻分館を利用するようになった学生等を対象に、科学総合雑誌及び医学・看護学関係の総合雑誌をとりあげた。ジャーナルは新しい研究の成果、学会の動向を知る上では、単行書よりもすぐれているので、ここにとりあげたジャーナルは手にとって見る必要があろう。

## 1．外国の科学総合雑誌

科学技術全般を扱っているオリジナル論文誌で、新しい研究に関して速報的性格を持っている。研究者が新しい研究成果を公表すること、研究の第一線でどのような研究がなされているかを周知することを目的とし、ひいては第一報の先取権をもつことにもなる。研究の動向等は Letter to the editor という短報の形で掲載されることが多い。論文の程度も高く、雑誌自体の歴史も非常に古く名の通ったものが多い。

**Nature**　London 1869～　Weekly

世界中で最も広く読まれ、最も権威があるとされている英国の科学総合雑誌。オリジナル論文が２～３のほか，短報も20以上掲載される。雑誌の前半には各種ニュースのほか、最近話題になっているトピックスに関する短い紹介がある。この雑誌は新しい研究の動向を知るためには最も重要なものである。

**Naturwissenchaften**　Berlin 1913～　Monthly

総説的論文と短い研究報告及び新刊書紹介など。ほとんど広告がない。

**Science**　Washington 1883～ Weekly

アメリカ科学振興協会機関誌。オリジナル論文のほか、短報、研究レポート、ニュースなど。

以上のほかに、Annals of the New York Academy of Sciences、Comptes Rendus Hebdomadaires des Sciences de l' Academie des Sciences Ser.3：Sciences de la Vie、Life Sciences、Proceedings of the National Academy of Sciences of the U.S.A などがある。

## 2．日本の科学総合雑誌

Nature など外国の科学総合雑誌のような研究の先端を紹介する論文誌ではなく、一般向けにわかりやすく科学技術全般を紹介する。

**科学**　岩波書店　1931～　月刊

**自然**　中央公論社　1946～　月刊

**サイエンス**　日本経済新聞社　1971～　月刊

Scientific American（アメリカで発行されている月刊誌）の日本語版。同誌に掲載される記事の一部が翻訳され、２、３か月遅れで発行される。また、別冊サイエンスでは１つのテーマを特集としてとりあげているので、まとまった知識を得るのに役立つ。

## 3．外国の医学総合雑誌

医学全般を扱かっているオリジナル論文誌。古い歴史を持つ雑誌もある。医学の先端的な研究が紹介されるので見のがせない。

**The Lancet**　London 1823～　Weekly

古い歴史をもつ英国の医学総合雑誌。最も多くの読者を持ち，最も権威があるとされている医学雑誌でもある。外科医トーマス、ワクレイがタイトルを Lancet（乱切刀、披針）と命名して創刊した。以後どの組織、学会にも属することなく刊行し続けている。

オリジナル論文のほか、短報、死亡記事、ニュース、求人広告なども掲載されていて興味深い。

**New England Journal of Medicine**

Boston 1812～　Weekly

Lancet と並んで権威のあるアメリカの医学総合雑誌。オリジナル論文のほか、短報も10以上掲載されている。

以上のほかにBritish Medical Journal Deutsche Medizinische Wochenschrift、Journal of American Medical Association（JAMA－日本語版あり）La Presse Medicale などがある。

### 4．日本の医学総合雑誌

外国の医学総合雑誌のようなオリジナル論文、短報を中心に扱かうもののほか、日本の医学雑誌の特色として、特集を組んでその時々の話題になっているテーマをとり上げる雑誌が多いことがあげられる。

**医学のあゆみ**　医歯薬出版　昭21～　週刊

オリジナル論文、短報中心の雑誌。学会のニュースなど医学界の最近の動きも掲載。

**日本医事新報**　日本医事新報社　大10～　週刊

医学界の動きを知るのに役立つ雑誌。展望記事、エッセイとともにニュース欄に多くのページをさき、学会予告、人事消息等も掲載。

**からだの科学**　日本評論社　昭40～　月刊

一般向けに医学をわかりやすく紹介。毎号特別企画として1つのテーマをとり上げるほか医学関係のニュースも掲載している。

以上のほかに、Medicina、モダンメディシン、日経メディカルなどがある。

### 5．外国の看護学総合雑誌

看護学の分野は研究対象になって歴史が浅いためか、専門別に分かれている雑誌の種類数は少なく、その多くは総合雑誌の形態をとっている。

**Nursing Research**　New York 1952～ Bi-Monthly

これは研究用の雑誌であるが、看護の分野では最も重要な雑誌である。内容はオリジナル論文が殆どで、短報も数篇掲載されている。

**American Journal of Nursing**

New York 1900～　Monthly

アメリカ看護協会の雑誌。オリジナル論文のほか、ニュース、会議の案内、書評も掲載。

以上のほかに、International Nursing Review、Nursing Outlook、Nursing Times などがある。

### 6．日本の看護学総合雑誌

外国の看護関係の雑誌と同様、多くは総合雑誌の形態をしている。内容は日本の雑誌の特色として、特集中心となっている。

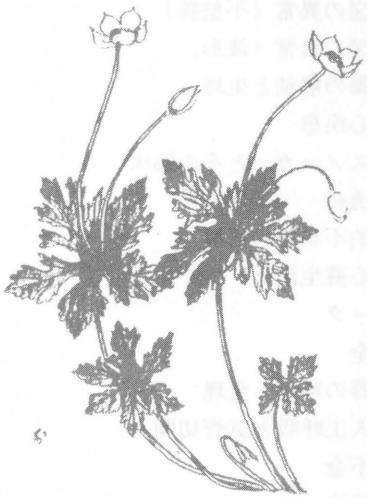
**看護**　日本看護協会　昭24～　月刊

日本看護協会の機関誌、特集を中心とした研究レポートのほか、コラムなどの読み物、同協会のニュースからなり、巻末には看護関係雑誌文献目録がついているので、文献探索にも役立つ。

**看護学雑誌**　医学書院　昭21～　月刊

特集を中心とした研究レポート、ケーススタディ、ニュース、看護の一般的常識など、看護学生にとってためになる記事が多い。

以上のほかに月刊ナーシング、看護研究、ナースステーションなどがある。



# ビデオで効果的な学習を！

ニューメディア時代が叫ばれる昨今ですが、ニューメディアより1足早く、ビデオはその普及率も高まり次第に身近な存在になってきています。

さて医学分野におけるビデオの効果は、ご存じの通り非常に大きなものです。器官の構造、心音・呼吸音の実際、診療・看護の過程などはもちろんですが、今後ますます進んでいく画像診断等の医療技術の自己学習には欠かせないものとなるでしょう。

亥鼻分館2階のビデオ・演習室には、以下のビデオテープがあります。特に、新たに購入した〝Techniques in Genetic Engineering〟は、遺伝子工学の講座がない本学においては、貴重なものと思われます。亥鼻分館では、U-matic VHSを備えています。積極的にビデオを学習にお役立て下さい。利用に際してはカウンターへどうぞ。

## ビデオ・テープ目録

**◇ICU-CCUトレーニングコース**

心電図の基礎知識
心電図の異常（不整脈）
心電図の異常（波形）
循環器の解剖と生理
冠性心疾患
ペースメーカーとその臨床
人工透析
致死的不整脈の治療
救急心蘇生法
ショック
心不全
呼吸器の解剖と生理
長期人工呼吸と気管切開
呼吸不全
院内感染
ＩＣＵと機械
ＩＣＵの臨床検査
栄養の補給
救急医薬品
意識障害

**◇現代臨床医学大系**

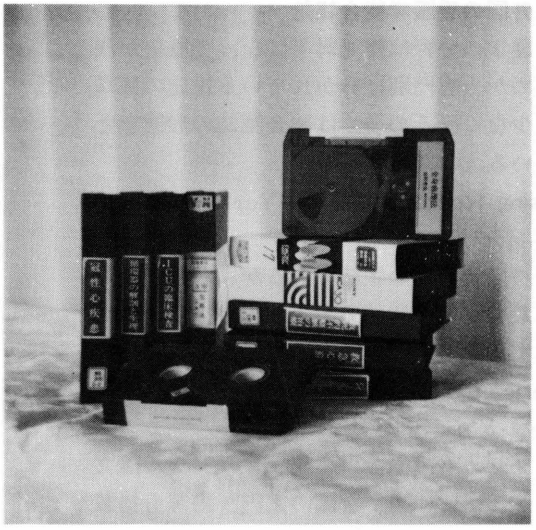
心音図の診方
胃のＸ線診断
肝炎の臨床
眼底検査
全身麻酔法
ペインクリニック

**◇救急看護シリーズ**

原則とショック
体位と運搬
包帯法（三角巾）
創傷
熱傷・日射病・凍傷
骨折Ⅰ
骨折Ⅱ
心肺蘇生法
突発的な病気Ⅰ
突発的な病気Ⅱ

**◇Techniques in Genetic Engineering**

Vol. 1～　　（近日受入予定）



# 1984年購読雑誌の変更について

亥鼻地区における、1984年の新規購読および購読中止のタイトルは、下記のとおりです。

## 新規購読

1．Bibliography of Reproduction　（解　2）
2．Clinical and Experimental Hypertension　（内　3）
3．Dimensions of Critical Care Nursing　（成看2）
4．European Heart Journal　（内　3）
5．Hospital and Health Services Review　（看　管）
6．International Journal of Gynecologic Pathology　（産　婦）
7．International Journal of Gynecology and Obstetrics　（産　婦）
8．Journal of American College of Cardiology　（内　3）
9．Journal of Electrocardiology　（内　3）
10．Medicine and Science in Sports and Exercise　（生理2）
11．Meditsinskaia Sestra　（継　看）
12．Neuroscience Research　（生理1）
13．Nursing Administration Quarterly　（看　管）
14．Orbit　（眼　科）
15．Psychosomatic Medicine　（継　看）
16．ビタミン　（図書館）
17．病理と臨床　（図書館）
18．病態生理　（図書館）
19．治療学　（図書館）
20．Clinical Neuroscience　（神　内）
21．外科MOOK　（図書館）
22．実験医学　（図書館）
23．看護技術　（図書館）
24．看護MOOK　（図書館）
25．健康管理　（図書館）
26．呼吸　（図書館）
27．内科MOOK　（図書館）
28．Newton　（放　部）
29．日経コンピュータ　（医　情）
30．臨床胸部外科　（外　1）
31．臨床水電解質　（図書館）
32．細胞工学　（図書館）
33．精神科看護　（精　看）
34．神経精神薬理　（図書館）
35．姿勢研究　（看　管）
36．食の科学　（図書館）
37．小児科MOOK　（図書館）
38．糖尿病　（図書館）

## 購読中止

1．Acta Dermato-Venerologica　（図書館）*
2．Acta Virologica　（微　1）
3．Angiology　（成看2）
4．Annales de Virologie　（微　1）
5．Archives of Physical Medicine and Rehabilitation　（図書館）*
6．Atmospheric Environment　（図書館）
7．Audiology　（耳　鼻）
8．Cancer Nursing　（図書館）*
9．Cleft Palate Journal　（図書館）*
10．Clinical Respiratory Physiology　（生理2）
11．Developmental Medicine and Child Neurology　（図書館）*
12．Heart and Lung　（図書館）
13．Journal of Dental Research　（図書館）*
14．Journal of Gerontological Nursing　（図書館）*
15．Journal of Oral and Maxillofacial Surgery　（図書館）*
16．Journal of Theoretical Biology　（図書館）
17．Journal of Urology　（図書館）*
18．Journal of Virology　（微　1）
19．Phonetica　（耳　鼻）
20．Scandinavian Journal of Plastic and Reconstructive Surgery　（図書館）
21．Scientific American　（生理2）
22．Equilibrium Research　（耳　鼻）
23．耳鼻咽喉科展望　（耳　鼻）
24．血液と脈管　（外　1）
25．日本外科学会雑誌　（図書館）*
26．日本医事新報　（図書館）**
27．日本医事新報　ジュニア版　（図書館）**
28．日本輸血学会雑誌　（図書館）
29．体育の科学　（成看2）
30．ウィルス　（微　1）

*　図書館備付タイトルは、購読中止であるが教室では購読している。
**　購読は中止したが、発行所より寄贈される。

## 昭和59年度　開館日程表

| 区　分 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 通常開館<br>週日　9：00－17：00<br>土曜日　9：00－12：00 | | | | | | | | 3(土)　6(火) | 26(水) | 7(月) | | |
| 時間外開館<br>週日　17：00－20：00<br>土曜日　12：00－16：30 | 9(月) | | | 16(月) | | 3(月) | | 3(土)　6(火) | 26(水) | 7(月) | | 16(土) |
| 日曜開館<br>13：00－17：00 | 15，22 | 6，13<br>20，27 | 3，10<br>17，24 | 1，8<br>15 | | 9，16<br>30 | 7，14<br>21　28 | 4，11<br>18，25 | 2，9<br>16，23 | 13，20<br>27 | 3，10<br>17，24 | 3，10 |
| 休館日<br>（祝日、他） | 29，30 | 3，5 | | | | 15，23<br>24 | 10 | 3，23<br>5(月)<br>創立記念日 | 27(木)<br>年末 | 15<br>5(土)<br>年始 | 11 | 21 |

## 「看護学文献のさがし方ガイダンス」の報告

2月16日（木）16時より看護学部第3講義室にて、看護学部三年次生を対象に、「看護学文献のさがし方ガイダンス」を実施した。当日の受講者は34名。これまでは四年次生を対象に実施してきたが、今回は卒論に限らず看護実習などの体験をより豊かにするためにも、効果的な文献や図書館の利用法についてのガイダンスを、ゆとりある三年次生を対象に実施することになった。又、今回は初めて、演習を組込み実施した。演習は翌々日の18日、大雪の直後にもかかわらず17名の参加者があった。

## 人　事

59．2．1

亥鼻分館運用係長　　青木　公男
（筑波大学図書館部
管理課洋書係長）

## 学会誌ありがとうございました

本誌前号（No.10）の、〝学会誌所蔵者はご連絡を〟という記事をご記憶でしょうか。これに対し、皮膚科・岡本教授より、早速ご連絡があり、「アレルギー（28）昭54以降」を寄贈していただけることになりました。このように、本誌が利用者の方々とのかけ橋になれば幸いです。本当にありがとうございました。

千葉大学附属図書館亥鼻分館報“らいぶらりいゐのはな„ No.11　1984年4月9日発行
千葉大学附属図書館亥鼻分館発行　　発行者：林　豊
千葉市亥鼻1－8－1　　電話 0472(22)7171(大代表)

千葉大学附属図書館亥鼻分館報

# らいぶらりい　みのはな12

1984．10

●目次●

図書館を10倍上手に利用する方法　Ⅲ．International Nursing Indexの使い方――――2

〈JOIS にゅーす〉EMBASE医学・薬学文献ファイル他3ファイルサービス開始――――5

玄鼻分館利用統計――――6
閲覧室　模様替しました――――8

**「妙見社跡」**　医学部の正門を入るとすぐ目の前にある。前庭の木立に囲まれた径10m余の平らな盛土が、それである。古老によれば、昔、その中心に松の大木があったという。しかし、今はそこに刈り込まれた松の小木をみる。千葉氏は桓武天皇の曽孫、高望王の第5子良文から出たといわれる。第7代千葉常重が"いのはな山"に築城したのが大治元年(1126年)のことである。翌2年には父の常兼の大椎城から妙見社を勧請した。千葉氏と妙見社との結び付きは、平良文が平将門にくみして染谷川で伯父の国香と合戦におよんだ時、雲間から現れた妙見童子の加護により大勝したところから始まる(千学集抄)。このため千葉氏は群馬郡引間の妙見社を勧請することとなった。第19代胤直の代に同族の争いが起こり胤直は自害し、また妙見社を含め城中の建物はことごとく灰燼に帰した(1455年)。この時妙見社は別当寺の北斗山金剛授寺に移され、これが今日の千葉神社につながる。

（解剖学第三・教授　大谷克己）

なお、詳しくは大谷克己著「千葉の牛頭天王」をご覧下さい。

# 図書館を10倍上手に利用する方法

## Ⅲ. International Nursing Index(INI) の使い方

看護学文献を専門に取扱った代表的な索引誌で、1966年に創刊された。

American Journal of Nursing社がNLM(National Library of Medicine)の協力により、MEDLARS(Index Medicusをコンピュータによって編集と検索を行うシステム—本誌10号参照)を用いて作成しており、その内容は、アメリカ、イギリスを中心に世界各国の文献が幅広く収録されている。

収録対象誌数は、看護分野が240誌、看護以外の分野245誌である。日本の雑誌は11誌が収録されている。看護分野では、保健婦雑誌、助産婦雑誌、看護、看護学雑誌、看護技術、看護研究、看護教育、看護展望、クリニカル・スタディ、綜合看護の計10誌、看護以外の分野では、日本臨床の1誌である。

**発行形式**

年4回発行。No.4がHard CoverのAnnual Cumulationとなっている。(この中にNo.1～3が含まれる。)

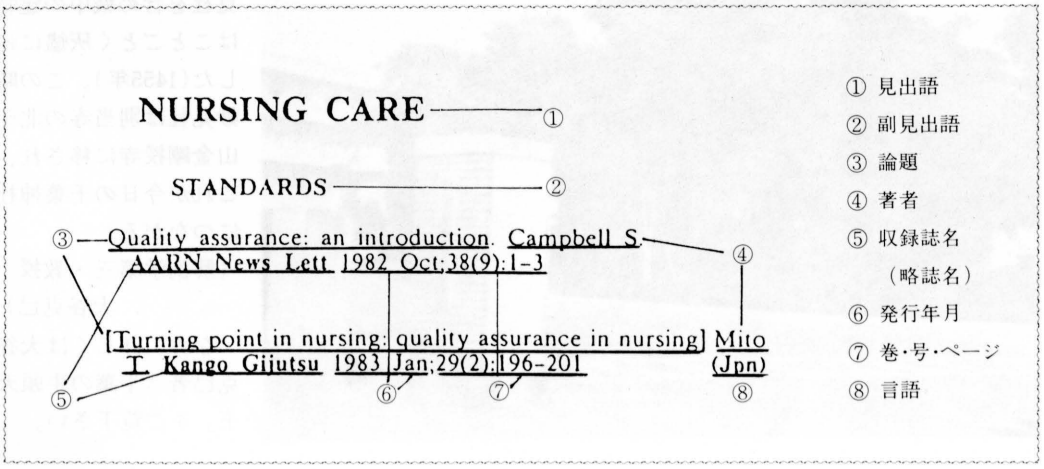
**構成**

Subject Section
Name Section
Publications Indexed
Nursing Thesaurus
Publications of Organizations and Agencies
Nursing Books Published
Dissertation
の各項目から構成されている。

**Subject Section**

各文献は3ないしそれ以上の主題を表わす見出語(後述のNursing thesaurus より選ばれた用語)のもとに索引されている。見出語はアルファベット順に配列され，そのなかはさらに副見出語でより適切な文献へと導かれている。

英語以外の文献は、論題を〔 〕でくくり、書かれている言語の略が付加され、英語文献の後に言語のアルファベット順に配列されている。



### Name Section

INI に掲載された文献の著者のアルファベット順リスト。1文献につき3名までの著者が収載されているが、書誌事項の完全な記述は第1著者のところでなされており、第2著者及び第3著者からは第1著者への参照がなされている。

(　)は伝記中の個人に関する文献、あるいは死亡記事等である。更にそれとは別に、著者名の下にも通常の表記で記述されている。

複合姓や前置語のある姓は国によって表示が異なるので、はっきりしない場合はいろいろな方法で検索することも必要であろう。

著者不明の文献は、最後に雑誌のアルファベット順に掲載されている。

**Mitchell SC:** School health and health education in Europe. J Sch Health 1983 Feb;53(2):116-20
**Mito T:** [Turning point in nursing: quality assurance in nursing] Kango Gijutsu 1983 Jan;29(2):196-201 **(Jpn)**
**Mito T:** [Nature of the mental process in accepting assistance] Kango 1982 Dec;34(14):50-6 **(Jpn)**
**Mitrofanov SV see Leonova NI**
**Mitrofanov SV see Saliuk LV**

**(Nightingale F), Kanai H:** [What Nightingale would have written about summer heat and nursing - a thought in connection with folk remedy] Kango 1982 Aug;34(9):4-14 **(Jpn)**

### Publications Indexed

収録された雑誌の略誌名のアルファベット順の一覧表。正式名を知ることができる。

### Nursing Thesaurus

前回紹介したIndex Medicus (IM) で見出語がMeSHで統一されているのと同様に、INIでもNursing thesaurus で見出語が統一されている。

見出語、相互参照はアルファベット順に配列されている。見出語は太字で、相互参照は細字で示されており、見出語のなかには関連語が〝See related〟の形で表現されている。相互参照が〝See〟あるいは〝See also〟と明記されているにもかかわらず、この thesaurus 中に見出語を見つけ出すことができない場合がある。これはINIがMEDLARS で機械編集され、MEDLARS はMeSHが基本となっているためである。この場合は、MeSHへの参照が必要となってくる。

英国で使われている看護用語はアメリカの用語と異なっている場合が多いため Thesaurus 中に British Headings が含まれている。それは見出語のすぐ後に (Brit) と付記されている。

**Charge Nurses (Brit) see Nursing, Supervisory**

### Publications of Organizations and Agencies

ここには、American Nurses' Associationと、National League for Nursing の全新刊書が記載されている。又、この他の米国連邦・州機関等の出版物が編集者の注意をひいた時も記載されている。索引の仕方は雑誌と同様である。

### Nursing Books Published

ここに収められた単行書は、American Journal of Nursing Company によって入手されたものであって、単なる目安にすぎないものである。

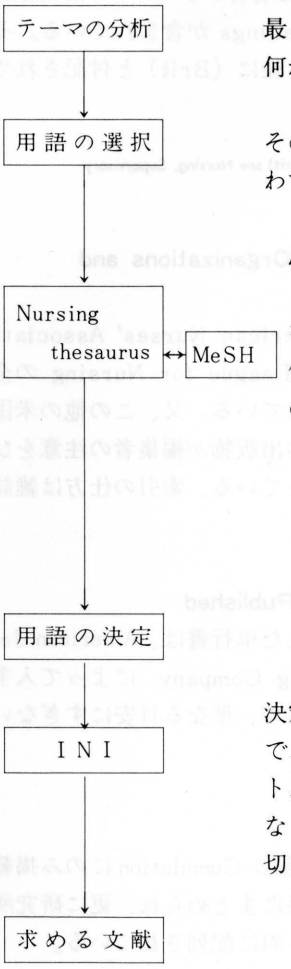
### Dissertation

学位論文はAnnual Cumulationにのみ掲載される。研究所毎にまとめられ、更に研究所のアルファベット順に配列されている。

なお看護文献は Index Medicus からも一部であるが検索できる。また、機械検索では Index Medicus と同様に MEDLINE を利用して検索できる。

# 文献検索手順

「看護の質の保証」を例にとって、文献検索の手順を説明する。




最も中心的な概念は何か？

Quality Assurance in Nursing

その概念を適切に表わす用語は何か？

Quality Assurance
Nursing

思いうかぶ用語がどういう見出語になっているのか？他に関連語はないのか？

より適切な用語をみつける

**QUALITY ASSURANCE, HEALTH CARE**

**NURSING**
see also
Ethics, Nursing
History of Nursing
Nurse-Patient Relations
Nurses
Nursing Care
Nursing Service, Hospital
Nursing Services
Philosophy, Nursing
see related
Nursing, Team
Primary Care Nursing

**NURSING CARE**
see also
special conditions, subheading "nursing"
see related
Home Care Services
Home Nursing
Nursing, Team
Primary Nursing Care

MeSHの副見出語"nursing"に注意。(IMでは疾患名などと組み合わせて使用している。)

決定した用語のもとで、副見出語、タイトル、雑誌名、言語などを手がかりに適切な文献を探す。

**QUALITY ASSURANCE, HEALTH CARE**

- [Turning point in nursing: quality assurance in nursing] Mito T. **Kango Gijutsu** 1983 Jan;29(2):196–201 **(Jpn)**

[Better patient care through nursing research (1)] Abdellah FG, et al. **Kango Tenbo** 1982 Aug;7(8):714–9 **(Jpn)**

[Definition of the QC (quality control) circle activities] Matsuda K. **Kango Tenbo** 1983 Jan;8(1):51–7 **(Jpn)**

[Operation of QC circle, quality control technic] Matsuda K. **Kango Tenbo** 1983 Apr;8(4):343–9 **(Jpn)**

**NURSING CARE**

**STANDARDS**

Quality assurance: an introduction. Campbell S. **AARN News Lett** 1982 Oct;38(9):1–3

Quality assurance – what can it do for the nurse? Laurie-Shaw B, et al. **AARN News Lett** 1982 Nov; 38(10):19–20

Nursing practice standards—who needs them? Shewchuk M. **AARN News Lett** 1983 Mar;39(3):13–4

Benefits of quality assurance to patients. Youell L. **AARN News Lett** 1982 Dec;38(11):23–4

Nursing - in search of a definition. Piccinati SE. **Ariz Nurse** 1982 Sep–Oct;35(4):6

- [Turning point in nursing: quality assurance in nursing] Mito T. **Kango Gijutsu** 1983 Jan;29(2):196–201 **(Jpn)**

## 目次速報誌「Contents」

日本国内で発行された医学・薬学関係の雑誌約330誌の目次を収載した週刊の雑誌で、米国ISI社の「Current Contents」に相当するものである。発行は日本医薬情報センターで本誌には学会開催予定表、国際会議予定表も掲載してある。(ただし、「Current Contents」にあるTitle word IndexやAuthor Indexなどはついていない。)また、「医薬文献ハイライト」欄では、その週の収載誌中、目立つ文献に簡単な解説を付けて紹介している。

なお、「Contents」収載誌中、当分館にない雑誌については、亥鼻地区教室所蔵の場合は当該教室で利用し、また、亥鼻地区にない場合は、分館カウンターを通じて、本館または他大学との相互利用によりコピーを取り寄せることができる。

〈JOIS にゅーす〉

# EMBASE医学・薬学文献ファイル 他3ファイルサービス開始

来る10月8日から、JOIS では EMBASE 医学・薬学文献ファイル、MALIMET用語ファイル、日刊工業産業情報ファイル、JICST公共資料ファイルの4ファイルを加え、サービスを開始します。このうちEMBASE ファイルはExcerpta Medica（略称EM-Amsterdamの Elsevier 社が発行する抄録誌）のデータベースで、JOIS でのサービス開始が待たれていたものです。EMはIndex Medicus（IM－対応するデータベースはMEDLINE）とは収録誌を異にしており、IMで検索できない文献も多く含まれています。（特に医薬品および関連化合物の副作用など生物学的影響に重点が置かれています。）

検索範囲は、1980年以降で、完了ファイル（索引や抄録が完了しているファイル）と速報ファイル(索引、抄録が未完了のファイル)の2ファイルに分割されています。

料金は、オンライン接続料金が1分につき360 円、オンライン回答料金が1件につき11円、オフライン料金は抄録付が1件につき51円、抄録なしは1件につき40円となっています。例えばEMBASE で10分間かかり、20件出力させた場合、料金は次のようになります。

360円×10分＋11円×20件＝3,820円

MEDLINEよりかなり割高なようですが、医薬品の検索や、網羅性を要求する場合などは、EMBASE が適していると思われます。

シソーラスは MALIMET といって、マイクロフィッシュの形態をしており（当館には所蔵なし）、MEDLINE における MeSH のような冊子体のシソーラスはありません。ただし、同時にサービス開始する MALIMET 用語ファイルでキーワードを検索できるし、また EMBASE 検索中に MALIMET ファイルを参照することもできます。

詳しくは、カウンター係員におたずね下さい。

なお、亥鼻分館におけるサービス開始は11月1日からとなります。

# 新着ビデオ・テープ

前号でご紹介した目録に、新たに次のビデオ・テープが加わりましたのでお知らせします。

**◆ビデオ版現代臨床医学大系**

泌尿器疾患のX線診断
胃癌の外科
片麻痺のリハビリテーション
虚血性心疾患の診断と治療
脳血管障害の外科
脳腫瘍の外科
リウマチ熱
湿疹性疾患
消化性潰瘍の外科
食道癌の外科
小児外科
早期胃癌の診断と治療
胆石症の外科
頭部外傷後遺症
頭部外傷救急処置の実際
糖尿病の診断

**◆Medical Terminology.**

Part 1: Introduction to Medical Terminology
Part 2: Spelling Medical Terminology
Part 3: Pronunciation of Medical Terminology

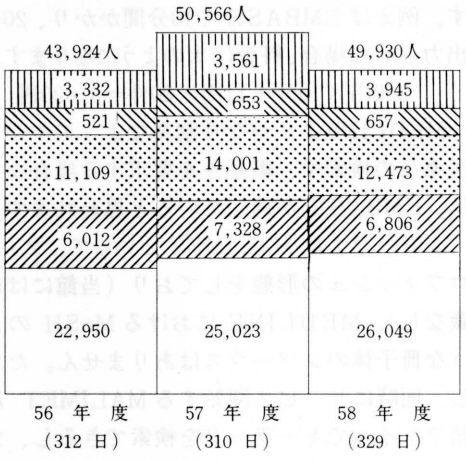
・医学用語を語源からわかりやすく説明しています。

# 亥鼻分館利用統計(過去３年間の比較)

56.4〜59.3

## 1．開館日数及び入館者数

a．部局別入館者数

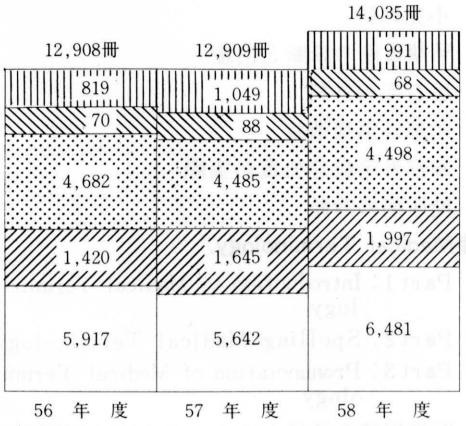



b．１日平均入館者数

| | (月〜土) | (日) |
|---|---|---|
| ５６年度 | １５４人 | １８人 |
| ５７年度 | １７８人 | ２８人 |
| ５８年度 | １６７人 | ２７人 |

## 2．貸出冊数

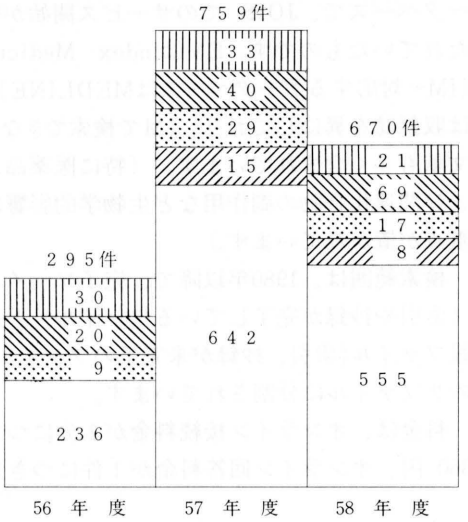
a．部局別貸出冊数



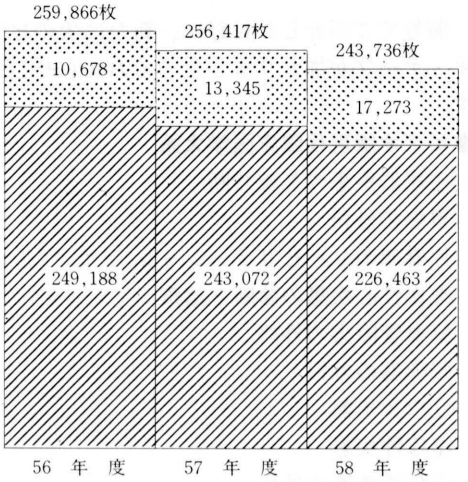

b．１日平均貸出冊数

| | (月〜土) | (日) |
|---|---|---|
| ５６年度 | ４５冊 | ６冊 |
| ５７年度 | ４５冊 | ８冊 |
| ５８年度 | ４７冊 | ８冊 |

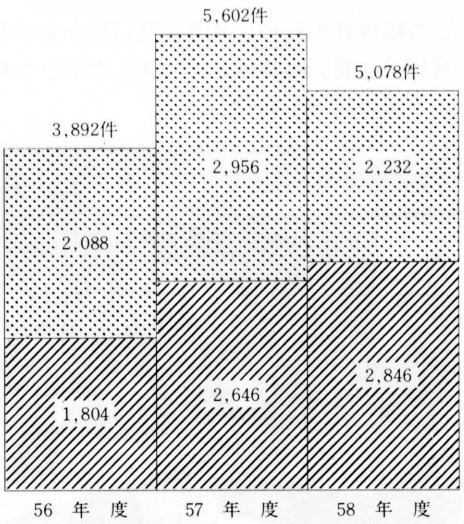
## 3．オンライン文献検索




## 4．複写枚数



**5．相互利用件数**




## 亥鼻分館運営委員紹介

本年４月１日、亥鼻分館運営委員として林豊分館長のほか９氏が新たに決まった。

運営委員会は、亥鼻分館の管理・運営に関する基本方針、その他の重要事項について審議する機関で、今回決まった委員の任期は昭和61年３月31日までの２年となっている。

**亥鼻分館運営委員名簿**

| 官　職 | 氏　名 | 所　属 |
|---|---|---|
| （委員長）教　授 | 林　豊 | 肺癌研究施設（病理研究部） |
| 教　授 | 本田　良行 | 生　理　学（第２） |
| 〃 | 永野　俊雄 | 解　剖　学（第２） |
| 〃 | 山口覚太郎 | 看　護　学　部（成人看護第１） |
| 助教授 | 野口美和子 | 〃 |
| （副委員長）教　授 | 畝本　力 | 生物活性研究所（生体膜研究部） |
| 助教授 | 林　万喜 | 生物活性研究所（酵素化学研究部） |
| 教　授 | 山口　豊 | 肺癌研究施設（第１臨床研究部） |
| 〃 | 吉田　尚 | 内　科　学（第２） |
| 事務部長 | 東　米吉 | 附属図書館 |

## ♥寄贈著書ありがとうございました♥

**大谷克己**〔第３解剖学〕

○千葉の牛頭天王　大谷克己著　千葉市教育委員会　1982　(388)

**奥田邦雄**〔第１内科学〕

○厚生省特定疾患特発性門脈圧亢進症調査研究班研究報告書　昭和54－57年度　班長：奥田邦雄　1980－1983　(厚生省／Ｔ)

**斉藤　篤**〔第１解剖学〕

○ギプス包帯手技アトラス　E.E.Bleck 等著　斉藤　篤訳　第２版　協同医書　1983　(ＷＯ170)

**萩原弥四郎**〔脳研・神経薬理〕

○智に働きて　萩原季葉著（現代俳句選書）東京美術　1983　(911)

**林　豊**〔肺研・病理〕

○環境と人体　3　窒素酸化物　中馬一郎等編（分担執筆：林　豊）東京大学出版会　1984　(ＷＡ30)

**平山恵造**〔脳研・神経内科〕

○内科MOOK　23　パーキンソン病とパーキンソン症候群　編集企画：平山恵造（分担執筆：平山恵造）金原出版　1984

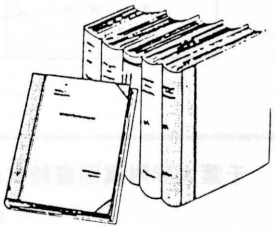
**本田良行**〔第２生理学〕

○現代の生理学　古河太郎　本田良行編　金原出版　1984　(ＱＴ４)

○酸塩基平衡の基礎と臨床　基礎編　改訂第２版　本田良行著　真興交易医書出版　1984　(ＷＤ220)

○臨床呼吸生理学　１，２　本田良行編　真興交易医書出版　1983　(ＷＦ102)

（1983年４月～1984年８月）



# 閲覧室　模様替しました

亥鼻分館では、閲覧席を増やすため閲覧室を中心に大幅な模様替を行い、9月3日から閲覧席、書架の配置を新しくしました。

これにより変った主な点は、次のとおりです。

**1階閲覧室**　〈案内図参照〉

① 閲覧席を10人分増加

② 新着雑誌展示棚、国際会議議事録　Excerpta Medica 等を室内移動

③ 製本済和雑誌は、2階閲覧室へ移動

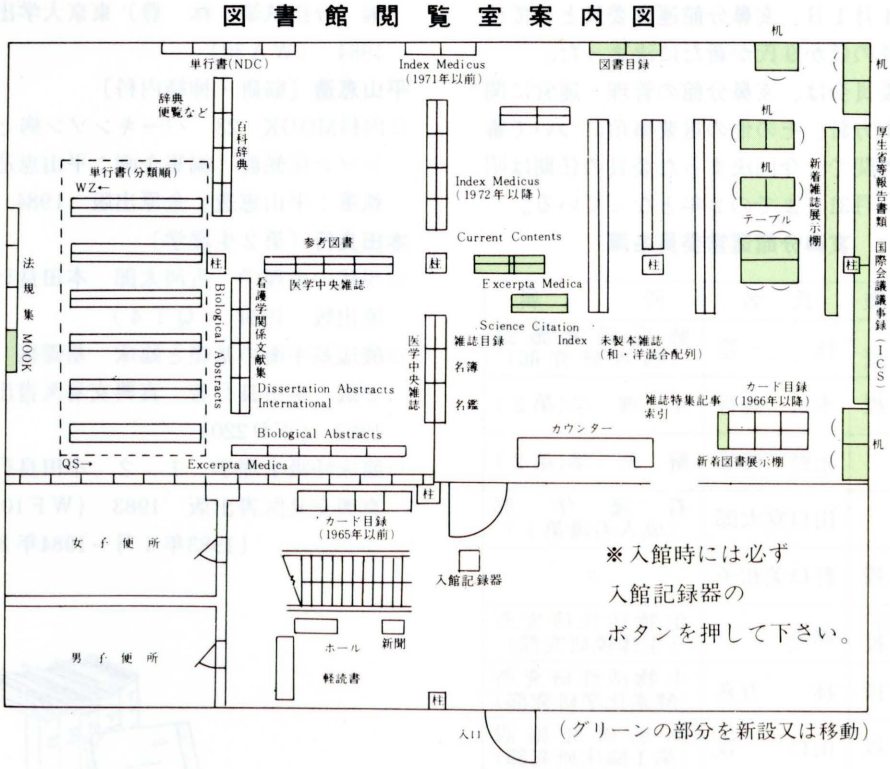
**2階閲覧室**

① 製本済和雑誌（1970年以降）を1階閲覧室から移動

② 2階閲覧室に配架してあった2次資料は合同校舎書庫1階101号室へ移動

この模様替のため、8月27日(月)から9月1日(土)の間、臨時休館としましたが、これから一層の利用を期待します。

## 図書館閲覧室案内図




（グリーンの部分を新設又は移動）


**千葉大学附属図書館亥鼻分館報“らいぶらりいゐのはな„ No.12**　1984年10月8日発行

千葉大学附属図書館亥鼻分館発行　　発行者：林　豊

千葉市亥鼻1－8－1　　電話 0472(22)7171(大代表)

千葉大学附属図書館亥鼻分館報

# らいぶらりい 亥のはな 13

1985. 1

●目次●

**広場**
**眼を見つめて**――安達恵美子――――2

1985年購読雑誌変更リスト――――4

**「凡秋小径」**　附属病院前から南を眺めると、細かく日筋を分ける雑木林があり、小径がまさに吸い込まれるように林の中に通っているのがみえる。これが「凡秋小径」である。小径の入り口右手にきちんとした字で「凡秋谷」と刻まれた小さい石が立っている。小径を辿るとやがて左手に「かたまりて花と蕾や花しどみ　凡秋」という句碑がある。古利根と笛吹川の石とを組み合わせたもので、日が傾くと文字の刻みが深まるようにみえる。凡秋とは、かっての法医学教授(昭和35年定年退官）加賀谷勇之助先生の俳句の号である。先生の還暦祝賀句会の席上で私は“先生が朝夕通われる林の中の径を凡秋小径と呼ぼう”と提言したが、何時の間にか仲間内を越えて広く口にされるようになって30年たった。「小径」に応じて先生ご自身は凹地を「凡秋谷」と呼ばれた。先生は昭和45年に他界されたが、不思議にも今もご存命のような気がしてならない。

（薬理学教授
村山　智）

# 広場

## 眼を見つめて

安　達　恵美子

**眼科学に入られたきっかけといいますか動機のようなことがありましたら…**

私は昭和20年代の学生の頃「アジアは一つなり」という岡倉天心に傾倒していました。当時、千葉大学眼科の主任教授は鈴木宜民先生でしたが、眼科には東洋医学研究室があり、先生はその方面の権威でした。私の考え方をどこかでお聞きになられて鈴木先生は、私を呼ばれ、いろいろとお話しをして下さいました。その先生の御人格にひかれたことが眼科学を専攻するきっかけでした。

**明眸皓歯という美人の典型のように使いますが、これまで永い間眼を見てこられて、美しい眼についてお考えになっている一端をお聞かせ下さい。**

高校生、大学の始めの頃はそう言うマナコでスターをみたこともあったかもしれませんが眼科医になった今は人の眼を見るとき、外見的に美しい眼という考えで見ることはありません。眼は機能的に優れた眼が素晴らしい眼ということです。病気の眼をたくさん見てきますと視力が完全で病的な異状がないと、いい眼だなと思います。ただお話しをしている時に、色がおかしい、左右差がある、眼位がおかしいなどと気ずいてどこかおかしいのかなと思って相手の人を見てしまうことはありますが……。

**街を歩くにつけ最近眼鏡をかけた子供さんが多いように感じられるのですが……**

そうですね。私が20年前くらいにヨーロッパに行きました時、なんて眼鏡をかけた子が多いのだろうと思ったものです。当時日本は少なかったです。それは治療が進んだこと、一般の自覚の向上があったからだと思います。子供の場合よく検査をすると遠視が多いんです。そのまま放置すると眼位が偏位し「寄り眼」になるんですね。またそのまま放って置くと網膜の大切な部分がサボッて働かず「弱視」になってしまいます。ですから早めに眼鏡で矯正し遠視をなおして眼が「すが眼」にならないように防ぐのです。そうですね、養護教諭や親達の発見、自覚が早くなったこと、治療レベルが高くなったことでしょうか。

**子供の眼鏡には親の抵抗があるのでは**

一才半か二才の子供に眼鏡をというとまわりでそんな子はいないからと抵抗を示すんですね。それは無知ですよね。掛けて見えるようになれば、どれほど良いことなのかわからない。仲間には1.5見える子がいるわけで、

見えない子にはわからない。乳幼児期は視機能の可塑性のある大切な時です。1.5見える状態に眼鏡をかけてやることが弱視に陥らせないために大事なことなんです。今では先天性の白内障で手術をしてコンタクトレンズを使った赤ちゃんもいるんですよ。眼鏡を掛けた方が良いという事がゆき渡って来ました。

**眼科を志す学生、後輩へ一言**

眼科と限らず、大学で医学を学び医療の研修をするとき、10年先、20年先の見通しを立てて勉強をしてもらいたいと思います。医療の研修だけでしたら大学以外にもたくさんの病院などの機関があります。大学の目的、任務を考え自ら勉強し、いずれ教育もしなければいけないわけですから研修だけで終らないようにしなければいけません。これらの姿勢が地方で医療にたずさわる場合に、地域医療レベル向上のためのリーダーを生み出すと思います。

**亥鼻分館へ一言**

図書館は大切なものですから一番使いやすい場所にあってほしいと思います。願わくば医学部、病院、図書館と地下で連絡出来れば最高ですね。医局の若い方が夜半に“ちょっと図書館に行って来ます”と言うのを聞きます。夜間にも使いたい、もっと使いやすいところにあったならと言うことを考えます。コンテンツ・サービスは毎回見ております。もっと収録誌数があったら良いなと思います。

今日はご多忙中ありがとうございました。（この稿は編集者が医学部眼科学教授安達恵美子先生の研究室をたずねてインタビューしたものです。）

**「医学文献のさがし方ガイダンス」実施報告**

亥鼻分館では昨年11月12日(月)及び19日(月)の2回、医学部学生(4年生中心)を対象に「医学文献のさがし方ガイダンス」を実施した。このガイダンスの意図するところは、学生時代に効率的な文献検索の方法を修得してもらうことにあり、今回は医学及び関連分野の索引誌、抄録誌（Index Medicus，医学中央雑誌等）の構成、使い方を中心に約2時間の説明を行い、最後にJOIS による機械検索のデモンストレーションを行った。今回から参加者の便宜を考慮し、例年の1回を2回開催としたが，当日の参加者は12日が6名、19日が20名の計26名であった。

なお59年度中に看護学部、医学部附属看護学校の学生に対しても同趣旨のガイダンスをそれぞれ実施する予定である。

**♥寄贈著書ありがとうございました♥**

**加藤　巌**〔第2微生物学〕
蛋白毒素　竹田美文　加藤巌編　医歯薬出版　1983　（QW630）

**野沢栄司**〔精神看護〕
青年期の心の病　野沢栄司編著　星和書店　1984（臨床精神医学叢書）（WS460）

**大谷克己**〔第3解剖学〕
脳解剖三次元アトラス　秀潤社　1984（WL300）

（1984年4月～12月）

# 1985年購読雑誌の変更について

亥鼻地区における、1985年の新規購読および購読中止のタイトルは、下記のとおりです。

## 新規購読

1. Annals of Emergency Medicine (救急)
2. Brain and Language (理療)
3. Clinical Pharmacokinetics (図書館)
4. Comparative Biochemistry and Physiology. Pt. B : Comparative Biochemistry (図書館)
5. Diabetic Medicine (図書館)
6. Diseases of the Colon and Rectum (図書館)
7. E. M. B. O. Journal (図書館)
8. European Journal of Cell Biology (図書館)
9. Experimental Lung Research (図書館)
10. F. E. M. S. Microbiology Letters (図書館)
11. Gamete Research (解 2)
12. Gene (図書館)
13. Gerontologist (基保)
14. International Journal of Developmental Neuroscience (図書館)
15. Journal of Autonomic Nervous System (図書館)
16. Journal of Emergency Medicine (救急)
17. Journal of Hepatology (内1、救急)
18. Journal of Molecular and Cellular Immunology (図書館)
19. Journal of Neuroscience (図書館)
20. Journal of Reproduction and Fertility (図書館)
21. Metabolic, Pediatric and Systemic Ophthalmology (図書館)
22. Molecular Biology and Medicine (図書館)
23. Molecular and Cellular Endocrinology (泌尿)
24. Neuropsychologia (図書館)
25. Neuroscience Research (図書館)
26. Nucleic Acids Research (図書館)
27. Nurse Educator (看教)
28. Orthopaedic Review (図書館)
29. Patient Education and Counseling (図書館、成看1)
30. Photodermatology (皮膚)
31. Resuscitation (救急)
32. あたらしい眼科 (眼科)
33. 病院管理 (図書館)
34. 現代教育科学 (継看)
35. Japanese Journal of Antibiotics (抗研)
36. Journal of Antibiotics (抗研)
37. 循環制御 (麻酔)
38. 行動療法研究 (図書館)
39. 教育と医学 (図書館)
40. 日経バイト (医情)
41. Oncologia (成看2)
42. プラクティス (成看1)
43. 臨床血液 (図書館、検査)
44. 作業環境 (衛生)
45. 神経眼科 (神内)
46. 生体防御 (抗研)

## 購読中止

1. Acta Odontologica Scandinavica (図書館)
2. Biochemical Society Transactions (生研)
3. Biological Reviews of the Cambridge Philosophical Society (解 2)
4. Biology of Reproduction (解 2)
5. Cancer Letters (生化1)
6. Carcinogenesis (生化1)
7. Comptes Rendus des Seances de l'Academie des Sciences. Ser. 2, 3 (図書館)
8. Comptes Rendus des Seances de la Societe de Biologie (図書館)
9. Injury (救急)
10. Journal of Asthma (小児)
11. Journal of Periodontology (図書館)
12. Microbiology Abstracts. Sect. B (生研)
13. Society for General Microbiology Quarterly (生研)
14. Zentralblatt für Mikrobiologie (生研)
15. Zentralblatt Neurologie-Psychiatrie (精神)
16. Zentralblatt Ophthalmologie (図書館)
17. 安全衛生タイムス (衛生)
18. 解剖学雑誌 (解 1)
19. 感染症学雑誌 (成看2)
20. 日仏医学 (耳鼻)
21. Peptide Information (内 2)
22. 小児医学 (麻酔)
23. 組織培養 (寄生)

**千葉大学附属図書館亥鼻分館報 "らいぶらりいあのはな" No.13** 1985年1月31日発行
千葉大学附属図書館亥鼻分館発行　発行者：林　豊
千葉市亥鼻1－8－1　電話 0472(22)7171(大代表)

千葉大学附属図書館亥鼻分館報

# らいぶらりい みのはな 14

1985. 4

●目次●

広場

ブラウジングの勧め――畝本　力――――2

附属図書館亥鼻分館問題専門部会について――――3

〈JOURNAL 紹介〉解剖学――永野俊雄――――4

図書館を10倍上手に利用する方法 Ⅳ. Review の使い方――――6

**「凡秋谷の春」**　附属病院前のバス停留所の真前に梅の老木がひっそりと咲くのに気付く人はすくない。花は年ごとに小さくなり、咲き出すのも遅くなったようである。私が入学した頃すでにある程度の丈であったので、軽く五十年以上たっているのかも知れない。以前はこの梅は意外に早咲きで、凡秋谷に春が来るのをそっと知らせてくれた。古い卒業生には懐かしい大学会館がこの辺りにあった頃、この梅を巡る小さい庭には使い古したベンチが一つ二つ置いてあり、時折学生が本を読んでいたりした。凡秋先生の句「学園のベンチを置ける梅早し」に出て来る梅は、実はこの梅である。そして先生は句碑の句を選ばれる時、この梅の句を最後まで考えていられた。しかし、結局は凡秋小径に今みられるように「かたまりて花と蕾や花しどみ」の作に決められた。新しい学生には読めまいと「花しどみ」と平仮名にされたが、今やこれが野生の木瓜の花であることを知る学生も少なくなったのではあるまいか。「学問をやるには教える方と教わる方が一体にならなければいかんよ。学生は蕾だよね。」と言われたが、これが梅でなく木瓜の句に決められた理由であったと思う。入学式の頃、連絡道路を中心に、みのはなキャンパスの桜はある限りの花を盛ったようにまさに華やかになる。その頃、足を凡秋谷に向けてほしい。そこにはそれこそ大学にふさわしい静な春があるからである。

（薬理学教授　村山　智）

広場

# ブラウジングの勧め

畝　本　　力

私が本格的に図書館の利用価値に目覚めたのは、薬学部の4年生の時で、卒業実習のために当時習志野にあった腐敗研究所に通いはじめた頃になります。腐敗研究所は現在の生物活性研究所の前身です。その頃（昭和31年）研究所には図書館と呼べるような施設はなく小さな図書室があるだけでしたが、そこにはChemical Abstractsが置いてありました。原著雑誌の種類も僅かで、新着本のすべてに目を通すことが出来ました。CAの利用法も自分の研究テーマには直接関係しない事項も索引を使って丹念に調べたものです。

当時は昨今のように便利なコピー装置は勿論なく、原著論文についても内容をいちいちノートに書き写すのが通例でした。どうしても必要な文献は写真に撮り、キャビネ大の印画紙に焼付けたものです。他の図書館に依頼した文献もフィルムで送られてくる為、夜遅くまで研究室に残って暗室で写真を焼いたのを記憶しています。この写真を一枚一枚乾かしながら、ノートに張付けていくのですから自ずから一行たりとも疎かにせず読むことになります。今振返ってみると、随分のんびりした話ですが、当時の情報量はこのような方法でもなんとか間に合っていたのかも知れません。

その内に，雑誌の種類も次第に増え、Biological Abstractsも加わり、研究所の図書室もかなり充実して、図書分館にまで成長しました。この頃になると、情報量は急増し、そのすべてに目を通すのは最早不可能になってきました。CA，BAの利用も幅広く索引を使って調べるには余りにも膨大となりました。原著論文については、タイトルだけでなく、その抄録を読んで内容を判断していたのが、今ではタイトルを全部チェックするのも大変な仕事で、目次に整理されている関連分野のタイトルだけを追う様になってきました。

急激に情報量が増え、文献を探す時に道草を食う余裕がなくなってきたのです。簡単にコピーがとれる御陰で能率は非常に向上したのですが、反面以前のように論文を書き写す努力を一切しなくなりました。また、コピーをとることで安心してしまうのか、詳細に内容を検討することもなく埋れる文献すら出てくる始末です。

私が研究を始めた頃、指導された論文の読み方は“その引用文献まで溯って調べろ”でした。自分が実験者になって、すべての過程を理解することでした。最初の頃は大変でしたが、そのうちに引用文献のいくつかはなじみのものとなり、内容の理解は急速に進みます。それと同時に、特に目的を持たずに単なる興味で読んでいた文献が予期せぬ所で役に立ったことを何回も経験しました。それが今では、論文の結論を読みとることに性急のあまり、その背景や方法論の吟味がおろそかになりがちで、足が地に着いていない不安さえ感じます。

さて、図書館の仕事にタッチするようになり、ブラウジング（browsing）という言葉を知りました。私には耳馴れない言葉でしたが辞書によると、browseとは若草のことで、家畜が若草を食べること、と書いてあります。羊がのんびりと若草を食べる情景から転じて特に目的もなく本を拾い読みすることを意味する様です。図書館用語ではbrowsing roomとは頭を休めるために肩の凝らない本を気軽

に読む場所を言います。browsing とは自分が興味を抱いた文献をあれこれと探しながら読んで行くことの様です。過去を振返ってみると、私は図書館で無意識のうちにブラウジングをしていた訳です。文献を検索する時に、脇道にそれて道草を食うような一見無駄と思える事がいかに大切かを痛切に感じます。そこで思いがけない文献に出合うことがあります。

現在では文献の検索にコンピューターを用い、いかに能率よく必要な文献を探し出すかが、図書館利用の主流のようです。確かに能率は格段に進歩しました。しかし、私には何故か物足りない気持が残ります。検索システムで少々余分なものも入るようにと欲張ると何千という文献になってしまいます。Key wordsは厳しく制限しなければなりません。コンピューターでは目的のはっきりしない検索はさせて貰えないのが当然です。とすればやはり雑誌なり専門書に直接対面する機会がどうしても必要になります。

図書館の役割は必要な情報をすみやかに入手できるシステムを作ると同時に、ぶらりと立寄った者にも、その人の知的欲求を満足させ得る情報を提供することだと思います。つまり、ブラウジングの場を提供することです。

さあ、学生のみなさん、明確な目的は必要ありません。兎も角、図書館に立寄りましょう。そこで、気の向くままに書籍を読み歩きましょう。必ずや、あなたに鮮烈な刺激を与え、あなたの人生を豊かに彩どってくれる文献にめぐり会うことが出来ます。ブラウジングによって素晴らしい出合を経験できるようにと、図書館は莫大な情報を蓄積、整理して、みなさんを待っているのですから。

（生物活性研究所　教授）

# 附属図書館亥鼻分館問題専門部会について

林　豊

千葉大学評議会第４小委員会に設けられた専門部会の一つとして、亥鼻分館問題専門部会（委員12名）が発足し、３月６日、第１回の会議が附属図書館本館で開かれた。始めに井出学長から、長い間懸案であった分館の問題の推進を図るべき専門部会が発足した経過と、新営実現への希望がのべられ、飯田附属図書館長が部会長に選出された。ついで、東事務部長から、冊子「亥鼻分館の新営について」などの資料を用いての説明があり、おもに新営についての活発な意見の交換が行われた。この問題は、今日に至るまで亥鼻分館運営委員会でたびたび討議されてきたが、全学的な見地から多くのご意見をうかがってゆけることは誠に有難いことである。

この日には、とくに分館の新営計画の中に情報センター的機能をもたせる方策、機器をも含めた資料閲覧室の設置などの希望とともに、光ファイバー、ロボットの利用などの漸新な話題も出された。そして、今後ワーキンググループによる具体的な検討を行い、その提案を部会で審議することとなった。

分館の新営は、現在の分館跡の利用や長期計画とも深いかかわりをもつため、とくに地区内の諸部局と関係する他の専門部会による審議の進展を考慮しつつ、慎重に検討を進める必要があろう。そして一方、図書館としての理想の姿を追求する上で、多くの方々のご意見、ご指導をいただきながら具体案を練らなければならないと思われる。

（亥鼻分館長）

〈Journal 紹介〉

# 解　剖　学

永　野　俊　雄

解剖学は周知のように生体を形態学的方法によって研究する科学であるから、その対象は人類から微生物で、マクロからミクロ的な研究手段は多岐にわたる。また人類や生物の祖先を研究する人類学や古生物学の一部も解剖学の一部である。一方最近の生物巨大分子の形態や細胞オルガネラの形態と機能の関連から、生理学、生化学との境界領域が相互乗入れしているのが現状である。医学の基礎としての解剖学の歴史は古く、その結果、解剖学の journal も前世紀後半より連綿と続いているものもあり、そのなかには journal としての栄枯盛衰がある。

最近の学問の多様化と細分化から、多数の解剖学に関連のある journal が発行されている。したがって、以下のリストは不完全と思われるがご寛容いただきたい。(人類学領域は割愛した)。

## A　解剖学一般

肉眼的研究から電子顕微鏡まですべての形態を取扱っている。したがって歴史も古いが、その数は多くない。

1．Acta anatomica*
2．American Journal of Anatomy*
3．Anatomical Record
4．Anatomischer Anzeiger*
5．Anatomy and Embryology*
6．Folia anatomica japonica
7．Journal of Anatomy*
8．Journal of Morphology
9．解剖学雑誌

2,3はアメリカ解剖学会の機関紙で3は長篇のものが多い。4はドイツ解剖学会機関紙で戦前は超一流であったが現在は衰えている。7は英国を代表する解剖学の雑誌。

## B　細胞・組織に関する Journal

1．Acta histochemica*
2．Biology of the Cell
3．Cell*
4．Cell and Tissue Research*
5．European Journal of Cell Biology*
6．Experimental Cell Research*
7．Histochemistry*
8．Journal of Cell Biology*
9．Journal of Cell Science
10．Journal of Histochemistry and Cytochemistry*
11．Journal of Microscopy*
12．Journal of Submicroscopic Cytology*
13．Journal of Ultrastructure Research*
14．Protoplasm
15．Tissue and Cell
16．Archivum histologicum japonicum
17．Cell Structure and Function

2はフランスの細胞生物学の雑誌。その写真印刷に特色がある。3は形態よりも細胞機能を主とした新しい雑誌。4はドイツの100年の歴史あるミクロの雑誌で何回かタイトルが変っている。6は戦後の細胞生物学の雑誌でスウェーデンで発行されている。8はアメリカ細胞生物学発行で最も活発な雑誌の一つ。9と16はそれぞれイギリスと日本を代表するミクロの雑誌。

## C．発生学に関するもの

1．Developmental Biology*
2．Development, Growth and Differentiation
3．Differentiation
4．Wilhelm Roux's Archives of Developmental Biology

1はアメリカ発生学会、2は日本発生物学会の雑誌

**D．神経に関するもの**

1．Archives of Neurology*
2．Brain*
3．Brain Research*
4．Developmental Neuroscience
5．Experimental Brain Research*
6．Journal of Comparative Neurology*
7．Journal of Neurobiology*
8．Journal of Neurocytology*
9．Journal of Neurological Sciences*
10．Neuroscience*
11．Neuroscience Letters*
12．Neuroscience Research*

3は神経すべてに関する週刊の雑誌。6はアメリカの神経解剖学の歴史ある雑誌。12は日本で編集している。

*印は亥鼻分館継続購読誌。

（解剖学・教授）

〈JOIS にゅーす〉

# JOIS 利用料金改定

4月1日より JOIS 利用料金が次のように改定されます。

1.オンライン接続料金の改定

ex. MEDLINE……210円/分 → 200円/分

2. 全データベースにオンライン回答出力料金を適用

ex. MEDLINE……10円/件

**1．オンライン料金**

昭和60年4月現在

| データベース名 ＼ 料金 | ファイル接続料金 | | ** | オフライン料金 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 公衆回線 | 特定回線 | オンライン回答出力料金（ヒットチャージ） | 手配料金 | 回答出力料金 Aタイプ（抄録付） | 回答出力料金 Fタイプ（抄録無し） |
| JICST | 200円/分 | 270円/分 | 10円/件 | 500円/回 | 35円/件 | 17円/件 |
| JCLEARING | 200円/分 | 270円/分 | 10円/件 | 500円/回 | 23円/件 | 17円/件 |
| JTERM | 200円/分 | 270円/分 | − | − | − | − |
| JCATALOG | 200円/分 | 270円/分 | − | − | − | − |
| JMEDICINE | 200円/分 | 270円/分 | 10円/件 | 500円/回 | 29円/件 | 17円/件 |
| JPUBLIC | 200円/分 | 270円/分 | 10円/件 | 500円/回 | 35円/件 | 17円/件 |
| NK-MEDLA | 240円/分 | 310円/分 | 10円/件 | 500円/回 | 35円/件 | 17円/件 |
| MEDLINE | 200円/分 | 270円/分 | 10円/件 | 500円/回 | 30円/件 | 20円/件 |
| TOXLINE | 395円/分 | 465円/分 | 23円/件 | 500円/回 | 55円/件 | 37円/件 |
| CANCERLIT | 228円/分 | 298円/分 | 10円/件 | 500円/回 | 43円/件 | 25円/件 |
| MESH | 200円/分 | 270円/分 | − | − | − | − |
| CASEARCH | 332円/分 | 402円/分 | 51円/件 | 500円/回 | − | 68円/件 |
| CASNAME | 332円/分 | 402円/分 | − | − | − | − |
| BIOSIS | 340円/分 | 410円/分 | 30円/件 | 500円/回 | − | 46円/件 |
| CAB | 252円/分 | 322円/分 | 70円/件 | 500円/回 | 95円/件 | 76円/件 |
| NTIS | 272円/分 | 342円/分 | 10円/件 | 500円/回 | 35円/件 | 17円/件 |
| INSPEC | 384円/分 | 454円/分 | 58円/件 | 500円/回 | 95円/件 | 77円/件 |
| FSTA | 300円/分 | 370円/分 | 26円/件 | 500円/回 | 51円/件 | 33円/件 |
| EMBASE*-I | 350円/分 | 420円/分 | 21円/件 | 500円/回 | 51円/件 | 40円/件 |
| EMBASE* | 350円/分 | 420円/分 | 21円/件 | 500円/回 | 51円/件 | 40円/件 |
| MALIMET* | 350円/分 | 420円/分 | − | − | − | − |
| COAL | 200円/分 | 270円/分 | 10円/件 | 500円/回 | 35円/件 | 17円/件 |
| INIS | 200円/分 | 270円/分 | 10円/件 | 500円/回 | 35円/件 | 17円/件 |
| IRRD | 200円/分 | 270円/分 | 10円/件 | 500円/回 | 35円/件 | 17円/件 |
| 研修ファイル | 50円/分 | 50円/分 | − | − | − | − |

**2．ユーザSDI料金**

| データベース | 基本料 | 回答出力料金 |
|---|---|---|
| JICST | 1,630円/1検索 | 35円/件 |
| JMEDICINE | 1,630円/1検索 | 29円/件 |
| MEDLINE | 1,630円/1検索 | 30円/件 |
| CASEARCH | 1,890円/1検索 | 68円/件 |
| EMBASE* | 1,807円/1検索 | 51円/件 |

そのため、検索時間が10分であった場合、従来は、

$210^{円} \times 10^{分} = 2,100$円

であったのが、出力件数により金額が変り、例えば20件出力すれば、

$200^{円} \times 10^{分} + 10^{円} \times 20^{件} = 2,200^{円}$

となります。

# 図書館を10倍上手に利用する方法

## Ⅳ．Reviewの使い方

日頃、雑誌のタイトルあるいは雑誌の目次に“Review”とか“展望”“総説”といった言葉を目にされることも多いと思われるが、ここではこの“Review”がどのようなものでどんな利用法があるか？またどんな形態をとっているか？探し方は？といった疑問にお答えし、最後にそのリストを紹介する。

**Review とは？**

今日のように厖大な量の情報が生産される時代においては、一人の研究者がそれらの中から本当に有用な文献を見つけ出すことは不可能に近い。そうした状況の中で救世主的な役割を果すのが“Review”あるいは“展望”“総説”といえる。

定義は次のようなものである。「ある特定の問題について、いままでに発表された重要な研究開発上の成果を総合的に展望して、それについての批判的な論評を加え、現在までの進歩の状態や動向を明らかに示すようにまとめて発表したものである。」そしてこれの執筆ないし編集にはその分野における権威者が当る場合が多い。また展望の対象となった原著論文のリストを“Review”の最後に添付しているので、それを手がかりに“Review”の中で省略された詳細な実験法やデータ、結論に至るまでの考察の細部を知ることができる。

**利用法は？**

新しい研究テーマに取り組もうとする時、あるいは新しくある分野についての知識を得ようとする時、そのテーマの“Review”を利用すれば、適切な知識を短時間で得られる。その他、学問分野の学際化により、研究者は自分の専門分野以外の知識を必要とする場合が多いが、この場合にも“Review”の利用により効果的な文献調査ができる。

**その形態は？**

“Review”は様々な形態で存在する。

1．雑誌中にReview記事として掲載される場合。例えば“American Journal of Medicine”中の目次に“Reviews”という項目があって2,3の論文が載っているが、これらがそれである。Review 記事の載る雑誌は最近かなり多いので目次を注意して見られると良い。

2．雑誌そのものが、Review誌である場合。例えば“Microbiological Reviews”“Physiological Reviews”など雑誌のタイトルに“Review”という語が入るもの。ただし、“American Review of Respiratory Disease”や“International Nursing Review”はReview誌ではない。

3．単行本の形態で逐次的に刊行される場合。これは発行所によって、“Advances”“Annual Review”“Methods”“Progress”“Yearbook”“Jahresbericht”“Ergebnisse”といった語がタイトルに付けられている。亥鼻分館では雑誌と同じ扱いをしているので、利用に際しては雑誌の書架を当っていただきたい。

**探し方は？**

分野に応じて探す資料が異なる。

1．医学分野に関しては、Index Medicus(IM)の各号の最初及び年刊版の最初の部分に、“Bibliography of Medical Reviews”としてまとめてある。配列方法はＩＭ本体と同様Medical Subject Headings（MeSH）のアルファベット順。この“Bibliography of …”に載っているReviewはＩＭ本体中にも文献の最後に（120refs）といった形で載るので両方から探せる。

2．生物学分野に関してはBiological Abst-

racts の RRM に掲載される。

3. 自然科学全般について探したい時には、Index to Scientific Reviews があるが当館では所蔵していない。Science Citation Index の Source Index の論文のタイトルの後に➡Review という表示で掲載されているが、主題からの検索はできない。

## Review 誌リスト

（亥鼻地区所蔵分―継続受入中）

Advances in Applied Microbiology. (活-抗研)
Advances in Cancer Research. (図、活-毒性)
Advances in Clinical Chemistry. (検査部)
Advances in Environmental Science and Technology. (衛 生)
Advances in Enzyme Regulation. (2生化)
Advances in Enzymology and Related Areas of Molecular Biology. ( 図 )
Advances in Immunology. (図、2病、法医、免疫)
Advances in Neurology. (神経、神内)
Advances in Neurosurgery. (脳 外)
Advances in Parasitology. (寄生虫)
Advances in Shock Research (人工透析)
Advances in Veterinary Science and Comparative Medicine. ( 図 )
Advances in Virus Research. (1 微)
Annual Review of Biochemistry. (図、活-酵素)
Annual Review of Genetics. ( 図 )
Annual Review of Microbiology. (図、活-抗研)
Annual Review of Neuroscience (2生理)
Annual Review of Pharmacology and Toxicology. (薬 理)
Annual Review of Physiology. (図、2生理、活-薬理)
Annual Review of Public Health. (公衆、地看)
Biological Reviews of the Cambridge Philosophical Society. (2解剖)
Cold Spring Harbor Symposia on Quantitative Biology. ( 図 )
Contemporary Topics in Immunobiology (免 疫)
Current Topics in Bioenergetics. (活-生体膜)
Current Topics in Developmental Biology. ( 図 )
Current Topics in Membranes and Transport. (活-生体膜)
Current Topics in Pathology. (図、病態)
Epidemiologic Reviews. (地 看)
Fortschritte de Kiefer- und Gesichtschirurgie. ( 図 )
International Review of Cytology. (図、活-毒性)
International Review of Experimental Pathology. ( 図 )
International Review of Neurobiology. (薬 理)
Methods of Biochemical Analysis. (1生化)
Methods in Enzymology. (2生化、2内、活-酵素)
Monographs in Virology. (病 態)
Pharmacological Reviews. ( 図 )
Physiological Reviews. ( 図 )
Progress in Allergy. (図、免疫)
Progress in Brain Research. (図、1生理、神経)
Progress in Cardiovascular Diseases. (3内)
Progress in Clinical Neurophysiology. ( 図 )
Progress in Experimental Tumor Reseach. ( 図 )
Progress in Liver Diseases. (1 内)
Progress in Medical Virology. (1微、病態)
Progress in Neurological Surgery. (脳 外)
Recent Progress in Hormone Research. (図、産婦、泌尿)
Reviews of Physiology, Biochemistry and Pharmacology. (1生理)
Year Book of Anesthesia. (麻 酔)
Year Book of Cancer. ( 図 )
Year Book of Cardiology. ( 図 )
Year Book of Critical Care Medicine. (救急部)
Year Book of Dentistry. (歯 口)
Year Book of Dermatology. (皮 膚)
Year Book of Dignostic Radiology. (放射、放部)
Year Book of Emergency Medicine. (救急部)
Year Book of Endocrinology. (2 内)
Year Book of Medicine. ( 図 )
Year Book of Neurology and Neurosurgery. (神内、神経、脳外)
Year Book of Nuclear Medicine. (放射、放部)
Year Book of Obstetrics and Gynecology. (産婦、母看)
Year Book of Ophthalmology. (眼 科)
Year Book of Orthopedics. (整 外)
Year Book of Otolaryngology. (耳 鼻)
Year Book of Pathology and Clinical Pathology. ( 図 )
Yearbook of Pediatrics. (公衆、小児)
Year Book of Psychiatry and Applied Mental Health. (精 看)
Year Book of Surgery. (2 外)

## 昭和60年度　開館日程表

| 区　分 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 通常開館<br>週日　9：00—17：00<br>土曜日　9：00—12：00 | ←<br>1<br>(月) | ← | ← | ← | ← | ← | ← | ←<br>2　6<br>(土)(水) | →<br>26<br>(木) | ←<br>6<br>(月) | ← | →<br>31<br>(月) |
| 時間外開館<br>週日　17：00—20：00<br>土曜日　12：00—16：30 | ←<br>8<br>(月) | ← | ← | →<br>20<br>(土) | | ←<br>2<br>(月) | → | ←<br>2　6<br>(土)(水) | →<br>26<br>(木) | ←<br>6<br>(月) | ← | →<br>15<br>(土) |
| 日曜開館<br>13：00—17：00 | 14，21<br>28 | 12，19<br>26 | 2，9<br>16，23<br>30 | 7，14 | | 8，22<br>29 | 6，13<br>20，27 | 10，17<br>24 | 1，8<br>15，22 | 12，19<br>26 | 2，9<br>16，23 | 2，9 |
| 休館日<br>（祝日、他） | 7，㉙ | ③，⑤<br>⑥ | | 21，28 | 4，11<br>18，25 | 1，⑮<br>⑯，㉓ | ⑩ | ③，④<br>5，㉓<br>創立記念日 | 年末年始<br>←→<br>27(金)4(土) | 5<br>⑮ | ⑪ | 16，㉑<br>23，30 |

○印は祝日

日曜と祝日が重なる場合は休館。また振替休日も休館

## 「文献のさがし方ガイダンス」実施報告

亥鼻分館では例年看護学部の学生（３年生）に対し、「看護学文献のさがし方ガイダンス」を実施しているが、今年度から新たに医学部附属看護学校の学生を対象に加えて次のとおり実施した。

看護学部　(1)昭和60.1.28(月) 資料の説明
　　(2)　〃　　2. 4(月) 演習（Aグループ）
　　(3)　〃　　2.18(月)　〃（Bグループ）

看護学校　(1)昭和60.2.18(月) ３年生
　　(2)　〃　　2.27(水) ２年生

ガイダンスの内容は International Nursing Index 等二次資料の説明を中心に行い、看護学部についてはグループをＡ、Ｂに分け演習を実施した。なお各回とも学生の講義時間を利用できたため出席率は良好であった。

## 人　事

－60．4．1－

生物活性研究所事務長　　谷島良次郎
（亥鼻分館事務長）

附属図書館亥鼻分館事務長　峰岸　茂
（庶務部庶務課長補佐）

千葉大学附属図書館亥鼻分館報 “らいぶらりいゐのはな„ No.14　1985年４月８日発行
千葉大学附属図書館亥鼻分館発行　　発行者：林　豊
千葉市亥鼻１－８－１　　電話 0472(22)7171（大代表）

千葉大学附属図書館亥鼻分館報

# らいぶらりい ゐのはな 15

1985. 9

●目次●

**広場**

亥鼻にかける夢――薄井坦子――――――2

図書館を10倍上手に利用する方法 V. Excerpta Medica の使い方――――――4

見学記－東大文献情報センター・東工大附属図書館－――――――6

亥鼻分館利用統計（昭和59年度）――――――7

**「凡秋小径の花」** 凡秋谷のタンポポが道端でみかけるタンポポより小振りであるのに気付いている人がいる。今や珍しくなりつつあるニホンタンポポの生き続けている数少ない一角となった。何故にあの大型でどんどんはびこるアメリカタンポポにとって代わられないかといえば簡単で、凡秋谷には自動車が入れないからである。このキャンパスを愛する人々に、バイクや自転車も乗り入れないようにお願いしたい。必死に守らないと環境は意外な変わり方をする。凡秋谷のニホンタンポポは、ゐのはなキャンパスがよい自然に恵まれていることの端的なしるしであろう。タンポポのことを知っている人は多少いても、凡秋小径に踏み込んでほんの少し行った斜面に「キツネノカミソリ」という珍しい花の咲くことを知っているのは“やはぎ会”(医学部俳句会）の人々くらいではないであろうか。和漢薬に鹿葱（ロクソウ）というのがあり、これがキツネノカミソリでヒガンバナ科である。晩春初夏の頃には小さいナイフのような葉がひっそりと他の草葉の間にのびる。その姿が狐の剃刀に似ているというのであろう。花は小さい野生の百合を思ってもらえばよい。秋の花というよりむしろ夏の花で、夏休みで静かな八月の半ばに、凡秋谷はオレンジ色の花で飾られる。ここできくひぐらしの声もよい。そして、凡秋谷の秋は凡秋先生が生前よく“旺んな紅葉”と口にされたように、明るいある種の強さを感じさせる。

（薬理学教授　村山　智）

広場

# 亥鼻にかけた夢

薄井坦子

私の研究室の窓からは、看護学部創設の頃の仮住まいの場であった医学部記念講堂や、かつての面影をとどめている緑の繁みや小径が見えて折々に初心にひきもどしてくれる。

私は人生を夢の実現過程ととらえているが、この地で過した10年の節目に当って、亥鼻にかけた夢をふりかえってみたいと思う。

10年前の私は、学生たちにナイチンゲール看護論を原典から直接学びとらせることのできる喜びで一ぱいであった。私自身がナイチンゲール看護論に深く引き込まれていったのは、ある実践上の問題が彼女の看護の定義を判断規準として使ってみて解決できたからであるが、その体験は大学を卒業して8年も経過した時のことである。以来ナイチンゲールに関する諸文献に目を通していくうちに、わが国では殆んどの人がナイチンゲールを語るのに二次資料で甘んじていることがわかってきた。近代看護の始祖として国際的に評価されている人について、自らその原典をひもとくことなく論評できる人たちの無神経さにあきれながら、学生たちにはナイチンゲール看護論を直接伝えたいと、その代表作『看護覚え書—看護であるもの，看護でないもの—』（小玉香津子訳、現代社、1967）をテキストに使いはじめたのが1970年のことである。

ところが、やがてその『看護覚え書』は初版本で、ナイチンゲールは頻回に改訂を重ねており、「看護婦とは何か」という補章を追加している事もわかってきた。さらに、彼女は150篇もの著作を残しており、それらはすべて大英博物館に保存されていることもわかってきた。私は幸いにもそれら著作を次々と直接読みすゝめることができ、ナイチンゲールはわが国だけでなく国際的にも学問的に正しく評価されているとはいえないと考えるようになってきた。そして、このような考えの仲間たちと、ナイチンゲール著作集全3巻の編訳作業にとりかかり、その2巻までを刊行、第3巻の翻訳をはじめたのがちょうど着任の頃であった。

一方では、看護学生のために前述の改訂増補版をもとにした『原文・看護覚え書』を刊行していたから、早速看護学原論のテキストに使うことができたのである。ナイチンゲールの主張は、必ず事実に説明させるやり方で展開されるから、その論旨は非常に納得しやすく、時代を超えて学生たちに看護の本質を示してくれたようである。たとえば、彼女は看護婦に従順と献身を説いて労働条件のひどさを招いたという批判がされてきたが、『看護覚え書』の補章：看護婦とは何か、のなかでは、看護婦が病人の健康状態に眼や耳や知恵を働かせて、何が正しく何が最善であるかという自分自身の高い理念を満足させるために仕事をするのでなければ、真の熱意ある看護にはならないことを、実例をたくさんあげて述べているのである。つまり、他人の援助を必要としている事実の意味に対して知的な従順さを求めたのであり、他人の援助を受けねばならない人の身になって献身できるやさしさを求めたことがわかる。しかも、人々の日常生活をより健康的に整えるためには、看護婦自身が人間的な生活を送る必要があると主張、看護婦が安心して生活できるホームの建設を、とタイムズ紙に寄稿した小論も残っているから、誤解は消えていく。

看護という仕事は、目に見える働きだけをとりあげるならば、それこそ誰にでもできそうなケアと、医師の手足の如き技術との連続

である。しかしナイチンゲールは、まさにそういう日常の仕事を通して、“その人の生きる力”が支えられるかどうかが決まることを、事実をもとに論理的に示してくれたのである。したがって私の夢は、他人の援助を受けねばならない人々の心のうちを察しながら、その人の生命を守り日常生活を支えるケアを、その人の合点をめざして実施し、たとえ周囲からどんなに低く評価されようとも、“その時その人にどうしても必要であったこと”と冷静に事実で説明しながら、よい看護を浸透させていくことのできる看護婦たちがふえていくことである。“その時のその人”が20人になっても30人になっても、ナイチンゲールの教えに従って、自分がそこにいなくても自分のやりたい看護が行われていくような管理能力を備えた看護婦が増えなければ、21世紀までにすべての人に健康を、という夢は幻になってしまうであろう。

ナイチンゲール著作集の完成には着任後丸2年の歳月を費してしまったが、多くの人々にナイチンゲールをみつめ直していただければと考え、全3巻を千葉大学図書館に寄贈した。その年の秋、日本翻訳文化賞と日本翻訳出版文化賞とのダブル受賞となり、長年の苦労はふっとんで、ナイチンゲール研究会を発足させた。年1回の研究懇談会では研究発表や発題講演をもとに年々活発な懇談が行われ、メンバーには既に卒業生たちが加わってそれぞれに役割をとりはじめている。

ナイチンゲールは物質的にも精神的にも非常に豊かな生活過程を送った人である。ナイチンゲールの史蹟を訪ねる旅に出て、伝記からの想像が一挙にふくらむ感じをもった。ふるさとのエングリー荘は父親の設計になる広壮な邸宅であったが、書斎は壁面一ぱいに書棚がとり囲んでいて、その一部を押すとそこは書棚に見せかけた扉であった。このユーモラスな部屋で彼女は父親や家庭教師たちから教育を受けたのである。また、夏を過した宮殿のようなリハースト荘での深いグリーンやサーモンピンクの遺品の美しさは今も目に浮かぶ。「どのような訓練を受けたとしても、もし感じとることと、自分でものを考えることの二つが会得できなかったら、その訓練は無用のものとなってしまうのです」を合言葉に学生たちと夢の実現過程を生きる日々である。

（看護学部　教授）

LEA HURST, HOME OF FLORENCE NIGHTINGALE

# 図書館を 100倍上手に利用する方法

## V．Excerpta Medica（EM）の使い方

医学分野の文献を探すときに先ず手にするトゥールとしては、Index Medicus（IM）があげられる。事実ＩＭによる文献検索は当館のみならず、医学図書館においては最もポピュラーな方法といえる。

しかし、ＩＭにもウィークポイントがあって、①抄録がついていない、② MeSHで決められた用語でしか探せないため、めざす用語がない時にどの用語を用いるべきか困ってしまう、③検索語を決めないで大きな項目例えば免疫学全般に目を通したいといった時にＩＭでは不可能である、などがあげられる。

これに対してEMは、①抄録付、②検索語はIMのように厳密に統制された用語ではなく、思いついた語で探せる、③セクション毎の検索ができるので自分の興味のある分野の文献を概観できる、といった特徴がある。またIMにおいてはMEDLINEによって機械検索ができたように、EMではEMBASEにより機械検索ができる。

**概要**

1949年、オランダの医師達によって創刊され、現在はElsevierグループの傘下に入ったExcerpta Medicaが発行している。

**収録対象**

医学とその関連分野を対象としているが、獣医学、看護学、心理学などのパラメディカルの分野は含まない。EMの特徴は医薬品および関連化合物の網羅的収集で、医薬品の副作用については特に重点がおかれている。

**収録誌**

約3,500誌で、それらから年間約15万件がEMに掲載される。(実際は1論文を複数のセクションに掲載するので25万件の抄録となる。)収録誌の発行国はＩＭがアメリカに重点に置かれているのに対し、ヨーロッパの雑誌が多く入っている。日本の雑誌は315誌で、ＩＭの120誌と比べるとかなり多い。タイトルのリストはList of Journals Abstractedとして発行されている。

**構成**

現在44（図1）のセクション及び抄録のつかない2つの索引誌（Adverse Reaction Titles とDrug Literature Index）に分けられて発行。ひとつの論文は関連するいくつかのセクションに重複して収録される。

**図1**

Sect.1：Anatomy, anthropology, embryology and histology.
2：Physiology.
3：Endocrinology.
4：Microbiology.
5：General pathology and pathological anatomy.
6：Internal medicine.
7：Pediatrics and pediatric surgery.
8：Neurology and neurosurgery.
9：Surgery.
10：Obstetrics and gynecology.
11：Oto-, rhino-, laryngology.
12：Ophthalmology.
13：Dermatology and venereology.
14：Radiology.
15：Chest diseases, thoracic surgery and tuberculosis.
16：Cancer.
17：Public health, social medicine and hygiene.
18：Cardiovascular diseases and cardiovascular surgery.
19：Rehabilitation and physical medicine.
20：Gerontology and geriatrics.
⋮
52：Toxicology.

## 文献の探し方

### 1．セクションを選ぶ

EM で効果的な検索を行う場合、44セクションの中でどのセクションを選択するかが、先ず重要となる。直接、関連のありそうなセクションを選ぶ方法もあるが、"Guide to the Classification and Indexing System"（EMの使い方を案内した冊子）の中の"Guide to Subject Index Terminology" を見てキーワードから選ぶと間違いはない。

**図2**

| | |
|---|---|
| lung cancer | 5, 15, **16**, 17 |
| lung circulation | 2, 15 |
| lung compliance | 2, 15 |

例えば Lung Cancer に関する文献を探したい時に、"Guide to …" の Lung Cancer の項目を見ると、5，15，16，17が掲載されているセクションの番号であり、そのうち最も適切なセクションはゴチックで書かれた16である。

### 2．EMCLAS を見る

各セクションの中で、文献は主題分類順に並んでいる。これが EMCLAS で、探すトゥールは先にあげた "Guide to …" の中の "Guide to EMCLAS"（図3）である。

**図3**

**Lung cancer**
***see* also Lung metastasis, Lung neoplasms and under Respiratory tract**
**16.3.11** ――――――EMCLAS
**Lung cancer diagnosis**
**15.8.4 (with symptomatology)**

EMCLAS は目次としても各号に掲載されるので、これから該当頁に求める文献を見つけることもできる。

### 3．Subject Index を見る

IM における MeSH のような冊子体のキーワードリストはなく、MALIMET という47万語にも及ぶ厖大なシソーラスが用意されているが、マイクロフィッシュあるいはデータベースの形態でしか存在しない。つまり47万語といえば殆んど思いついた語で探せるということで、探す側からは非常に使いやすい索引となっている。

また、図4を見ればわかるように、Lung Cancer の下に cancer risk などその論文を表わす索引語が必要な数だけつけられているので、索引を見ただけで論文の内容がわかるようになっている。

### 4．抄録をみる

図5を見ればわかるので特に説明はつけないが、IM と大きく違っているのは、抄録付の他に、著者の所属機関とその住所が付いていることである。

**図5**

①**689.** ②**Modifying risk of developing** ③**lung cancer by changing habits of cigarette smoking** - Lubin J.H., Blot W.J., Berrino F. et al. - ④Environmental Epidemiology Branch, Division of Cancer Cause and Prevention, National Cancer Institute, National Institutes of Health, Public Health Service, US Department of Health and Human Services, Bethesda, MD 20205 USA - ⑤*BR. MED. J.* ⑥1984 ⑦288/6435 (1953-1956)⑧

⑨Data from a hospital based case-control study of lung cancer in Western Europe were used to examine changes in the risk of developing lung cancer after changes in habits of cigarette smoking. Only data for subjects who had smoked regularly at some time in their lives were included. The large size of the study population (7181 patients and 11,006 controls) permitted precise estimates of the effect of giving up smoking. Risks of developing lung cancer for people who had given up smoking 10 or more years before interview were less than half of those for people who continued to smoke. The reduction in risk was seen in men and women and in former smokers of both filter and non-filter cigarettes but varied by duration of smoking habit before giving up. The protective effect of giving up became progressively greater with shorter duration of smoking habit. The risks after not smoking for 10 years for both men and women who had previously smoked for less than 20 years were roughly the same as those for lifelong non-smokers. Reducing the number of cigarettes a day or switching from non-filter cigarettes also lowered the risk of developing lung cancer but not to the extent associated with giving up smoking.

①抄録番号，②論題，③著者，④著者所属機関とその住所，⑤掲載雑誌名，⑥発行年，⑦巻／号，⑧頁⑨抄録.

**図4**

**lung cancer,** adrenal gland, metastasis, biopsy, diaphragm, patient, staging, 1009
- cancer risk, cigarette smoking, smoking, case study, 689 ――――――抄録番号
- cancer screening, cigarette smoking, sputum cytodiagnosis, survival, thorax radiography, follow up of 10040 men, 687
- liver hemangiosarcoma, malignant melanoma, occupational cancer, polyvinylchloride, vinyl chloride, cancer epidemiology, cancer mortality, 454 male workers, 685
- multiple cancer, occult cancer, survival rate, 68 roentgenographically occult cancer, 696
- sputum cytodiagnosis, bronchoscopy, retrospective study, 190 patients, 708

# 見学記　―東大文献情報センター　東工大附属図書館―

千葉県大学図書館協議会が企画した、東京工業大学図書館と東京大学文献情報センターの見学会に参加の機会を得ましたので、その時の模様をお知らせします。

最初の見学場所は東工大図書館で、目蒲線大岡山駅を降りてすぐのところにあります。ここでは、本年４月から東大文献情報センターとオンラインで結び、目録を作製しているということです。

東工大図書館では、現在、図書についてのみ業務を行っており、事務室にある10台以上の端末の一台をデモンストレーションで見せてもらいました。まず、一冊の図書の書誌情報（著者・書名・出版社・出版年など）がセンターのデータベースにあるかどうかを著者あるいは書名をキイにして、端末から入力することによって調べます。あればそれを東工大のファイルに移し、自館用に所蔵箇所等を付け加え、記憶させます。この場合はデータベースには所蔵大学が入力されるだけですが、書誌情報自体がない場合は、新しく端末から入力し、自館ファイルと共にデータベースにも入ります。この後、他の加盟館が同じ図書の目録を作る時には、もう一度書誌情報を入力する手間はいらないことになります。

また、自館ファイルに記憶させたデータを用紙に出力すれば、カードや冊子体の目録が出来ますし、東工大では閲覧室に端末を置いて、利用者自身に検索させています。

従来の目録業務との違いの大きさに驚きつつ、東工大図書館を後にしました。

次の見学場所はデータベースをオンラインで提供している東大文献情報センターです。このセンターは、昭和55年に学術審議会から文部大臣へ答申された学術情報システム構想の先駆的役割を担い、現在その構想の実現に向けて精力的に活動しています。

学術情報システムは、国・公・私立大学の図書館等をオンラインネットワークで結び、目録や所在情報を端末の画面に映し出そうというものです。相互利用も含めて情報を共有し合おうという遠大な計画です。

そこで、センターでは、目録、所在情報を提供するため、データベースを構築したり、雑誌情報のもとになる学術雑誌総合目録を編集しています。本年４月からは、東工大の他に、大阪大、名古屋大がこのネットワークに参加しています。センターの建物は筑波大学大塚地区（旧東京教育大学）Ｅ館の４階建ての一角を使用しています。職員は、ブラックボックスやディスクのある４階にはほとんど行かず、専ら３階のコンソール室で端末を叩きます。

見学者も多く、毎日１回は、国公私立大学等の関係者の説明に当っているということで、このシステムに対する関心の高さが伺えます。

現在、亥鼻分館では、所蔵していない資料については、論文等の複写を他大学から取り寄せるサービスを行っています。申込・複写物受取共、郵便にたよっていますが、将来学術情報システムに参加することによって、端末から所蔵館を調べ、申込も出来るようになるでしょう。そうなれば、文献入手までの時間は大幅に短縮されると思います。

学術情報システムの本格的な稼動はまだ先のことですが、昭和61年春には千葉大学附属図書館本館と同システムとの接続が予定されており、亥鼻分館としても、これに対応するよう検討が進められていると聞いています。

学術情報システムに限らず、図書館は、機械化の波の中でその姿を変えつつあります。しかし、利用者にとって図書館が便利で身近なものであるかどうかはただ単に機械化が進むことではなく、その機械を使う人間すなわち私達図書館職員の手にかかっているとの思いを新たにし、センターを後にしました。

（運用係　下妻）

# 亥鼻分館利用統計（昭和59年度）

## 1. 開館日数及び入館者数

a. 開館日数

| 月～土 | 日 |
|---|---|
| 285日 | 36日 |

b. 1日平均入館者数

| 月～土 | 日 |
|---|---|
| 183人 | 28人 |

c. 部局別入館者数

| 部局 | 医学部 | 附属病院 | 看護学部 | 生物活性研 | その他 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 入館者数 | 27,571人 | 7,126人 | 13,916人 | 716人 | 3,879人 | 53,208人 |
| 割合(%) | 51.8 | 13.4 | 26.2 | 1.3 | 7.3 | 100 |

## 2. 貸出冊数

a. 部局別貸出冊数

| 部局 | 医学部 | 附属病院 | 看護学部 | 生物活性研 | その他 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 貸出冊数 | 6,798冊 | 1,981冊 | 4,693冊 | 81冊 | 1,083冊 | 14,636冊 |
| 割合(%) | 46.4 | 13.5 | 32.1 | 0.6 | 7.4 | 100 |

b. 1日平均貸出冊数

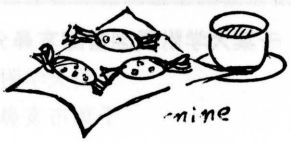
| 月～土 | 日 |
|---|---|
| 51冊 | 6冊 |

## 3. オンライン文献検索

| 部局 | 医学部 | 附属病院 | 看護学部 | 生物活性研 | その他 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 検索件数 | 387件 | 7件 | 32件 | 28件 | 42件 | 496件 |
| 割合(%) | 78.0 | 1.4 | 6.5 | 5.6 | 8.5 | 100 |

## 4 相互利用件数

| 国内 | | 国外 | | 合計 | |
|---|---|---|---|---|---|
| 受付 | 申込 | 受付 | 申込 | 受付 | 申込 |
| 3,357件 | 2,466件 | 0件 | 50件 | 3,357件 | 2,516件 |



# 新着ビデオ・テープ

**◆目で見る臨床検査**

1：一般検査
2：臨床血液検査
3：臨床化学検査(1)　肝の代謝と血清酵素
4：臨床化学検査(2)　電解質とホルモン
5：臨床化学検査(3)　セット検査と検査機器・自動化
6：免疫血清検査
7：臨床細菌検査
8：臨床病理学
9：臨床生理検査
10：精度管理

**◆目で見る医学の基礎**

1：細胞と組織
2：神経系―中枢神経―
3：神経系―末梢神経―
4：循環器系―心臓―
5：循環器系―血管とリンパ系―
6：呼吸器系
7：骨格・筋肉系
8：消化器系―消化管
9：消化器系―肝・胆・膵―
10：泌尿・生殖器系―腎臓と尿路―
11：泌尿・生殖器系―生殖器―
12：内分泌系
13：血液
14：皮膚・感覚器系―視覚・嗅覚・味覚―
15：皮膚・感覚器系―聴覚・皮膚感覚―
16：微生物学の基礎知識
17：抗生物質の基礎知識

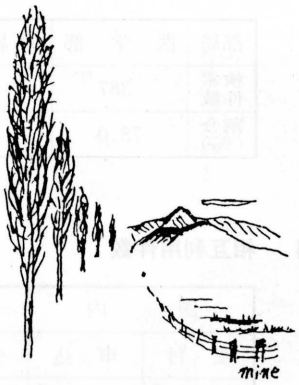
**◆The techniques in genetic engineering.**

1：Nucleic acids techniques.
2：Gene analysis and southern blotting.
3：DNA sequencing using M13.
4：Gene libraries.
5：Expression of cloned genes.
6：Oligonucleotides-synthesis and use.
7：In vitro mutagenesis.
8：Microdissection and microclonning.

## 未製本雑誌を配架替しました

1階閲覧室内の未製本雑誌の配架は、これまで和洋混合アルファベット順配架でしたが、8月9日㈮から和洋別アルファベット順配架に変更しました。(国内発行の雑誌で内容が欧文の場合は、洋雑誌扱いとなります)

この変更は利用者の要望、館員の意見、更に他大学の状況等を調査のうえ、分館として検討した結果の措置ですが、これによって文献調査、目録確認等、雑誌利用面で一層の利便が考えられます。なお本年12月末までは試行期間となりますので、ご意見等ありましたらカウンターへお申出下さい。




**千葉大学附属図書館亥鼻分館報“らいぶらりいゐのはな„ No.15**　1985年9月20日発行
千葉大学附属図書館亥鼻分館発行　　発行者：林　豊
千葉市亥鼻1－8－1　　電話 0472(22)7171(大代表)

千葉大学附属図書館亥鼻分館報

# らいぶらりい 亥のはな 16

1986. 2

●目次●

**広場**

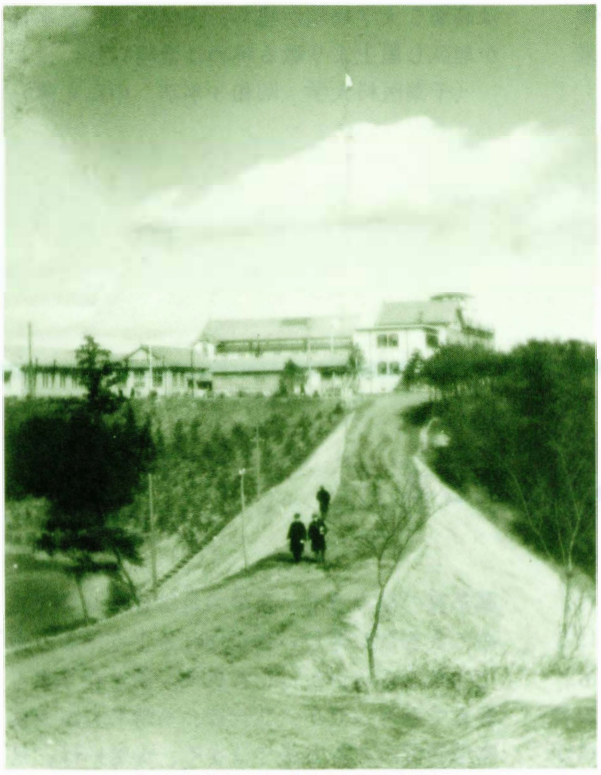
作る事と読む事――里村洋一――――――2

或る図書館――――――4

〈JOURNAL紹介〉生理学――本田良行――――――5

第5回国際医学図書館会議出席報告――――――9

1986年購読雑誌の変更について――――――12



附属病院より医学部を望む

**「連絡道路」**基礎から病院へ、病院から基礎へ、言わば、猪鼻台地から矢作台地へ谷間を越える必要上堰堤が築かれた。即ち、今の連絡道路である。弓なりに弛んだ堰堤の上には道路が築かれ、基底にはトンネルが穿たれた。堰堤によって仕切られた上半分はテニスコートに、下半分はグラウンドに使用された。堰堤の両側には桜が植えられ、グラウンドの両側は段丘に仕立てられ、自然の観覧席を為している。春さき堰堤と段丘には桜が咲き見事である。又、いちはやく辛夷の花が白々と咲く。尚、上方下方には山林が残っており山野の面影をとどめている。

朧気な記憶を辿って60年前のことを書くのだから紛わしい点があるかも知れないが御赦し願いたい。私は大正13年入学の2回生で、当時は1回生と併せて100名一寸の学生数に過ぎなかった。学生は詰襟角帽が制服であった。春風のどかなる4月、学生課で入学手続きを済まし体

格検査を受け、講堂で学長松本高三郎先生の訓示を受け学生生活に入った。病院坂を上り正門を入ると、正面に白亜の建物があり、車寄せに大きな蘇鉄が二株程枝を張っていた。附属病院である。右手には松林が続き、左手には築山などがあり、何方かの胸像が据えられていた。（後になって萩生録造先生、長尾精一先生と初代の学長三輪徳寛先生方のものと知る。）其の頃の千葉は市制が布かれて間もない頃で、街の道路は未舗装、商家には藁葺き屋根も混り、駅から大学迄は大方徒歩で自動車は稀の時代、俥が巾を利かせていた。大学の裏山下からは乗合馬車が東金方面に向って走っていた。千葉に来て先づ眼に入るのは猪の鼻山、病院坂、都川等であり、県庁はゴシック風の建物であった。大学キャンパスには七天王塚が散在し希異の感をいだかせた。出洲海岸の方にも行って見た。今の大和橋橋畔で、鵜の大群が海辺の空を渡って行くのを見たものだった。大学は専ら亥の鼻台の方に立ち、大学昇格後谷を渡って矢作台の方に延びて行った。私等は半年程旧専門学校の建物を利用していたが、矢作台の方に建物が出来るに従い、谷を渡って通うようになった。必然的に連絡道路が造成されたたるんだ道が平になるまでには相当の年月を要した。営々と荷馬車によって土が運ばれ、手で平らにされた。中々高くはならなかった。人は泥濘の輪立ち深い道を寒風に吹きさらされ通行した。臨床の方は依然旧病院を使用し、基礎は新築の矢作台の方に移り、本館の建物を先頭に各教室が２列縦隊の平家建で中央に分離帯を挟んで、広々と潑剌と建てられた。正門は現在の位置と変りはない。

さて我々は四年の修業年限を卒えて世に出ることになった。其の間WIEDER KOMMENの憂目を見ることもあった。又、STAT EXAMENの到来を言はることもあった。我々は何か卒業記念にと桜の苗木を吉野より購い、正門前の空地に60本植えた。今のタクシーの溜り場である。学長小池敬事先生の手を煩わして「桜樹林」と碑銘を書いて頂いた。方尺の物であったから何れかに移されて今は見当らない。

見上げた練瓦の高い煙突を下に、矢作台には高層な大学病院が建ち、大学周辺に雑木林が起臥し屋上より瞰る眺めは素晴らしい。

（千葉医科大学　昭和３年卒　中島元徳）

# 広場

## 作る事と読む事

**里村洋一**

子供の頃から物を作るのが好きであった。多分、小学校一年の時の疎開がトリガーになったと思う。何も物のない時代で、しかも、山村での生活は、１から10まで自作をするのがあたり前の事であった。最初に覚えたのが藁草裏の編み方で、自分の足に合わせて、左右の大きさが等しい物を作れるようになるまで半年ぐらいかかったと思う。藁をなう事も教えてもらったが、これは、当時でもあまり実用価値のある方法ではなく、大ていは、足

踏み式の自動縄ない機が使われていた。近所のおばさんが、足で転わしながら、両側に設けられたメガホンのような口から、少しずつ藁をいれてゆき、それが、太さの均一な見事な縄に仕上がって機械の後にあるリールに巻き取られてゆく。私は、何十分も倦きずに見ていたものだ。何度か、やらせてみてと頼んだが、あぶないといって、させてもらえなかった。何といっても、足踏みの板と、藁のさし込み口に足りる背丈がなかったから。

山村での遊びは、山を走りまわる事である。山に入っては、細い竹を切って竹鉄砲を作ったり、竹とんぼの飛ばしっこをした。こういう技術に長けた２～３才年長の子が、いつも仲間の中に居て、うらやましいような精緻さで、切り出しナイフを扱い、見事な作品を次々に作って見せた。不器用にナイフを動かしている私から材料をとり上げ、あっと言う間に仕上げると、それを渡しながら、お前の持ってるメンコと交換しようなどと云ったものだ。おかげで、私は、こうした遊び道具を自分で上手に作るところまでは上達しなかったが、何でも自分で作れるものだという意識はこの時に養われたのだと思う。

小学校４年生の時、この時は既に都会に帰ってきていたが、どういうわけか、親に内緒で鉱石ラジオのセットを買った。何度かスパイダーコイルを巻直し、ラジオ屋へ鉱石の交換に通ったあげく、夜中（夜中の方が電波の状態はよくなる）に、二階の押入でかすかに聞こえた放送に大喜びした。五年生になって「電気の話」という黄色い表紙の、当時としてはかなり厚い本を買った。これが自分で単行本を買ったはじめての経験だったろう。子供向に、発電機の原理から、なぜニクロム線から熱が出るかまで易しくしかもかなり詳しく書いてあった。この本は、その後の二～三年間私のバイブルのようになった。当時の小学校は、米国の教育方法を大巾にとり入れた形のカリキュラムを持っており、先生が一方的に教えるのではなく、生徒が自分達で研究課題をいくつか設定し、グループに分かれて調査をし、その結果の報告会をするというような、今から考えても、大変すぐれた方式をとっていた。課題は、時によって社会問題であり、生産技術の問題であり、保健衛生であったりしたが、ある時、たしか「電気はどのように家庭にまで来るか」というような課題を研究した事があり、発電所を調査したグループが、その報告会をした。私は得意になって電気に関する質問を次々と発し、おかげで、すっかりひんしゅくを買い、担任の先生に、「意地悪だ」との宣言までされて、たちまち得意の絶頂から奈落の底へつき落された。

とまれ、この黄色い本の威力は絶大であって、その後、私は電気の専門家として、友達の中で特異な地位を保つ事になった。勢い、知識ばかりでなく、何等かの実質的なものを生み出さなければ面目が立たなくなり、並四ラジオから、高一（高周波一段増巾ラジオ）スーパー（スーパーヘテロダイン方式）と次々に作る事になった。物を作る事に特別な快感があるのを知ったのはこの頃であろう。

中でも、ただ存在するだけでなく、それが動いたり働いたりする事で、特別な作用を外部に示すようなもの、機械や器具に興味が向いた。

医者になってからも、この価値観というか癖というか、は変らず、それが高じて、ついにコンピュータ屋に転向するまでに至った。

それでは、はじめから工学系に進めば良かったではないかと誰しもが云う。もっともな話であるが、本人にとっては、全く考慮の対象になった事がない、第一数学に弱い、物理は平均点以上とった試しがない。

私にとっては、物を作るという事と学問的な基礎知識を学んだり、原理を追求したりする事とはかなり分離していて、目的の物を作るために、必要な書物は捨い読みするが、まず、テキストを読み通すなどという事がない。学者としては、まことに不真面目で、図書の利用者としても模範的とは云いかねよう。

科学的研究の評価には創造性と、一般性（再現性）、論理性などが基準となるが、物を

作るという作業には、必ずしも当てはまらない。特にコンピュータを用いてのシステム作りは創造的ではあるが、一般性に欠ける事が多い。コンピュータのシステムアプリケーションはほとんどの場合、限られた環境の中で行われる。与えられたハードウェアとその上で働く基本ソフトに依存している。従って、その環境で作られたものには、環境が変わると価値を失うものが少なくない。また、このような環境は、時代の急速な進歩と共に、たちまち変化していき、あるシステムが実用的に安定して働きはじめた頃には、既に同じシステムを他に応用する価値を失っているという場合も多い。そこで、この分野の学術雑誌では、システム開発の論文に原著論文としての要件が整っているかどうかが、常に問題となる。

学術論文の価値は、その成果を踏み台にして、他の研究者が更に新しい展開を生み出す所にあるだろう。ところが、システム開発論文は、先に述べたように、その意義に乏しい。成書も同様に時代遅れになる。となれば、システム開発者にとっては、他人が同じ分野でどんな事を成しとげたかを考えるより、自分の開発環境を整える事が先決である。できるだけ有利な環境を整えるために、最近の技術（それもすぐ手に入るもの）に目を開いている必要がある。必要な環境が設定されたら、創造力を発揮して遮二無二突進する。

こうしたわけで、論文は熟読するものではなく読み流すもの、成書は通読するものではなく、辞書的にひろい読みするもの、広告やパンフレット、使用マニュアルは熟読するものとなる。

実は、こうしたマナーは、私の性格によく合っている。上記の論は私にとっては好都合な理屈で、先に述べたように学者としては、大変、不真面目な態度の言い訳に使える。それとも、こんな態度では学者の仲間にいれてもらえないのかも知れない。

（医療情報部　助教授）

# 或 る 図 書 館

きれいに刈込まれたドウダンやタマイブキの植えられた前庭をとおって、S子は図書館の入口に立った。

自動ドアーが静かに開いて、中に入ると、ポケットからＩＣカードを取出し、小さなボックスの口に差込んだ。入館者の氏名や所属、日時等が瞬時に記録されるものだそうである。

やわらかなカーペットの敷かれたブラウジングルームの椅子に腰をおろすと彼女は窓際に置かれている大きな観葉植物の鉢を眺めるのが習慣のようになっている。名前は知らないが緑々としたそれを見ていると妙に気分が落着いてくるのである。

けれども、今日はそんな悠長なことはしていられない。論文の提出期限が迫っているので関係文献の検索を急がなければならない。

彼女は、数台ならんでいる利用者用端末機の前にすわってキーをたたきはじめた。ディスプレイの画面に次々と表示される文献情報を見ながら、最近は本当に便利になったものだと思う。

この端末機から、学内の文献は勿論のこと、学術情報センターや全国の図書館、研究所などの資料も検索できるし、文献のコピーが必要ならば、隣にあるファクシミリ装置からすぐ手に入れることができるのである。

これから、さらにエレクトロニクス技術が進み、パーソナルコンピューターの小型化、高性能化、通信回線網の整備等が行われれば、それこそ文字通り、居ながらにして各研究室

や各家庭から直接各種の情報検索ができることになるそうである。

S子は、この図書館をよく利用するが、それは単に業務全般がOA化されていて機能的であるからという理由だけではない。それは木枯しの吹く寒い日だった。閉館時刻までには十分間に合うと思って使い始めた光ディスクファイル装置の操作がはかどらず困り果てていたとき、ベテランの司書の方が声を掛けてくれ、退庁時間が大分過ぎてしまったがイヤな顔をするどころか、S子の作業が予定どおり終ったことを自分のことのように喜んでくれたのである。

さりげなく利用者に気配りをしてくれている図書館。ここはそんな雰囲気を持っている。新しい情報処理方法、複雑、高度化するレファレンス業務などのために、不断の研修をしながら、なおかつ毎日の図書館サービスに務められている司書の人達に心から感謝せずにはいられない。　亥鼻分館（M）

〈Journal 紹介〉

# 生　理　学

本田良行

形態の研究を中心とする解剖学に対し、機能の研究を中心とするのが生理学である。広義の生理学としては、化学的研究手段による生化学、薬の働きを研究手段にする薬理学、さらに物理学ないし物理化学的手段によって生物の機能を研究する狭義の生理学が含まれる。

本稿では、主に最後に述べた生理学の領域に限定して雑誌の紹介を行うことにする。

近年、古くから存続してきた、一国、一地域、または一大学などを代表した生理学の全部をカバーする雑誌に加えて、それぞれの専門領域を対象とした雑誌の発展がめざましい。筆者の専門は、呼吸、体液、運動生理学などにしか過ぎないので、これ以外の領域については、とくに不備な点が多いと思われる。お許しを願いたい。

以下の各項目について、雑誌の記載は、ほぼその評価の順に排列することとした。もちろん、これは筆者の恣意的な選択にすぎない。雑誌名の後の括弧内には発行地を示した。

## I．生理学全般にかかわるもの

### 1．一国、一地域を代表するもの

Journal of Physiology*(London)
American Journal of Physiology* (Bethesda MD)
Pflügers Archiv*(European Journal of Physiology) (Berlin)
Acta Physiologica Scandinavica* (Stockholm)
Japanese Journal of Physiology (Tokyo)
Canadian Journal of Physiology and Pharmacology (Ottawa)
Journal of General Physiology* (New York)
Journal of Cellular Physiology* (New York)
Journal de Physiologie (Paris)
Indian Journal of Physiology and Pharmacology (New Delhi)
Chinese Journal of Physiology (Taipei)
Ceskoslovenska Fysiologie (Praha)

Acta Physiologica Polonica (Warszawa)
Acta Physiologica et Pharmacologica Bulgrica (Sofia)
Acta Physiologica Academiae Scientiarum Hungarica (Budapest)
Acta Physiologica Latinoamerica (Buenos Aires)
日本生理学雑誌（東京）

**2．大学の雑誌**

Quarterly Journal of Experimental Physiology (Cambridge ENG)
Yale Journal of Biology and Medicine (New Haven CT)

**3．Review 雑誌**

Physiological Reviews*(Bethesda MD)
Annual Review of Physiology* (Palo Alto CA)
Review of Physiology Biochemistry and Pharmacology (Berlin)
Harvey Lectures (New York)
Ciba Foundation Symposium (Amsterdam)
Physiologist*(Bethesda MD)
アメリカ生理学会の情報サービス誌

**4．他の領域のものも含まれているが、生理学関係の重要論文の多いもの**

Nature*(London)
Science*(Washington)
Life Sciences*(Oxford)
Molecular and Cellular Biology* (Washington)
Journal of Mathematic Biology (Heidelberg)
Experientia (Basel) 速報誌
Federation Proceedings (Bethesda MD)
Proceedings of the Society for Experimental Biology and Medicine* (New York)
Journal of Clinical Investigation* (New Haven CT)
Journal of Experimental Biology* (London)
Annals of the New York Academy of Sciences*(New York)
Clinical Science*(London)
Scientific American (New York)
Tohoku Journal of Experimental Medicine*(Sendai)
Zoological Science*(Tokyo)
Proceedings of the Royal Society of London. Ser.B: Biological Sciences* (London)
生体の科学*（東京）

## II．体液、電解質

**1、血液に関するもの**

Blood*(New York)
American Journal of Hematology (New York)
British Journal of Haematology* (Oxford)
Acta Haematologica (Basel)
Hemoglobin (New York)

**2．その他、体液電解質について重要な論文の出るもの**

Hamätologie und Bluttransfusion (Berlin)
Journal of Blood Transfusion and Immunohematology (Basel)
Journal of Laboratory and Clinical Medicine*(St Louis)
Clinical Chemistry (New York)
Scandinavian Journal of Clinical and Laboratory Investigation (Oslo)
Transfusion (Philadelphia)
臨床水電解質*（東京）

## III．呼吸

**1．基礎研究を主体にしたもの**

Journal of Applied Physiology* (Bethesda MD)

Respiration Physiology*(Amsterdam)
Aviation Space and Environmental Medicine (Washington)
Undersea Biomedical Research (Bethesda MD)
Archives Internationales de Pharmacodynamie et de Therapie*(Ghent)
呼吸に関する論文も含まれる
Sleep (New York)
睡眠中の呼吸障害に関し重要な論文が見られる
American Review of Respiratory Disease* (New York)
基礎的な論文も多く掲載される。

**2．臨床医学との関連の深いもの**

Chest*(Chicago)
Respiration (Basel)
Clinical Respiratory Physiology (Bulletin Europeen de Physiopathologie Respiratoire) (Nancy)
Thorax (London)
Lung (Heldelberg)
European Journal of Respiratory Disease (Copenhagen)
British Journal of Diseases of the Chest (London)
日本胸部疾患学会雑誌（東京）
呼吸と循環*（東京）
呼吸*（東京）
臨床呼吸生理（東京）

**Ⅳ．循環**

Circulation*(New York)
Circulation Research*(New York)
American Journal of Cardiology (New York)
British Heart Journal (London)
American Heart Journal*(St Louis)
Cardiology*(Basel)
Cardiovascular Research (London)
European Heart Journal (London)
International Journal of Cardiology (Amsterdam)
Circulatory Shock (New York)
Japanese Circulation Journal*(Kyoto)
Japanese Heart Journal*(Tokyo)
Lymphology (Stuttgart)
Progress in Cardiovascular Disease (New York)
Stroke*(New York)

**Ⅴ．消化**

Gastroenterology*(New York)
Gut*(London)
American Journal of Gastroenterology (New York)
Appetite (London)
Journal of Clinical Gastroenterology (New York)
Progress in Food and Nutrition Science (Oxford)

**Ⅵ．内分泌、生殖**

Endocrinology*(Philadelphia)
Journal of Endocrinology (London)
Journal of Clinical Endocrinology and Metabolism (Philadelphia)
Acta Endocrinologica*(Copenhagen)
Molecular and Cellular Endocrinology (Amsterdam)
Clinical Endocrinology (Oxford)
Endocrinologica Japonica (Tokyo)
Endocrine Reviews (Baltimore)
Recent Progress in Hormone Research*(New York)
International Journal of Biological Research in Pregnancy (München)
Andrologia (Berlin)
Biology of Reproduction (New York)
International Journal of Andrology (Copenhagen)
Journal of Andrology (Philadelphia)
Journal of Reproductive Medicine

(Chicago)
Journal of Reproduction and Fertility*
(Oxford)
Fertility and Sterility (Birmingham AL)
日本内分泌学雑誌（京都）

**Ⅶ．腎機能**

Journal of Urology (Baltimore)
Urology (Ridgewood NJ)
American Journal of Nephrology (Basel)
Urological Research (Berlin)
Renal Physiology (Basel)
Kidney International (Berlin)
Nephron (Basel)
Urologia International (Basel)
Nephrologie (Geneve)
日本腎臓学会誌（東京）

**Ⅷ．運動、体力**

European Journal of Applied Physiology
and Occupational Physiology*(Berlin)
Medicine and Science in Sports and
Exercise (Madison WI)
American Journal of Sports Medicine
(Baltimore)
Ergonomics (London)
Journal of Sports Medicine and
Physical Fitness (Toronto)
International Journal of Sports
Medicine (Stuttgart)
Exercise and Sport Sciences Reviews
(Philadelphia)
体力科学*（東京）

**Ⅸ．神経、筋**

Journal of Neurophysiology*
(Bethesda MD)
Brain Research*(Amsterdam)
Journal of Neurobiology*(New York)
Experimental Brain Research*(Berlin)
Acta Neurologica Scandinavica*
(Copenhagen)
Journal of Hirnforschung*(Berlin)
Journal of Neuroscience*(Baltimore)
Journal of Neuroscience Research
(New York)
Neuroscience Research*(Amsterdam)
日本で編集されている
Archives of Neurology*(Chicago)
International Journal of Neuroscience
(London)
Neuroscience*(Oxford)
Neuroscience Letters*(Amsterdam)
Neuropeptide (Edinburgh)
Annual Review of Neuroscience
(Palo Alto CA)
Progress in Brain Research*(Amsterdam)
脳と神経*（東京）
Electroencephalography and Clinical
Neurophysiology*(Amsterdam)
Clinical EEG Electroencephalography
(Chicago)
Journal of Autonomic Nervous System*
(Amsterdam)
Journal of Muscle Research and Cell
Motility (London)
Electromyography*(Louvain)
Perception (London)

＊印は亥鼻分館継続購読誌

（生理学・教授）

# 第５回国際医学図書館会議出席報告

**1985年９月30日～10月４日**
**－日本大学会館－**

アジアでは初めての国際医学図書館会議が、昨年の９月30日(月)から10月４日(金)までの５日間東京で開催されました。この会議には亥鼻分館からも職員が交代で出席しましたので、会議の内容、印象等について若干の個人的見解も含めて報告します。

会議の正式名称は第５回国際医学図書館会議（5th Internatioual Congress on Medical Librarianship）と称し、主催機関は日本医学図書館協会、共催は国際図書館連盟（ＩＦＬＡ）および世界保健機構（ＷＨＯ）によるものです。現在までの開催地、開催年は次のとおりであり最近は約５年毎の定期開催になりつつあります。

第１回　ロンドン（1953）
第２回　ワシントン（1963）
第３回　アムステルダム（1969）
第４回　ベオグラード（1980）

東京での会議は国電市ヶ谷駅近くの日本大学会館で行われましたが、参加国数は日本も含めて64ヶ国にわたりました。世界の約半数の国々からの参加で会場は国際色豊かな雰囲気で溢れ、会議の休憩時間にはあちこちに国際交流の輪が出来ていました。会議への出席者数は外国人 257名、日本人 311名の合計 568名、そのうち外国からの出席者のなかに占める女性の割合が比較的高く、それが会場を一層華やかにしていました。会議に先立って９月30日(月)に生涯教育のための研修会と図書館見学（日本科学技術情報センター、東京大学医学図書館、慶応義塾大学医学情報センター）が行われ、実質的な会議は10月１日(火)から始まりました。今会議のテーマは医学図書館―ひとつの世界：資源、協力、サービスとなっており、開会式に引続き牛場大蔵氏（国際医学情報センター）による基調講演、「21世紀へ向けての医学図書館」、各国スピーカーによるテーマスピーチが行われ、そのあと各分科会に分かれ４日間にわたり招待講演４題、一般演題 125題の発表が行われました。

本会議ではアジア地域からの参加者の発言が目立ちましたが、全体としての印象は一方にデータベースの利用等に象徴される情報の世界的規模での流通問題があり、他方にはこれから図書館の活動が組織的に始まる国の問題があるというように、かなり様々な要素を含んでいたように思われました。そしてこのことは現在の世界の医学図書館活動の中にあって日本の医学図書館の占める位置を、かなり明確に浮び上らせてくれました。また個人的には、ともすれば日常業務に追われて内側に向いがちな目を少しだけ世界へ向けさせてくれた会議でもありました。

次回の第６回会議は1990年インドのニューデリーでの開催が予定されています。

（運用係長　青木）

〈JOISにゅーす〉

# ＪＯＩＳ利用料金改定

本年１月６日より、ＪＯＩＳ利用料金が値下げ改定されました。改定の内容は、外国導入データベースについてファイル接続料金を一律20円値下げ（表１）し、それに伴いユーザＳＤＩ料金も基本料金を値下げ（表２）するというものです。

**1．オンライン料金**

（☆印は外国からの導入データベースです）

| 料金 / データベース名 | ファイル接続料金 | | ** オンライン回答出力料金（ヒットチャージ） | オフライン料金 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 公衆回線 | 特定回線 | | 手配料金 | 回答出力料金 Aタイプ（抄録付） | 回答出力料金 Fタイプ（抄録無し） |
| JICST | 200円／分 | 270円／分 | 10円／件 | 500円／回 | 35円／件 | 17円／件 |
| JCLEARING | 200円／分 | 270円／分 | 10円／件 | 500円／回 | 23円／件 | 17円／件 |
| JTERM | 200円／分 | 270円／分 | — | — | — | — |
| JCATALOG | 200円／分 | 270円／分 | — | — | — | — |
| JMEDICINE | 200円／分 | 270円／分 | 10円／件 | 500円／回 | 29円／件 | 17円／件 |
| JPUBLIC | 200円／分 | 270円／分 | 10円／件 | 500円／回 | 35円／件 | 17円／件 |
| NK-MEDIA | 240円／分 | 310円／分 | 10円／件 | 500円／回 | 35円／件 | 17円／件 |
| ☆MEDLINE | **180円／分** | **250円／分** | 10円／件 | 500円／回 | 30円／件 | 20円／件 |
| ☆TOXLINE | **375円／分** | **445円／分** | 23円／件 | 500円／回 | 55円／件 | 37円／件 |
| ☆CANCERLIT | **208円／分** | **278円／分** | 10円／件 | 500円／回 | 43円／件 | 25円／件 |
| ☆MESH | **180円／分** | **250円／分** | — | — | — | — |
| ☆CA SEARCH | **312円／分** | **382円／分** | 51円／件 | 500円／回 | — | 68円／件 |
| ☆CASNAME | **312円／分** | **382円／分** | — | — | — | — |
| ☆BIOSIS | **320円／分** | **390円／分** | 30円／件 | 500円／回 | — | 46円／件 |
| ☆CAB | **232円／分** | **302円／分** | 70円／件 | 500円／回 | 95円／件 | 76円／件 |
| ☆NTIS | **252円／分** | **322円／分** | 10円／件 | 500円／回 | 35円／件 | 17円／件 |
| ☆INSPEC | **364円／分** | **434円／分** | 58円／件 | 500円／回 | 95円／件 | 77円／件 |
| ☆FSTA | **280円／分** | **350円／分** | 26円／件 | 500円／回 | 51円／件 | 33円／件 |
| ☆EMBASE* | **330円／分** | **400円／分** | 21円／件 | 500円／回 | 51円／件 | 40円／件 |
| ☆MALIMET* | **330円／分** | **400円／分** | — | — | — | — |
| COAL | 200円／分 | 270円／分 | 10円／件 | 500円／回 | 35円／件 | 17円／件 |
| INIS | 200円／分 | 270円／分 | 10円／件 | 500円／回 | 35円／件 | 17円／件 |
| IRRD | 200円／分 | 270円／分 | 10円／件 | 500円／回 | 35円／件 | 17円／件 |
| 研修ファイル | 50円／分 | 50円／分 | — | — | — | — |

**2．ユーザSDI料金**

（☆印は外国からの導入データベースです）

| データベース | 基本料 | 回答出力料金 |
|---|---|---|
| JICST | 1,630円／1検索 | 35円／件 |
| JMEDICINE | 1,630円／1検索 | 29円／件 |
| ☆MEDLINE | **1,470円／1検索** | 30円／件 |
| ☆CA SEARCH | **1,780円／1検索** | 68円／件 |
| ☆EMBASE* | **1,700円／1検索** | 51円／件 |

## ♥寄贈著書ありがとうございました♥

**石川稔生**〔機能・代謝学〕

現代看護学基礎講座　5　薬理学　石川稔生著　真興交易医書出版部　1981　（WY 100）

現代看護学基礎講座　5　薬理学　石川稔生著　第２版　真興交易医書出版部　1985（WY 100）

**大塚　裕　石川　清**〔眼科学〕

糖尿病性網膜症と光凝固　大塚裕、石川清編著　金原出版　1985　（WK 835）

**川村　功**〔外科学２〕

図説重症肥満の手術　川村功著　メディカル・コア　1984　（WD 210）

**熊谷　朗**〔内科学２〕

代謝内分泌／アレルギー—熊谷朗業績集—熊谷朗業績集刊行会　1985　（W20.5）

**高橋照子**〔看護教育学〕

死をともに生きる看護—続・死の床にある患者たち—　早坂泰次郎ほか訳（分担翻訳：高橋照子）現代社　1985（看護学翻訳論文集　5）　（WY 100）

**平山恵造**〔神経内科研究部〕

神経内科治療マニュアル　平山恵造監訳　第２版　MEDSI　1985　（WL 100）

**喰代　修**〔解剖学２〕

ミクロの世界から虫たちの素顔—走査型電子顕微鏡写真集—教文館　1985　（ 486）

**本田良行**〔生理学２〕

肺と心機能の基礎と臨床　1、2　本田良行編　真興交易医書出版部　1985（WF 600）

**山浦　晶**〔脳神経外科学〕

くも膜下出血　山浦晶著　篠原出版　1985（WL 200）

昭和60年１～12月に寄贈を受けた著書です。（ ）内の記号は配架記号です。（敬称略、五十音順）

## 「医学文献のさがし方ガイダンス」実施報告

亥鼻分館では例年医学部学生（４年生を中心）を対象に標記ガイダンスを行っているが、今年度も60年11月11日(月)および11月18日(月)の両日分館演習室に於て下記の内容で実施した。

はじめにテキストにもとづき医学および関連分野の索引誌、抄録誌（Index Medicus、医学中央雑誌等）の構成、使い方について約２時間の説明を行い、そのあとJOIS による機械検索のデモンストレーションを行った。当日の出席者は11日が11名、18日が17名の計28名であった。

なお60年度中に看護学部、（１月27日、２月３日、２月17日の予定）、医学部付属看護学校（２月25日の予定）の学生に対しても同様のガイダンスを実施する予定である。

# 1986年購読雑誌の変更について

亥鼻地区における、1986年の新規購読および購読中止のタイトルは、下記のとおりです。

**新　規　購　読**

1. Biological Psychiatry (精　神)
2. Birth (母　看)
3. British Journal of Psychiatry (精　神)
4. Clinical Journal of Pain (麻　酔)
5. Diabetes Educator (図書館)
6. Effective Health Care (医　情)
7. Journal of Biological Response Modifiers (治療部)
8. Journal of Clinical Apheresis (輸　血)
9. Journal of Gastroenterology and Hepatology (内　1)
10. Life Support Systems (治療部)
11. Perspectives in Psychiatric Care (精　看)
12. Plasma Therapy and Transfusion Technology (輸　血)
13. Seminars in Anesthesia (麻　酔)
14. Transfusion (輸　血)
15. Transplantation Proceedings (外　2)
16. Western Journal of Nursing Research (看　教)
17. Clinical Neuroscience (図書館)
18. 放射線科 (放　部)
19. Immunohaematology (輸　血)
20. 授業研究 (継　看)
21. 交流分析研究 (図書館)
22. Mebio (図書館)
23. ナーシングトウディ (助　産)
24. 日本老年医学会雑誌 (基　保)
25. パテーマ (看　教)

**購　読　中　止**

1. Acute Care (医　情)
2. Agressologie (麻　酔)
3. Annales Francaises d' Anesthesie et de Reanimation (麻　酔)
4. Dissertation Abstracts International Sect.A.B (図書館)
5. Infection (検　査)
6. International Digest of Health Legislation (基　保)
7. Journal of Chronic Diseases (基　保)
8. Journal of Clinical Pathology (検　査)
9. Mycologia (皮　膚)
10. 母子保健情報 (助　産)
11. 治験薬情報 (薬　剤)
12. トランジスタ技術 (生理1)

**千葉大学附属図書館亥鼻分館報 "らいぶらりいゐのはな" No.16**　1986年2月10日発行
千葉大学附属図書館亥鼻分館発行　　発行者：林　豊
千葉市亥鼻1－8－1　　電話 0472(22)7171(大代表)

千葉大学附属図書館亥鼻分館報

# らいぶらりい 亥のはな 17

1986. 9

●目次●

広場

技術革新に関する諸問題——降矢震——2

〈JOURNAL紹介〉微生物学——清水文七——4

DIALOG情報検索サービス開始——6

**「櫻樹林」** 啓蟄の候ともなれば櫻の花が待たれる。わけてもグランド周辺の櫻は美しい。だが今日はそれとは別に我が幻の櫻の山櫻樹林に就いて少し書いて置きます。先日私は迂回して病院正門の前の通りに出た。右手にタクシーの溜り場があり、落葉した榎の梢に赤い夕日の落ちる時であった。後には欅の林が静まっていた。数台のタクシーが一々の画線の中に納っていた一段程の舗装された空地である。ここが曽ての櫻の山櫻樹林の跡である。昭和3年我々は卒業と同時にここに数十本の櫻の苗木を植えた。春になると其のささやかな梢にも、ちらほらと白く花が咲いた。其の后幾年か過ぎ苗木は成木となり観櫻の名所ともなった。我々は毎年クラス会を開いた。或る年この櫻樹林がキャッチフレーズとなり記念碑を立てることになった。昭和32年春5月であった。時の学長小池敬事先生の手を煩はして櫻樹林と碑銘を書いて頂いた。石は方尺の小さい物であったが石屋がリヤカーに積んで運んでくれた。数名の友人が立会って建碑式が行れた。時の新聞は美挙としてトップ記事に載せてくれた。幸いに其の時の写真がとってありましたのでここに添付して置きます。其の後また幾年か過ぎ、私は所

用あって新病院の正門をくぐった。曽ての櫻樹林は其処にはなかった。駐車しようとするとバラバラとタクシーの運転手が出て来て「駄目だ」と制された。勿論其処には１本の櫻もなく記念碑もなかった。私は仕方なく病院の外来駐車場の方に向った。

以上簡単ながら櫻樹林の顛末を語って置きます。

（千葉医科大学　昭和３年卒　中島元徳）

# 広場

## 技術革新に関する諸問題

降矢　震

情報の検索、伝達、記録等の技術は急速に進歩し、我々はこれにより多くの便宜がえられるようになってきた。反面それらから様ざまな逆効果をも生じている。その一因は高度な分業化により、技術者は〝木を見る者は森を見ず〟で、手段を目的と取り違えている事でもある。〝電算機の上手な利用法は、できるだけ使わない事である〟という逆説的な言い方は、電算機の利用を軽視しているのではなく、上記の傾向に対する高所からの批判なのである。今ここに図書に関する現実におきている諸問題について考えてみよう。

複写機の普及は利用者には最も身近な便宜を与えてくれた。しかし以前のように論文の要点をメモする必要がなくなり、コピーを〝積ん読〟することが多いという問題が生じた。以前、特に戦中は書籍の購入が困難だったから、学生は必死になってノートをとったものである。今ではそのような姿は殆んどみられない。複写・印刷が簡単にできるようになり、至れり盡せりの資料が配られるし、参考書も多種類閲覧しうるようになったからである。しかし講義を聞きながら、その内容を一瞬の間に数分の一に要約してノートしなければならぬ事は、極めて不完全な結果しかえられぬとはいえ、得難い頭脳の訓練であったろう。

〝以前は研究者が関連論文を選びだして読むのに、週間８時間ですんだが、今では１日48時間でも足りない〟といわれた。30年後の今日では各分野での原著論文の数は更に急増している。それらの検索の為にジョイスとかダイアログなどというデーターベースが整備されている。特許関係の人々には大変便利で、これなくしてはやってゆけぬという。しかし一般の我々にとっては、膨大な数がえられるが、その高価な経費の割合には利用価値が意外に少なく、カレントコンテント中の主要誌の題目を見る方が手取早いという人もいる。

故赤松先生は「あまり文献ばかり読みすぎると実験がおろそかになる。そうした利口者は、実験をやる前から結果が判っているような気がしてしまうから、やる気がしなくなる。読まねばならぬ文献の数はそんなに多くはない。また大切なのは実験材料と実験方法である。これらについては充分によく調べ、自分の頭で実験計画を立てる事だ」と教えられた。

〝横浜商会〟とか〝船来鞄〟というような言葉もあった。最新の文献を読む事に狂奔する者を揶揄したものである。実験をせずに総説を書く人々であった。しかし情勢の変化は評価をも変える。総説は貴重な存在となった。今のように情報の氾濫するときには総説を読む事は大変に時間の節約となるからである。

数年前、ニューヨーク病院の血液検査を見学した。古い建物であったから新らしい電算機システムはない。採血するや直ちに測定する。ここまでは電算機システムは無関係である。しかしデーターがでると直ちに各自がもつＣＲＴで入力する。採血してから10分以内に報告が終る。我々は病院の電算機システム

が実用されて数年経った時であった。それまでの所々の実施例の長所を取り入れ、最も効率のよいシステムを考えたつもりであった。しかし受付以下のシステムに多くの機構が介入するため、報告までに１時間以上を要する事が多い。目的は迅速なデータの報告であり、彼等にはその為のＣＲＴは各自に配備されていた。我々はシステム化の為に大部分の予算を使い、ＣＲＴは全体で９台しかない。目的と手段とを転倒していた事を深く反省した。しかしトータルシステムは女房と同じで、一旦決めたら全面変更は新設するのと同じで、予算的に不可能である。今回図書館の電算機システム化が精力的に推進されている。これも同じ様な問題を含んでいる様に思う。計画する方々の参考として記す次第である。高所に立って目的を明確にし、出来るだけ単純にして実用的に効率のよいシステムとすべきである。

図書館の中央化は管理運営の上では大変能率がよい。医科大学当時の図書館には学習用の参考書や二次文献の一部位が配架され、大部分の専門書は各教室の図書室に置かれていた。その後の教室の移転が行われた際各教室の図書室面積の縮少に伴ない、利用頻度の少ない専門誌は図書館に返納され、かなりの中央化が促進された。新設医科大学では当初より中央化の方針の所もあるという。この中央化にも問題がある。例をまた検査システムにとってみよう。以前は各科が別々に検査室を持っていたが、検査項目と件数の増、使用機器の高額化、専門技術の必要性から中央化が進められた。しかし中央化による不便さが目立つようになり、各病棟や中央診療部の夫ぞれの特殊性に応じた項目が、その場で直ちに行えるような〝サテライト検査室〟が備えられる趨勢にある。これは昔に逆行したのではない。中央化は中央化の合理性を充分に発揮するが、各部門では夫々の緊急性に応じた事をやる様になったのである。図書館についても同様であろう。亥鼻分館としては医学・生物学等の一般書と各教室で利用頻度の少くなった専門誌を置き、各教室で必須な専門誌は夫ぞれに分散すべきではなかろうか。本は必要に応じて読まれるのが目的であり、管理運営は手段にすぎないのだから。分散による管理の悪さから雑誌に欠号がでる事があっても、それと読まれ易い状態におくのとどちらかを執るかのかねあいとなる。

情報伝達技術の進歩は図書館の在り方にも変化を与える。今文部省では地方毎に情報センターを設け、各大学の図書館を介して各人はこれを利用できるようにすべく準備中である。学術書、特にそのうち専門雑誌の新たな刊行が増加し、各施設でそれらを購入することが予算的にできない事もその設立理由の一つである。これで各施設では利用頻度の少ない専門誌を無理して購入する必要もなくなる。また前記各教室必要雑誌の分散による欠号の発生の問題も解消しよう。

技術の進歩は書類の保管にも変化を与えた。一時マイクロコピーが大いに持囃され、カルテをこの形で保管したらよいといわれた時があった。しかし高温多湿の日本では不向きであるという事から、実際には行なったという話はきかない。実用にはカルテから作られる要点を様式化して磁気テープやディスクに納め、診療や統計処理等に利用する事が、既に20年前には米国で行なわれていた。肉筆で書いたカルテは書籍と違い、唯一つしかない貴重な記録である。収納場所が足りないといって粗略に扱うべきではない。永久保存として完備した書庫に収納すべきである。

図書館の書庫には如何なる書籍を保管すべきかも問題であろう。図書館ではこれを実際に利用する事を主体とするか、殆んど利用されぬが既購入の書籍の保存にも重点をおくかである。勿論実際には両者ともに行なわれているが、蔵書が年々増加し、各教室からの返納希望が増え、これに対して書庫の広さが限られているから近い将来の課題となる。Haldane の“The Enzyme”は外国では再刻され出版された位の歴史的価値のある本である。これを読み直す必要があって図書館へ問い合せた所、返納されてはいないという。かつて何回かに亘る教室図書の図書館への返納に際し、単行本の類の多くは廃棄された。目録をみると、千葉以外には新潟と慶応にあることになっていた。両者に問い合せて貰った所、いづれにも今はないという。教室で不要書を

廃棄する際にいづれを選ぶかは担当者の好みによる。当人は要らぬと思っても他者には重要なものもある。古い書籍を全部保管する事は不可能であるが、その選択は大変むづかしい。“蛋白質・核酸・酵素”誌の発刊に当り、核酸研究でも権威であった赤松教授が、核酸の発見に関し、十九世紀の研究の歴史についての原稿を依頼された。丁度先生は学部長になられ、多忙の為私がこれを下請する事になった。この時の主要文献は百編を超えたが、驚いた事にはその殆んどは医学部内にあり、他学で読んだのは3編にすぎなかった。本学にあったこれらのいくつかは既に廃棄されているだろうと考えると、残念な気がする。新らしい書籍はどこにでもある。殆んど利用される機会のない古い本の取り扱いを慎重に願いたいというのは感傷であろうか。

さて以上取りとめのない事を列記してきた。また現行の批判のみを誇張しすぎた嫌もある。しかし本旨は、このように技術革新が激しく、利用者として如何に対応すべきかとしての具体的問題を提起したかったのである。勿論それは人により大変な違いがあろう。また多年の懸案である分館の新営が実現する迄に、その内容を如何に整備するかの意見の最大公約数をまとめる為には討議を重ねる必要があろう。その為の話題としても肝心の事と思われるからである。

（亥鼻分館長）

〈Journal 紹介〉

# 微生物学

清水文七

微生物とは肉眼ではみることのできない程に小さな生物の総称であり、その中には細菌、真菌、原生動物、ウイルスなどが含まれる。このような微生物を研究する科学が微生物学である。医学ではこれらの微生物が感染という形をとってヒトに感染症を起こすことが重要視され、主として病原微生物の研究が中心をなしてきた。しかし、今日では病原微生物にとどまらず培養細胞をも対象とするようになっている。一方、病原微生物の感染に対する生体の応答について研究するのが免疫学であるが、感染抵抗性の本態の解明と不可分の関係をもって発達して来たために今日でもしばしば微生物学の1領域として取扱われている。しかし病原微生物にとどまらず、異物の認識とそれに対する生体の応答を基本とする免疫現象を対象とするように拡大され、免疫学は独立した分野となった。他方、わが国では原虫学は寄生虫学、医動物学として独立に取扱われるならわしであるのでここでは言及しないことにする。

従ってここには細菌・ウイルス学関係の雑誌の紹介を致したいが、多様化と細分化の進むなかで膨大な数の雑誌が発行されている現状では以下の分類とリストは極めて片寄りのあるものであることをお断りしたい。

### A　細菌学を中心とした微生物学誌

1. Antimicrobial Agents and Chemotherapy
2. Journal of Bacteriology*
3. Infection and Immunity*
4. Journal of Clinical Microbiology
5. Applied and Environmental Microbiology
6. International Journal of Systematic Bacteriology
7. Journal of General Microbiology
8. Journal of Medical Microbiology
9. Microbiology and Immunology

まず、細菌、真菌、抗生物質を中心とした微生物学の現状について Science Citation Index(SCI)誌の Journal Citation Reports (Journal Rankings —1984) の資料をもとにしてリストを作ってみた。 Microbiology の項には総説誌を含めて52誌があり、それら

は学術誌の評価基準の1つとなる impact factor 順になっている。ここではその順に従って9誌を取り上げた。かつて細菌の狩人達の活躍の舞台となった Zentralblatt für Bakteriologie und Parasitologie (33位)の影はうすく、アメリカ微生物学会(ASM)誌が6位までを独占している。日本の細菌学会・ウイルス学会・免疫学会合同の唯一の欧文誌(リスト9番)は32位にランクされている。もっとも、J. Bacteriol.(ASM発行)の1984年度掲載論文の国別調査では米国(62%)、日本(8%)、ドイツ(5%)、カナダ、フランス、英国などの順となっていた。なお3番誌は著者が免疫領域からここへ編入を行ったものである。

### B　ウイルス学誌

1. Journal of Virology (1967年創刊)
2. Virology* (1955)
3. Journal of Medical Virology (1977)
4. Journal of General Virology (1967)
5. Intervirology (1973)
6. Antiviral Research (1981)
7. Archies of Virology* (1939)
8. Journal of Virological Methods(1980)
9. Acta Virologica (1957)
10. Virus Research (1984)

SCI誌の資料によると総説誌を含めて17誌が登録されているが、impact factor の高い順に10誌をあげた。まずこの分野が新しいことは雑誌の発行年からうかがえるであろう。最も古い7番誌(ウィーン)は現在ははかばかしくなく二流誌となって、トップの座はASM誌にゆずることとなった。この差は論文の質と編集方針によるもので、原稿受理率が5割を切るようなトップ誌に増々原稿が集まることになるのである。

### C　関連分野

1. International Journal of Cancer*
2. Journal of Biological Chemistry*
3. Lancet*
4. New England Journal of Medicine*
5. Cancer Research*
6. Journal of the National Cancer Institute*
7. Journal of Molecular Biology*

関係論文の掲載頻度、情報源の重要性などを考慮して順位をつけた。

我々は腫瘍ウイルスの研究を行っているのでここに掲げる雑誌は我々にとってはウイルス学誌同様に必要となるものである。このリストは研究テーマによって著しく変るであろうが、このように関連論文は専門誌にとどまらず、関連領域雑誌へと拡がっていくものである。

### D　ライフサイエンス4誌

1. Nature*
2. Science*
3. Cell*
4. Proceedings of the National Academy of Scinces of the United States of America*

ここにあげるまでもなく必須である。

### E　遺伝子工学誌

1. Molecular and Cellular Biology*
2. EMBO Journal*
3. Nucleic Acids Research*
4. Gene*
5. DNA

1番誌はASM誌で守備範囲が広く急成長しているので、むしろDグループに入れるべきであろう。

### F　総　説　誌

1. Microbiological Reviews*
2. Current Topics in Microbiology and Immunology
3. Advances in Virus Research*
4. Progress in Medical Virology
5. Comprehensive Virology

ウイルス学の総説誌に限ったが、1・2番誌には細菌、免疫関係の総説も載る。最近、このような総説専門誌はあまり利用されなくなった。総説が出版される頃には内容にかなりの訂正が加えられる時代であるからである。

*印は亥鼻分館継続購読誌

(微生物学　教授)

# DIALOG情報検索サービス開始

4月1日より、ＤＩＡＬＯＧ情報検索サービスを開始しました。従来のＪＯＩＳと比較した、ＤＩＡＬＯＧの特徴は表１の通りです。

表２は、亥鼻分館の利用者が使う可能性のあるデータベースの一覧表です。

なお詳しくはカウンター（内線2808）へお問い合わせ下さい。

**表１　ＪＯＩＳとＤＩＡＬＯＧの比較表**

| 項　目 | Ｊ　Ｏ　Ｉ　Ｓ | Ｄ　Ｉ　Ａ　Ｌ　Ｏ　Ｇ |
|---|---|---|
| 概　要 | 日本科学技術情報センター（ＪＩＣＳＴ）が提供。医学をはじめ自然科学分野のデータベースを収録 | 米国ＤＩＡＬＯＧ情報サービス社が提供。自然、人文、社会科学等の全学問分野に及ぶデータベースを収録 |
| ファイルの種類 | ＪＩＣＳＴ、ＭＥＤＬＩＮＥ、ＥＭＢＡＳＥ<br>等18種類 | ＭＥＤＬＩＮＥ、ＥＭＢＡＳＥ<br>等約250種類 |
| 検索期間 | ＭＥＤＬＩＮＥ　1972年～<br>ＥＭＢＡＳＥ　1980年～<br>ＣＡＳＥＡＲＣＨ　1977年～ | ＭＥＤＬＩＮＥ　1966年～<br>ＥＭＢＡＳＥ　1974年～<br>ＣＡＳＥＡＲＣＨ　1967年～ |
| 主な検索方法 | ・キーワード検索<br>・分類コード検索<br>・フリーターム検索<br>複合語を検索する時は１語づつ入力した後、掛け合わせる（論理積）<br>（例）1.　ft：congenital<br>2.　ft：generalized<br>3.　ft：fibromatosis<br>4.　1×2×3<br>隣り合った語だけでなく、離れた所からも探してくるので、不必要な文献が入ってくる。 | ・キーワード検索<br>・分類コード検索<br>・フルテキスト検索<br>複合語を検索する時は近接演算子を使用<br>（例）congeninal(w)generalized(w)fibromatosis<br>と入力するとこの順で並んだ文献のみが検索される。また近接演算子(n)を用いると語順は問わないが隣接した語のみを検索する。 |
| 利用料金 | 1.　ＪＯＩＳサービス料金<br>ＪＯＩＳサービス料金表により固定。<br>料金の改定はあり。<br>2.　電話料金<br>20円／分 | 1.　ＤＩＡＬＯＧサービス料金<br>ＤＩＡＬＯＧ情報サービス社が発行する使用明細書に基づき、代理店が使用月の為替レートにより、円価で翌月下旬請求（手数料15%込み）<br>2.　データ通信料金<br>KINOCOSMONET　80円／分<br>電話代　20円／分 |
| 一検索当りの総費用（平均10分20件出力） | ＭＥＤＬＩＮＥ<br>オンライン接続料　出力料　電話料　合計<br>1,800 ＋ 200 ＋ 200 ＝ 2,200円<br>ＥＭＢＡＳＥ<br>3,230 ＋ 200 ＋ 200 ＝ 3,630円<br>ＣＡＳＥＡＲＣＨ<br>3,120 ＋ 1,020 ＋ 200 ＝ 4,340円 | ＭＥＤＬＩＮＥ<br>オンライン接続料　出力料　手数料　通信料　合計<br>(960 ＋ 160) × 1.15 ＋ 1,000 ＝ 2,288円<br>ＥＭＢＡＳＥ<br>(2,240 ＋ 1,408)× 1.15 ＋ 1,000 ＝ 5,195円<br>ＣＡＳＥＡＲＣＨ<br>(2,400 ＋ 736) × 1.15 ＋ 1,000 ＝ 4,606円<br>＊ 160円／ドルで計算 |

## 表2　データベース一覧表（利用料金含む）

昭和61年4月1日現在

| データベース名 | データベース製作機関 | 主題分野 | 検索期間 | 接続料／時 | オンライン出力料／件 | オフライン出力料／件 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| BIOSIS PREVIEWS | BioSciences Information Service | 生物科学 | 1969～ | $ 84 | $ 0.24 | $ 0.34 |
| CA SEARCH | Chemical Abstracts Service | 化学・化学工学 | 1967～ | 90 | 0.23 | 0.35 |
| CHEMICAL EXPOSURE | Chemical Effects Information Center, Oak Ridge National Laboratory | 化学品被曝情報 | 1974～ | 45 | — | 0.15 |
| CHEMNAME® | DIALOG Information Services, Inc. | CA の化合物索引辞書 | 1967～ | 158 | 0.18 | 0.32 |
| DRUG INFORMATION FULLTEXT | American Society of Hospital Pharmacists | 医薬品情報 | 最新情報 | 48 | 0.25 | 0.35 |
| EMBASE | Excerpta Medica | 医学 | 1974.6～ | 84 | 0.44 | 0.33 |
| HEALTH PLANNING AND ADMINISTRATION | U. S. National Library of Medicine | 健康管理 | 1975～ | 36 | 0.05 | 0.20 |
| INTERNATIONAL PHARMACEUTICAL ABSTRACTS | American Society of Hospital Pharmacists | 医薬品情報 | 1970～ | 69 | 0.27 | 0.38 |
| LIFE SCIENCES COLLECTION | Cambridge Scientific Abstracts | ライフサイエンス | 1978～ | 87 | 0.35 | 0.45 |
| MEDLINE | U.S. National Library of Medicine | 生物医学 | 1966～ | 36 | 0.05 | 0.20 |
| MENTAL HEALTH ABSTRACTS | National Clearinghouse for Mental Health Informatjon | 精神医学 | 1969～ | 66 | 0.10 | 0.20 |
| NURSING & ALLIED HEALTH(CINAHL) | Cumulative Index to Nursing & Allied Health Literature[CINAHL] | 看護学、健康管理 | 1983～ | 54 | — | 0.25 |
| OCCUPATIONAL SAFETY AND HEALTH(NIOSH) | U.S. National Institute for Occupational Safety & Health Technical Information Center | 職場の安全・衛生 | 1972～ | 57 | 0.25 | 0.30 |
| PHARMACEUTICAL NEWS INDEX | Data Courier, Inc. | 医薬品、医療機器 | 1975.12～ | 126 | 0.55 | 0.55 |
| SCISEARCH® | Institute for Scientific Information | 科学技術全般 | 1974～ | 63 | 0.20 | 0.25 |
| TELEGEN® | EIC/Intelligence | 遺伝子工学、生物工学 | 1973～ | 95 | 0.20 | 0.30 |
| ZOOLOGICAL RECORD | BioSciences Information Service | 全世界の動物文献 | 1978～ | 87 | 0.20 | 0.26 |

## 昭和61年度　開館日程表

| 区　分 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 通常開館<br>週　日　9：00－17：00<br>土曜日　9：00－12：00 | ←→ | ←→ | ←→ | ←→ | ←→ | ←→ | ←→ | ←→ | ←→ | ←→ | ←→ | ←→ |
| | 1<br>(火) | | | | | | | 4 6<br>(火)(木) | 25<br>(木) | 6<br>(火) | | 31<br>(火) |
| 時間外開館<br>週　日　17：00－20：00<br>土曜日　12：00－16：30 | ←→ | ←→ | ←→ | ←→ | | ←→ | ←→ | ←→ | ←→ | ←→ | ←→ | ←→ |
| | 7<br>(月) | | | 26<br>(土) | | 1<br>(月) | | 4 6<br>(火)(木) | 25<br>(木) | 6<br>(火) | | 14<br>(土) |
| 日曜開館<br>13：00－17：00 | 13，20<br>27 | 4，11<br>18，25 | 1，8<br>15，22<br>29 | 6，13<br>20 | | 7，14<br>21，28 | 5，12<br>19，26 | 2，9<br>16，30 | 7，14<br>21 | 11，18<br>25 | 1，8<br>15，22 | 1，8 |
| 休館日<br>（祝日、他） | 6，㉙ | ③，⑤ | | 27 | 3，10<br>17，24<br>31 | ⑮，㉓ | ⑩ | ③，5<br>㉓，24<br>創立記念日 | 年末<br>←→<br>26(金) | 年始⑮<br>←→<br>5(月) | ⑪ | 15，㉑<br>22，29 |

○印は祝日

日曜と祝日が重なる場合は休館。また振替休日も休館

### ♥寄贈著書ありがとうございました♥

**斎藤　篤**〔解剖学１〕

身体障害児　教師のための医学アトラス　E. E. Bleck, D. A. Nagel 編著　上原すゞ子　斎藤篤監訳　協同医書出版　1986　（WS200）

**高橋照子**〔看護教育学〕

健康を－生きる－人間　パースィ看護理論　ローズマリー　R. パースィ著　高橋照子訳　現代社　1985　（WY86）

**中島紀恵子**〔基礎保健学〕

ぼけ　理解と看護　中島紀恵子、石川民雄著　時事通信社　1983　（WY152）

老人看護学　大友英一、中島紀恵子編著　真興交易医書出版部　1986　（WY152）

**三浦義彰**〔生化学２〕

バイオモジュレーション　ライフサイエンス新領域の展望　三浦義彰、伊藤京子共著　丸善　1986　（QU４）

**柳橋雅彦**〔精神医学〕

アルコホリスムス　アルコール乱用と依存　W. フォイエルライン著　柳橋雅彦、松原公護訳　牧野出版　1986　（WM274）

昭和61年１～７月に寄贈を受けた著書です。（　）内の記号は配架記号です。（敬称略、五十音順）

### 人　事

―61．４．１―

分　館　長　降矢　震　（附属病院検査部長）
事　務　長　笈田　定　（教育学部事務長補佐）
目録情報係長　岩沢　明　（放送大学学園）
学術資料係長　高橋喜一郎（整理係）
放送大学学園　青木公男　（運用係）辞職

### 亥鼻分館運営委員

―61．４．１―

| 氏　名 | 所　属 | 交替者 |
|---|---|---|
| 降矢　震 | 附属病院 | 林　豊 |
| 永野　俊雄 | 医学部 | |
| 清水　文七 | 〃 | 岡本　昭二 |
| 山口覚太郎 | 看護学部 | |
| 兼松百合子 | 〃 | 野口美和子 |
| 畝本　力 | 生物活性研究所 | |
| 林　万喜 | 〃 | |
| 山口　豊 | 附属病院 | |
| 吉田　尚 | 〃 | |
| 河野　繁蔵 | 附属図書館 | |

**千葉大学附属図書館亥鼻分館報“らいぶらりいゐのはな„ No.17**　1986年９月１日発行
千葉大学附属図書館亥鼻分館発行　　発行者：降矢　震
千葉市亥鼻１－８－１　　電話 0472(22)7171(大代表)

千葉大学附属図書館亥鼻分館報

# らいぶらりい みのはな 18

1987. 4

●目次●

広場

食　物――――――木村　康――――2

〈JOURNAL紹介〉薬 理 学――村山　智――――3

図書館を10倍上手に利用する方法

Ⅵ. Science Citation Index（SCI）の使い方――――――5

1987年購読雑誌の変更について――――――7

**「長尾先生の像側に佇んで」**

医科大学当時は町外れであったが、今は大千葉市の略中央となり、亥鼻キャンパスの内容も一新した。病院坂はあまり変りないが、少し入れば、師範学校跡は市の文化センターとなり、護国神社跡には古人が想像もしえぬコンクリートの天主閣が建っている。戦時中供出された長尾先生の胸像は、医学創立85周年を期して、所を変えて図書分館の西方に台座のみを復元し、ささやかなレリーフとして再建された。ここから見る天主閣、特に桜の時期には格別の趣がある。星移り人変る様をこの始祖は如何なる想で見ておられるのであろうか。

（分館長　降矢　震）

広場

# 食　物

木村　康

近頃のテレビ番組は食生活に関係するものが多い。お決まりの料理番組からグルメ番組まで極めて多彩である。戦前から終戦直後までの日本人の食生活を知る者は只その変貌ぶりに驚くばかり、お蔭で休日のレストラン、食堂の混雑は実に凄まじい。これも平和と豊かさのお蔭、いまや日本人総グルメ時代というわけである。ほんとにそうだろうか？などとここで批判するつもりはない。人間の最大の欲望である食欲が、何時でも何処でも満たされることはまことに結構。しかし私にとっては大変困ることがある。これからその理由をお話しよう。

私の専門は法医学、殺人が起これば死体を解剖する。解剖が終われば死因や原因となった損傷、死後の経過時間などを報告しなければならない。死後の経過時間とは死んでからどの位時間が経っているかということであるが、これを推定する資料の一つに胃の内容物の消化状態がある。何を食べて、それがどの位消化されているかが判れば食後の時間が推定出来るからである。また、胃や腸の内容物に含まれている未消化の食物の細片から何を食べたのか推測することが出来、個人の食生活もおぼろげながら推察出来るので、捜査本部が置かれるような事件では食べた食物の種類までも検査しなければならない。食物の種類が多過ぎて、これまで見たことのない種類のものが混じっていた場合は大変困るのである。デパートや八百屋の店先に並んでいる新種のものや、輸入ものなど目につき次弟購入して他種との鑑別点を検討し、普段から準備しているのであるが、最近の日本人の食生活に登場する食物の種類の多さにはほとほと困り果てている。

食物の中には調理の仕方で消化が良くなったり、悪くなったりするものがあるが、最近のグルメばやりの料理では一般に消化が良くなり、同じ食物でもその形態から食後の時間を判断するのが仲々困難な場合もあり、全くの鑑定人泣かせである。

さて、“パンを食べたら毛が出てくる”と云ったら誰でも驚くに違いないが、パンは発毛剤ではないから毛が生える筈がない。しかしパンを食べたかどうかを判断するのは小麦の澱粉と小麦の毛が鑑別の指標になる。だからドロドロに消化されている胃の内容物を顕微鏡で検査した時、小麦の毛が出てくればパンを食べたと推察することが出来る。それではウドンならどうだ、同じ小麦粉の製品じゃないかと疑問が出てくるだろう。そうです、それも先刻承知のことです。ウドンも消化されれば、小麦の毛が出て来ます。しかしウドンは形が違う。細長い紐状のウドンが消化されるとブツブツに切れてしまうが、それでも肉眼的にはウドンであったことが判る。その上一緒に食べる物が違う、パン食の時は何を食べるだろうか、アレコレ考えながら消化されていない物を検査して何を一緒に食べたかを判断して結論を出す、これが胃内容検査の一端であり、死体が生前に食べた物を究明して行く初歩である。

魚はどうだろうか、肉だけでは駄目である。皮や鱗が見つかればほとんど確実に食べた魚の種類を判断することが出来る。鱗は魚の種類によって特徴があるが、魚を食べる時に鱗まで食べることは少ない。小魚などは頭から鱗の付いたまま食べることが多いが、大きな

魚になると鱗の付いたまま食べることはない。焼き魚や煮魚を皮の付いたまま食べた時は皮に特徴があるので鑑別は比較的容易である。鑑別の指標は色素粒の色調と形である。面白いことは皮の黒い魚でも赤い色調の色素粒が混じっていることである。形も条状のものからクモのような形のものまである。しかし最近は焼き魚の焦げた皮は発ガン性があると考えてか食べない人が多いので、同じ魚でも焼き魚か煮魚か判断に苦しむことがある。

甲府の人はブドウは種ごと、或いは袋（果皮）ごと食べるのが通だと云う。ブドウの種も種類を判断するには便利である。一様に形は似ているが、よく見ると種類によって大きさも違うし、形も違い、表面の構造も違うので識別し易い。山ブドウの種から犯人が歩いた道筋を推測して、付近の聞き込みから犯人が逮捕された事件もあった。

食物は食べるものである、味も香りも記憶に残る。しかし長年その形を肉眼的や顕微鏡的に見ていると特徴ある細胞や線維、色素粒、油滴などは記憶に残る。食べ物のカスと云うと何やら汚く聞こえるが、顕微鏡を通して見ていると造化の妙に感嘆して仕事であることを忘れてしまうこともある。自分の排せつ物から昨日の昼に何を食べたのか判ってしまうとはまさに“お釈迦さまでもご存じあるまい”というところであろうか。（医学部長）

〈Journal 紹介〉

# 薬　理　学

村　山　智

薬理学の一般的な姿を大まかに眺めてみると、生体の機能を薬物を用いて解明して行く立場、新しく抽出されたり、合成されたりした薬物について研究し、臨床応用への可能性、方法を探究する仕事があるが、さらに既に治療に用いられている薬物について別の用途を導き出したり、はからずも生じた薬物による事故の究明や救済への対策を樹立すること等もその使命に含まれる。この後半の、やや社会医学的性格をも帯びる薬理学の使命についてはとかく深入りされず、ことにわが国の薬理学者が避けがちな点である。本稿を書くに際して眺め返してみても、国の内外を問わず、その面での雑誌の手薄さに改めて気付いた。しかし、ともあれ、基礎医学から臨床医学への重要なかけ橋として、医学教育の根幹の一つである薬理学に関する定期刊行物は、他の領野と同様に今や実に多種多彩である。本誌の既刊号をみると、既に解剖学、生理学、生化学、微生物学等の学術雑誌についてのよき紹介が掲載済であるが、それらに共通する「境界領域の相互関係」「専門領域を対象とした雑誌の発展」等は薬理学についても全く同様であり、紹介記事の書き方についても既に執筆された方々と同じく、学問の多様化と細分化のなかで、膨大な数の雑誌を偏りなく眺めて、自己の専門領域にことさら偏ることなくまとめ得るか否かへの危惧は筆者にもたしかにある。また、本稿の対象をどこに置くかについての明確な判断もないままに、ごく一般的に薬理学関係雑誌を、なるべく亥鼻分館でみられる雑誌を中心にまとめたものであることをお許しねがいたい。なお Nature, Science 等は折にふれて当然目を通す機会のあるものとしてはぶいた。なお、以下の雑誌の選択には鈴木俊雄講師の協力を得た。

**A. LIST OF JOURNALS INDEXED IN INDEX MEDICUS より抜き出した薬理学、中毒学、薬学に関係する雑誌数**

① Pharmacology (82)
② Toxicology (44)
③ Pharmacy (28)

ちなみに、Psychopharmacology (12)
Neuropharmacology (5)

**B．SCI(Science Citation Index)の Journal Citation Report より広く抜き出した薬理学関係の雑誌数**

① Pharmacology and Pharmacy (125)
② Neurosciences (102)
③ Toxicology (27)

**C．薬理学全般にわたる代表的な雑誌**
（①～⑨はＳＣＩの20位中よりの選択、カッコ内の数字は創刊年を示す）

① Annual Review of Pharmacology and Toxicology (1961/Palo Alto) ＊
② Pharmacological Reviews (1949/Baltimore) ＊
③ Molecular Pharmacology (1965/New York) ＊
④ British J.Pharmacology (1946/London) ＊
⑤ Naunyn-Schmiedeberg's Archieves of Pharmacology (1873/ Berlin) ＊
⑥ J.Pharmacology and Experimental Therapeutics (1909/Baltimor) ＊
⑦ European J.Pharmacology (1967/Amsterdam) ＊
⑧ Trends in Pharmacological Sciences (1979/Amsterdam) ＊
⑨ Biochemical Pharmacology (1958/Oxford) ＊
⑩ J.Pharmacy and Pharmacology (1949/London) (SCI 43位) ＊
⑪ Archives Int.Pharmacodynamie et de Therapie (1895/Ghent) (SCI 68位) ＊
⑫ Japanese J.Pharmacology (1951/Kyoto) (SCI 69位)
⑬ Arzneimittel-Forschung(1951/Aulendorf) (SCI 75位) ＊

**D．薬理学の特定の領域に関係する雑誌**

① Advances in Pharmacology and Chemotherapy
② J.Autonomic Pharmacology
③ Int.J.Immunopharmacology ＊
④ Nueropharmacology ＊
⑤ Psychopharmacology ＊
⑥ J.Cardiovascular Pharmacology ＊
⑦ Pharmacology, Biochemistry and Behavior

**E．臨床薬理学に関係する雑誌**
（ＳＣＩの35位までの中より選択）

① Clinical Pharmacokinetics ＊
② J.Pharmacology and Experimental Therapeutics（前出：Ｃ－⑥）＊
③ British J.Clinical Pharmacology
④ J.Clinical Psychopharmacology ＊
⑤ European J.Clinical Pharmacology

**F．中毒学に関係する雑誌**
（SCIのPharmacology-Pharmacy の項目より選択）

① Annual Review of Pharmacology and Toxicology（前出：Ｃ－①）＊
② Toxicology and Applied Pharmacology ＊
③ Acta Pharmacologica et Toxicologica ＊
④ Toxicology ＊

**G．神経薬理学の関連分野の雑誌**
（SCIのNeurosciences の項目より選択。本誌16号の生理学のJournal 紹介，神経、筋に関する項をも参照）

① Progress in Neuro-Psychopharmacology and biological psychiatry
② J.Neuroscience Research
③ Neuroscience ＊
④ J.Neurophysiology ＊
⑤ Brain Research ＊
⑥ Experimental Brain Research ＊
⑦ Neuroscience Letters ＊
⑧ Neurology ＊
⑨ J.Neural Transmission ＊
⑩ Neuroscience Research ＊
⑪ Progress in Brain Research ＊
⑫ Electroencephalography and Clinical Neurophysiology ＊
⑬ Life Sciences ＊
⑭ J.Autonomic Nervous System ＊
⑮ J.Neurochemistry ＊

**H．代表的な団内誌**

① 日本薬理学雑誌 (Folia Pharmacologica

Japonica) ＊

② Japanese J.Pharmacology（前出：C－⑫）

③ 応用薬理

『日本薬理学雑誌』、"Japanese J.Pharmacology" はともに日本薬理学会の機関誌であり、薬理学全般にわたる雑誌である。『応用薬理』は開発後間もない、あるいは開発途上にある新しい薬物に関する情報を得るのに便利である。新薬に関する比較試験の成績を知るためには『臨床評価』という雑誌がある。

（＊印は亥鼻分館継続購読誌）

筆者が薬理学教室に入った昭和20年代の後半に大切にされた雑誌は、

① J.Pharmacol. Exp. Ther.

② Br. J.Pharmacol.

③ Arch. Int. Pharmacodyn. Ther.

④ Naunyn-Schmiedebergs Arch. Pharmacol.

等であった。①、②はともかくとして、③は今日では European J.Pharmacology の読者にとって代わられた趣があり、ドイツ語の雑誌であった④は英語となり、時代の流れを思わないわけに行かない。

（薬理学　教授）

# 図書館を10倍上手に利用する方法

## Ⅵ．Science Citation Index（SCI）の使い方

研究活動においては、今までの研究成果や新しい知見があるかどうかを知るために、数多くの論文に目を通すことが必要である。論文にはたいてい、参考文献や引用文献が付されていて、興味を持てば、それらの引用文献を次々と過去にさかのぼって読んでいく。今回紹介する Science Citation Index（略してSCI）は、それとは逆に、ある論文がその後誰によって何という論文に引用されたかを調べる二次資料である。

**概要**

米国 Institute for Scientific Information (ISI) 社が1961年分から発行。隔月刊版と年間累積版がある。引用された論文と、それを引用した論文を一定の規則のもとに配列した索引誌である。

収録対象は、自然科学分野の重要雑誌から3,367誌。62万点以上の記事が索引されている（1985年収載分）。

**特徴**

引用文献索引であるため、既知の論文の主題と関連のある論文を得るために使え、特定の理論や新事実として問題になった事柄などのその後の発展を調べられる。

ある論文が数多く引用されるということにより、論文を評価する目安にもなる。

また、利用者が主題の知識、索引誌に関する知識が無くても引用文献からそのまま引け、多くの分野にまたがる研究、学際領域の研究についても調べられる。

**構成**

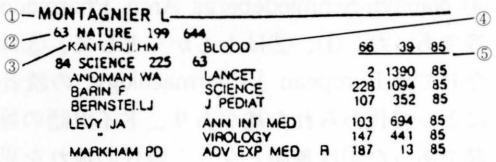
大きく分けて、Citation Index（引用索引）、Source Index（情報源索引）、Permuterm Subject Index（回転式キーワード索引）の三部門からなり、他に Corporate Index（機関名索引）、Guide & Lists of Source Publication（利用案内と収載資料リスト）、そして Journal Citation Reports（収載誌について引用文献分析を行ったもの）がある。

**Citation Index (CI)**

これはSCIの中心をなすもので、既に発表された論文が一定の期間（隔月刊版なら最近

の2ヶ月間、年間累積版ならその1年間）に書かれた論文の中で引用されているかを知る引用文献索引である。

図1




①被引用者名　②被引用者論文の出版年，略誌名，巻，論文の始めのページ
③引用者名　④引用論文の掲載誌略誌名
⑤ ④の巻，始めのページ，出版年

まず、引用された論文の著者がアルファベット順に配列されている。図1によると、Montagnier Lが発表した論文が発表年代順に並んでいる。例えば、1984年に雑誌Science 225巻63頁に発表した論文を1年後にAndiman WA 以下の著者が引用しているということになる。

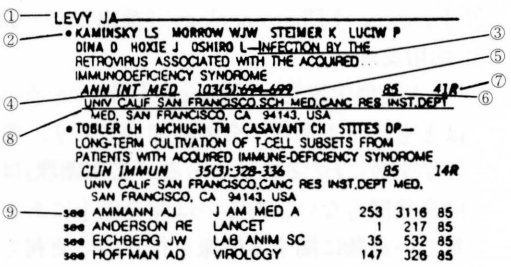
この図でわかるように、引用された論文および引用している論文には論題が書かれていない。これは、既に知っている論文があって、それが引用されているかどうかを調べられればよく、引用した論文についてはSource Indexをみることで論題が調べられるからである。

### Source Index (SI)

著者名索引にあたるもの。CIに記載されている論文を引用した著者と、Permuterm Subject Indexで示された著者からアルファベット順に引けるもので、完全な書誌事項が確認できる。

図1の引用者の1人、Levy JAをみてみたものが図2である。論文は雑誌の略名のアルファベット順に並べられている。

図2




①引用者（著者名）　②共著者　③論題
④収載誌（略誌名）　⑤巻・号・ページ　⑥出版年
⑦引用文献数　⑧引用者の所属　⑨共著者からの参照

### Permuterm Subject Index (PSI)

主題索引の一種で、SIに記載の論文名を単語で切り出し、キーワードとしている。二つの単語の組み合わせで、著者を探し出し、この著者からSIにより書誌事項を確認する。

図3

図3では、まず大きな活字でPrimary Termが並び、その下にCo-Termがアルファベット順に配列されている。ここでは図2の一番上の論文の論題に二つの単語RetrovirusとAcquiredが含まれているので、この引用者Levy JAが示されている。

なお、亥鼻分館では1965年から備え付けている。

# 1987年購読雑誌の変更について

亥鼻地区における、1987年の新規購読および購読中止のタイトルは、下記のとおりです。

**新　規　購　読**

1．Advances in Nursing Sciences（基　看）
2．American Journal of Kidney Diseases（図書館）
3．American Journal of Law and Medicine（図書館）
4．American Journal of Physiologic Imaging（図書館）
5．Annual Review of Immunology（図書館）
6．Anticancer Research（図書館）
7．Carcinogenesis（図書館）
8．Cell Motility and the Cytoskeleton（図書館）
9．Child's Nervous System（脳　外）
10．Clinical Vision Sciences（図書館）
11．Diabetologia（図書館）
12．Intensive Care Medicine（治　療）
13．International Journal of Radiation Oncology, Biology, Physics（放　射）
14．Journal of Andrology（図書館）
15．Journal of Arthroplasty（図書館）
16．Journal of Cardiovascular Surgery（図書館）
17．Journal of Clinical Immunology（図書館）
18．Journal of Clinical Phychopharmacology（図書館）
19．Journal of Gastroenterology and Hepatology（図書館）
20．Journal of Intensive Care Medicine（治　療）
21．Journal of Neurooncology（脳　外）
22．Journal of Toxicology：Toxin Reviews（図書館）
23．Leukemia Research（輸　血）
24．Molecular Pharmacology（図書館）
25．Movement Disorders（図書館）
26．Neuropathology and Applied Neurobiology（図書館）
27．Pain（麻　酔）
28．Pediatric Surgery International（小　外）
29．Photochemistry and Photobiology（図書館）
30．Respiration（図書館）
31．Transplantation Proceedings（輸　血）
32．Urologic Oncology（泌　尿）
33．Virus Research（図書館）
34．Registry of Toxic Effects of Chemical Substances（図書館）
35．アスキー（放技校）
36．Information（放技校）
37．インターフェース（放技校）
38．耳鼻咽喉科展望（図書館）
39．JJNスペシャル（看　校）
40．公衆衛生情報（図書館）
41．Medical Practice（図書館）
42．セイフティエンジニアリング（衛　生）
43．精神科治療学（精　看）
44．Tumour Biology（生化1）

**購　読　中　止**

1．Acta Chemica Scandinavica：B（活性研）
2．Analytical Biochemistry（活性研）
3．Archives Toxicology（活性研）
4．Biochimica et Biophysica Acta：Bioenergetics（活性研）
5．Biochimica et Biophysica Acta：Lipids and Lipid Metabolism（活性研）
6．Biochimica et Biophysica Acta：Molecular Cell Research（活性研）
7．Biochimica et Biophysica Acta：Reviews of Bioenergetics（活性研）
8．Biochimica et Biophysica Acta：Reviews of Cancer（活性研）
9．Cancer Chemotherapy and Pharmacology（活性研）
10．Chemico-Biological Interactions（活性研）
11．Chemotherapy（活性研）
12．Environmental Health Perspectives（活性研）

13. Exerientia (活性研)
14. Food and Chemical Toxicology (活性研)
15. Health Policy (医　情)
16. Helvetica Chimica Acta (活性研)
17. Journal of the American Chemical Society (活性研)
18. Journal of Biological Response Modifiers (治　療)
19. Journal of Cellular Biochemistry (活性研)
20. Journal of the Chemical Society : Chemical Communications (活性研)
21. Journal of the Chemical Society : Perkin Transactions 1 (活性研)
22. Journal of Interferon Research (放　射)
23. Journal of Medical Technology (検　査)
24. Journal of Organic Chemistry (活性研)
25. Laboratory Medicine (検　査)
26. Medical Laboratory Sciences (検　査)
27. Phytochemistry (活性研)
28. Toxicon (活性研)
29. Zeitschrift für Naturforschung : B (活性研)
30. Zentralblatt für Neurochirurgie (脳　外)
31. 日経エレクトロニクス (放技校)
32. 臨床精神病理 (精　看)

**昭和62年度　開館日程表**

| 区　分 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 通常開館<br>週日 9：00－17：00<br>土曜日 9：00－12：00 | ←→ | ←→ | ←→ | ←→ | ←→ | ←→ | ←→ | ←→ | ←→ | ←→ | ←→ | ←→ |
| | 1<br>(水) | | | | | | | 4 6<br>(水)(金) | 24<br>(木) | 5<br>(火) | | 31<br>(木) |
| 時間外開館<br>週日 17：00－20：00<br>土曜日 12：00－16：30 | ←→ | ←→ | ←→ | ←→ | ←→ | ←→ | ←→ | ←→ | ←→ | ←→ | ←→ | ←→ |
| | 6<br>(月) | | | 18<br>(土) | 31<br>(月) | | | 4 6<br>(水)(金) | 24<br>(木) | 8<br>(金) | | 12<br>(土) |
| 日曜開館<br>13：00－17：00 | 12, 19<br>26 | 10, 17<br>24, 31 | 7, 14<br>21, 28 | 5, 12 | | 6, 13<br>20, 27 | 4, 11<br>18, 25 | 1, 8<br>15, 22<br>29 | 6, 13<br>20 | 10, 17<br>24, 31 | 7, 14<br>21, 28 | 6 |
| 休館日<br>(祝日、他) | 5, ㉙ | ③, 4<br>⑤ | | 19, 26 | 2, 9<br>16, 23<br>30 | ⑮, ㉓ | ⑩ | ③, 5<br>㉓<br>創立記念日 | 年末<br>←→<br>25㈮ | 年始<br>←→<br>4(月)⑮ | ⑪ | 13, ⑳<br>21, 27 |

○印は祝日
日曜と祝日が重なる場合は休館。また振替休日も休館

**♥寄贈著書ありがとうございました♥**

昭和61年8月～62年2月に寄贈を受けた著書です。(　)内の記号は配架記号です。
(敬称略、五十音順)

**海老原勇**〔農村医学〕
粉じんと健康障害　海老原勇著　労働科学研究所出版部　1986 (労働科学叢書　78)
(WA400)

**宮治　誠**〔病原真菌〕
カビと病気　宮治誠著　自然の友社　1986
(QZ65)

**千葉大学附属図書館亥鼻分館報 "らいぶらりいゐのはな" No.18**　1987年4月1日発行
千葉大学附属図書館亥鼻分館発行　　発行者：降矢　震
千葉市亥鼻1－8－1　　電話 0472(22)7171(大代表)

千葉大学附属図書館亥鼻分館報

# らいぶらりい 亥のはな 19

1988. 1

●目次●

北欧で考えたこと――1
寄贈著書ありがとうございました――3
〈オンライン検索にゅーす〉オンライン検索が高速に！――3
図書館利用ガイド　会議情報のさがし方――4
ジャーナル情報――6
お知らせ――8

## 北欧で考えたこと

嶋　田　　裕

学術振興会の特定国派遣研究者として、昨年11月にスウェーデンを訪問する機会を得た。日本との比較において感ずるところがあったので、2～3の点について述べたいと思う。

市の図書館、博物館、美術館、オーケストラホールなど文化施設についてみると、まず図書館は建物の立派さ、内部のつくり、蔵書の種類と数などの点で明らかに日本より充実している。街を歩いていて夜遅くまで開館している図書館を見かけると、つい“ブラウジング”に入ってみたい気持に襲われる。人口80万の千葉市も図書館は分室を持つようになり、便利にはなってきたが、私の行っていた人口8万のウメオ市に比較するといかにも貧弱である。また図書館は人の行き易い街の中心部にあるべきで、開館時間も図書館勤務者の都合ではなく、利用者の便を考えて決められるべきものであると思う。

ウメオ大学図書館と本学亥鼻分館について比較してみると、医学購読雑誌については大差はないように見えた。しかし図書館の使い易さや近代化の程度は明らかに相違しており、特に閲覧室についてはウメオではプライバシーを保ちつつ静かに文献を読める環境が提供されていた。亥鼻分館の閲覧室は特に混雑しており、学生は自身の教材を持ち込んでいるが、自習のためには別に学習室を設けられればよいと考える。

博物館や美術館についても、文化財や美術品の蒐集、保護、管理はスウェーデンでは周到に行われているという印象を受けた。ストックホルムには多くの種類の立派な博物館があり、旅行者を楽しませてくれる。ウメオのような小都市でもその地方（ボスターボッテン）の特色を生かした博物館が実によく整備されていた。

これに関していえば、佐倉にある国立歴史民族博物館は世界に誇れるものである。外国からの訪問者を案内すると、いつも好評を得る。ただ難点を言えば、日本の歴史を知らな

い外国人が見て、内容は必ずしも理解し易いというものではないことである。外国の博物館ではよく“guided tour”を見かけるが、佐倉では要求職員の充足もされない現在、案内人を置くことは不可能であるという。また本博物館は一人でも見られるように企画されているので、そのような計画もないと思う。せめて展示は題だけではなく、簡単な説明文も英語でほしいものである。また各展示場には日本語の説明シートが用意されているが裏面は英文にするような配慮をしたらどうであろうか。特に頼むと、博物館案内の英語のVTRを見せていただけるが、これも常時自由に視聴できるようにしておいたらよいと思う。

一般に日本ではこのような文化施設の充実が欧米諸国に比較して遅れており、また入場料は円高を差引いて考えてもかなり高い。今では世界の major economic power（経済大国という言葉は傲慢な響があるから使いたくない）になっているのであるから、国民の心を豊かにすることに行政はもっと力を注いでもらいたいと思う。

スウェーデンではいくつかの大学や研究所を訪問したが、カロリンスカ研究所では私の分野に近い研究をしている Ringertz 教授を訪問し、セミナーもした。同教授は本年のノーベル賞の医学生理学賞候補者選考委員会の副委員長をつとめられ、来年は委員長になる予定であることを聞き、利根川教授の業績を検討された直後であっただけに、赤面のいたりであった。ノーベル賞を授賞する程のbreak-through の研究は確かに偉大ではあるが、底辺をなす基礎的研究の積み重ねがなければそのような研究も成立しないと考え、自らを慰めておいた。

私の少ない認識からみて、米国におけるようにスウェーデンでも postdoc が研究の推進力となっている。日本においても学術振興会の特別研究員制度が少しずつではあるが充実しつつあり、また重要ではあるが後継者を得難い学問分野が優遇されているのは喜ばしいことである。私は解剖学を専攻しているが、解剖学もそれに該当する分野とされている。学生は、学生時代に受けた教育の印象から将来の専門を考える傾向にある。学部レベルでは、必要最小限の医学知識を教育しなければならないので、どうしても陳腐にみえる宿命をもっている学問分野がある。学生時代にはいろいろの研究室を訪れて討論にも参加し、興味がわけば研究をやらせてもらうというような意欲がほしい。ウメオ大学では夜間そういう学生が実験をしているのをよく見掛けた。研究室に入ってみれば、一見花形にみえる分野に劣らぬ興味ある先端研究が日夜推進されているのがわかるであろう。

今回はウメオ大学の解剖学教室で大部分の期間を過した。ウメオ市は北極圏の近くにある北欧では最大の都市であり、スウェーデンの北方開発の拠点として、国は相当の努力をしている様子がうかがえる。本大学は総合大学で、歴史は20年程度ではあるが、実に立派なキャンパスを持っている。医学部附属病院は北方では最大の医療センターであり、農林業の研究には特色がある。11月の私の訪問した期間は毎日雪かみぞれで、太陽を見た日は一日もなかった。明るくなり始めるのは午前10時頃で、午後２時には暗くなる。このような季節であるから当然観光客は居ないが、それだけに北欧人の生活を膚で感ずることができた。朝は７～８時頃から仕事を開始し、実に几帳面である。帰宅は３～４時頃で、長い夜は自宅で家族と過し、また desk work もする。しかし氷と雪に閉じ込められることなく、夜間に屋内外でスポーツをするなど、健康的な生活をしているようにみえた。また医学部学生がミュージカルを公演するのを見たが、脚本、演出などすべて学生の手になると聞き、その才能には感銘した。本学部学生も余暇を研究や部活動に利用して、より実りある学生生活を送ってもらいたいと思う。以上雑駁なことを書いたが、長い北欧の夜に考えたことである。

（医学部解剖学第１講座教授）

# 寄贈著書ありがとうございました

昭和62年３～12月に寄贈を受けた著書です。（　）内の記号は配架記号です。(敬称略、寄贈者五十音順)

**薄井坦子**〔基礎看護学〕

看護の原点を求めて　薄井坦子著　日本看護協会出版会　1987（ＷＹ100）

ナースが視る人体　薄井坦子著　講談社　1987（ＷＹ100）

**大谷克己**〔解剖学第３〕

日本解剖学文献集　第10、11集　日本解剖学会　大谷克己編著　医歯薬出版　1985―86（R-QS４）

**奥田邦雄**〔名誉教授〕

Neoplasms of the liver. Editors: Kunio Okuda & Kamal G. Ishak. Springer, 1987.（WI 765）

**加藤　巌**〔微生物学第２〕

生物トキシンの基礎的研究とその医学・生物学への応用―研究成果総括報告書　文部省特定研究　編集・発行：千葉大学医学部微生物学第二講座内　研究代表者　加藤巌　1986（ＱＷ 630）

**草刈淳子**〔看護管理研究部〕

看護診断マニュアル　Marjory Gordon著　草刈淳子ほか訳　へるす出版　1986（ＷＹ 100）

**平嶋　毅**〔外科学第２〕

消化器疾患と看護・外科　平嶋毅編著　文光堂　1987（看護学双書）（ＷＹ 156.5）

**本多正幸**〔医療情報部〕

ケンドール統計学用語辞典　M. G. Kendall & W. R. Buckland著　千葉大学統計グループ訳（分担翻訳：本多正幸）　丸善　1987（417）

**本田良行**〔生理学第２〕

現代の生理学　改訂２版　古河太郎、本田良行編　金原出版　1987（ＱＴ４）

**宮治　誠**〔感染研究部〕

Animal models in medical mycology. Editor: Makoto Miyaji. CRC Press, 1987.（ＷＣ 450）

**宮治　誠、西村和子**〔感染研究部〕

病原真菌学　山口英世、宮治誠、西村和子共著　南山堂　1987（ＱＷ 180）

〈オンライン検索にゅーす〉

## オンライン検索が高速に！

昭和53年９月にオンラインによる情報検索を開始して以来９年余りが過ぎようとしていますが、その間300bpsの伝送速度でデータベースを接続してきました。300bpsというのは１秒間に300ビットの速度で文字を送ることを意味し、文字数にすると、英数字で約37文字、漢字で約18字送れます。

しかし、この間にデータベースサービス各社は1200bpsのサービスも開始し、当館でも1200bpsによるサービスを検討してきましたが、今回1200bpsにも対応できるモデムを導入し、サービスを開始しました。

これにより、従来より接続時間が短縮され、それに伴って利用料金の軽減がはかれます。300bpsが、1200bpsに変ったので、速度が４倍になると思われがちですが、それほどにはならないようです。文献によると、記事出力（プリント）は約3.8倍になりますが、出力に至るまでのキーワード入力などは殆ど変らないために、通常の記事出力を含めた全検索時間は約３～６割程度の短縮にとどまるとの報告があります。しかし、出力件数が著しく多い場合には、時間の差が大きくなり、一層有利になるといえます。

## 図書館利用ガイド

# 会議情報のさがし方 ── Index to Scientific & Technical Proceedings（ISTP）の使い方を中心に ──

### 概要

科学分野では、毎年約10,000もの会合がConference, Seminar, Symposia…という名称のもとに開かれている。その¾が発表された論文を記録の形で残しているといわれているが、これらを探すのは非常に難かしいことがある。

ＩＳＴＰは、出版された会議録についての様々な情報を調べるのに役立つ資料である。発行は前回紹介したScience Citation Index（ＳＣＩ）を作成している米国のInstitute for Scientific Information（ＩＳＩ）によっている。

出版された会議録は様々な形をとっている。単行書、レポート、雑誌のSupplement…といった形態により公表されるが、ISTPは毎年発行される重要な会議録のみを扱っている。また完全な論文のみを扱い、抄録のみのものは扱わない。カバー率でいうと、出版された会議録の約半分、重要といわれる会議録の約75～90%をカバーしている。

### 発行形態

月刊版と、それを累積した年刊版がある。当館では1983年から所蔵している。

### 構成

主要なセクションはContents of proceedings（図１）であるが、索引として、次の６種類が用意されている。

- Category Index（会議の対象分野）
- Author & Editor Index（論文の著者、会議録のeditor）
- Sponsor Index（スポンサー）

図１　Contents of Proceedings

①── P30124
②── CONF ON MOLECULAR EVOLUTION OF LIFE, Lidingo, Sweden, Sep 8-12, 1985.
*Sponsors: Royal Swedish Acad Sci/ Nobel Inst Chem/ Swedish Med Res Council/ Swedish Nat Sci Res Council/ Swedish Canc Soc/ Swedish Minist Educ/ Boehringer Mannheim GMBH/ LKB Prod AB/ Astra AB/ Pharmacia AB*
③── CHEMICA SCRIPTA, VOL. 26B, 1986
INDIVIDUAL PAPERS AVAILABLE THROUGH *THE GENUINE ARTICLE*; WHEN ORDERING USE ACCESSION NUMBER F0544

④── CURRENT STATUS OF THE PREBIOTIC SYNTHESIS OF SMALL MOLECULES. *S.L. Miller* (Univ Calif San Diego,Dept Chem La Jolla CA 92093) ..... 5
THE PHYSICS OF MOLECULAR EVOLUTION. *M. Eigen* (Max Planck Inst Biophys Chem,Am Fassberg D-3400 Gottingen Fed Rep Ger) ..... 13
THE PHYSICAL BASIS OF MOLECULAR EVOLUTION. *P. Schuster* (Vienna Univ,Inst
EVOLUTIONARY ASPECTS OF IMMUNOGLOBULIN-RELATED GENES. *S. Tonegawa, H. Saito* (MIT,Ctr Canc Res,77 Massachusetts Ave Cambridge MA 02139) ..... 343
THE INTELLIGENT IMMUNE-SYSTEM. *H. Wigzell* (Karolinska Inst,Dept Immunol,Box 60400 S-10401 Stockholm 60 Sweden) ..... 351
POLYMORPHISM AND GENE DUPLICATION IN THE HUMAN IFN-ALPHA AND IFN-BETA GENE FAMILY. *A. Vongabain, M. Ohlsson, E. Lindstrom, M. Lundstrom, E. Lundgren* (Umea Univ,Inst Appl Cell & Molec Biol S-90187 Umea Sweden) ..... 357

① 会議録ナンバー（ISTP中の通し番号）　② 会議名、開催地、開催年月日等
③ 収載誌名、巻、発行年　④ 論題、著者、所属機関、ページ

・Meeting Location Index（会議の開催地）

・Permuterm Subject Index（論文の主題―タイトルの切り出し語の組合せによる索引）

・Corporate Index（著者の所属機関）

**探し方**

例えば、ノーベル賞受賞で最近話題の米国ＭＩＴ所属の利根川進先生が、どのような会議に出席して、どのような内容の発表をされたか、その会議録を調べたいといった場合、次のような方法が考えられる。

1．Author & Editor Index のTonegawa S の箇所から該当の会議録No.を探す(図２)。

**図２　Auther/Editor Index**

TOMLINSO

| | PROC# |
|---|---|
| TOMLINSON RD | P29954 |
| TOMMASINO C | P29897 |
| TOMODA Y | P29989 |
| TOMOKUNI Y | P29945 |
| TOMPA M | P29943 |
| TOMPKINS WR | P29993 |
| TOMPSETT PA | P29904 |
| TONDELLO G | P29967 |
| TONE Y | P29905 |
| TONEGAWA S | P30124 |
| TONELLI G | P30125 |
| TONG HY | P30057 |
| " | " |
| TONG L | P29860 |
| TONG S | P30140 |
| TONG SY | P29996 |

2．Corporate Index　の利根川先生の所属機関ＭＩＴの個所のサブ機関名から会議録No.を探す(図３)。

**図３　Corporate Index**

MASSACHUSETTS

● MIT

| | | |
|---|---|---|
| ● CTR ADV VISUAL STUDIES | | |
| HOLYNSKI M | P29868 | 195 |
| ● CTR CANC RES | | |
| ● 77 MASSACHUSETTS AVE | | |
| TONEGAWA S | P30124 | 343 |
| ● CTR PLASMA FUS | | |
| TEMKIN RJ | P29975 | 31 |
| ● CTR THEORET PHYS | | |
| ● NUCL SCI LAB | | |
| JACKIW R | P29875 | 772 |

3．Permuterm Subject Index で、発表テーマの Genes と Immunoglobulin の組合せから会議録No.を探す(図４)。

**図４　Permuterm Subject Index**

GENES
GENE
GENETIC
MUTANT-GENES

| | | |
|---|---|---|
| HOMOLOGY - - | P29888 | 165 |
| HP - - - - - - | P29921 | 223 |
| HUMAN - - - - | P29876 | 75 |
| - - - - | P29921 | 223 |
| HUMAN-SERUM | " | 327 |
| HYPERTENSL - | P30063 | S275 |
| IMMUNOGLOB. | P30124 | 343 |
| INFLUENCE - - | P29921 | 231 |
| INTERLEUKL - | " | 235 |
| INTRON-EXON - | P30124 | 247 |
| ISOTYPES - - - | P29921 | 379 |
| LIFE - - - - - - | P30124 | 75 |
| MAJOR - - - - | P29921 | 231 |
| MAY - - - - - | " | 223 |
| MICE - - - - - | P29876 | 75 |
| MOLECULAR - | P30124 | " |
| MOLECULAR-. - | P29921 | 379 |

この他にも、Category Index 等用意されている索引によって様々な探し方が考えられるが、実際に手にとって使ってみることをお勧めする。

**その他の会議資料**

・国内・国外医学関係諸学会学会案内（週刊医学のあゆみ編　医歯薬出版　年刊）…国内でその年に開催される医学会の会議について、年間スケジュール、各学会の内容など詳しい情報が紹介されている。国外の会議については、会議名、期日、開催地のみの簡単な案内にとどまっている。

・Contents（日本医薬情報センター）…これは国内雑誌の目次を集めた資料であるが、学会情報として、学会開催予定表、各学会の発表テーマなど詳しい情報が得られる。

・World Meetings; Medicine…これは当館では所蔵してない資料であるが、外国で開催される会議に関する詳しい情報が調べられる。

・この他にＪＡＭＡや「医学のあゆみ」にも学会情報が時々掲載されるし、学会誌には自分の学会の案内や報告が掲載されるので、必要に応じてみられると良い。

# ジャーナル情報

このページでは、亥鼻地区で受け入れのタイトルについて、新規受入、受入中止、誌名変更、休・廃刊等の情報をお知らせします。

**1988年新規購読**

1．Acute Care (救　急)
2．American Journal of Knee Surgery (整　外)
3．Arthroscopy (整　外)
4．Automedica (医　情)
5．British Journal of Neurosurgery (脳　外)
6．Clinical Rehabilitation (理　療)
7．Critical Care Clinics (麻　酔)
8．Current Orthopaedics (整　外)
9．Excerpta Medica.　Sect.　130:　Clinical Pharmacology (図書館)
10．Experimental Mycology (真核セ)
11．Immunology Today (小　児)
12．Journal of Heredity (動実施)
13．Journal of Hyperbaric Medicine (手　術)
14．Journal of Pain and Symptom Management (麻　酔)
15．Journal of Professional Nursing (看　教)
16．Key Neurology & Neurosurgery (脳　外)
17．Maternal-Child Nursing Journal (小　看)
18．Muscle & Nerve (解剖１)
19．Neurological Research (脳　外)
20．Problems in Critical Care (治　療)
21．Residential & Community Child Care Administration (小　看)
22．Undersea Biomedical Research (手　術)
23．Veterinary Pathology (動実施)
24．中毒研究 (人工腎)
25．Core Contents in Nursing (図書館)
26．泌尿器外科 (泌　尿)
27．Japanese Journal of Rheumatology (整　外)
28．人工臓器 (人工腎)
29．老人生活研究 (成看１)
30．精神衛生 (精　看)
31．視聴覚教育 (基　看)
32．歯科ジャーナル (歯　口)

**1988年購読中止**

1．Clinical Allergy (小　児)
2．Differentiation (解剖１)
3．International Ophthalmology (眼　科)
4．International Ophthalmology Clinics (眼　科)
5．Journal of Pediatric Ophthalmology and Strabismus (眼　科)

**バックナンバー購入**

1．Abstracts of Hospital Management Studies.　1(1965)—12(1976)　(図書館)
2．母性衛生　6(1960)—11, 15—16(1975)　(図書館)
3．看護実践の科学　1(1976)—2(1977)　(図書館)
4．ナースステーション　1(1971), 7(1977)　(図書館)
5．臨床血液　1(1960)—25(1984)　(図書館)
6．神経精神薬理　1(1979)—6(1984)　(図書館)
7．綜合看護　1(1966), 7(1972)　(図書館)

**誌名変更**

- Acta Pharmacologica et Toxicologica.　—59 (1986)
  ⟶ Pharmacology & Toxicology.　60 (1987)—
- Acta Radiologica : Diagnosis.　—27 (1986)
  ⟶ Acta Radiologica.　28 (1987)—
- Archives of Gynecology.　—240 (1987)
  ⟶ Archives of Gynecology and Obstetrics.　241 (1987)—
- Canadian Anaesthetists' Society Journal.　—33 (1986)
  ⟶ Canadian Journal of Anesthesia.　34 (1987)—
- Current contents : Clinical Practice.　—14 (1986)
  ⟶ Current Contents : Clinical Medicine.　15 (1987)—
- Federation Proceedings.　—45 (1986)
  ⟶ FASEB Journal.　1 (1987)—
- International Rehabilitation Medicine.　—8 (1987)
  ⟶ International Disability Studies.　9 (1987)—
- Journal of Embryology and Experimental Morphology.　—98 (1986)
  ⟶ Development.　99 (1987)—
- Journal of Hygiene.　—97 (1986)
  ⟶ Epidemiology and Infection.　98 (1987)—
- Journal of Maxillo-Facial Surgery.　—14 (1986)
  ⟶ Journal of Cranio-Maxillo-Facial Surgery.　15 (1987)—
- Scandinavian Journal of Haematology.　—37 (1986)
  ⟶ European Journal of Haematology.　38 (1987)—
- Transactions of the Ophthalmological Society of the United Kingdom.　—105 (1986)
  ⟶ Eye.　1 (1987)—
- Zeitschrift für Parasitenkunde.　—72 (1986)
  ⟶ Parasitology Research.　73 (1987)—
- 先天異常　—26 (1986)
  ⟶ Congenital Anomalies.　27 (1987)—

**休・廃刊**

- W. H. O. Chronicle.　40 (1986) //
- 国鉄中央保健管理所報　20 (1987) //
- 名古屋医学　109 (1987) //

## お知らせ

### 製本雑誌の配架場所について

図書館2階雑誌室の1970～1974年の雑誌を書庫へ移しました。これに伴い、製本雑誌の配架は下記のようになりました。

| | 発　行　年 | 配架場所 |
|---|---|---|
| 和雑誌 | ●1975年以降<br>●1974年以前 | 2階雑誌室<br>書庫1階 |
| 洋雑誌 | ●1975年以降<br>●1974年以前＊　タイトルのイニシアル　A ～ O<br>P ～ Z | 2階雑誌室<br>書庫2階<br>書庫3階 |

＊1970～1974年分は、書庫の廊下に配架

### 図書（単行書）の検索について

図書館では、1986年度受入分から、図書の目録をコンピュータに入力しており、従来のカード目録は、1985年度受入分までで編成を中止しました。これに伴い、コンピュータ入力をした、1986年度以降受入の図書については、オンラインで検索できるわけですが、当館には今のところ利用者用端末がないので、利用者が直接検索することができません。従って、図書を探す場合は、次のようになります。

| | 検索のための目録 |
|---|---|
| 1986年度以降受入図書 | ●受入図書リスト（カード目録ケースの上にあります）<br>●オンライン目録＊（西千葉地区所蔵分も探せます） |
| 1985年度以前受入図書 | ●カード目録 |

＊検索の必要があるときは、カウンターの係員まで申し出てください。

### Annals of the New York Academy of Sciences の一部購入中止

当館では、上記のタイトルを1986年発行分（Vol. 489）まで20年間継続購入してきましたが、1987年発行分からは、内容が医学・生物学関係のVolumeのみを購入し、その他のVolumeは購入を中止することになりました。

なお、配架場所は、従来どおり雑誌として扱いますので変更ありません。

### International congress series の購入中止

当館では、オランダのExcerpta Medicaから出版されている、この医学国際会議論文集を1961年以降継続購入してきましたが、このたび図書購入費予算の関係で、やむをえず購入を中止することになりました。

千葉大学附属図書館亥鼻分館報“らいぶらりいゐのはな„ No.19　1988年1月30日発行
千葉大学附属図書館亥鼻分館発行　発行者：降矢　震
千葉市亥鼻1－8－1　電話 0472(22)7171(代)

千葉大学附属図書館亥鼻分館報

# らいぶらりい 亥のはな 20

1988. 6

●目次●

生体における酸素測定法の革命――――1
〈JOURNAL紹介〉病理学――――4
寄贈著書ありがとうございました――――5
〈オンライン検索にゅーす〉新規オンラインサービス開始，JOIS 利用料金改定――――6
ジャーナル情報――――7
昭和63年度開館日程表――――8

## 生体における酸素測定法の革命

本　田　良　行

われわれが生きてゆくためには、たえず酸素が必要である。ところが、体内の酸素の貯臓量は、せいぜい安静時の酸素消費量の4～5分程度しかない。したがって、体の細胞に酸素を供給する呼吸とか循環系の働きは、少しの間も休むことができない。ヒトの生死にかかわるもっとも直接的な指標とされるゆえんである。この生体への酸素の供給量の程度を示すのは、動脈血の酸素の量である。動脈血中の酸素はその約98～99％が赤血球中のヘモグロビンという物質に結合している。ところで、酸素とヘモグロビンが結合すると血液は明るい赤色となり、酸素が失われると暗い赤色となる。動脈血と静脈血の色の違いとしてよく知られている事実である。この性質を利用して、色の変化から動脈血の酸素含有量を計る装置が古くから作られていた。これをオキシメーターと呼ぶ。

最近、このオキシメーターの一種で、脈波型オキシメーター（パルスオキシメーターと呼ばれている）と言う器械が開発され、爆発的に普及しつつある。その特長は、「生体に針やメスなどの侵襲を与えない」，「使用に際し較正などの面倒な操作が必要ない」、「正確に計ることができる」と言う生体計測上のもっとも有利な条件を充たしているからである。近い将来、24時間心電図モニター以上に手軽な患者の家庭用モニターとして、普及するのではないかと言われている。

実は、このパルスオキシメーターの原理を

発見したのは、日本のエンジニアである。このことを見出し、世界に紹介したのは、血液ガスの測定法の開発についてもっともよく知られ、1986年アメリカ麻酔学会で制定された「もっともよく研究に貢献した賞」の第1回受賞に輝いたカリフォルニア大学のJohn W. Severinghaus教授である。同教授がJ. Clin. Monit.に連載のエッセイとして執筆し、昨年リトルブラウン社から単行本として出版された『血液ガス測定の歴史』の中にVan't Hoff, Ostwald, Nernst, Warburg, Heyrowskyなどのノーベル賞などの受賞者に伍して、ただ1人の日本人として、1章を割いてその仕事が紹介された。

実は、恥ずかしながら、私はこの仕事をSeveringhaus教授から直接教えられるまで知らなかった。しかし、この研究は日本語で発表されていたので、同教授の当初の理解に誤りがあり、そのことの訂正に少し関係した。そのいきさつについて述べたい。

1986年7月カナダのバンクーバー市で開かれた、国際生理科学会議の際、旧知の同教授から、次のように依頼された。「今、パルスオキシメーターの歴史を調査しているのだが、この原理を発見した日本のMカメラ社の中島という人の履歴を知りたい。その人の論文は1975年に日本で発表された麻酔関係の雑誌に載っている筈である」。帰国後調査の結果、雑誌は『呼吸と循環』23巻8号（1975年）にその名前を見付けることができた。しかし、中島という筆頭著者は当時国立療養所札幌南病院、現在旭川医大外科の中島講師であることがわかった。この論文の共著者には、NK株式会社の青柳卓雄氏を筆頭に3名技術者の名前が記されていた。これらの人々から多くの資料の提供も受けることができ、真の発見者が現在NK社開発部の青柳氏であることが確定した（最初の公式発表は1974年4月の日本ME学会）。

青柳氏らがこの発見をしたいきさつについても知ることができた。心臓から送り出される血液の量（心拍出量）を計るのに色素稀釈法という方法がある。これは、血管内に色素を注射し、その濃度を耳朶などで計ると、血液の流れの大小に従って、濃度の時間的変化に相違ができる。これを記録した濃度カーブから心拍出量を計算するのである。その際、心臓の周期的拍動のため記録曲線に脈波性の変化が出て、これが測定精度を悪くする。彼らは、色素の濃度を検出する波長と、それとは無関係な波長の2つで測定を行った。後者の信号を用いて前者の脈波による変動を消却しようと試みたのである。すると、その脈波性変化が血液の酸素濃度に非常に敏感に反応することに気付いたのであった。Severinghaus教授の表現を借りると、「ある測定法にとって有害な雑音が、別の測定法にとっては有益な信号となる」ということに着目した、いわば発想の逆転が彼の成功の原因であった。この方法の有利な点は、耳朶や指尖などに装着した検出器により動脈血中の酸素を計るのであるが、そこで脈動しているのは酸素濃度だけである。したがって、他の組織の色などに由来する誤差の影響なしに酸素濃度の検出が可能であるという点である。そのために器械をつくる時点で、血液の色に合せて調整しておけば、使用にあたって一切の面倒な較正などは不必要となる。

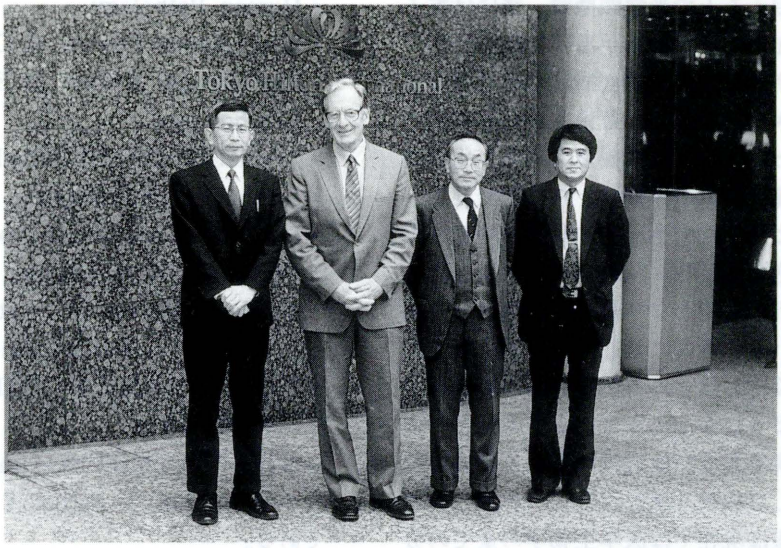
しかし、青柳氏らのこの発見は、NK社の実益にはほとんどつながらなかった。その主な理由は、発見当時の技術では、短時間の脈波性変化を正確に捉えることができなかったからである。彼らより遅れてその原理を見付けた米国のWilberらは、丁度その頃長足の進歩をとげた発光ダイオード（LED），マイクロコンピューターを駆使して正確で軽量小型のパルスオキシメーターの製作に成功した。現在この器械の開発にしのぎを削っている会社は世界に20社近くもあるという。その普及も全世界に燎原の火の如く広がりつつある。

もう1つの疑問は、なぜSeveringhaus教授が、日本の技術者をMカメラの社員であると誤解したかという点である。青柳氏らはパルスオキシメーターに関する特許申請を1974

年３月29日に行っている。その僅か３週間後にほぼ同じ趣旨の申請がＭカメラから1974年４月20日に提出され、後、却下されているのである。しかし、Ｍカメラは米国で特許を出願し認められた。ＮＫ社は、器械を受注生産にとどめ、その後の開発を中止している間に、Ｍカメラは製品を完成し海外にも売出していた。ＮＫ社は外国での特許の申請は一切行わなかったので、米国ではオキシメーターの発見はＭカメラであると思われたのであろう。

誠に新製品の開発というのは、生き馬の目を抜くような苛烈な世界であるが、この領域における第１人者の Severinghaus 教授によって公正な紹介がされたことは、心あたたまるさわやかな結末であった。ＮＫ社でも青柳氏を中心に新たなパルスメーターの技術開発に努力が再開されている。日本人のすぐれた頭脳が更に新局面を開く日のあることを期待している次第である。

（附属図書館亥鼻分館長）



左より青柳（パルスオキシメーターの発見者）、John W. Severinghaus（血液ガス測定の第１人者で、測定法に関する歴史の著者）、筆者、中島（パルスオキシメーターの最初の試作品の使用者）（62.１.23 東京ヒルトンホテル前にて撮影）

〈Journal 紹介〉

# 病　理　学

張ヶ谷　健　一

病理学は病気の本体を解明する学問である。それ故、いつの時代にも研究の目的が変化することはない。しかし、病理学は、その研究手技の変遷と共に、内容を膨らませている。初期においては病気の本体を形態学を用いて解析することが病理学の主流であった。患者の病態を捉える上で光学顕微鏡、後には電子顕微鏡を加えた形態診断が重要な臨床医学の情報となり外科病理や解剖病理の重要性が認識されてきた。そして、蓄積された形態学の知識に加わって、物質精製を含めた生化学的手技、培養、抗体の作製などの技術発展と、一般化により生体内生理活性物質の機能解析や組織細胞間相互のコミュニケーションを含めた機能解析が可能となり飛躍的な病態の理解が進んでいる。さらに最近では分子生物学的手技が一般化しはじめ遺伝子レベルの解析が行われるようになってきている。これらの変遷は生命現象あるいは病気のより本質的な把握を志向した結果と思われる。それ故、病理関連の情報は現在では医学生物学の全ての分野にわたっており到底私の力ではここに要領よく紹介することは困難と思える。臓器を扱う各論的な情報を得る雑誌についてはとても多すぎて言及することは不可能と思える。ここでは旧来の病理学専門雑誌と一般的な情報を得る一般誌について筆者の偏見を交えて列挙する。

## I．専門病理の雑誌

- Acta Pathologica Japonica
- Acta Pathologica, Microbiologica, et Immunologica Scandinavica
- American Journal of Clinical Pathology＊
- American Journal of Pathology＊
- American Journal of Surgical Pathology
- Archives of Pathology and Laboratory Medicine＊
- British Journal of Experimental Pathology＊
- Current Topics in Pathology＊
- Experimental and Molecular Pathology
- Human Pathology
- International Review of Cytology＊
- International Review of Experimental Pathology＊
- Journal of Clinical Pathology
- Journal of Pathology＊
- Laboratory Investigation＊
- Pathology, Research and Practice＊
- Virchows Archiv. A: Pathological Anatomy and Histopathology
- Virchows Archiv. B: Cell Pathology＊
- 病理と臨床＊

これらの中で比較的高いImpact Factorを持つものはAm. J. Pathol.とLab. Invest.である。

『病理と臨床』は現在日本にある人体病理の専門雑誌としてひろく病理関係医師により愛読されている。

## II．一般的な雑誌で病理に関連あるもの

- Advances in Immunology＊
- Annals of the New York Academy of Sciences＊
- Cancer＊
- Cancer Research＊
- Cell＊
- Experientia
- Experimental Cell Research＊
- FASEB Journal
- International Journal of Cancer＊

- Journal of Cell Biology＊
- Journal of Cellular Physiology＊
- Journal of Clinical Investigation＊
- Journal of Experimental Medicine＊
- Journal of Histochemistry and Cytochemistry＊
- Journal of Immunology＊
- Journal of Laboratory and Clinical Medicine＊
- Journal of National Cancer Institute＊
- Journal of Ultrastructure and Molecular Structure Research＊
- Kidney International
- Lancet＊
- Nature＊
- New England Journal of Medicine＊
- Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America＊
- Proceedings of the Royal Society of London. B: Biological Sciences＊
- Proceedings of the Society for Experimental Biology and Medicine＊
- Radiation Research
- Science＊
- Scientific American
- Ultrastructural Pathology

ここには医学研究の最先端の論文を掲載するものがあり、Cell, J. Cell Biol., Nature, Proc. Natl. Acad. Sci. USA, Science., J. Clin. Invest., J. Exp. Med., Lancet などの雑誌は Impact Factor がきわめて高い。これらの雑誌に病理学者の論文も相当数載っており又、専門研究領域の情報を得るには必読のものとなっている。

＊印は亥鼻分館継続購読誌

（病理学 助教授）

# 寄贈著書ありがとうございました

昭和63年１～５月に寄贈を受けた著書です。（　）内の記号は配架記号です。（敬称略、寄贈者五十音順）

**石川稔生**〔機能・代謝学〕

現代看護学基礎講座　5　薬理学　石川稔生著　真興交易医書出版部　1988　（WY100）

**杉森みど里**〔看護教育学〕

看護教育学　杉森みど里著　医学書院　1988　（WY18）

**中野正孝**〔基礎保健学〕

看護系の統計調査入門　中野正孝著　真興交易医書出版部　1988　（WY31）

**橋爪　壮**〔病態学〕

クラミジア感染症の基礎と臨床　熊本悦明、橋爪壮編　金原出版　1988　（WC600）

**宮治　誠**〔感染研究部〕

真菌症と生体防御機構　宮治誠、高橋久、高橋伸也編　協和企画通信　1988　（WC450）

〈オンライン検索にゅーす〉

# 新規オンラインサービス開始

亥鼻分館では、近く次の2サービスを開始する予定である。

## 医学中央雑誌タイトルガイド

国内医学文献を探すための資料として、『医学中央雑誌』は既におなじみのものであるが、実際に検索してみると、かなり大変な作業であることがわかる。この『医学中央雑誌』が1983年からコンピュータによって作成され、1986年3月からはオンライン検索サービスが開始された。

当館では、国内医学文献をオンライン検索する際、従来JOISシステムの「JMEDICINE国内医学文献ファイル」を利用してきたが、網羅性、速報性など様々な問題があった。今回サービスを開始する標記システムは、それを改善する意味で期待できるものである。速報性に関していえば、雑誌の発行の翌月には検索が可能ということである。

その他の特長としては、検索項目が多いことで、特集名からの検索、雑誌名と巻号の組合せによって雑誌の目次情報の検索といったことも可能である。

ただし、今のところ収録範囲が臨床医学(看護学も含む)に限られていて、基礎医学分野は検索できない。

利用料金

オンライン接続料　270円/分

(オンライン出力料は不要)

上記の他に、東京までの電話代20円／分が必要である。

## STN International

「STN International」(The Scientific and Technical Information Network)は、米国化学会と西独Fachinformationszentrum Energie, Physik, Mathematik GmbH (FIZ Karlsruhe)及び日本科学技術情報センター(JICST)が共同で提供する国際的オンラインネットワークである。

米国、西独、日本間を国際専用回線で結び、各センターを通じ、安価で良質なサービスを受けることができるものである。

利用できるファイルは、CASオンライン(CA—CA1967年以降、CAOLD—CA 1962—1966年、CA Previews—CA速報ファイル、REGISTRY—CAS登録番号のファイル)、米国化学会が発行する21の論文誌の全文ファイル(論文全体を検索対象としたファイル)、BIOSISを含む科学技術分野の51ファイルである。

CAは、従来の化学物質名、CAS登録番号の他、構造式でも検索できる、抄録の打出しもできるなど画期的なものである。

なおCAは、このサービスの開始とともにJOISからのサービスは打切られている。

利用料金(関連するもののみ)

1988年1月1日現在

| | 接続料 | オンライン ディスプレイ | オフライン プリント |
|---|---|---|---|
| CA | 15,200円/時間 | 49円/件 | 65円/件 |
| CAOLD | 15,200円 | 26円 | 20円 |
| CApreviews | 10,700円 | 76円 | 92円 |
| REGISTRY | 9,600円 | 49円 | 65円 |
| BIOSIS | 12,700円 | 36円 | 47円 |

上記の他に、東京までの電話代20円/分が必要であるが、国際通信回線料金は不要である。

# JOIS 利用料金改定

下記の通り、JOIS 利用料金が4月1日から改定されました。

関連する主なファイルとしては、MEDLINEファイルが、接続料金170円/分→160円／分、回答出力料金15円/件→25円/件、JMEDICINE国内医学文献ファイルが、接続料金210円/分→200円/分、回答出力料金20円/件→30円/件となっています。

**(1)オンライン料金**

| 料金 / データベース名 | ファイル接続料金 | オンライン回答出力料金(ヒットチャージ) | オフラインライン料金 手配料金 | 回答出力料金 Aタイプ(抄録付) | 回答出力料金 Fタイプ(抄録無し) |
|---|---|---|---|---|---|
| JICST 科学技術文献ファイル | 180円/分 | 30円/件 | 500円/回 | 55円/件 | 37円/件 |
| JICST 科学技術研究情報ファイル | 180円/分 | 30円/件 | 500円/回 | 43円/件 | 37円/件 |
| JICST 科学技術用語シソーラスファイル | 180円/分 | — | — | — | — |
| JICST 資料所蔵目録ファイル | 180円/分 | — | — | — | —/ |
| JICST ・医中誌国内医学文献ファイル | 200円/分 | 30円/件 | 500円/回 | 49円/件 | 37円/件 |
| JICST 公共資料ファイル | 180円/分 | 30円/件 | 500円/回 | 55円/件 | 37円/件 |
| JICST 科学技術医学文献ファイル(英文) | 120円/分 | 45円/件 | 500円/回 | 56円/件 | 56円/件 |
| 日刊工業産業情報ファイル | 220円/分 | 30円/件 | 500円/回 | 55円/件 | 37円/件 |
| 食品産業情報ファイル | 180円/分 | 30円/件 | 500円/回 | 55円/件 | 37円/件 |
| 大阪市都市工学情報ファイル | 180円/分 | 30円/件 | 500円/回 | 55円/件 | 37円/件 |
| MEDLINE 医学文献ファイル | 160円/分 | 25円/件 | 500円/回 | 49円/件 | 39円/件 |
| TOXLINE 毒性文献ファイル | 366円/分 | 42円/件 | 500円/回 | 71円/件 | 53円/件 |
| CANCERLIT がん文献ファイル | 195円/分 | 30円/件 | 500円/回 | 59円/件 | 41円/件 |
| MeSH 医学用語ファイル | 160円/分 | — | — | — | — |
| BIOSIS 生物学文献ファイル | 281円/分 | 47円/件 | 500円/回 | — | 55円/件 |
| CAB 農学文献ファイル | 208円/分 | 63円/件 | 500円/回 | 88円/件 | 70円/件 |
| INSPEC 物理・電気文献ファイル | 295円/分 | 69円/件 | 500円/回 | 97円/件 | 79円/件 |
| FSTA 食品科学技術文献ファイル | 267円/分 | 50円/件 | 500円/回 | 75円/件 | 57円/件 |
| EMBASE 医学・薬学文献ファイル | 297円/分 | 30円/件 | 500円/回 | 48円/件 | 37円/件 |
| MALIMET 用語ファイル | 180円/分 | — | — | — | — |
| COAL 石炭文献ファイル | 180円/分 | 30円/件 | 500円/回 | 55円/件 | 37円/件 |
| INIS 原子力文献ファイル | 180円/分 | 30円/件 | 500円/回 | 55円/件 | 37円/件 |
| IRRD 道路文献ファイル | 180円/分 | 30円/件 | 500円/回 | 55円/件 | 37円/件 |
| INFOTERRA 環境情報源ファイル | 180円/分 | 30円/件 | 500円/回 | 55円/件 | 37円/件 |
| 研修ファイル | 50円/分 | — | — | — | — |

**(2) ユーザー SDI 料金**

| データベース名 | 基本料金 | 回答出力料金 |
|---|---|---|
| JICST | 1,540円/1検索 | 55円/件 |
| JICST－E | 1,360円/1検索 | 56円/件 |
| JIMEDICINE | 1,600円/1検索 | 49円/件 |
| MEDLINE | 1,480円/1検索 | 49円/件 |
| EMBASE | 1,890円/1検索 | 48円/件 |

**(3)その他のオンライン料金**

| 項目 | 料金 |
|---|---|
| 質問登録料金(1質問当り) | 25円/日 |
| オンライン複写申込(¥ORD)接続料金 | 無料 |
| 会話退避料金 | 360円/回 |
| NEWS(注) | 無料 |

(注)NEWSは、¥FILE△999以外で使用しますと、該当ファイルの接続料金が課金されます。

# ジャーナル情報

このページでは、亥鼻地区で受け入れのタイトルについて、新規受入、受入中止、誌名変更、休・廃刊等の情報をお知らせします。

**バックナンバー購入**

1. Carcinogenesis. 1(1980)－5(1984) (図書館)
2. Child and Family. 1(1962)－6(1967) (図書館)
3. Gene. 1(1976)－31(1984) (図書館)
4. International Nursing Review. 11(1964)－18(1971) (図書館)
5. Journal of Continuing Education in Nursing. 3(1972)－7(1976) (図書館)
6. Journal of Nursing Admistration. 1(1971)－6(1976) (図書館)
7. Journal of Nursing Education. 1(1962)－15(1976) (図書館)

8．Journal of Psychiatric Nursing and Mental Health Services. 5 (1967)－14(1976)
(図書館)

9．Nucleic Acids Research. 1 (1974)－7 (1979) (図書館)

10．Nursing Forum. 1 (1961)－3，6－9 (1970) (図書館)

11．病院 1 (1949)－6，16－27，30－32(1973) (図書館)

12．学校保健研究 1 (1959)－21(1979) (図書館)

13．看護技術 1 (1955)－20(1974) (図書館)

14．日本不妊学会雑誌 21(1976)－31(1986) (図書館)

15．日本癌治療学会誌 1 (1966)－4，11－21(1986) (図書館)

16．日本内科学会雑誌 68(1979)－73(1984) (図書館)

17．日本整形外科学会雑誌 51(1977)－60(1986) (図書館)

18．日本消化器病学会雑誌 76(1979)－83(1986) (図書館)

**新規寄贈受入**

1．Cell Structure and Function. 1 (1975)－ (図書館)

2．日本先天代謝異常学会雑誌 1 (1985)－ (図書館)

3．日本薬理学雑誌 74(1978)－ (図書館)

4．臨床医薬（臨床医薬研究協会） 1 (1985)－ (図書館)

5．膵臓（日本膵臓学会） 1 (1986)－ (図書館)

**誌名変更**

- Archivum Histologicum Japonicum. －50(1987)
  ⟶ Archives of Histology and Cytology. 51(1988)－
- 相談学研究 －19(1987)
  ⟶ カウンセリング研究 20(1987)－

**休・廃刊**

- 臨床水電解質 8 (2) (1988) //

**昭和63年度　開館日程表**

| 区　分 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 通常開館<br>週日 9：00～17：00<br>土曜日 9：00～12：00 | 1<br>(金) | | | | | | | 4 7<br>(金)(月) | 26<br>(月) | 5<br>(木) | | 31<br>(金) |
| 時間外開館<br>週日 17：00～20：00<br>土曜日 12：00～16：30 | 8<br>(金) | | | 23<br>(土) | | 1<br>(木) | | 4 7<br>(金)(月) | 24<br>(土) | 9<br>(月) | | 11<br>(土) |
| 日曜開館<br>13：00～17：00 | 10，17<br>24 | 1，8<br>15，22<br>29 | 5，12<br>19，26 | 3，10<br>17 | | 4，11<br>18，25 | 2，9<br>16，23<br>30 | 6，13<br>20，27 | 4，11<br>18，25 | 22，29 | 5，12<br>19，26 | 5 |
| 休館日<br>（祝日、他） | 3，㉙ | ③，4<br>⑤ | | 24，31 | 7，14<br>21，28 | ⑮，㉓ | ⑩ | ③，<br>5，㉓ | 年末年始<br>27(火)↔4(水)8<br>⑮，16 | ⑪ | | 12，19<br>㉑，26 |

・日曜と祝日が重なる場合は休館。また振替休日も休館

**千葉大学附属図書館亥鼻分館報“らいぶらりいゐのはな„ No.20** 1988年6月30日発行
千葉大学附属図書館亥鼻分館発行　発行者：本田良行
千葉市亥鼻1－8－1　電話 0472(22)7171(代)

千葉大学附属図書館亥鼻分館報

# らいぶらりい 亥のはな 21

1988. 11

●目次●

在宅ケアの周辺――――1
図書館利用ガイド　目次情報の調べ方――――3
ジャーナル情報――――6
寄贈著書ありがとうございました――――8
CD-ROMをご存じですか？――――8

## 在宅ケアの周辺

平山朝子

近年、在宅療養を積極的に選ぶという考え方は、急速に一般化してきた。とくに、在宅ケアへの一般の人の関心が強いという点で、看護学の発展を求めている私たちにとって、自らの力量を問われる大切な状況と思う。

この関心の高まりの背景には、老人人口の急増にともないケアの必要な人が増えている事実、また誰にとっても現在の、あるいは近い将来の自分の問題であること、加えて病身を癒すのであれば病院や施設よりも棲み馴れたわが家がよいとケアの質をはっきりと求める条件が一般の人にできてきたことなどがあげられる。

私は、看護の仕事の中でも保健婦の活動に深くかかわってきた。保健婦は、家庭で療養している人やその家族を支える立場で、わが国での活動実績はすでに半世紀を超える歴史を持っている。古くは結核患者の療養援助を重ね、今日では身体障害や精神障害を持つ人、難病患者、寝たきり老人の在宅期の援助を幅広く担っている。

しかし、これらの仕事は、公衆衛生行政と社会福祉行政の各サービスの中に位置づけられるので、公衆衛生は社会防衛的、社会福祉は貧困対策的、と刻印されがちで必ずしも正当な評価をうけていない。したがって、人員不足は著しく、最近になってようやく市民権を得るようになってきたところといっても過言ではない。それが、老人対策のように、誰でも、どこにいても関わりが生じてくるとい

う意味で普遍的な課題が脚光を浴びることとなって、改めてその有効性と実力が問われるようになってきた。

このことは、同時に医療施設内の活動にとどまっていた看護婦にも積極的に家庭に及ぶ活動が期待されていることを示している。

在宅ケアを可能にするためには、家族看護体制と往診・通院などの在宅医療体制の確保が不可欠なことは明かである。

このうち、家族看護について考えてみると、最近では小規模家族化の進行等のため、家庭では病人を世話する人がいない。これに対し、家事の社会援助サービスとしてホームヘルパー派遣が強化されようとしている。

また、これに関連して、昨年(1987)には、老人ホームの寮母やホームヘルパー等の社会福祉の直接処遇職員(ケアワーカー)の資格が制度化され、介護福祉士が誕生した。これは名称独占の制度で、現状では採用時の資格要件には直結していない。将来は、一定の職業倫理と介護技術とを身につけた有資格者で充足する展望ができた段階である。

一方、在院日数の短縮化が進むにつれて、在宅ケアは家事や介護の援助だけではすまなくなり、看護婦や保健婦による看護が不可欠となる。

これまでの在宅福祉施策をみると、家事援助や入浴・給食サービスなどの制度はあるけれども、これらは一貫性と総合性に欠けている。これからは、家事援助、訪問看護、在宅診療とを総合的に機能できる「在宅ケア」を求めなければならない。現代社会においては、どの一つを欠くことはできないし、さらには、これらの社会サービスの充実と共に、他方では、家族や親族によるケアがさまざまな形で基底に存続するような多重の構造のものを求めていくことが大切である。

病人のいる家庭では、家族を励まして潜在している力を引き出し、家族ケアを支える、そういったことも看護の役割だと主張すると、そのような伝統的な家族による介護の強化は、社会サービスへのニーズを否定するものだと批判を返してくる人もいる。果してそうだろうか。人々は、どのような在宅ケアを求めているのだろうか。

この夏、在宅ターミナルケアの現状を確認するため、終末期を自宅で過ごした高齢者の実態調査をした。

入院して最期を迎えた方も多かったが、それまでに入院を拒否し続けたエピソードを残して亡くなった高齢者の多いことに気づく。中には、もうこれ以上自宅に置くわけにはいかないという家族の気持から、保健婦に入院を説得してほしいと求めてくることもある。そんな場合、むしろ逆に本人の希望を保健婦が受け入れて自宅で過ごす日をほんの数日間でも延長させた例もあった。この援助は貴重だが、そう考えてみると、このような援助の仕事の効果は、どう測ればよいのか考えさせられる。

「在宅ケア」では、病気の人や老人を一人の生活者としてしっかり位置づけ、その人の主体性を保持しながら病院やホームなどに入った場合以上のケアを整えることを目標とすべきと言われている。

確かに医療処置面では目標をそのように考えるとよい。しかし、今日一般の人々が求めているケアを準備するのに、入院やホームの入所で得られるものを目標にする必要はない。もっと広範囲に人々の普通の生活要求を豊かに充すものを目標にすべきと思う。

(看護学部地域看護学講座教授)

# 目次情報の調べ方 ―Current Contents を中心に―

## ●Current Contents（略称ＣＣ）

**概要**

雑誌の最新号の目次頁だけを集めた目次速報誌。創刊は1958年で、発行所は Science Citation Index を刊行している米国 Institute for Scientific Information（ISI）社である。７つの分野別に週刊で発行されている。

今回は亥鼻分館所蔵の Clinical Medicine（1973年から所蔵。略称ＣＭ、1986年までは Clinical Practice）、Life Sciences（1966年から所蔵。略称ＬＳ）に例を取り、紹介する。

**特徴**

ＣＣ全体に言える最大の特徴は、雑誌発行からＣＣ収録、発刊までの時間（タイム・ラグ）が０～５週間と短いことである。収録誌の多くが発行前に目次頁を写真製版して印刷しているためで、図書館に届く雑誌本体よりも先に目次頁だけは見られる場合がしばしばある。

ＬＳ：生命科学、基礎医学分野を中心とし世界中の重要な雑誌約1,180誌の目次を収録している。国内誌は35誌である。（1988年７月現在）

ＣＭ：歯学を含む臨床医学分野を中心に約850誌を収録対象とし、国内誌は８誌である。（1988年７月現在）

両分野の重複率は約30％となっている。

**構成**

ＬＳ、ＣＭ共通である。

各号は大きく目次、本文、索引に分かれる。

１）目次（図１　図はＬＳより転載）

収録誌は Discipline Guide の各主題毎に掲載されている。ＬＳでは12、ＣＭでは20の主題に分けられている。

目次頁下部には各号の収録誌のリストがあ

図１　目　　次

**FEATURED IN THIS ISSUE OF *CURRENT CONTENTS®/LIFE SCIENCES***

**FEATURES**

2 Journal Coverage Changes
3 Current Comments®
10 ISI® Press Digest
13 Cartoon
15 Citation Classics®
21 Current Book Contents®

**DISCIPLINE GUIDE**

33 Multidisciplinary
44 Chemistry
51 Biochemistry/Biophysics
73 Molecular Biology & Genetics
77 Microbiology & Cell Biology
95 Pharmacology
115 Immunology
124 Physiology
124 Experimental Biology & Medicine
160 Clinical Medicine
198 Neurosciences & Behavior
215 Animal & Plant Science

図２の主題と雑誌名

**INDEXES**

218 Title Word Index
262 Author Index & Address Directory
301 Publishers Address Directory

**JOURNALS APPEARING IN THIS ISSUE:**

210 ACTA NEUROL SCAND,77 (2), FEB
191 ACTA ORTHOP SCAND,58 (6), DEC
77 J VIROL,62 (4), APR
160 JAMA-J AM MED ASSN,259 (12), MAR 25
161 JAMA-J AM MED ASSN,259 (13), APR 1
174 JPN CIRC J,52 (1), JAN
124 CANCER,61 (7), APR 1
63 CARBOHYD RES,173 (2), MAR 1
123 THYMUS,11 (2)
108 TOXICOL LETT,40 (3), MAR
91 TSITOLOGIYA SSSR,30 (2), FEB
85 VIRUS RES,9 (4), MAR

図2　本　文

**Clinical Medicine**

M5230 **JAMA** Journal of the American Medical Association
Articles and Abstracts in English

VOL. 259 NO. 12　　MARCH 25 1988　　(L,C)

**Antibody and T-Cell Receptors** ..... 1845
S. Tonegawa, Cambridge, Mass

**Brief Reports**

**Softball Sliding Injuries** ..... 1848
D. H. Janda, E. M. Wojtys, F. M. Hankin, M. E. Benedict, Ann Arbor, Mich

**A Piece of My Mind**

**The Trapeze** ..... 1868
S. Holway, Oysterville, Wash

図3の検索語

図4により住所がわかる

CONTINUED

160

©1988 by ISI® CURRENT CONTENTS®

る。掲載巻、号、発行月等が付けられアルファベット順に並べられている。左の数字は収録頁を示している。収録誌のうち毎号ＬＳでは約200誌、ＣＭでは約140誌が掲載される。

２）本文（図２）

主題別に各雑誌の目次頁が並ぶ。主題内の雑誌の順序は決められていない。目次と共に出版社、雑誌論文の書かれている言語が示され、目次はすべて英訳されている。創刊号など初めて掲載される場合は発行頻度、出版社の住所、価格等が記載される。

３）索引

Title Word Index（主題索引）とAuthor Index & Address Directory（著者索引）がある。

• Title Word Index（図３）

文献のタイトル中のキーワードで検索出来る。アルファベット順に並べられたキーワードの下の２つの数字は掲載頁(左)と収録雑誌の目次の中の頁(右)である。

検索する場合のキーワードの選び方は、最も適確に主題を表現している言葉を考え、同義語があれば、それについてもあたる必要がある。

• Author Index & Address Directory（図４）

各文献の第一著者がアルファベット順に載っている。数字はＣＣの頁のみを表わしていて、文献の頁までは知ることが出来ない。著者名と共に住所が付いており、別刷(Reprint)の請求先になっている。本文の目次から別刷

**図３　Title Word Index**

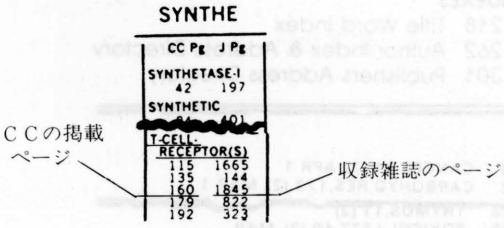
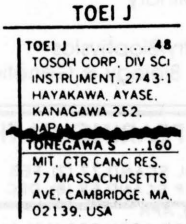


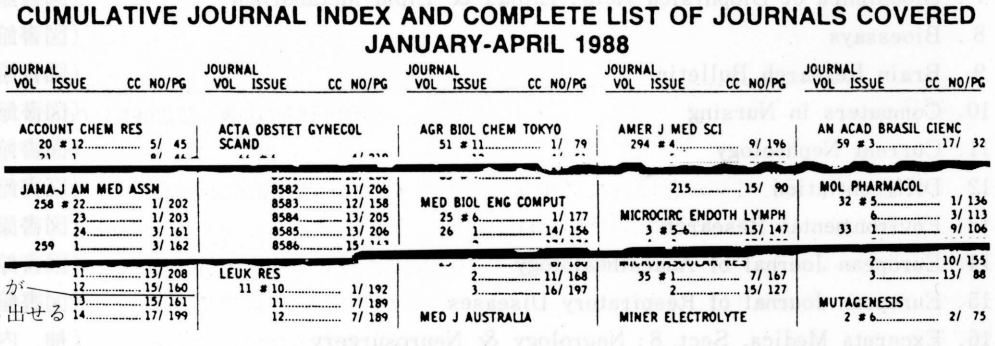

**図４　Author Index & Address Directory**



請求のためにあて先を知る、という使い方が主である。

毎号掲載される記事では、他に Publishers Address Directory（各号に収録された雑誌の出版社の住所一覧）、Current Book Contents（関連分野の単行書、レビュー誌、会議録の新刊書からピックアップして目次を掲載している。各号の索引からも検索出来るが後述する累積索引―Triannual Cumulative Index―からは検索出来ない）等が載る。

図5　Triannual Cumulative Index


CUMULATIVE JOURNAL INDEX AND COMPLETE LIST OF JOURNALS COVERED
JANUARY-APRIL 1988

JOURNAL VOL ISSUE CC NO/PG

ACCOUNT CHEM RES
20 # 12 ..... 5/ 45
JAMA-J AM MED ASSN
258 # 22 ..... 1/ 202
23 ..... 1/ 203
24 ..... 3/ 161
259 1 ..... 3/ 162
11 ..... 13/ 208
12 ..... 15/ 160
13 ..... 15/ 161
14 ..... 17/ 199

JOURNAL VOL ISSUE CC NO/PG

ACTA OBSTET GYNECOL SCAND
8582 ..... 11/ 206
8583 ..... 12/ 158
8584 ..... 13/ 205
8585 ..... 13/ 206
8586 ..... 15/
LEUK RES
11 # 10 ..... 1/ 192
11 ..... 7/ 189
12 ..... 7/ 189

JOURNAL VOL ISSUE CC NO/PG

AGR BIOL CHEM TOKYO
51 # 11 ..... 1/ 79
MED BIOL ENG COMPUT
25 # 6 ..... 1/ 177
26 1 ..... 14/ 156
2 ..... 11/ 168
3 ..... 16/ 197
MED J AUSTRALIA

JOURNAL VOL ISSUE CC NO/PG

AMER J MED SCI
294 # 4 ..... 9/ 196
215 ..... 15/ 90
MICROCIRC ENDOTH LYMPH
3 # 5-6 ..... 15/ 147
35 # 1 ..... 7/ 167
2 ..... 15/ 127
MINER ELECTROLYTE

JOURNAL VOL ISSUE CC NO/PG

AN ACAD BRASIL CIENC
59 # 3 ..... 17/ 32
MOL PHARMACOL
32 # 5 ..... 1/ 136
6 ..... 3/ 113
33 1 ..... 9/ 106
2 ..... 10/ 155
3 ..... 13/ 88
MUTAGENESIS
2 # 6 ..... 2/ 75

図2が導き出せる

調査する時に便利である。

**主な利用法**

ＣＣの大きな利点は、図書館で購読していない雑誌の目次が見られること、購読誌であっても図書館にまだ到着していない雑誌の目次が見られる程速報性に秀れていること、実際に雑誌に掲載される目次をそのまま載せているため正確であること、１冊１冊について索引が整っていること、などである。

これらを生かした利用法を考えるならば、各研究分野での重要な雑誌の最新号の目次を追っていく、また、ＣＣの主題の中から関連する部分を通覧する。といったブラウジング的利用と、Title Word Index で必要なキーワードを含む文献が載っているかをチェックする、という作業をＣＣが出る毎に行う Current Awareness（現状追従調査）が中心になるであろう。

**収録誌リスト**

Complete List of Serials and Publisher Guide のタイトルのもとに、１月と７月の年２回掲載。出版社名とその住所が付けられている。

**Triannual Cumulative Index（図５）**

年３回の収録誌名からの索引。雑誌名がアルファベット順に並べられ、巻数、号数の横にＣＣの収録号／頁が示される。求める雑誌がＣＣの何号何頁に載っているかをまとめて

## ●Contents

ＣＣは代表的な目次速報誌であるが、日本の雑誌の収録誌が少ない。国内雑誌の目次を集めたものが日本医薬情報センターから『Contents』というタイトルで毎週出ている。

医、薬学および周辺分野の国内誌、メーカー誌、情報関連誌約400誌の目次を載せ、他に様々な学会情報が載っている。

本文は収録雑誌の中から毎号一部をアルファベット順に配列している。

欠点は主題索引がないことと、主題別のブラウジングが出来ないことである。ただ、毎号、冒頭の「医薬文献ハイライト」で、その号の論文をいくつか紹介しており、主題通覧のためには一応の目安になるかもしれない。雑誌名から収録号を示す１年分の索引がある。

亥鼻分館では578号（1984年）から継続購読中である。

## ジャーナル情報

このページでは、亥鼻地区で受け入れのタイトルについて、新規受入、受入中止、誌名変更、休・廃刊等の情報をお知らせします。

**1989年新規購読**

1．American Journal of Epidemiology（基　保）
2．American Journal of Human Genetics（図書館）
3．American Journal of Hypertension（内　3）
4．Animal Technology（動実施）
5．Archives of Dermatological Research（図書館）
6．Archives of Environmental Contamination and Toxicology（図書館）
7．Biochimica et Biophysica Acta: Lipids & Lipid Metabolism（図書館）
8．Bioessays（図書館）
9．Brain Research Bulletin（図書館）
10．Computers in Nursing（図書館）
11．Current Nephrology（図書館）
12．Differentiation（図書館）
13．Environmental Research（図書館）
14．European Journal of Anaesthesiology（図書館）
15．European Journal of Respiratory Diseases（図書館）
16．Excerpta Medica. Sect. 8: Neurology & Neurosurgery（神　内）
17．Journal of the American Academy of Dermatology（皮　膚）
18．Journal of Electron Microscopy Technique（図書館）
19．Journal of Endourology（図書館）
20．Journal of Hypertension（内　3）
21．Journal of Magnetic Resonance（図書館、内3）
22．Journal of Ocular Pharmacology（図書館）
23．Molecular and General Genetics（図書館）
24．Neuropsychopharmacology（図書館）
25．Public Health Nursing（地　看）
26．Schizophrenia Research（精　神）
27．Veterinary Record（動実施）
28．映像情報インダストリアル（放技校）
29．眼科手術（眼　科）
30．言語生活（継　看）
31．ハートナーシング（成看2）
32．関節外科（整　外）
33．メディカル・ヒューマニティ（看　教）
34．オペナーシング（成看2）
35．臨床スポーツ医学（整　外）
36．脊椎・脊髄ジャーナル（整　外）

**1989年購読中止**

1．Anasthesie Intensivtherapie Notfallmedizin (麻　酔)
2．Annales de Parasitologie Humaine et Comparee (図書館)
3．Archives of Orthopaedic and Traumatic Surgery (図書館)
4．Canadian Medical Association Journal (図書館)
5．Computers and Biomedical Research (図書館)
6．Ecology (図書館)
7．Excerpta Medica (図書館)
8．Geriatrics (成看1)
9．International Anesthesiology Clinics (図書館)
10．Journal of Arthroplasty (図書館)
11．Journal of Epidemiology and Community Health (図書館)
12．Journal of Immunoassay (図書館)
13．Journal of Medical Genetics (図書館)
14．Langenbecks Archiv für Chirurgie (図書館)
15．Metabolic, Pediatric and Systemic Ophthalmology (図書館)
16．Orthopaedic Review (図書館)
17．Pathology Annual (図書館)
18．Proceedings of Helminthological Society of Washington (寄　生)
19．Social Casework (地　看)
20．Tropical Diseases Bulletin (寄　生)
21．Tropical Medicine and Parasitology (寄　生)
22．Veterinary Parasitology (寄　生)
23．Virchows Archiv. B : Cell Pathology (図書館)
24．Zeitschrift für Kardiologie (内　3)
25．Zentralblatt für Allgemine Pathologie und Pathologische Anatomie (図書館)
26．ビタミン (図書館)
27．月刊アスキー (放技校)
28．医療　増刊 (図書館)
29．教育と情報 (図書館)
30．リウマチ (図書館)
31．消化器外科 (外　1)
32．食品衛生研究 (図書館)

**バックナンバー寄贈受入**

1．Bioessays.　5 (1986)—7 (1987) (図書館)
2．Journal of Biochemistry.　89 (4—6) (1981), 90—93, 94(2—6), 95—98(1985) (図書館)
3．Journal of Electron Microscopy.　28 (1979)—36 (1987) (図書館)
4．実験動物　24 (1975)—34 (1985) (図書館)
5．民族衛生　26 (1960)—40 (1974) (図書館)
6．日本衛生学雑誌　23 (1968)—35 (1981) (図書館)
7．応用薬理　21 (1981)—34 (1987) (図書館)
8．生物物理　6 (1966)—14, 15 (1,2,4—6), 16—25 (1985) (図書館)
9．生化学　48 (1976)—56 (1984) (図書館)

# 寄贈著書ありがとうございました

昭和63年６月～10月に寄贈を受けた著書です。（　）内の記号は配架記号です。（敬称略、寄贈者五十音順）

**安達恵美子**〔眼科学〕

眼科ナーシングマニュアル 安達恵美子編 南江堂 1988 （ＷＹ58）

**草刈淳子**〔看護管理研究部〕

看護診断 Marjory Gordon著 野島良子，草刈淳子監訳 医歯薬出版 1988 （ＷＹ100）

**山浦 晶**〔脳神経外科学〕

要説脳神経外科 朝倉哲彦ほか著（分担執筆：山浦晶）発達疫学研究所出版部 1988 （ＷＬ368）

## とぴっくす

### ＣＤ－ＲＯＭをご存じですか？

オーディオ用ＣＤが一般家庭に普及されてから久しくなりますが、この12cmの円盤は音楽だけでなく、文字、数字、画像など様々な情報を蓄積することが出来ます。これらの情報を集めた蓄積媒体をＣＤ－ＲＯＭ（Compact Disc－Read Only Memory）と呼んでいます。記憶容量はディスク１枚に漢字やひらがなで約２億７千万字が記録でき、例えば『広辞苑』では30冊分が記憶出来ることになります。このような記憶密度の高さを利用しない手はなく、いろいろな情報がＣＤ－ＲＯＭに収められ提供されています。

現在、事典、辞書、新聞記事、人物情報などのＣＤ－ＲＯＭが販売されていますが、医学関係の情報を扱ったものも出ています。

Index Medicus をオンラインで検索するデータベースは MEDLINE ですが、これのＣＤ－ＲＯＭ版があり、提供社別にＤＩＡＬＯＧ版、ＢＲＳ版などと、それぞれのオンライン検索時の検索方法に準じた方法をとっています。他に癌情報や Science Citation Index のＣＤ－ＲＯＭもあります。また、Excerpta Medica のオンライン版はＥＭＢＡＳＥですが、そのＣＤ－ＲＯＭ版も出る予定です。

オンライン検索の場合は、時間、出力件数に応じて料金が加算されますが、ＣＤ－ＲＯＭ検索では、こういったことにとらわれずに時間をかけて自由な検索をすることが出来ます。ただ、ＣＤ－ＲＯＭの更新は年４回などと、どうしても速報性の点で劣ります。そのために古い分はＣＤ－ＲＯＭで、最新情報はオンライン検索で、といった使い分けが必要になるでしょう。

ＣＤ－ＲＯＭの問題点は、ＣＤ－ＲＯＭ毎にパソコンとＣＤ－ＲＯＭを収めるデッキ（ＣＤ－ＲＯＭドライブ）の組合わせが決められており、何種類かのＣＤ－ＲＯＭを使う場合、複数のハードが必要となるなど、互換性の点で難点があることで、現在標準化が検討されています。

ＣＤ－ＲＯＭは魅力的な媒体です。図書館やその他の機関でも使われはじめており、利用が増えていくことは間違いないでしょう。

**千葉大学附属図書館亥鼻分館報“らいぶらりいゐのはな„ No.21** 1988年11月30日発行
千葉大学附属図書館亥鼻分館発行　発行者：本田良行
千葉市亥鼻１－８－１　電話 0472(22)7171(代)

千葉大学附属図書館亥鼻分館報

# らいぶらりい 亥のはな 22

1989. 7

●目次●

少年の頃のキャンパス――1
寄贈著書ありがとうございました――3
CD－ROM MEDLINEが入ります――3
〈JOURNAL紹介〉公衆衛生学――4
〈オンライン検索にゅーす〉JOIS利用料金改定――6
ジャーナル情報――7
平成元年度開館日程――8

## 少年の頃のキャンパス

佐藤研一

父が本学に勤めていたことから、家はサッカーグランドの隣の亀岡町にあり、私はそこで生まれ育った。そのため子供の頃、附属病院前は通学路であったし、医学部キャンパスは近所の子らとの遊ぶ格好な場所でもあった。そのことから、このキャンパスは私の、いわば故郷の一部であり、多くの想い出に満ちている。

新病院（現医学部本館）が落成したのは昭和12年であり、父はすでに歯口科に勤務していた。そのころすでに多少物心がついていた筈であるから、病院建設や移転風景など憶えていそうなものであるが、残念ながら全く記憶にない。

おそらく最初の記憶として残っているのは、現サッカーグランドが造成されている頃である。亀岡町の木島床屋の隣の鍛冶屋の間から入り、病院事務長官舎と機関部の石炭がらの山のそばを抜けると、すぐグランド予定地にでた。そこにはアカンペン山と子供らがいう小山があり、その奥手には未だ多くの家屋が建ち並んでいた。グランド造成には、これらの家が取り払われ、よく遊んだ懐かしい小山も平坦にして整地されたわけである。

それから1年ほどして幼稚園、小学校に通い始めたと思うが、附属病院の裏門から入って坂を登り、玄関前から正門を抜け、中島屋のわきを通る毎日であった。

春。そのころすでに病院裏右手や弓道場の斜面に辛夷が早春に咲き始め、4月に入ると

病院正門、裏門わきの浄水場の老桜、あるいは病院東側の薬学との間にある八重桜が咲き揃った。構内の四季の花を見ながら通学できることは楽しいことであった。また野球場、サッカーグランドにはクローバーが咲き乱れ、姉達と花輪を編んだり、家で生まれた子兎を連れてきて放したりした。

夏。亥の鼻キャンパスは蟬の声で埋まった。近所の子等と蟬採りに出かけたが、そのコースは決まっていた。サッカーグランドから野球場のスコアーボードのあたりの丘に登り、基礎校舎の浄水場付近の桜、櫟の木立を点検し、山百合の咲く凡秋谷、さらに基礎校舎の中通りを突っ切り、貯水池から左折して、校舎裏から眼下に亀岡町、遠くには千葉市街、椿森の眺望できる高台に出、ここでしばらく遠景を楽しんでからサッカーグランドに下り家に帰った。

夏のグランドは虫が多い。子供がいう殿様バッタは大きく立派で、しかも敏感なので採るのに汗をかいた。また榎実鉄砲という竹鉄砲を作って遊んだが、その弾に使うため凡秋谷の一角にある榎に、守衛の目を盗んで登り、その実を採りに行ったものだ。

秋。十五夜が近付くと、月見に供える野草を取りに出かけた。すすき、女郎花、ぼうずは、現病院裏門から看護学校宿舎裏にかけての斜面、栗は現晴暉寮の北側の崖に多くあり、梢から梢に渡り移り得意になって採ったものである。別棟毎に配列していた基礎校舎一帯は、現在のような街からの騒音は全く届かず、何時出かけても音一つなく森閑としていて、子どもには恐く、緊張して通り抜けたものであった。

冬。病院裏門からお茶ノ水（大和橋手前）まで旧東金街道との境界に幅2メートルぐらいの掘割りがあった。これは矢作町の方からずっと続いてきているのだが、ここは元病院・現記念講堂北側の鬱蒼とした森下になるので、陽が当らず、冬には冷たい北風が通りぬける。凍結した堀割りに恐る恐る乗ってみたり、氷り割りをして遊んだ。冬のグランドはあまり使わなかった。時に凧揚げをしたが、都川畔で揚げることの方が多かった。そこから揚げて糸を長くすると、精神科の病棟や附属病院の屋上までもと思えるほど高く小さくなって胸が躍った。

この懐かしいキャンパスも第2次大戦が始まると共に、旧病院は爆撃を避けるための斑な黒ペンキで醜くなり、あげくの果て元病院と基礎校舎は戦災で消失した。食料不足からサッカーグランドは全面畑になり、歯口科に割り当てられた区画で、父や医局員と共に野菜作りをした。隣接には婦人科の岩津教授、図書館の黒川さんの畑もあり、時に一緒になった。肥料作りに薬学の七天王の森で落葉を集めたり、そこの便所から肥え汲みをし、剣道場のわきを通ってグランドまで遠く担いで行ったものだった。

その後、私は成人し、千葉大の医学部に昭和31年に入学した。そして学生時代あるいは医局生活を通して現在まで、このキャンパスに、更に別な多くの懐いを残した。一方この間、医学部のキャンパスはずいぶん変った。基礎校舎は2転し旧病院に、新病院は元の基礎校舎の場所に移った。昔の面影を残す場所は少なくなったが、しかしこの緑濃いキャンパスの其処かしこには、未だ私の幼年の頃の懐いが息づいており、年々その懐いは熱く深まって行くような気もする。

（医学部歯科口腔外科学講座教授）

# 寄贈著書ありがとうございました

昭和63年11月～平成元年５月に寄贈を受けた著書です。（　）内の記号は配架記号です。（敬称略、寄贈者五十音順）

**大谷克己**〔名誉教授〕
千葉の牛頭天王　改訂版　大谷克己著　大谷克己教授退官記念会　1988　（388）

**加藤　巌**〔微生物学第２〕
ＡＤＰリボシル化毒素と標的分子　加藤巌、内田驍編　菜根出版　1989　（ＱＷ630）
生物トキシン―医学・生物学への応用―　加藤巌編　学会出版センター　1988（ＱＷ630）

**川喜田愛郎**〔名誉教授〕
生命・医学・信仰　川喜田愛郎著　新地書房　1989　（W50）

**平澤博之**〔救急部〕
合併症をもつ患者の術前・術中・術後管理　平澤博之編　医学書院　1988　（ＷＯ178）
外科合併症 Decision Making　―フローチャートでみる治療指針―　平澤博之、高田忠敬編　医学書院　1989　（ＷＯ184）

**平山惠造**〔神経内科学〕
神経内科治療マニュアル　第３版　Martin A. Samuels　編　平山惠造、伊藤直樹監訳　メディカル・サイエンス・インターナショナル　1988　（ＷＬ100）

**吉武香代子**〔小児看護学〕
小児看護における母親の参加に関する研究―昭和60・61・62年度文部省科学研究費補助金（一般研究Ｃ）成果報告書―　研究代表者：吉武香代子　1988　（文部省Ｓ）

## CD-ROM MEDLINE が入ります

前号でCD－ROMの概略についてお知らせしましたが、　亥鼻分館では　CD－ROM MEDLINE の導入について館内及び運営委員会で検討した結果、今年中に導入を決定しました。実際の導入は秋頃となります。

オンライン検索と比べ、時間にとらわれず思い通りに試行錯誤しながらの検索が可能になるため、実際の検索は図書館職員を介さず利用者が直接検索する方法（エンドユーザー検索）をとることを予定しています。

CD－ROM 版による検索では、MeSH タームやタイトルの切り出し語などオンライン検索と同様の検索ができます。操作方法については説明会を開く他、マニュアルを用意しますし、検索して不明な点があれば係員がお手伝いします。

CD－ROM の提供社や動かすためのパソコン、ソフト等は選定中ですが、過去５年以上は遡って検索できるようにします。

詳細は具体化次第、館報等でお知らせします。

〈Journal 紹介〉

# 公 衆 衛 生 学

安 達 元 明

公衆衛生学は衛生学・法医学と共に社会医学に属するものであり、その定義からみても非常に広範囲にわたる学際的な学問分野である。社会医学の使命として、実社会での活動（定義のArt, 術の部分）も重要な位置を占めるので、社会の保健・医療および福祉の現状と動向には常に目を向けていなければならない。衛生学との境界は以前ほど明確でなくなり、お互いにオーバーラップするところが多い。

ここでは、便宜上いくつかの分野に分けて紹介する。

## A．衛生学、公衆衛生学、疫学、予防医学に関するもの

1 American Journal of Epidemiology
2 American Journal of Public Health＊
3 Asia-Pacific Journal of Public Health
4 Canadian Journal of Public Health
5 Epidemiology and Infection＊
6 Hygiene and Sanitation
7 International Journal of Epidemiology
8 Journal of Epidemiology and Community Health
9 Journal of Hygiene, Epidemiology, Microbiology and Immunology
10 Preventive Medicine
11 公衆衛生＊
12 公衆衛生情報＊
13 日本衛生学雑誌
14 日本公衆衛生雑誌＊
15 民族衛生

時代に即したテーマが必須である。2にはエイズやウイルス肝炎に関するものが多い。

## B．環境に関するもの

1 Archives of Environmental Contamination and Toxicology＊
2 Archives of Enviromental Health＊
3 Atmospheric Environment
4 Environmental Health Perspectives
5 Environmental Research＊
6 Experimental Lung Research＊
7 Journal of the Air Pollution Control Association
8 Journal of Environmental Health
9 Journal of Toxicology and Environmental Health
10 Mutation Research＊
11 エネルギーと公害
12 環境研究＊
13 空気清浄
14 公害研究
15 公害情報学会誌
16 公害と対策
17 大気汚染学会誌

6，9には大気中ガス状物質への暴露実験（9は生化学指標についての分析）が多い。10にはAMES Testの研究が掲載されている。

## C．労働衛生に関するもの

1 American Industrial Hygiene Association Journal
2 Annals of Occupational Hygiene＊
3 Archives des Maladies Professionnelles de Medecine du travail et de securite sociale
4 British Journal of Industrial Medicine
5 Internationales Archiv fur Arbeits-

medizin
6 Journal of Occupatinal Medicine＊
7 Occupational Health
8 Scandinavian Journal of Work, Environment and Health
9 産業医学
10 産業医学ジャーナル
11 労働衛生ジャーナル
12 労働科学＊
13 中毒研究
14 災害医学

**D．統計分析手法に関するもの**

フィールド調査により収集したデータは、実験データと異なり多くのbiasが含まれる。交絡因子の補正法が掲載されることがある。

1 Annals of Mathematical Statistics
2 Applied Statistics
3 Biometrics
4 Biometrika
5 Journal of the American Statistical Association
6 Journal of the National Cancer Institute＊
7 Journal of the Royal Statistical Society

6には新しい統計技法が紹介されることがある。

**E．行政・衛生統計に関するもの**

現在の保健・医療および福祉の実態および統計について、各種の報告がある。

ＷＨＯ関係では

1 Official Records of the World Health Organization
・WHO Public Health Papers＊
・WHO Technical Report Series＊
・WHO Weekly Epidemiological Record＊
・WHO World Health Forum＊
・WHO World Health Statistics Annual＊

日本のトピック、各種統計は『厚生の指標』に掲載される。特別付録の『国民衛生の動向』は現状を知る上で、衛生・公衆衛生のみならず、臨床家にとっても必携と言えよう。

2 厚生の指標＊
・国民衛生の動向＊
・国民の福祉の動向＊
・保険と年金の動向＊
3 衛生法規＊
4 ジュリスト

4には各種裁判の記録が掲載されるほか、特集号がある。

**F．疾患に関するもの**

当教室では、大気汚染が小児の呼吸器に及ぼす影響についての研究を行っている。疫学調査では、疾病の正確な把握が不可欠であるので、臨床医学のJournalも必要となる。

1 American Review of Respiratory Disease＊
2 European Respiratory Journal＊
3 Journal of Pediatrics
4 Pediatric Clinics of North America
5 Pediatrics
6 Thorax
7 小児科
8 小児科臨床
9 小児科診療
10 日本胸部疾患学会雑誌

1には新しい呼吸器症状調査票の提示、それに引き続く一連の研究結果が掲載されている。2には疫学調査結果のほか、環境汚染物質への人体暴露がある。

＊印は亥鼻分館継続購読誌

（公衆衛生学　助教授）

# ＪＯＩＳ利用料金改定

下記の通り、JOIS 利用料金が４月１日から改定されました。

関連する主なファイルとしては、MEDLINE ファイルが、接続料金 160円／分→ 140円／分、回答出力料金25円／件→20円／件、JMEDICINE 国内医学文献ファイルが、接続料金 200円／分→ 180円／分、回答出力料金30円／件→45円／件となっています。

なお、４月１日より消費税実施に伴い、下記のファイル料金に消費税分３％が加算されます。

**ＪＯＩＳサービス料金表**（消費税は含まれておりません）

**１.オンライン料金**

| 料金／データベース名 | ファイル接続料金 | オンライン回答出力料金（ヒットチャージ） | オフライン料金 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 手配料金 | 回答出力料金 | |
| | | | | Ａタイプ（抄録付） | Ｆタイプ（抄録無） |
| JICST | 160円／分 | 45円／件 | 500円／回 | 70円／件 | 52円／件 |
| JICST (E) | 120円／分 | 45円／件 | 500円／回 | 56円／件 | 56円／件 |
| JCLEARING | 160円／分 | 40円／件 | 500円／回 | 53円／件 | 47円／件 |
| JTERM | 50円／分 | －／ | － | － | － |
| JCATALOG | 50円／分 | －／ | － | － | － |
| JMEDICINE | 180円／分 | 45円／件 | 500円／回 | 59円／件 | 47円／件 |
| JPUBLIC | 160円／分 | 45円／件 | 500円／回 | 70円／件 | 52円／件 |
| NK－MEDIA | 200円／分 | 40円／件 | 500円／回 | 65円／件 | 47円／件 |
| JAFIC | 160円／分 | 40円／件 | 500円／回 | 65円／件 | 47円／件 |
| OSAKA－UE | 160円／分 | 40円／件 | 500円／回 | 65円／件 | 47円／件 |
| MEDLINE | 140円／分 | 20円／件 | 500円／回 | 44円／件 | 34円／件 |
| TOXLINE | 302円／分 | 39円／件 | 500円／回 | 65円／件 | 47円／件 |
| CANCERLIT | 175円／分 | 25円／件 | 500円／回 | 54円／件 | 36円／件 |
| MESH | 550円／分 | － | － | － | － |
| CAB | 187円／分 | 59円／件 | 500円／回 | 84円／件 | 66円／件 |
| FSTA | 243円／分 | 44円／件 | 500円／回 | 63円／件 | 45円／件 |
| EMBASE | 268円／分 | 25円／件 | 500円／回 | 43円／件 | 32円／件 |
| MALIMET | 50円／分 | － | － | － | － |
| INIS | 160円／分 | 32円／件 | 500円／回 | 50円／件 | 32円／件 |
| IRRD | 160円／分 | 25円／件 | 500円／回 | 50円／件 | 32円／件 |
| INFOTERRA | 160円／分 | 25円／件 | 500円／回 | 50円／件 | 32円／件 |
| COAL | 160円／分 | 25円／件 | 500円／回 | 50円／件 | 32円／件 |
| 研修ファイル | 50円／分 | － | － | － | － |

**その他のオンライン料金**（消費税は含まれておりません）

| 項目 | 料金 |
|---|---|
| 質問登録料金（１質問当り） | 25円／日 |
| オンライン複写申し込み（¥ＯＲＤ）接続料金 | 無料 |
| 会話退避料金 | 360円／回 |
| ＮＥＷＳ | 無料 |

**２.ユーザＳＤＩ料金**（消費税は含まれておりません）

| データベース | 基本料 | 回答出力料金 |
|---|---|---|
| JICST | 1,480円／１検索 | 70円／件 |
| JICST (E) | 1,360円／１検索 | 56円／件 |
| JMEDICINE | 1,540円／１検索 | 59円／件 |
| MEDLINE | 1,030円／１検索 | 44円／件 |
| EMBASE | 1,804円／１検索 | 43円／件 |

＊消費税に関するお知らせ

JOISサービスの他に、当館で実施しているDIALOGサービス、STN Internationalサービスにも、消費税が加算されます。

## ジャーナル情報

このページでは、亥鼻地区で受け入れのタイトルについて、新規受入、受入中止、誌名変更、休・廃刊等の情報をお知らせします。

**バックナンバー購入**

1．American Journal of Nursing＊　1(1900)－76(1976)　(図書館)
2．American Journal of Public Health＊　1(1911)－43(1953)　(図書館)
3．Archives of Diseases in Childhood　7(1932), 10, 13, 14(1939)　(図書館)
4．Biochimica et Biophysica Acta：Bioenergetics.
890(1987)－895, 932－936(1988)　(図書館)
5．Biochimica et Biophysica Acta：Molecular Cell Research
927(1987)－931, 968－972(1988)　(図書館)
6．Biochimica et Biophysica Acta：Reviews of Cancer.
907(1987), 948(1988)　(図書館)
7．Bulletin of the World Health Organization＊　1(1947)－30(1964)　(図書館)
8．Child and Family　7(1968)－11(1972)　(図書館)
9．International Journal of Nursing Studies＊　1(1963)－13(1976)　(図書館)
10．Journal of Gerontological Nursing　2(1976)－4(1978)　(図書館)
11．Journal of Neurosurgical Nursing　6(1974)－10(1978)　(図書館)
12．Nursing＊　1(1971)－7(1977)　(図書館)
13．Nursing Clinics of North America＊　1(1971)－11(1976)　(図書館)
14．Nursing Forum　4(1965)－5, 10－12(1973)　(図書館)
15．W.H.O. Chronicle＊　1(1947)－18(1964)　(図書館)
16．看護教育　1(1960)－9(1968)　(図書館)
17．看護展望　1(1976)－2(1977)　(図書館)

＊印はマイクロフィルム版

**誌名変更**

・Acta Medica Scandinavica　－224(1988)
　⟶ Journal of Internal Medicine　225(1989)－
・Drug Intelligence and Clinical Pharmacy　－22(1988)
　⟶ DICP：The Annals of Pharmacotherapy　23(1989)－
・Head and Neck Surgery　－10(1988)
　⟶ Head and Neck　11(1989)－
・Journal of Medical Education　－63(1988)
　⟶ Academic Medicine　64(1989)－
・Journal of Submicroscopic Cytology　－20(1988)
　⟶ Journal of Submicroscopic Cytology and Pathology　21(1989)－

**休・廃刊**

・トキシコロジーフォーラム　11(6)(1988) //

## 平成元年度　開館日程表

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 通常開館<br>週日　9：00～17：00<br>土曜日　9：00～12：00 | ←→<br>1<br>(土) | ←→ | ←→ | ←→ | ←→ | ←→ | ←→ | ←→<br>4 6<br>(土)(月) | ←→<br>26<br>(火) | ←→<br>5<br>(金) | ←→ | ←→<br>31<br>(土) |
| 時間外開館<br>週日　17：00～20：00<br>土曜日　12：00～16：30 | ←→<br>7<br>(金) | ←→ | ←→ | ←→<br>22<br>(土) | | ←→<br>1<br>(金) | ←→ | ←→<br>4 6<br>(土)(月) | ←→<br>22<br>(金) | ←→<br>8<br>(月) | ←→ | ←→<br>10<br>(土) |
| 日曜開館<br>13：00～17：00 | 9，16<br>23，30 | 7，14<br>21，28 | 4，11<br>18，25 | 2，9<br>16 | | 3，10<br>17，24 | 1，8<br>15，22<br>29 | 12，19<br>26 | 3，10<br>17 | 14，21<br>28 | 4，18<br>25 | 4 |
| 休館日<br>(祝日、他) | 2，㉙ | ③，④<br>⑤ | | 23，30 | 6，13<br>20，27 | ⑮，㉓ | ⑩ | ③，<br>5，㉓ | ㉓ 年末<br>27(水)<br>24 | 年始<br>↔<br>4(木) 7<br>⑮ | ⑪，⑫ | 11，18<br>㉑，25 |

・休館日のうち、○で囲んだ日は祝日または振替休日。11/5は本学創立記念日。

## オンライン文献検索は午前中が空いています

オンライン文献検索の利用時間帯は１日のうちで午前よりは午後に集中しています。これは亥鼻分館に限りません。公衆回線を利用しているため、回線が混雑して電話がかかり難くなる、また、コマンドを入れて応答が来るまでの時間が長くなる、といったことも午後に多くあるようです。時間の長さは利用料金にも影響しますし、余計にお待たせすることにもなりますので、時間の都合のつく方はなるべく午前中にご利用下さい。午前中のサービス時間は９時から11時半まで（受付は11時まで。土曜日は除く。）です。

## 「文献のさがし方ガイダンス」の実施

当館では、例年11月に、医学部学生（４年生中心）を対象に「医学文献のさがし方ガイダンス」を行っていますが、今年度は、開催時期を早めて６月12日および６月19日の両日、実施しました。

また、学生とは別に、院生・研究生・研修医を対象に同様のガイダンスを６月６日および６月７日の両日に行いました。

内容は、医学および関連分野の索引誌、抄録誌（Index Medicus, 医学中央雑誌等）の使い方を中心に文献のさがし方についてです。

なお、看護学部３年生を対象に「看護学文献のさがし方ガイダンス」を、例年１月～２月に行っていますが、こちらの方も今年は時期を早めて６月29日に実施しました。

**千葉大学附属図書館亥鼻分館報“らいぶらりいるのはな„ No.22**　1989年７月５日発行
千葉大学附属図書館亥鼻分館発行　　発行者：本田良行
千葉市亥鼻１－８－１　　電話 0472(22)7171(代)

千葉大学附属図書館亥鼻分館報

# らいぶらりい 亥のはな 23

1990. 1

●目次●

言語教育あれこれ ―― 1
寄贈著書ありがとうございました ―― 3
学内にない図書の所在検索について ―― 3
図書館利用ガイド CD−ROM MEDLINE 検索サービスについて ―― 4
ジャーナル情報 ―― 6
閲覧室の資料配置 ―― 8

## 言語教育あれこれ

橘　正道

かつて私どもの研究室にしばらく滞在したオーストラリアの教授に、君達はよく働らくねと感心され、半ば言訳のように「母国語でない英語で文献を読み、その英語で論文を書き、また英語で口演するというハンディキャップを背負って、しかも英語を母国語とする人達と同じ土俵で対等な勝負をするには、1倍半もいやもっと働らかねばならないのですよ」と云ったことがある。本当のところ2倍働いてもある面では到底間に合わないのが実状である。一番開きが少ないと思われる「読む」ということを取り上げても、米英のインテリの読む速さはすごい。一緒に文献を見て、望む個所を見つけるときなど、すらっと指を走らせながら「ほらここに」とあっという間に探し、どうしても追いつかない。一般雑誌の「タイム」とか「ニューズウィーク」くらいのものはまあ1時間足らずで読み了える。また私などがそんな雑誌に見つけた〝奇妙な〟単語の意味を求めると、明快にそのニュアンスまでを含めて説明してくれる。改めて圧倒されてしまう。自分達の日本語の力を考えれば当然ではあるのだが。結局は限られた専門のところは必死に追いつくが、裾野の領域には手が廻らないというのが実状であろうか。

有名な月刊誌サイエンティフィック・アメリカンを私どもの教室でも購読しているが、それぞれ能力がある人なのに毎月この雑誌の目次にすら目を通す人が3人以上はいないように見える。もちろん、広く見れば例外的な方もいるのであって、内科の奥田邦雄名誉教授の語学力はすばらしく、この雑誌を愛読され、電車の中でさらさらと目を通されていた。

どうしてこのようにネィティヴの人とは読

む速度が違うのか。これは速読力を身につけていない、あるいはつけることができなかったからであろう。では速読力とは何か。それは形で読むことである。ふと気が付くと私は少しややこしい英語だと半ば〝音読〟している。明治6年生まれだった私の祖母は手紙を声を出して読んでいた。またある年令期の子供が同じことをする。音で聞いた方が速く理解できるのであろう。これを想い出して苦笑するのだが、私の英語の場合は、音を聞くのでなく単語とフレイズの読解が遅いので、心の中の音読でスピードを落し数えるようにして正確さを確保しているようだ。非常に易しいところは単語・フレイズを一括してパターンで読んでいることもある。

さて、それでも結局は遅いのである。易しい本ですら小学校高学年のネィティヴの子供の読書スピードには到底及ばない。ところが考えてみると、私が今まで読んだ英語の活字量はいくら何でも小学生よりは多いのである。この差は結局のところ英語の形に接し始めた年令の差ではなかろうか。

一般的に子供の〝形〟の識別・記憶能力には驚嘆すべきものがある。御存知の方も多いと思うが、幼児がジグソーパズルを並べるのを見ると、ランダムにさらさらと置いてゆく。完成した図柄を思い浮かべているのでなく、1つ1つの断片を形と柄で確実に識別、記憶していて、またこの断片は右上のこの辺りというように憶えているようである。とくにそのお子さんが天才的というのでなく、一般的に3～4才の幼児がその点で天才的な能力をもっているのであろう。また小学生低学年の子供が、広場などで遊ぶ同じような服装の数多い子供達の中から友人を認める速さにもびっくりする。A君とB君があそこに、C君はこちらにとわずか2～3秒で十分である。傍にいる親は教えてもらい、目をこらしてようやく判るというのに。このような能力をもつ子供だが、それでも文字には少し時間がかかるようだ。ふつう小学校1～2年生の間は私の祖母のように声を出して読み、また大人に本を読んでもらうのを好むが、小学校3～4年生のころ急に熱中して本を読むようになる。自分の好きな内容のものだと夢我夢中で、しかも黙って読みふける。まさに速読力を獲得したのである。文字の形を憶え、それが意味と直結してきたのであろう。もう声を出すこともないし、親に読んでくれとせがむことも少なくなってくる。

平均的な能力の持主だと、これは小学校3～4年生までに発揮される力だし、その後は確実に低下してゆくように見える。外国で幼少年期を過したいわゆる帰国子女にとっての最大の困難は国語の「読む」に加えて「書く」を含めた能力の低さであり、しかも年令が教育の最適期を過ぎてしまったことなのであろう。私どもの英語と同じ状態なのである。さらにもう1つのマイナス因子は知的欲求は先へ行っていて、自からのもどかしい語学力に堪えられず、ついつい読まないようになるのではあるまいか。

さて読むのと同様なことが「聞き、話す」にも当てはまる。先日も旧友のN博士と話し合った。文化勲賞を受賞され、ノーベル賞候補の最右翼の方であり、国際的な活躍も目ざましい。その彼が言う。「本当のところネイティブ同志の学会や討論を傍で聞いても聴きとりが悪く肝心なところは判らないね。情報を得るのは個人的な接触がいいよね。向こうが手加減をしてくれるから」と。私も同じ体験をし、同感である。学部学生の頃からそれなりに努力をし、その後2年間も米国に留学しても真実はこの程度である。

冷え始めた鉄を鍛えるのは難しい。でも努力しなければ後退するのみである。こんなことを学生諸君に云うのだが、大多数のものは上の空に近いように見える。

母国語はその民族の魂であり、文化そのものである。受験のためのみでない真実の国語力の養成はいささかもゆるがせにできない。その間をぬって、個人レベルのみでなく組織・制度として英語の早期教育を考える時が来ているように思う。

（医学部生化学才二講座教授）

# 寄贈著書ありがとうございました

平成元年６月～12月に寄贈を受けた著書です。（　）内の記号は配架記号です。（敬称略、寄贈者五十音順）

**有水昇**〔放射線医学〕　**植松貞夫**〔放射線部〕

ＭＲＩ診断マニュアル　有水昇、植松貞夫編　篠原出版　1989　（ＷＮ445）

**高橋みや子**〔看護教育学〕

助産婦マニュアル　マイルズ著　松本清一、前田マスヨ監訳（分担翻訳：高橋みや子）才２版　原著才10版　医学書院　1987（ＷＱ165）

**須永　清**〔機能・代謝学〕

医学思想の源流　レスター・キング著　舘野之男監訳　千葉大学医学部山紫会訳（分担翻訳：須永清）西村書店　1989　（ＷＺ40）

**三浦義彰**〔名誉教授〕

見えてきた癌のプロフィル　三浦義彰、石井晶子著　篠原出版　1989（癌の臨床　別集　17）（ＱＺ200）

**山浦　晶**〔脳神経外科学〕

くも膜下出血　改訂２版　山浦晶著　篠原出版　1989（New lecture 1）（ＷＬ200）

脳神経外科 Quick Reference　関野宏明、佐藤潔、山浦晶編　文光堂　1989（ＷＬ368）

# 学内にない図書の所在検索について

亥鼻分館では、昭和63年４月から学術情報センターのＮＡＣＳＩＳ－ＣＡＴ（目録所在情報サービス」と接続している。これは、「全国の大学等の図書館に所蔵する図書及び雑誌の総合目録データベースを構築する」ことを目的としているシステムである。

具体的には、同センターと接続された大学図書館の全国的なオンライン共同目録システムで、各大学図書館は図書のデータを同センターに登録すると同時に、自館に必要なデータを取り込むことが可能になっている。また目録作業が省力化されるだけでなく、図書の検索の面でも便利になった。

従来、学内にない図書の所在を検索する資料は少なく、『医学洋書総合目録』、『新収洋書総合目録』が主なものだった。これらにない場合は、各大学の蔵書目録や館報の新着案内を見ていたが、手間のかかるわりには、確認出来ることは少なかった。

しかし、ＮＡＣＳＩＳ－ＣＡＴを検索すると、接続機関（平成元年９月現在、100機関）の所蔵だけでなく、参照ＭＡＲＣとしてＪＡＰＡＮ／ＭＡＲＣ（日本国内で発行された図書の書誌情報。1969年以降の国会図書館所蔵）やＬＣ／ＭＡＲＣ（主として米国で発行された図書の書誌情報。1968年以降の米国議会図書館所蔵）などの検索が可能になった。

読みたい本が学内にない場合、諦める前にカウンターで相談して下さい。

# CD-ROM MEDLINE 検索サービスについて

前号で導入予定をお知らせしたCD−ROM MEDLINEが入り、この度、検索サービスを開始しました。

今回はCD−ROM MEDLINE についての内容、検索方法について簡単に説明します。

**内容**

CD−ROM MEDLINEは提供社によりバージョンが違いますが、当館で導入したものはアメリカのSilverPlatter Information 社のバージョンです。この会社はCD−ROM専門の会社で、様々な二次資料をCD−ROMにして提供しています。

当館のCD−ROMで検索できる範囲は1983年以降現在までで、1年分がおよそディスク1枚に収録されています。最新年分については月1回、その月までの累積版の形で更新されます。

1982年以前の文献を検索するにはオンライン検索を利用します。

CD−ROM MEDLINEで検索できる内容は、オンライン検索と同様、Index Medicus, International Nursing Index, Index to Dental Literature が含まれます。

検索するための機器は、SilverPlatter 社の製品が使えるIBMパソコンと互換性を持ち、CD−ROMドライヴを内蔵するソニーのパソコンを選びました。プリンターを装備しましたが、フロッピィディスク装置（3.5インチと5インチ）も用意し、プリンターに直接打ち出しをしなくてもフロッピィディスク（ただし、MS−DOS）に検索結果のデータをおとす（ダウンロード）ことができます。（著作権の関係で個人で利用する場合に限ります）

**検索方法**

検索は、ファンクションキーによって行う簡単なものなので、利用者自身で検索できます。

オンライン検索と違い、検索に料金がかかりませんので基本的には時間にとらわれずに検索できます。以下簡単ですが利用法について説明します。

例として「酸素欠乏症（Anoxia）」と「頻脈（Tachycardia）」について書かれた文献を探すこととします。

電源を入れ、CD−ROM（ここでは1989年の7月から11月分）を入れてメニュー画面か

```
SilverPlatter 1.6          MEDLINE (R) 7/89 - 11/89          Esc=Commands F1=Help

 No.     Records  Request

 #1:         508  ANOXIA
 #2:         608  TACHYCARDIA
 #3:           4  #1 and #2

FIND: #1 and #2 ☑

Type search then Enter (↵). To see records use Show (F4). To Print use (F6).
```

図1　検索(FIND)画面

らMEDLINEの選択をします。画面左下にFIND（検索）が出ますので検索を始めます。「Anoxia」と入力してENTERキーを押すと検索件数が＃１という番号と共に現われます。次に「Tachycardia」と入れるとやはり件数と番号が出ます。今回は二語両方について書かれている文献を探しますので「＃１ and ＃２」と入力します。（andは論理積です。どちらかが含まれている文献という場合は論理和orを用います）

４件論文がありました。（図１）検索結果を画面上に表示させるためには[F 4]ファンクションキー（SHOW）を押します。該当文献であれば[F 6]キー（PRINT）を押してプリンター打出しをします。（図２）別の検索をしたい場合は[F 2]キー（FIND）を押すと検索画面に戻ります。

```
SilverPlatter 1.6          MEDLINE (R) 7/89 - 11/89

                                                    4 of 4
TI: Bilateral carotid body resection in man enhances hypoxic tachycardia.
AU: Honda-Y; Hashizume-I; Kimura-H; Severinghuas-JW
AD: Department of Physiology, School of Medicine, Chiba University, Japan.
SO: Jpn-J-Physiol. 1988; 38(6): 917-28
PY: 1988
LA: ENGLISH
CP: JAPAN
AB: In three groups of subjects we studied heart rate (HR) and ventilatory
 responses to progressive eucapnic hypoxia, steady-state hypercapnia with and
 without hypoxia, and hyperoxic and hypoxic breathholding (BH). Groups were six
 subjects about 25 years after bilateral carotid body resection (BR), eight
 subjects of an equally long period after unilateral resection (UR), and three
 to accelerate HR in BR subjects whereas either less tachycardia or slowing is
 seen in UR and C subjects.
MESH: Asthma-surgery; Blood-Pressure-drug-effects; Carotid-Body-physiology;
 Electrocardiography-; Heart-Rate-drug-effects; Human-;
 Hypercapnia-physiopathology; Middle-Age; Respiration-drug-effects;
 Tachycardia-etiology
MESH: *Anoxia-physiopathology; *Carotid-Body-surgery;
 *Tachycardia-physiopathology
ISSN: 0021-521X
AN: 89259710
UD: 8909
```

図２　検索結果の出力

以上が大まかな検索の流れです。ファンクションキーを押しながら検索を進めていくのがこのシステムの特徴です。（図３）

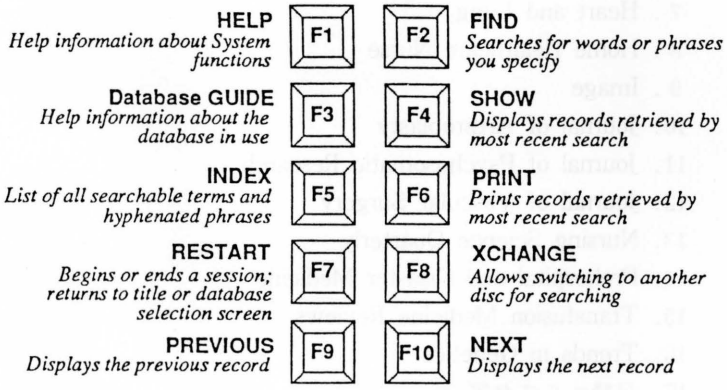



図３　ファンクションキー一覧

**MeSH を使って**

FIND 画面からの検索は図２の全ての領域（論題、著者…）の語がストップワード等を除き検索対象となります。そのため論文中における入力語の重要度は文献にあたってみなければわかりません。

今回の検索で使用した語は共に Medical Subject Headings (MeSH) という用語集にキーワードとして登録されている語を用いました。このキーワードは冊子体 Index Medicus の見出語でもあり論文をより良く検索するための手がかりです。

MeSH から検索すればより適合文献を得られます。このシステムには MeSH の用語集も入っていますので、キーワード一覧から語を選択して検索されることをおすすめします。

以上検索方法を簡単に説明しましたが、やはり〝習うより馴れろ〟ですので是非さわってみて下さい。

場所は１Ｆカウンター横の情報検索室で、オンライン検索用端末の奥に設置しました。検索の方法などについては、簡単なマニュアルを用意してあります。利用時間は午前９時から午後５時まで（月～金）とします。詳しい利用方法の説明は、今後講習会などを行う予定です。

CD－ROM の検索については、図書館カウンター（内線2808）までお問い合わせ下さい。

## ジャーナル情報

このページでは、亥鼻地区で受け入れのタイトルについて、新規受入、受入中止、誌名変更、休・廃刊の情報をお知らせします。

**1990年新規購読**

1．AORN Journal （図書館）
2．Bone （整　外）
3．Bone Marrow Transplantation （輸血部）
4．Critical Care Report （治療部）
5．Clinical Pharmacology and Therapeutics （薬剤部）
6．Gene and Development （遺伝子）
7．Heart and Lung （図書館）
8．Home Healthcare Nurse （図書館）
9．Image （看　教）
10．Journal of Arthroplasty （整　外）
11．Journal of Psychosomatic Research （図書館）
12．Journal of Vascular Surgery （外科１）
13．Nursing Science Quarterly （看　教）
14．Prehospital and Disaster Medicine （治療部）
15．Transfusion Medicine Reviews （輸　血）
16．Trends in Genetics （遺伝子）
17．日経ヘルスケア （医　情）
18．臨床看護研究の進歩 （図書館）
19．集中治療 （治療部）

**1990年購読中止**

1．Acute Care (救急部)
2．Arthritis and Rheumatism (内科２)
3．Biological Abstracts (図書館)
4．Biological Abstracts：R.R.M. (図書館)
5．European Journal of Haematology (内科２)
6．European Journal of Nuclear Medicine (放　射)
7．Immunogenetics (免　疫)
8．Infirmiere Magazine (図書館)
9．International Journal of Immunopharmacology (内科２)
10．Journal of Practical Nursing (図書館)
11．Nuclear Medicine (放　射)
12．Pediatric Clinics of North America (小　児)
13．Oncologia (成看２)
14．臨床免疫 (泌　尿)
15．生体防御 (化学療)

**新規寄贈受入**

1．旭川赤十字病院医学雑誌　1（1987）－ (図書館)
2．兵庫県立成人病センター紀要　1（1984）－ (図書館)
3．京都パストゥール研究所研究報告　1（1987）－ (図書館)
4．日本小児アレルギー学会誌　1（1987）－ (図書館)
5．臨床リウマチ（関西リウマチ学会）　1（1988）－ (図書館)
6．胆道（日本胆道学会）　1（1987）－ (図書館)

**誌名変更**

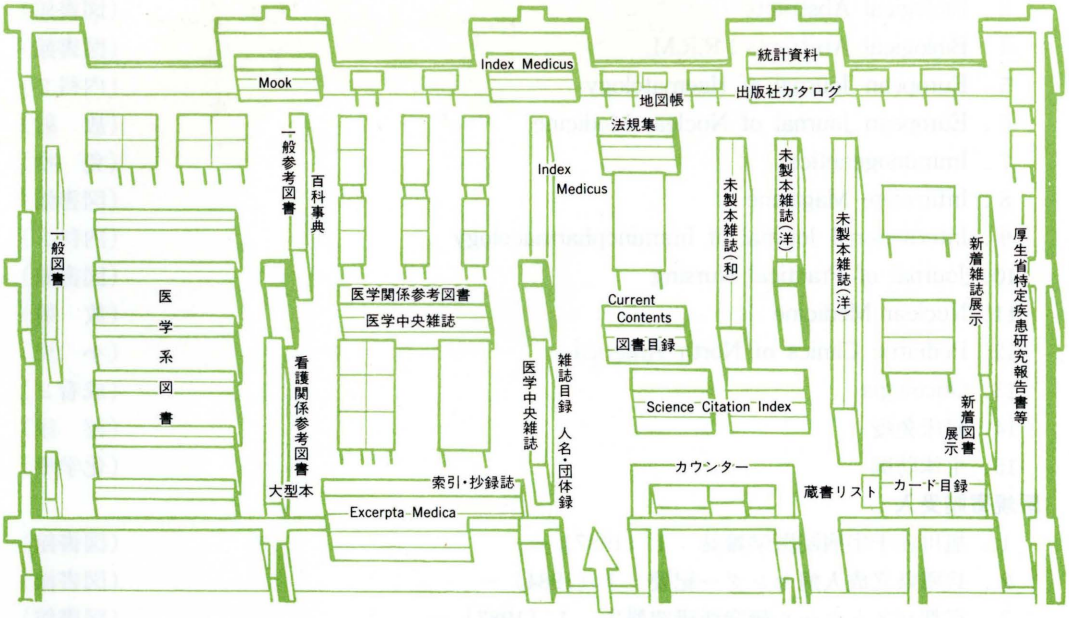
・C.C.Q. Critical Care Quarterly　－9(3)(1986)
　⟶ Critical Care Nursing Quarterly　9(4)(1987)－
・Plasma Therapy & Transfusion Technology　－9(1988)
　⟶ Transfusion Science　10(1989)－
・Zentralblatt für Bakteriologie, Mikrobiologie und Hygiene, Ser. A.　－270(1989)
　⟶ Zentralblatt für Bakteriologie.　271(1989)－
・Zentralblatt für Bakteriologie, Mikrobiologie und Hygiene, Ser. B.　－187(1989)
　⟶ Zentralblatt für Hygiene und Umweltmedizin　188(1989)－

**休・廃刊**

・Life Support Systems　5(1987)//
・心理測定ジャーナル　24(1988)//

## 閲覧室の資料配置

1階閲覧室の資料をこのほど一部移動しましたので、現在の資料配置は下記のとおりとなります。




## 資料の所在を調べるための目録

図書、雑誌をさがす場合は、下記の目録を使って調べてください。

| 求める資料 | | 調べる目録 | 目録の備付場所 |
|---|---|---|---|
| 図書 | ○1986年以降受入図書 | ●蔵書リスト | カウンターのそば |
| | ○1967～1985年受入図書 | ●図書カード目録 | |
| | ○1966年以前受入図書 | ●図書カード目録 | 閲覧室入口手前 |
| | ○学内にない図書 | ●医学洋書総合目録<br>●新収洋書総合目録など | 図書目録の書架 |
| 雑誌 | ○亥鼻地区所蔵雑誌 | ●雑誌カード目録 | カウンターのそば |
| | | 雑誌冊子目録 | カウンター |
| | ○特集テーマから求める文献（1975年以降の亥鼻地区所蔵和雑誌） | ●和雑誌特集記事カード索引 | カウンターのそば |
| | ○学内にない雑誌 | ●医学雑誌総合目録<br>学術雑誌総合目録<br>国会図書館所蔵雑誌目録など | カウンター<br>雑誌目録の書架 |

**千葉大学附属図書館亥鼻分館報“らいぶらりいるのはな„ No.23** 1990年1月30日発行
千葉大学附属図書館亥鼻分館発行　　発行者：本田良行
千葉市亥鼻1－8－1　　電話 0472(22)7171(代)

千葉大学附属図書館亥鼻分館報

# らいぶらりい 亥のはな 24

1990.7

●目次●

シャイン、ザイン、ゾレン――――1
〈CD-ROMコーナー〉――――3
〈JOURNAL紹介〉寄生虫学――――4
〈オンライン検索にゅーす〉JOIS利用料金改定――――6
ジャーナル情報――――7

## シャイン、ザイン、ゾレン

佐藤甫夫

ドイツ語に、Schein,Sein,Sollen という単語がある。シャインは物の見掛けまたは見せ掛け、ザインはもののありようやその客観的実態、ゾレンは規範的妥当な在りかたを指す。ザイン、ゾレンという言葉は、高校時代の sophistication であった。

二十世紀初頭、ドイツのある村の小学校に視学官が来訪した。事前連絡なしの視察に驚いた学校当局は、急遽、校長以下鄭重に応対して、無事にその場を済ませて、ほっと胸をなで下ろした。抜き打ちの視察は、その地域で数ヵ町村に及んだ。2～3か月後、ある学校が、初めて事前連絡のない視察に不審を抱いた。問い合わせたところ偽の視学官であることが判明した。この偽視学官は調査に対して、自分が本物であると信じてゆずらなかった。

これは、ヤスパースの精神病理学に載っている空想的虚言症 (Pseudologia phantastica) の有名な例である。

見せ掛けの自分に人々が驚くのを見て楽しんでいる間に、自分が実際にそうであると信じてしまい、本人自身が Schein を Sein と思うようになる。いわば空想の現実 (phantastische Wirklichkeit) が形成されていて、本人には嘘をついているという自覚がないのだとヤスパースは言う。この場合見せ掛けの自分は、人に見せたい自分でもある。空想的虚言者症は、sollen に著しく反することは言うまでもない。

次に見掛けも大事だという変な例を紹介して置こう。

数年前、センプラの本屋で、ペーパーバックの英書で「public speaking のこつ」というのがあった。著者はカーネギーという人である。人前でうまく話すには、一に準備、二に準備。そして三は充分な準備の上に自信を持つことだと書いてある。ゲチスバークに於けるリンカーンの有名な演説は、前日午後、野山を散策しながら思案を重ね、さらに一晩充分に練った草稿によるものであったとの事

である。では充分な準備ができず、自信が無い時はどうしたらよいか。その場合は、余り勧められないが、せめて格好だけでも堂々と自信ありげに振る舞うのがよい。とカーネギーは書いている。少々 sollen に反するがまあこの程度の見せ掛けは許されるということであろう。

シャイン、ザイン、ゾレンの三つが一致しているのは、人や物事について理想の状態である。考えようによってはこの三者が一致することは在りえないが、大まかに言って、この三者が大体一致していると推定して我々は暮らしている。簡単にいうと、見掛けと実態にそう大きな食い違いはないであろう。また、著しく規範に反する事は、まあ起こらないであろう。

このように素朴で、楽観的な「信頼の原則」が集団や社会の心理的基盤として、無視出来ない。

この素朴な信頼が充分安全だとは、誰も思っていない。

見掛けに騙された苦い経験はだれにもある。ザインを簡単に見破る秘密兵器は、誰ももっていないので、多少のリスクを覚悟した上で、見掛けから実態を経験的に判断するしかない。なんとも非科学的だが、そうしないと我々の日常生活は円滑に進まない。信頼出来ないと色々と気を煩わねばならないので、時間がかかる。相手の反応にも配慮がいる。それやこれやで物事が円滑に進まない。そこで多くの場合リスクのある信頼をすることになり、悲喜劇が生まれる。

主観的演出によるシャインとザインがあまり掛け離れていては人格が疑われる。またそれが無意識の産物なら、ヒステリーなどの病気が疑われよう。

しかしシャインとザインのギャップを、周囲が好意的に演出する場合がある。pious deceit 直訳すると「敬虔なる詐欺」となる。

医師は患者に病状を説明する際、病気の実態について知っている事をすべて話すとは限らない。場合によっては、患者を労わるため本当と嘘を織り交ぜて、尤もらしい説明をする事もある。癌の告知については、最近、別の考えかたもあるが、この場合を別にすると、一般に医師は患者本人には決して悲観的なストーリーは告げず、健康回復への希望を失わないよう配慮するのが常である。

老人に対してもほぼ同様で、医師は、本人に老化を意識させないような応対を常に心掛ける。本人に欠けているところは、さりげなく対策を授けたり、それとなく家族にカバーしてもらう。

残念ながら、年寄はしっかりしているように見えても、意外にダメなところがある。年寄はシャインとザインのギャップが大きい。のみならず、ザインとゾレンのギャップも大きい。ここでいうゾレンは規範にはずれた変な行動をするという事ではない。法律の要求する個人の能力が年寄には苛酷な事をさしている。法律行為を的確に処理することは、一般成人にとっても容易ではない。事と次第によっては我々も然る可き人に相談するなどして能力の欠点を補っている。善意の人に囲まれているから我々は一人前の顔をしている。いわば一人前に見せ掛けていられる。もし周囲と遮断され孤立すると、大多数の人は多分、破局に至るであろう。孤立は誰にとっても危険な状況だが、特に老人には危険である。シャインとザインの差が老化に伴って大きくなる。周囲の人が信頼に値する人ばかりなら問題がないが、世相は段々良くない方向へ進んでいるように思える。困った事に、法律もシャインからザインを認定してしまう。そのため法的救済が難しい。

とはいえ、老人を無能力者扱いしてはならない。老人の苦悩のなかに冷たい社会を見るようではなるまい。老人が信頼できる社会は多分もっとも良い文化社会ではなかろうか。

（医学部精神医学講座教授）

# 寄贈著書ありがとうございました

平成２年１月～６月に寄贈を受けた著書です。（　）内の記号は配架記号です。（敬称略、寄贈者五十音順）

**千葉大学東洋医学研究会**

千葉大学東洋医学研究会五十年史　同編集委員会　千葉大学東洋医学研究会創立五十周年記念事業実行委員会　1990　（W20．5）

**服部孝道**〔神経内科〕　**安田耕作**〔泌尿器科〕

神经原性膀胱的诊断与治疗　服部孝道、安田耕作著　冯尔越、羅进軍訳　海南人民出版　1989　（ＷＪ500）

神経因性膀胱の診断と治療　第２版　服部孝道、安田耕作著　医学書院 1990（ＷＪ500）

**萩原彌四郎教授退官記念会**

萩原彌四郎教授退官記念誌　萩原彌四郎教授退官記念会　千葉大学医学部高次機能制御研究センター発達生理分野　1990　（W20．5）

**平山朝子**〔地域看護〕

公衆衛生看護学総論　１、２　平山朝子、宮地文子編　日本看護協会出版会　1990（公衆衛生看護学大系１、２）（ＷＹ108）

〈CD-ROMコーナー〉

# 利用についてのお知らせ

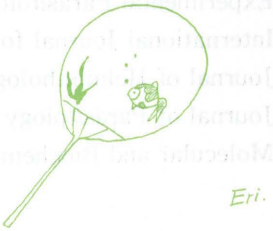
・今年１月16日よりサービスを開始しましたCD-ROM MEDLINEですが、利用中のためすぐには利用できないことがあります。確実に利用したい場合、午前中（９時～11時利用開始分）に限り予約を受け付けていますのでご利用下さい。受付はカウンター（内線2808）で行っています。

また、午前中でも予約が入っていず、利用中でなければすぐ利用できます。

・３月にCD-ROM MEDLINE検索説明会を定員５名ずつ同内容で８回実施し、36名の参加を得ました。現在のところ、次の説明会の具体的な予定はありませんが、初めての方には係員が説明しますので、予約または受付時にお申し出下さい。また、検索方法を忘れてしまった場合や、検索途中で疑問点が出た場合も係員がサポートしますのでカウンターまでお声をおかけ下さい。

・CD-ROM MEDLINEは、月１回の更新で、その年の１月から最新月までの累積版がアメリカから航空便で届きます。郵送のため、届く日は毎月まちまちですが、大よそ該当月の１週か２週目には届いています。

CD-ROM MEDLINE検索についてはカウンター（内線2808）までお尋ね下さい。



〈Journal 紹介〉

# 寄生虫学

新　村　宗　敏

寄生虫というのは、自己の生命維持と種の保存の場を他の生物に依存して生きる生物であって、単細胞のものから10メートルにおよぶ超大型のものまで多種多様である。しかもこれらが人間に感染する発育過程において1つあるいは2つと別の生物の体を借りる必要のあるものもある。そのため寄生虫学の対象は寄生虫そのものの形態や生理・生化学にとどまらず関連する生物の生態系などについても考慮する必要があり、また寄生虫感染の結果引き起される生体反応や病的変化の解明、さらに診断・治療・予防法について研究することは言うまでもないが、これらの問題の解決には社会的・経済的要因を考慮したり、国際的視野の中でとらえなくてはならないことも生じてくる。

このように寄生虫学は Host-Parasite Relationship と言う生物学上の大命題を抱えつつ、医学の中では生理、生化学、病理学、免疫学、薬理学さらには臨床各科とも関連を持つ学問であり社会医学的な考えも要求される。

従って寄生虫学に関連した情報は医学・生物学など広範な分野にわたっているので要領よくこれらの情報誌を紹介することは私の力では困難と思われる。ここでは寄生虫専門誌と関連雑誌を列挙しましたが、衛生昆虫などを合せ考えると片寄りもあり不完全と思われるがご寛容いただきたい。

**I．寄生虫全般にわたる代表的な雑誌**

- Experimental Parasitology ＊
- International Journal for Parasitology ＊
- Journal of Helminthology ＊
- Journal of Parasitology ＊
- Molecular and Biochemical Parasitology
- Parasite Immunology
- Parasitology
- Parasitology Research
- Proceedings of the Helminthological Society of Washington
- Veterinary Parasitology
- 寄生虫学雑誌

**II．寄生虫学の一領域が関係している雑誌**

- American Journal of Epidemiology
- American Journal of Tropical Medicine and Hygiene ＊
- Annals of Tropical Medicine and Parasitology ＊
- International Jounral of Zoonoses
- International Journal of Epidemiology
- Journal of Chemical Ecology
- Journal of Morphology
- Journal of Nematology
- Journal of Protozoology ＊
- Journal of Tropical Medicine and Hygiene ＊
- Southeast Asian Journal of Tropical Medicine and Public Health
- Transactions of the Royal Society of Tropical Medicine and Hygiene ＊
- Tropical Medicine
- Tropical Medicine and Parasitology
- 衛生動物

**III．寄生虫の重要な論文の掲載がみられる雑誌**

- American Journal of Medicine ＊
- American Jounral of Public Health ＊
- Archives of Biochemistry and Biophysics ＊

・Biochemical Journal ＊
・Cellular and Molecular Biology
・Cellular Immunology ＊
・Clinical and Experimental Immunology ＊
・Comparative Biochemistry and Physiology, A（Comparative Physiology）
・Infection and Immunity ＊
・International Journal of Biochemistry
・Japanease Journal of Medical Science and Biology
・Journal of Biological Chemistry ＊
・Journal of Cell Biology ＊
・Journal of Experimental Medicine ＊
・Journal of Immunology ＊
・Journal of Infectious Diseases ＊
・Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America ＊
・Research in Veterinary Science
・日本医事新報

この他、Lancet＊、Nature＊、Science＊は云うまでもないが Parasite Tody には一般的な情報が掲載されている。なお Tropical Diseases Bulletin と国際定期刊行誌に掲載されている動物および人体寄生蠕虫に関する Helminthological Abstracts（C.A.B International）が寄生虫学教室に所蔵されており、情報は容易に得られるようになっている。

＊印は亥鼻分館継続購読誌

（寄生虫学　助教授）

## 「文献のさがし方ガイダンス」の実施

当館では例年医学文献、看護学文献のさがし方ガイダンスを行っていますが、今年度は新たに助産婦学校学生へのガイダンスが加わり、以下の日程で実施しました。

**「医学文献のさがし方ガイダンス」**

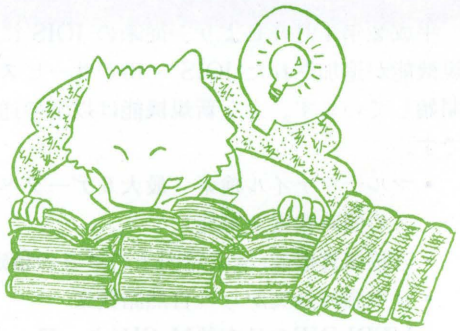
（Index Medicus, 医学中央雑誌等の二次資料の説明と演習。終了後、希望者へは CD－ROM MEDLINEのデモンストレーション）

- 医学部学生－4年生を中心に（同内容を2回）
  6月11、18日（月）
- 医学部院生・研究生、研修医（同内容を2回）
  6月5日（火）、6日(水)

**「看護学文献のさがし方ガイダンス」**

（講義時間を利用。日本看護関係文献集、International Nursing Index 等の二次資料の説明と演習）

- 助産婦学校学生
  4月25日（水）
- 看護学部3年生（半数ずつ2回に分けて実施）
  7月3、10日（火）



# JOIS科用料金改定

下記の通り、JOIS 利用料金が４月１日から改定されました。

関連する主なファイルとしては、MEDLINEファイルが、接続料金140円/分→90円／分、回答出力料金20円／件→25円／件、JMEDICINE国内医学文献ファイルが、接続料金180円／分→161円／分、回答出力料金45円／件→54円／件となっています。

## JOISサービス料金表

**1.オンライン料金**（消費税は含まれておりません）

| 料金 / データベース名 | ファイル接続料金 | オンライン回答出力料金（ヒットチャージ） | オフライン料金 | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 手配料金 | 回答出力料金 | |
| | | | | Aタイプ(抄録付) | Fタイプ(抄録無し) |
| JICST | 150円／分 | 50円／件 | 500円／回 | 75円／件 | 57円／件 |
| JICST-E | 110円／分 | 50円／件 | 500円／回 | 61円／件 | 61円／件 |
| JCLEARING | 150円／分 | 45円／件 | 500円／回 | 58円／件 | 52円／件 |
| JCATALOG | 50円／分 | —— | —— | —— | —— |
| JMEDICINE | 161円／分 | 54円／件 | 500円／回 | 68円／件 | 56円／件 |
| NK-MEDIA | 177円／分 | 53円／件 | 500円／回 | 78円／件 | 60円／件 |
| JAFIC | 150円／分 | 45円／件 | 500円／回 | 70円／件 | 52円／件 |
| OSAKA-UE | 150円／分 | 45円／件 | 500円／回 | 70円／件 | 52円／件 |
| MEDLINE | 90円／分 | 25円／件 | 500円／回 | 49円／件 | 39円／件 |
| TOXLINE | 143円／分 | 29円／件 | 500円／回 | 53円／件 | 43円／件 |
| CANCERLIT | 90円／分 | 25円／件 | 500円／回 | 49円／件 | 39円／件 |
| MESH | 50円／分 | —— | —— | —— | —— |
| EMBASE | 267円／分 | 30円／件 | 500円／回 | 48円／件 | 37円／件 |
| MALIMET | 50円／分 | —— | —— | —— | —— |
| INIS | 150円／分 | 30円／件 | 500円／回 | 55円／件 | 37円／件 |
| IRRD | 150円／分 | 30円／件 | 500円／回 | 55円／件 | 37円／件 |
| INFOTERRA | 150円／分 | 30円／件 | 500円／回 | 55円／件 | 37円／件 |
| 研修ファイル | 無　料 | —— | —— | —— | —— |

**2.ユーザーSDI料金**（消費税は含まれておりません）

| データベース名 | 基本料 | 回答出力料金 |
|---|---|---|
| JICST | 870円／１検索 | 75円／件 |
| JICST-E | 790円／１検索 | 61円／件 |
| JMEDICINE | 1,435円／１検索 | 68円／件 |
| MEDLINE | 750円／１検索 | 49円／件 |
| EMBASE | 1,278円／１検索 | 48円／件 |

**3.その他のオンライン料金**（消費税は含まれておりません。）

| 項目 | 料金 |
|---|---|
| 質問滞泊料金（１質問当り）（ストアサーチ質問及びヘッジ質問） | 125円／週 |
| オンライン複写申込(¥ORD)接続料金 | 無　料 |
| 会話退避料金 | 360円／回 |
| NEWS | 無　料 |

## JOIS—Ⅲサービスが開始

平成２年１月８日より、従来の JOIS に新規機能が追加された JOIS －Ⅲがサービスを開始しています。主な新規機能は以下の通りです。

- マルチファイル検索（最大６データベースの同時検索が可能）
- 近接演算機能(検索語同士の近さの指定)
- 日本語抄録文からの自然語検索
- MEDLINEの日本語MeSH(キーワード)からの検索

## 医学中央雑誌タイトルガイドの中止

昭和63年７月からサービスしていました医学中央雑誌タイトルガイドオンライン検索サービスが、提供側の事情により、平成２年６月末日をもって中止になりました。

なお、この医学情報は、JOIS－Ⅲの中のJMEDICINE国内医学文献ファイルでも検索できます。

## ジャーナル情報

このページでは、亥鼻地区で受け入れのタイトルについて、新規受入、受入中止、誌名変更、休・廃刊の情報をお知らせします。

**1990年新規講読**

1．あも　（小　看）
2．臨床モニター　（治療部）

**バックナンバー購入**

1．Biochimica Biophysica Acta : Bioenergetics　973－977 (1989)　（図書館）
2．Biochimica Biophysica Acta : Molecular Cell Research 1010－1014(1989)　（図書館）
3．Biochimica Biophysica Acta : Review of Cancer　989 (1989)　（図書館）
4．European Respiratory Journal　1 (1988)　（図書館）

**誌名変更**

・Archives of Oto-Rhino-Laryngology －246 (1989)
　⟶European Archives of Oto-Rhino-Laryngology　247 (1990) －
・British Journal of Experimental Pathology　－70 (1989)
　⟶Journal of Experimental Patholgy　71 (1990)－
・European Journal of Cancer and Clinical Oncology　－25 (1989)
　⟶European Journal of Cancer　26 (1990) －
・Gamete Research　－24 (1989)
　⟶Molecular Reproduction & Development　25 (1990) －
・J.A.P.C.A　－39 (1989)
　⟶Journal of the Air & Waste Management Association　40 (1990) －
・Journal of Ultrastructure & Molecular Structure Research　－102 (1989)
　⟶Journal of Structural Biology　103 (1990) －
・Laryngologie, Rhinologie, Otologie　－67 (1988)
　⟶Laryngo － Rhino － Otologie　68 (1989) －
・Mouse News Letter　－85 (1989)
　⟶Mouse Genome　86 (1990) －
・Residential & Community Child Care Administration
　⟶Residential Group care and Treatment　－3 (1986)
　⟶Residential Treatment for Children & Youth　4 (1986) －
　（購読　6 (1988) －）
・国立栄養研究所研究報告　－37（1988）
　⟶国立健康・栄養研究所研究報告　38（1989）－
・真菌と真菌症　－30（1989）
　⟶日本医真菌学会雑誌　31（1990）－

**終刊**

・九州血液研究同好会誌　－36（1989）//
・臨床 Visual Mook　－14（1989）//

## 平成２年度　開館日程表

| 区　　分 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 通常開館<br>週　日　9：00～17：00<br>土曜日　9：00～12：00 | ←<br>2<br>(月) | ← | ← | ← | ← | ← | ← | 2 6<br>(金)(火) | 26<br>(水) | 7<br>(月) | ← | 30<br>(土) | |
| 時間外開館<br>週　日　17：00～20：00<br>土曜日　12：00～16：30 | ←<br>6<br>(金) | ← | ← | 28<br>(土) | | ←<br>1<br>(土) | ← | 2 6<br>(金)(火) | 22<br>(土) | 7<br>(月) | ← | 9<br>(土) | |
| 日曜開館<br>13：00～17：00 | 8，15<br>22， | 6，13<br>20，27 | 3，10<br>17，24 | 1，8<br>15，22 | | 2，9<br>16，30 | 7，14<br>21，28 | 11，18<br>25 | 2，9<br>16 | 13，20<br>27 | 3，10<br>17，24 | 3 | |
| 休館日<br>（祝日、他） | 1，㉙<br>㉚ | ③，④<br>⑤ | | 29， | 5，12<br>19，26 | ⑮，㉓<br>㉔ | ⑩ | ③，4<br>5，㉓ | ㉓ 年末<br>㉔ 27(木) | 年始 6<br>↔<br>5(土) ⑮ | ⑪， | 10，17<br>㉑，24<br>31 | |

・休館日のうち、○で囲んだ日は祝日または振替休日。
・日曜と祝日が重なる場合および振替休日も休館。
・11／5は本学創立記念日。

## 製本雑誌の移動について

現在、２階雑誌室に1975年以降の製本雑誌が配架されていましたが、そのスペースが満杯の状態となり、「1975年～1979年」の５年分を、書庫に移動することになりました。うち和雑誌の移動は５月中に終了しており、洋雑誌の移動は８月中を予定しています。作業中ご不便をおかけしますがご了承下さい。

## 移動後の配架状況

- 雑誌室　　1980年以降の製本雑誌
- 書　　庫
  - 1　階　　和雑誌：　　1979年以前のバックナンバー
  - 2　階
  - 3　階
  - 4　階　　洋雑誌：１）1969年以前のバックナンバーは各階部屋の中に従来どおり配架
  - 　　２）1970年～1979年は、２階～４階の廊下部分に配架

なお、古い単行書、参考図書、及び教室より返戻された図書は従来どおり配架

**千葉大学附属図書館亥鼻分館報“らいぶらりいゐのはな„ No.24**　1990年７月30日発行
千葉大学附属図書館亥鼻分館発行　　発行者：橘　正道
千葉市亥鼻１－８－１　　電話 0472(22)7171(代)

千葉大学附属図書館亥鼻分館報

# らいぶらりい 亥のはな 25

1991.1

●目次●

やっぱり言葉はむずかしい――――――1

図書館利用ガイド　**医学中央雑誌の使い方**――――――3

ジャーナル情報――――――6

**〈オンライン検索にゅーす〉**

NACSIS-IR情報検索サービスの導入について――――――10

## やっぱり言葉はむずかしい

寺尾　清

ベルリンの壁ができてからまだそんなに月日も経たない頃、私はフンボルト奨学生としてボン大学の病理学教室に留学していた。その前に4ヵ月間、ルール地方の山間部の小都市イザローンにあるゲーテ・インスティテュートでドイツ語の研修を行うことになった。当時30も過ぎ、人にものを教える立場にあったのが、学生に返って、世界各国からやってきたいろいろな職業の人達と一緒に朝から晩までアー、ベー、ツェーとやるのは、なかなか楽しい毎日だった。

ある日のこと、町の公衆浴場で一風呂浴び、すがすがしい気分で歩道を歩いていると街角に小さな本屋があった。見るともなしにショーウィンド越しに、本の背表紙の文字を追っていた。と、6、70才位の老婆がにこにこしながら私に近付いてきた。口をもぐもぐと動かしたかと思うと、"Kannst du alles verstehen, mein Junge?"と言い右手の掌で軽く私の頚を2、3回叩いた。あっけに取られている私を見る老女の眼差しは柔和そのもので、まるで可愛くて仕方がない孫をあやす様であった。

この話を大学へ帰って同僚達にすると、一瞬信じられぬ顔をしたかと思うと、やがて腹を抱えて笑いころげた。ドイツでは、14才の時に教会で堅信礼が行われ、自らの意志でキリスト教徒になることを誓う。これが終ると一人の男として社会的に認められ、呼びかけも、君(du)が貴方(Sie)になる。当時私は勿論白髪は一本もなく、顔に皺も殆どなく、日本にいたときにも5、6才若く見られていたから、大学では23才位と思われていた。それにしても14才以下とは。

それから私はduという言葉に興味を持った。

現代英語では、二人称単数はyouであり、その言葉を聞いただけでは、会話の相手、雰囲気などはなかなか解らない。しかしヨーロッパ大陸の言葉、ドイツ語、フランス語などでは、日本語と同じ様に二人称単数には少なくとも2つの種類があって、相手によりはっきり使い分けている。いつだったか見たフランス映画では、若い男女がホテルの前で互いにvous（ドイツ語のSie）と言っていたのが、次のシーンでホテルから出てくるとtu(du)に変わっていたのを思い出す。

ドイツ語の辞書でduの項を引くと、訳として、君、おまえなどと出てくる。Sieは「二人称の尊称で貴方」と書いてあるものが多い。現代の日本語で君とか、おまえとか言うのは、少なくとも対等の友人か、目下に対してしか言わない。親がわが子に対して「おまえは…」と呼びかけるのは、われわれの世代では極めて普通の事だった。しかし逆に子供が親におまえとか君とかいった呼掛けはしない。ところがドイツ語では、父親がわが子に呼びかけるばかりでなく、子が両親に対しても“du”と言う。いや、そればかりではない。神に対してもduである。一般にわが国の人達にとって、神は神様であって、とても身近にあって共に喜び、共に悩む間柄ではない。恐ろしくもまた恐れ多い存在である。ゲーテインスティテュートの同じ教室にいた、アルジェリアから来た学生も、神を我々と同じ様に感じていると見え、duという呼びかけに盛んに異議を唱えていた。

duというのは、ドイツ語を習い始めた学生が一番最初に興味を持って覚えるIch liebe dich.のdichの一格で誰もが疑問もなく受け入れている言葉であるし、最も簡単な、訳も疑問の余地の無いものと考えていたのに、そうではなくなった。それから、折にふれてduを考えてきた。duと言うのは、家族、学友、親友、愛人同士、子供、神、自分自身、ペット、それに好ましく思ったり、憎く思った人、物などへの呼掛けとして用いられる。してみると、心の中に垣を作らなくても良いもの、または外へ対する心の飾りの不要な、普段着のままの自分と相手との鎹がduかも知れない。

研究室の中などで親しい友達同士が互いにduで呼ぶことをduzenすると言うが、私が滞在していた頃は教室の中ではまだ殆ど行われていなかった。最近はアメリカの影響かfirst nameで呼び合ったり、duzenすることが以前より多くなったようである。

ヨーロッパの言語の中でも英語はドイツ語に近く、長い間ヨーロッパ文化圏中で相互の交流があった筈であるが、英語圏の人達はこの二人称単数の使い分けの微妙な違いをどう理解しているのだろう。ましてや、風俗習慣、歴史の違いが著しいわが国と欧米との間のギャップは、我々が感じているよりも本当はもっともっと大きいのではないだろうか。我々が普段何気なく使っている言葉の一言一言には、その民族が過去に学び取ってきたいろいろな経験、哲学、美的意識、倫理感などが盛り込まれている。今日の語学教育は、我々が受けた教育に較べ、テクニックの面で格段の進歩を見せているし、電車の中の吊広告を見ても、首都圏にはおびただしい英会話教室が開かれているようである。これに比例して、国際会議などでの日本人の発言も飛躍的に増加してきた。しかし、英語が通ずれば通ずるほど、何か微妙な違和感が増してきているように感ずるのは間違いだろうか。

もっとも、そんな微妙な違和感は、異文化間のことだけではないようである。私の在籍した病理学教室はドイツ語でpathologisches Institutと言っていた。日本語に訳すと病(理)的な教室という意味にとれる。ある日、教授にそのことを質問し、本来ならInstitut für Pathologieではないですかと尋ねた。ヨーロッパ第一のボスであり、有名な教科書の著者であるこの碩学は少し考えてからにやっと笑って言われた。「君の考えは正しい。その通りだ。しかし、この名前は事実をよく現している。ね、そうだろう(nicht wahr?)」

とかく、言葉はむずかしい。

（真核センター形態応答分野教授）

# 医学中央雑誌の使い方

## 医学中央雑誌とは

国内における最も重要な医学分野の抄録誌で、明治36年（1903年）尼子四郎博士によって創刊され、現在は医学中央雑誌刊行会が発行しています。

（昭和58年４月から、編集がコンピュータ化され刊行形態が変ったため、便宜上昭和58年４月以後のものを「新医中誌」、それ以前のものを「旧医中誌」と呼んでいます。今回は、「旧医中誌」の説明は割愛いたします。）

## 収録範囲

収録誌は平成２年11月現在、約2,050種（和文誌1,900種、欧文誌150種）にのぼり、国内の医学及び関連領域の文献の殆どを網羅しているといえます。ただし論文が発行されてから医中誌に収録されるまでには４～５ヵ月のタイムラグがあり、抄録文を付けると収録までに半年以上かかります。そのため最近では抄録の付かないものの割合が多くなってきています。

収録誌リストは「医学中央雑誌収載誌目録」で、これには略名、発行所、所在地、発行回数などが記載され、また略名からフルタイトルを調べることもできます。

## 発行形式

月３回、年間で36冊発行。その他に年間累積索引として人名編と件名編が発行されます。

## 構成

抄録の部と索引の部に分かれ、索引の部には人名索引と件名索引があります。

## 抄録の部（図１、図２）

図１　（科目一覧）

| | | |
|---|---|---|
| 生理学 | 生化学 | 薬理学 |
| 薬学 | 解剖学 | 病理学 |
| 実験腫瘍学 | 衛生学・公衆衛生学 | 疫学 |
| 微生物学 | 血清学・免疫学 | 法医学 |
| 精神医学 | 内科学 | 小児科学 |
| 放射線学 | 外科学 | 整形外科学 |
| 形成外科学 | 眼科学 | 耳鼻咽喉科学 |
| 産婦人科学 | 皮膚科学 | 泌尿器科学 |
| 麻酔学 | 臨床検査 | リハビリテーション |
| 歯学 | 看護学 | 東洋医学 |
| 獣医学 | 医史学 | 社会医学 |

図２

(1) 89-057600　(2) 溶血性連鎖球菌製剤OK-432：再発胃癌に於ける有益な補助療法（英文）　(3) Hitoshi Hanaue (5)（東海大大磯病院外科），(6) Dae Young Kim，Takao Machimura，外９名。(7) Tokai J Exp Clin Med (8) 12 (4) 209-214 (9) (1987.11)

(10) OK-432筋注群や対照群に比しOK-432皮内注射群では生存率が向上し，白血球数，リンパ球数，及びT細胞数が多く，溶血性連鎖球菌Su-株の抽出細胞壁多糖類に対する皮膚反応が制的であった。皮内注射群では，OK-432注射後4.8％で発熱，52.4％で局所膿瘍形成が認められた。筋注群では90％で発熱を見たが，膿瘍形成は１例も認めなかった。(12)（稲田）

(1) 89-057601　(2) 胃切除術後胆石症　回盲部上行結腸間置法施行例の興味ある３例を中心に（会）　(3) 坂本隆 (5)（富山医薬大第２外科），(6) 外12名。(7) 日消外会誌 (8) 21 (2) 735 (9) (1988.2)。(10) 57歳男，49歳女，63歳男

(1) 文献番号…年単位で一連番号を付し，索引の際のキーとなる。
(2) 標　題…原報通り掲載している。ただし欧文の場合はすべて和訳している。なお，特集記事の場合は，標題の文頭に〔　〕囲みでその記事内容を明示した。
(3) 原報使用言語の別…原報が欧文の場合はすべて和訳して，（英文），（独文），（仏文）等のように表示し，これらの表示のないものは和文であることを示している。
(4) 原報の種類別…学会発表抄録記事，座談会記事等については（会）を付し，これのないものは原著であることを示している。また，総説，図説，講義についても，それぞれを標題の末尾に（　）囲みで明示した。
(5) 著者（発表者）…和文誌，欧文誌とも三人迄原本通り掲載し，三人以上の場合は，外～名。としている。但し（会）を付した文献については発表者（指定のないものは先頭者）のみを掲載し，二人以上の場合は，外～名。としている。
(6) 所　属…原著，総説等については先頭者にのみ付し，（会）を付した文献については発表者（指定のないものは先頭者）にのみ付している。
(7) 原報発表誌名…略誌名を採用している。（毎年発行の小誌収載誌目録参照）
(8) 原報発表誌の巻，号，頁
(9) 原報発表誌の発行年月
(10) 抄録文
(11) 症例報告等の文献で，性，年齢のみの表示の場合，発行年月に続けて掲載する。
(12) 抄録者名
（註）新刊図書…各科目の最後部に掲載する。

文献は33の科目（図１）に分けられ、その中は科目別分類表によって分類、配列されています。各科目の収載周期は、内科学、外科学は毎号に、その他の科目は少なくとも２か月に一度の収載となっています。

科目毎に文献が集められているため、探したい項目を通覧(ブラウジング)することによって、関連する文献を探しだすことができます。ただし一つの文献は医中誌の一か所にしか収録されていないので、関連する複数の科目について見る必要があります。

## 索引の部

### ・人名索引（図３）

各文献の著者の先頭者のみを掲載しています。ただし年間累積索引には抄録の部に記載されている著者全員（３名まで）を掲載しています。

配列は欧文名と和文名に分け、欧文名はアルファベット順。和文名は五十音表に従い、それぞれの中では片仮名→平仮名→漢字の順に配列し、おおむね電話帳方式です。

一つの姓に二通り以上の読み方のある場合は「…の部を見よ」をつけて、読まれる頻度の最も高いと思われる箇所に集めています。

姓名の後の６桁の数字は文献番号を示します。また、太字で示された文献番号は抄録文のある文献を意号します。

図３

Abe, T……078917
Akiyama, K……078081
Allais, D……076565
Allais, J……077379,077380
Anchisi, C……076983
Anno, H……078293
Aoi, W……078813
Araie, M……080745,080746,080833
Asakawa, J……078884
Awano, K……077810
Azumi, K……077769
フルーム, J……079348
ブーハー, R……076986
富士川恭輔……080517
普天門弘……077673
武藤（ム部を見よ）
深作昇……076997
深沢明夫……077505
深沢俊男……078547,078557
深沢俊裕……080665
深田代造……080113
深田吉孝……076098
深津要……079313

### ・件名索引（図４、図５）

「医学用語シソーラス」(次項参照）に登録されたキーワードで探します。キーワードは名文献当り１～４個抽出され、欧文と和文に大別し、それぞれの索引のもとに掲載されています。

配列は欧文索引はアルファベット順。和文索引は五十音順（電話帳方式）です。個々のキーワード中では総括的な文献の次に、副標目で限定された基礎的な文献、そして臨床的な文献と並んでいます。

キーワードの後の６桁の数字は文献番号を示しますので、この数字をキーとして抄録の部を検索します。抄録の部の頭２桁は省略してあります。太字の文献番号は抄録文のある文献です。

図４

肺癌……078402,078456,078457,078461,078463,078467,078468,078476,080223,**080659**,080912,080927
——／細胞学／薬物影響／実験的…077827
——／——／免疫学／実験的……078454
——／生化学／原発性・特発性・本態性……078441,080924
——／酵素学／原発性・特発性・本態性……078495
——／発生学・遺伝学／診断的利用……080931
——／抗原・抗体・補体……080929
——／——／診断……078444,078445

図５（年間累積索引・件名編）

肺癌
000426　肺腫瘍の組織像(４)　紡錘細胞(型扁平上皮)癌Spindle cell (squamous) carcinoma　土屋永寿　癌の臨　34 (3) 290-291 (1988.3)
000427　肺細胞腫の病理(４)　肺大細胞癌の組織亜型とくにリンパ球浸潤型について　建石竜平　外科治療　58 (4) 456-459 (1988.4)
000433●　個人カード管理による経年追跡で発見した中心型早期肺癌の１例　水野裕子　日臨細胞会岡山会誌　5 42-45 (1986.11)
000434○　CLLに合併した肺癌の剖検例　森川智子　肺.癌　28 (1) 124-125 (1988.2)
000435○　肺小細胞癌におけるneuron specific enolase (NSE)の免疫組織学的検討　津谷隆史　肺癌　28 (1) 124 (1988.2)
000436○　肺腺癌および扁平上皮癌におけるケラチンの免疫組織化学的観察　竹本剛　肺癌　28 (1) 124 (1988.2)
000438●　骨形成を伴う肺腺癌の１例　吉田勝明　肺癌　28 (1) 87-92 (1988.2)
000439□　喀血死をきたした肺癌剖検症例と病理組織学的研究　特に癌性空洞と破裂血管との関係について　角田尚久　肺癌　28 (1) 75-85 (1988.2)
000442○　ヒト肺腺癌におけるラミニンおよびIV型膠原の免疫組織化学的局在定位　Hisashi Hashimoto　Acta Histochem Cytochem　20 (6) 704 (1987.12)
000443○　ヒト肺癌におけるトランスフェリン受容体の発現　Hirotoshi Horio　Acta Histochem Cytochem　20 (6) 706 (1987.12)

□(抄録有り), ○(会議録), ●(症例報告),
●(症例報告・会議録), *(新刊単行図書)

## 医学用語シソーラス

約38,000語からなる医学及び医学関連用語のリストです。五十音順キーワードリストとカテゴリー別キーワードリストから構成されています。

### ・五十音順キーワードリスト（図６）

欧文キーワードリストと和文キーワードリストから成り、欧文リストはアルファベット順、和文リストは電話帳方式の五十音順に配列されています。

このリストは同一グループの用語が一か所に集まるように工夫されていて、図６にある肺疾患―寄生虫性のように倒置形になっているものもあるので、求める語がリスト中にない場合は倒置形の方も探してみてください。

図６

肺癌　C4-6-4／C8-9-17
肺気腫　C8-9-16
肺気量測定　E1-17-5
肺機能的残気量　E1-17-5
　→(　) 肺気量測定
肺吸虫　B1-12-3
肺吸虫症　C3-4-1／C22-11-2
肺結核　C1-2-3／C8-3-12／C8-9-12
（虚脱療法、胸部レ線診断、肺切除参照）
肺結石　C8-9-0
肺コンプライアンス　E1-17-5／G9-1-2
肺好酸球増加症　C8-9-13／C15-1-12
肺高血圧症　C14-1-5
肺残気量　E1-17-5
　→(　) 肺気量測定
肺疾患　C8-9
（肺性心参照）
肺疾患-寄生虫性　C3-6／C8-9-14
肺疾患-真菌性　C1-3-13／C8-3-13／C8-9-15
肺疾患-閉塞性　C8-9-16
肺腫瘍　C4-6-4／C8-9-17
白血球遊走因子　D24-2-0
　→Leukoegresin

参照には次の３種類がある。
①　同義語参照“を見よ”　A→B
②　上位語参照“の上位語を見よ”　A→(　) B
③　関連語参照“をも見よ”　A（B、C参照）
上の例では、“白血球遊走因子”は同義語“Leukoegresin”を、“肺機能的残気量”は上位語“肺気量測定”を、“肺疾患”は関連語である“肺性心”も参照するようにということを示している。

### ・カテゴリー別キーワードリスト（図７）

このリストには、各々のキーワードを医学及びその関連領域のＡ～Ｎのカテゴリーに分類し、各々のカテゴリーをさらに分け、階層をつけて配列してあります。

このリストの利用法は、五十音順リストで適当なキーワードが見つからない時に、その用語がどのような概念に属するか考えながらその語の同義語ないし上位語を探し出すといった方法があります。

図７

第１階層
第２階層
第３階層
第４階層

| | 〔C〕 カテゴリー・コード |
|---|---|
| 疾患 | C |
| | N1-2 他のカテゴリーへの参照 |
| 細菌性真菌性疾患 | C 1 |
| Rickettsiosis | C 1-1 |
| Anaplasmataceae infection | C 1-1-1 |
| Anaplasmosis | C 1-1-1 |
| Bartonellaceae infection | C 1-1-2 |
| Bartonella infection | C 1-1-2 |
| Chlamydiaceae infection | C 1-1-3 |
| 結膜炎―封入体 | C 1-1-3 |
| 細菌感染症 | C 1-2 |
| Acinetobacter infection | C 1-2-1 |
| Actinobacillus infection | C 1-2-2 |
| Actinomycetales infection | C 1-2-3 |
| 眼結核 | C 1-2-3 |
| 珪肺結核 | C 1-2-3 |
| 結核 | C 1-2-3 |
| 結核―肝臓 | C 1-2-3 |

以上簡単に御説明いたしましたが、わからない点などありましたらカウンター係員までおたずねください。

## ||||||||||ジャーナル情報||||||||||

このページでは、亥鼻地区で受け入れのタイトルについて、新規受入、受入中止、誌名変更、休・廃刊等の情報をお知らせします。

**1991年度新規購読**

1．Analytical Chemistry（図書館）
2．Arthritis and Rheumatism（内科２）
3．Clinical Obstetrics and Gynecology（産　婦）
4．Current Opinion in Gastroenterology（小　外）
5．Current Opinion in Immunology（遺伝子）
6．Current Opinion in Neurology and Neurosurgery（脳　外）
7．Current Opinion in Obstetrics and Gynecology（産　婦）
8．Current Problems in Obstetrics, Gynecology and Fertility（産　婦）
9．Diseases of the Colon and Rectum（外科１）
10．European Journal of Anaesthesiology（麻　酔）
11．European Journal of Haematology（内科２）
12．FASEB Journal（麻　酔）
13．Fetal Medicine Review（産　婦）
14．Gastrointestinal Endoscopy（内科１）
15．Gerontologist（成看１）
16．IMA Journal of Mathematics Applied in Medicine and Biology（基　保）
17．International Journal of Hyperthermia（外科１）
18．Journal of the American Academy of Child and Adolescent Psychiatry（精　看）
19．Journal of Clinical Neuro-Ophthalmology（眼　科）
20．Journal of Environmental Science & Health.
Pt. B:Pesticides, Food Contamination & Gricult Waste（生　体）
21．Journal of Muscle Research & Cell Motility（図書館）
22．Journal of Orthopaedic Research（整　外）
23．Journal of Pediatric Gastroenterology and Nutrition（小　外）
24．Journal of Spinal Disorders（整　外）
25．Lab Animal（動実施）
26．Leukemia and Lymphoma（病理１）
27．Molecular Endocrinology（図書館）
28．Oncogene（図書館）
29．Radiotherapy and Oncology（外科２）
30．Synapse（図書館）
31．看護管理（看　管）
32．看護教育（精　管）
33．クリニカル・ファーマシー（薬剤部）
34．ME Japan（手術部）
35．脳神経外科速報（脳　外）

36. 臨床看護研究の進歩 (精　看)
37. 社会保険旬報 (看　管)
38. 社会老年学 (地　看)

**1991年購読中止**

1. Age and Ageing (成看1)
2. Anaesthesia (麻　酔)
3. Anaesthesist (麻　酔)
4. Archives des Maladies Professionnelles de Medecine du Travail et de Securite Sociale (衛　生)
5. Berichte Gynakologie Geburtshilfe (産　婦)
6. Blood (成看1)
7. British Journal of Haematology (成看1)
8. Cancer (産　婦)
9. Clinical Vision Sciences (図書館)
10. Current Eye Research (眼　科)
11. Endocrinology (産　婦)
12. Excerpta Medica. sect. 10 (産　婦)
13. Excerpta Medica. sect. 12 (眼　科)
14. Histopathology (病　態)
15. Investigative Ophthalmology and Visual Science (眼　科)
16. Journal of Autism and Developmental Disorders (精　看)
17. Journal of Clinical Endocrinology and Metabolism (産　婦)
18. Journal of Computer Assisted Tomography (脳　外)
19. New England Journal of Medicine. International ed. (成看1)
20. Resuscitation (麻　酔)
21. Seminars in Heamatology (成看1)
22. Zeitschrift fur Geburtshilfe und Perinatologie (産　婦)
23. 防菌防黴 (図書館)
24. 学術月報 (図書館、眼科)
25. 医学と生物学 (図書館)
26. Japanese Journal of Cancer Research (図書館)
27. 呼吸 (衛　生)
28. 公衆衛生情報 (看　管)
29. 日本医事新報 (成看1)
30. 日本新生児学会雑誌 (小　児)
31. 脳と発達 (小　児)
32. オペナーシング (成看2)
33. 精神医療 (精　看)
34. 診断と治療 (図書館)
35. 新薬と臨床 (図書館)
36. 小児科臨床 (公　衆)
37. 週刊社会保障 (精　看)
38. 代謝 (衛　生)

**新規寄贈受入**

1．BIOmedica 5(1990)-　（図書館）

2．Immuno-Review 3(1986)-　（図書館）

3．脊柱変形 1(1986)-　（図書館）

**誌名変更**

・European Archives of Psychiatry and Neurological Sciences. -239 (1989-90)
　⟶ European Archives of Psychiatry and Clinical Neuroscience. 240 (1990)-

・Journal of Experimental Pathology.-71 (3) (1990)
　⟶ International Journal of Experimental Pathology. 71 (4) (1990)-

・Journal of Neural Transmission -77 (1989)
　⟶ General Section. 78 (1989)-
　⟶ Parkinson's Disease and Dementia. 1 (1989)-

・Journal of Steroid Biochemistry. -36 (1990)
　⟶ Journal of Steroid Biochemistry and Molecular Biology 37 (1990)-

・Photodermatology. -6 (1989)
　⟶ Photodermatology Photoimmunology & Photomedicine 7 (1990)-

・Zeitschrift fur Rechtsmedizin -103 (1990)
　⟶ Journal of Legal Medicine 104 (1991)-

・サイエンス -20 (9) (1990)
　⟶ 日経サイエンス 20 (10) (1990)-

・東海リウマチ -20 (1989)
　⟶ 中部リウマチ 21 (1990)

**終刊**

・Journal of Molecular and Cellular Immunology -4 (1988-90) //

・Public Health Papers -83 (1987) //

・産婦人科MOOK -42 (1990) //

# 寄贈著書ありがとうございました

平成２年７月～12月に寄贈を受けた著書です。(　)内の記号は配架記号です。（敬称略、寄贈者五十音順）

**大谷克己**〔名誉教授〕

目でみる人脳の構造　大谷克己、山田仁三著　クバプロ　1990（ＷＬ17）

**嶋田裕**〔解剖学第１〕

基礎医学を学ぶ人の発生学　R. E. コールソン著　嶋田裕訳　シュプリンガー　フェアラーク東京　1990（ＱＳ604）

**野澤榮司**〔精神看護学〕

精神疾患患者の看護診断とケア　Viola Morofka 著　野澤榮司訳　医学書院　1990（クリニカル　ナーシング：17）（ＷＹ150）

**平山惠造**〔神経内科学〕

不随意運動　P. Rondot〔ほか〕著、平山惠造、間野忠明訳　文光堂　1990（ＷＬ340）

**松下嘉一**〔内科学第１〕

アレルギー性鼻炎の漢方治療　鎌田慶市郎、松下嘉一著　現代出版プランニング　1990（疾患別臨床シリーズ：１）（ＷＢ960）

# NACSIS-IR 情報検索サービスの導入について

平成２年10月１日よりＮＡＣＳＩＳ－ＩＲ情報検索サービスを開始しました。

これは国立大学共同利用機関である学術情報センターから公衆回線等を通じ、オンラインで情報を提供するサービスです。

提供される情報は文献抄録等のデータベースが中心となりますが、論文そのもののデータベースや全国の大学図書館所蔵の図書や雑誌の目録所在情報データベース等も含まれ、また、今後は数値情報、画像情報のデータベースなど、様々なデータベースの導入が予定されています。

生物医学系の文献情報では Life Sciences Collection 生命科学論文データベース、Ｅ-ＭＢＡＳＥ医学・薬学データベース等があります。（表１）

料金（表２）はＪＯＩＳ、ＤＩＡＬＯＧに比べて安くなっています。

例）ＥＭＢＡＳＥで10分接続、20件打ち出しした場合。（消費税別）
接続料(10分×50円)＋オンライン出力料（20件×13円)＋回線料(10分×20円)＝960円
（ＪＯＩＳで同じＥＭＢＡＳＥファイルを同条件で検索した場合は3,470円かかります）

ＮＡＣＳＩＳ－ＩＲ情報検索サービスについてはカウンターか内線2807までお問い合わせ下さい。

表１　情報検索サービスデータベース一覧

| 区分 | データベース名 | 呼び出しコマンド | データ件数 | 収録期間 | 対象分野 | 内容 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 二次情報データベース | Life Sciences Collection | LIFE | 85万件 | 1982～最新版 | 生命科学 | 抄録付き文献情報 |
| | Mathscl | MATH | 72万件 | 1973～最新版 | 数学 | Mathematical Reviews誌、Current Mathematical Publications誌に対応する抄録付き文献情報 |
| | COMPENDEX PLUS | COMPEN | 210万件 | 1976～最新版 | 工学 | 工学分野における図書、雑誌記事、会議録等の抄録付き文献等情報 |
| | Harvard Business Review | HBR | 2,400件 | 1927～最新版 | 経営学 | Harvard Business Review誌の全文情報 |
| | ISTP & B | ISTP | 146万件 | 1982～最新版 | 科学技術 | Index to Scientific & Technical Proceedings誌に対応する会議録の索引情報 |
| | EMBASE | EMBASE | 123万件 | 1984～最新版 | 医学・薬学 | Excerpta Medica 誌に対応する文献情報 |
| | Scisearch | SCI | 241万件 | 1987～最新版 | 自然科学 | Science Citation Index 誌に対応する索引及び引用情報 |
| | Social Scisearch | SSCI | 42万件 | 1987～最新版 | 社会科学 | Social Science Citation Index誌に対応する索引及び引用情報 |
| | A & H Search | AHCI | 38万件 | 1987～最新版 | 人文科学 | Art & Humanities Citation Index 誌に対応する索引及び引用情報 |
| | 科学研究費補助金研究成果概要データベース | KAKEN | 41万件 | 1985～最新版 | 全分野 | 文部省の科学研究費により行われた研究の研究成果報告概要の情報 |
| | 学位論文索引データベース | GAKUI | 41万件 | 1984～最新版 | 全分野 | 我が国の大学で授与される博士学位論文の索引情報 |
| | 学会発表データベース第一系（電気・情報・制御関連） | GAKKAI1 | 32万件 | 1987～最新版 | 電気・情報・制御 | 電気・情報・制御関連学会の全国大会・研究会の発表の概要情報 |
| | 学会発表データベース第二系（化学関連） | GAKKAI2 | 3,600件 | 1988～最新版 | 化学 | 化学関連学会の全国大会・研究会の発表の概要情報 |

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 二次情報データベース | 学術論文データベース第一系（電子） | PAPER 1 | 200件 | 1989～最新版 | 電子 | 電子分野の学会論文の全文情報 |
| | 学術論文データベース第二系（化学） | PAPER2 | 3,400件 | 1983～最新版 | 化学 | 化学分野の学会論文の全文情報 |
| | 研究者ディレクトリ | RES | 13万件 | 1988.5.1最新版 | 全分野 | 大学等の研究者の研究課題・発表論文等の情報 |
| | 現行法令データベース | LAW | 3,500件 | 最新版 | 法律 | 我が国の現行法令の全文情報 |
| | 海外研究プロジェクトデータベース | EXRP | 4万件 | 最新版 | 科学技術 | 先進8か国(日、米、英、仏、西独、伊、加、スウェーデン)における政府等助成に基づく研究プロジェクトに関する研究概要情報等 |
| MARCデータベース | JPMARC | JPM | 96万件 | 1969～最新版 | 全分野 | 日本国内で発行された図書の書誌情報 |
| | LCMARC(Books) | LCMB | 286万件 | 1968～最新版 | 全分野 | 主として米国で発行された図書の書誌情報 |
| | LCMARC(Serials) | LCMS | 47万件 | 1973～最新版 | 全分野 | 欧文雑誌の書誌情報 |
| 目録所在情報データベース | 目録所在情報データベース（和図書） | JBCAT | 書誌 42万件<br>所蔵203万件 | 1986～最新版 | 全分野 | 我が国の大学図書館等が所蔵している和図書の総合目録情報 |
| | 目録所在情報データベース（洋図書） | FBCAT | 書誌 92万件<br>所蔵168万件 | 1986～最新版 | 全分野 | 我が国の大学図書館等が所蔵している洋図書の総合目録情報 |
| | 目録所在情報データベース（和雑誌） | JSCAT | 書誌5.3万件<br>所蔵110万件 | 最新版 | 全分野 | 我が国の大学図書館等が所蔵している学術和雑誌の総合目録情報 |
| | 目録所在情報データベース（洋雑誌） | FSCAT | 書誌10.5万件<br>所蔵 87万件 | 最新版 | 全分野 | 我が国の大学図書館等が所蔵している学術洋雑誌の総合目録情報 |
| | アメリカン・センター総合目録データベース | ACCAT | 書誌 6千件<br>所蔵2.5万件 | 最新版 | 現代アメリカ | アメリカン・センター図書館の所蔵する総合目録情報 |
| その他 | データベースディレクトリ | DBDR | 900件 | 1989年9月調査 | 全分野 | 大学等で作成、検索サービスされているデータベースのディレクトリ |

注）1．データ件数は、平成2年10月当初の予定です。
2．「COMPENDEX PLUS」は、従来の「COMPENDEX」及び「Ei Engineering Meetings」を統合したものです。
3．「学術論文データベース第二系(化学)」は、従来の「化学全文データベース」を名称したものです。
4．EMBASE及びExcerpta Medicaは、Elsevier Science Publishers B. V. /Excerpta Medica 社の登録商標です。
5．「研究者ディレクトリ」は、平成2年11月中にサービスを開始する予定です。

表2　情報検索サービス利用料金表（消費税が別にかかります）

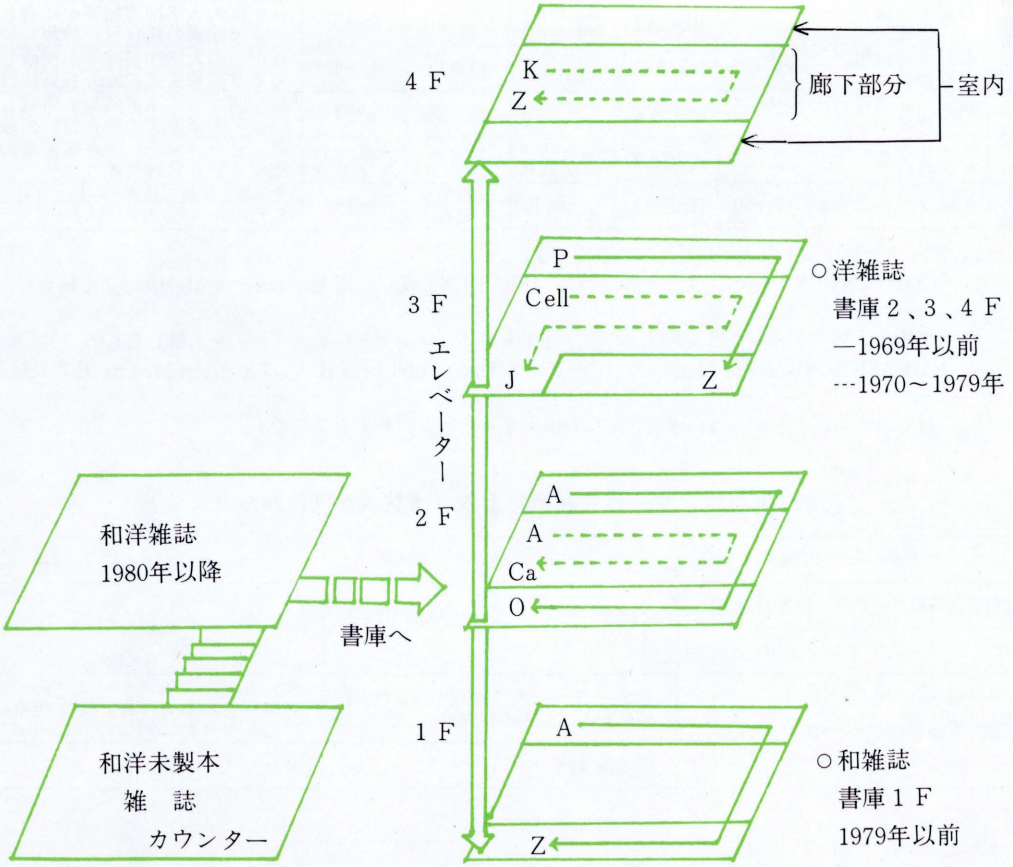
| データベースの種類 | 接続料 | ヒット料 |
|---|---|---|
| 目録所在情報データベース(各MARCを含む)<br>データベースディレクトリ | 各データベースを呼び出す都度 30円／回 | |
| 二次情報データベース | 各データベースに接続している時間に対して　50円／分 | 検索された文献について、その書誌情報、あるいは抄録等を端末に出力した件数に対して　13円／件 |
| | 学術論文データベースのファクシミリサービス　34円／枚 | |

## 雑誌バックナンバーの配架場所について

前号でお知らせいたしましたが、2階雑誌室の書棚がいっぱいになったため、1975年から1979年までの和洋雑誌を書庫（洋雑誌は書庫廊下部分）へ移動しました。そのため洋雑誌の廊下配架分（1970～1979年）が2階～4階に渡り、書庫室内（1969年以前）の洋雑誌のタイトルと階数が一致しなくなりました。（例えば“Cell”は1969年までは書庫2階室内、1970～1979年分は書庫3階廊下にあります）

また、一部の洋雑誌の中にはスペースの関係で1984年以前の分が書庫廊下に配架してあるものもあり、2階雑誌室書棚の所定の位置に代本版で表示してあります。

利用上かなりのご不便をおかけしますが、何卒ご了承下さい。以下が配置図になります。




雑 誌 配 置 図

**千葉大学附属図書館亥鼻分館報“らいぶらりいゐのはな„ No.25**　1991年1月24日発行
千葉大学附属図書館亥鼻分館発行　　発行者：橘　正道
千葉市亥鼻1－8－1　　電話 0472(22)7171(代)

千葉大学附属図書館亥鼻分館報

# らいぶらりい 亥のはな 26

1991.12

●目次●

一本の木――――1
〈JOURNAL紹介〉法医学――――4
〈CD-ROMコーナー〉――――6
ジャーナル情報――――8
〈オンライン検索にゅーす〉JOIS利用料金改訂――――11

## 一本の木

水口　公信

私の生家の前の、電車の踏切りをへだてたところに葛飾八幡神社があり、そのわきに1本のイチョウがどっしり構えている。この神社は稲作豊耕に深い縁があり、11月になると穀物の稔りと柿や栗の実りに感謝するお祭りがはじまる。農具市が神社の境内一杯に立ち並び、これを買い求めるひとで混雑する。丁度、同じ時期、イチョウの黄葉が真盛りで、神社全体が黄色に染まり明るさを添える。この神社はまた武道の神様として祭られている。昔、武運長久の肩襷をかけて戦場に赴く若い兵士達が近所の人達に送られて、この神社に詣でて無事を祈る光景を私は子供の頃よくみかけた。きっと兵士はこの大樹を眺めて勇気を鼓舞して戦場に参加したと思う。そのうち何人の兵士が恙が無く故郷に帰れただろうか。長い間、このイチョウの樹の傍で育った私の心の中には今でも風雪に耐えて幾百年、立ちつくす大樹の生命力と1本の木が立ちつづける弧独さとが不思議と重なり合う。その後、麻酔科医になって末期癌患者の痛み治療に関わるようになってからも1本の木に興味を持ちつづけた。

ある日、私は患者さんに樹木画をお願いすることにした。A4判の画用紙に1本の木を描いて、木の大きさ、安定感、直立、平担、成熟、柔軟、伸展、根、地面などの様子を観察するのである。このテストを開発したKoch, K.（1946）は木の形が人間の立っている姿と大変よく似ている。木との出合いはとりもなおさず、自分自身の出合いである。木は決して生長を止めない。芽、つぼみ、花が咲き、年毎にその姿を新たにするという。私が出合った樹木画を紹介しよう。もう4～5年前、Yさんは48歳、開業医。母校の外科で直腸癌手術を受けたが再発。もう一度、治療のため

大学病院を訪れた。麻酔科初診時、Ｙさんの表情は険しく、口数も少なく顔面は憔悴してかなり腰痛のため疲れ果てていた。痛みは私の思考を抹殺するともいい、前の病院の治療にも不満があり、心配して大阪から駈けつけた父親や兄が自分の悪口を主治医にいいつけるのではないかと面会を拒み、終日暗くした一人部屋に閉じ籠り勝ちだった。やがて痛みが軽減すると、Ｙさんの状態は随分落ち着きをみせた。ある日、私はＹさんに「１本の木を書いて下さい」とお願いした。画用紙を前にして「私の生まれた家の庭に大きな梅の木があった。上の方が腐ったので植え換えた。今、昔を思い出した」と梅の木に思いを込めて描いて下さった。幹はやや太いが、根元は右の方へ、中央部分は左へと大きく揺れ動き、今にも倒れそうな不安定な樹木。梅の実がいくつか落ちかかっている。その後、Ｙさんは痛みのコントロールが出来て、自宅に戻り、外来で診察ができるまでに回復した。だが今度は腎不全が起り再入院した後、静かに息をひきとった。Ｙさんは自分の病気がもう駄目だと挫折感を抱いていたが、一方、妻・子供を幸せにしてやりたい、もっと頑張って診療を続けたい、いかに患者さんにやさしく出来るかを考えているなど精神的葛藤が入れ乱れてこの梅の木を描いたのだろう。

先々週、私は松島の瑞巌寺を訪れた。この寺は慶長５（828）年 玆覚大師の開創。江戸時代初期、仙台藩士伊達政宗が現在の堂宇を造営した。境内の左右にある見事な紅白梅は文禄２（1593）年 朝鮮出兵の折、朝鮮から持ち帰り、上棟の際、植えた樹である。樹幹の中央部分は朽ち果てているが、周囲23メートル、高さ８メートル、東西19メートル、南北14メートルの樹冠がひろがりをみせる。春になると花弁が20数枝に実は７～８つ鈴なりにつくので八ツ房の梅とも呼ぶ。樹齢400年たった今、この梅の古木は数十本の添木によって立派に支えられている。この樹をみたとき私は大きな感動を憶えた。

痛みは単なる身体の痛みではない。精神的、社会的な痛みも含まれる。つまり全人的な痛みである。精神的な不安は身体の痛みを増悪させ、社会的な痛みは精神の葛藤を起し、これが身体の症状を増悪させる。従って末期癌患者には全人的援助が大切になる。医師、看護婦、ソーシャルワーカー、宗教家がチームを組み、患者の生を支えることがどうしても必要になる。Ｙさんが描いた梅の木、瑞巌寺で出合った梅の古木はそのことの重大さを私達に説いてくれたのではないだろうか。

過日、すでに亡くなられたＫ先生の奥様から「岸風三樓集」詩集を頂いた。Ｋ先生は有名な俳人であり、私が国立がんセンター病院に勤務していた折、肺癌の痛み治療が縁で知り合いになった。頂いた詩集の最後の頁に、「泰山木仰ぐ躬を寄せ過ぎゐたる」の句があった。Ｋ先生はこの泰山木の花が大好きで、お見舞い頂いた白い花を胸がつまるまで、いつまでもいつまでも病室で眺めていたそうです。万感交々思いが先生の胸に去来したことであろう。連日の激しい胸痛にもいつも礼儀正しく私達に感謝の言葉をのべ、湧き出る血痰をひとつひとつ丁寧に紙で拭き、酸素テントの中であえぐ呼吸をなんとか整えようとするお姿。ただ必死に苦しみに耐えて最後まで立派に生き抜かれた。この句の中に先生の鎮魂の気持が見出される。日頃、俳句は履歴書である。うれしいにつけ悲しいにつけ、美しい風景に接するにつけその一つ一つを自分の目で確かめ、膚で感じ、ひそかに書きとどめる文芸である、とのべている。またＫ先生のお姉様から届いた泰山木が今、沢山の白い花を故郷岡山で咲かせて何よりの供養になっていると編集後記に書かれていた。

「すかんぽを瓶にも挿して生きたしや」

まだまだしなければならない仕事が沢山あると最後まで言い続けたＫ先生の句は今でも医学生の教育に使っている。

（医学部麻酔学講座教授）

# 寄贈著書ありがとうございました

平成３年１月～11月に寄贈を受けた著書です。(　)内の記号は配架記号です。(敬称略、寄贈者五十音順)

**奥井勝二**〔前外科学第１講座教授〕

腹壁の外科　J. P. Chevrel 編　奥井勝二監訳　シュプリンガー・フェアラーク東京 1990　(WI900)

**奥田邦雄**〔名誉教授〕

Early Detection and Treatment of Liver Cancer. edited by Kunio Okuda et al. Japan Scientific Societies; Taylor & Francis 1991 (WI735)

**加藤　巖**〔前微生物学第２講座教授〕

細菌毒素の新しい情報伝達と医学生物学への応用　加藤　巖著　菜根出版　1991 (QW4)

**中村美保**〔小児看護学講座〕

小児病棟における面会の効果的な運用に関する研究　―昭和63・平成元・２年度［文部省］科学研究費補助金（一般研究Ｃ）研究成果報告書―　研究代表者：吉武香代子（研究分担者：中村美保）　1991 (文部省Ｓ)

〈Journal 紹介〉

# 法　医　学

木　内　政　寛

「法医学とは法律上の問題となる医学的事項を考究し、これに解決を与える医学である」(古畑)と定義されているように社会医学の一分野であり、その対象は生体、死体、物体、現場、書類などの広い範囲にわたる。したがってこれらの問題解決のための研究分野も極めて多岐にわたり、基礎医学、臨床医学、社会医学の各分野の医学のみならず遺伝学、人類学をはじめとして植物学、工学などにおよぶ自然科学、法学などの社会科学の領域とも関連し、多方面の情報、知見が必要となる場合がある。しかしこれらに関するすべての雑誌類について言及することは困難なことであり、法医学の専門誌と、法医学に関連がある論文の掲載される主な雑誌について列挙するにとどめるが、偏りと遺漏が多々ある事をご容赦願いたい。

## 1．法医学の専門誌

- American Journal of Forensic Medicine and Pathology
- Archiv für Kriminologie　＊
- Australian Journal of Forensic Sciences
- Beitrage zur Gerichtlichen Medizin
- Forensic Science International　＊
- International Journal of Legal Medicine　＊
- Journal of Forensic Sciences　＊
- Journal of the Forensic Science Society　＊
- Journal of Legal Medicine
- Medicine, Science and the Law　＊
- Medicine and Law
- Medico-Legal Journal
- 日本法医学雑誌　＊
- 犯罪学雑誌
- 法医学の実際と研究

## 2．法医学の特定分野と関わりあるもの

- Accident Analysis and Prevention
- Advances in Immunology　＊
- American Journal of Pathology　＊
- American Journal of Clinical Pathology　＊
- American Journal of Human Genetics　＊
- Alcoholism
- Alcohol and Alcoholism
- Archives of Environmental Contamination and Toxicology　＊
- Aviation Space and Environmental Medicine.
- Blood　＊
- British Journal of Industrial Medicine　＊
- Chromatographia
- Clinical and Experimental Immunology　＊
- Clinical Pharmacology and Therapeutics　＊
- Drug and Alcohol Dependence
- European Journal of Haematology　＊
- European Journal of Pharmacology
- Human Genetics
- Human Heredity
- Immunogenetics
- Internatinal Journal of Law and Psychiatry
- Journal of Analytical Toxicology
- Journal of Chromatography
- Journal of Chromatography-Biomedical Applications
- Journal of Chromatographic Science
- Journal of Clinical Immunology　＊
- Journal of Clinical Pathology
- Joural of Criminal Justice
- Journal of Immunology　＊
- Journal of Liquid Chromatography
- Journal of Molecular Biology　＊

・Journal of Pharmacy and Pharmacology ＊
・Journal of Police Science and Adminstration
・Journal of Trauma ＊
・Kriminologie
・Nucleic Acids Research ＊
・Pharmacology & Toxicology ＊
・Tissue Antigens ＊
・Toxicon
・Toxicology and applied Pharmacology ＊
・Transfusion ＊
・Transplantation ＊
・Vox Sanguinis ＊
・Zeitschrift für Verkehrsicherheit ＊
・衛生化学 ＊
・月刊薬事 ＊
・遺伝学雑誌
・医薬品研究 ＊
・人類遺伝学雑誌
・ジュリスト

**3．医学全般にわたる雑誌で法医学関連論文が多く見られるもの**

・British Medical Journal ＊
・Deutsche Medizinische Wochenschrift ＊
・Journal of American Medical Association ＊
・Journal of Clinical Investigation ＊
・Journal of Experimental Medicine ＊
・Journal of Laboratory and Clinical Medicine ＊
・Lancet ＊
・Nature ＊
・New England Journal of Medicine ＊
・Science ＊
・医学のあゆみ ＊
・日本医事新報 ＊

その他、基礎医学、臨床医学の多数の雑誌に関連論文が掲載されている。

＊印は亥鼻分館継続購読誌(92年分含む)

（法医学講座　教授）

〈ＣＤ－ＲＯＭコーナー〉

# 利用についてのお知らせ

**・ＣＤ－ＲＯＭ検索のサービス時間が延長になりました**（但し時間外開館実施中のみ）

利用時間（受付は閉館30分前まで）

月～金：９時～20時　（＊～17時）

土　：９時～16時30分（＊～12時）

（＊印は時間外開館を行わない場合）

尚、下記の時間帯は係員による説明、サポートは行えませんので、ご了承下さい。

月～金：11時30分～13時

16時30分～20時

土　：９時～16時30分

また、初めて利用される場合は、係員が説明致します。月曜～金曜の９時～11時の時間帯に、あらかじめカウンター（内線2808）までご連絡の上御利用下さい。

**・ＣＤ－ＲＯＭ検索ソフトがバージョンアップされ、検索方法が一部変更、新機能追加になりました。**

主な変更点

①ＳＨＯＷ（文献の画面表示）の時に各レコードへのマーキングが可能になりました。マークレコードのみを印刷やダウンロードの対象にすることが出来ます。

②検索式のフロッピィディスクへの登録と実行が出来るようになりました。あらかじめフロッピィディスクに検索式を登録しておくと、ＣＤ－ＲＯＭが更新された時など、登録しておいた検索式を画面上に呼び出し、検索を実行することが出来ます。

③ＳＨＯＷ（文献の画面表示）、PRINT（印刷）時のフィールド（論題、著者、雑誌名etc…）や文献番号等の指定画面が変わり、指定項目が一部変更になりました。

④ファンクションキーの機能が一部変更になりました。

主なキーは以下の通りです。

F９（MeＳＨ等シソーラス検索）

（旧；ＥＳＣ→「Ｔ」）

F10（コマンド一覧を出す）

（旧；ＥＳＣ）

Ctrl＋PgUp（文献表示画面での「次レコード」へ）（旧；F10）

その他いくつかの点が変更、新機能追加になっています。

**・CINAHL-CDが入りました**

ＣＩＮＡＨＬ－ＣＤはCumlative Index to Nursing & Allied Health Literatureという冊子体の索引誌がＣＤ－ＲＯＭ化されたものです。内容は看護学及び関連の健康・保健関係（Nursing & Allied Health）の文献情報で、英語で書かれた看護学関係の雑誌、American Nurses' Association、又はNational League for Nursingの出版物、そして、健康・保健に関する分野の主要な雑誌が収録対象となっています。

看護学分野でのＣＤ－ＲＯＭ検索は、他に当館でサービス中のCD－ROM MEDLINEに収録されているInternational Nursing Index（INI、冊子体も購入）でも出来ますが、CINAHL収録誌のうち約40％はINI未収録誌となっています（但し、冊子体1989年版での調査）。

看護学関係の文献検索では、この２つのデータベースを検索することで、より網羅的な検索に近づけるものと思われます。

検索期間は1983年から現在まで、更新は隔月となっています。

検索方法はCD－ROM MEDLINEとほぼ同じですが、文献中のフィールドの種類が一部異なっています。

また、登録されたキーワードからの検索ではMEDLINEの医学用語（MeSH＝Medical Subject Headings)を70%採用し、残りのうち1000語以上はCINAHL作成の専門用語（看護学と関連の健康・保健分野）を使用しています。

バージョンアップ後の検索方法、CINAHL-CD検索等、CD－ROM検索についてご不明の点がありましたら、カウンター（内線2808）までお尋ね下さい。

（現在当館でサービス中のCD－ROMは、CD－ROM MEDLINEとCINAHL－CD の２データベースとなっています。）

## 雑誌の遅れと未着について

「先週出たはずの雑誌がないのは何故か？」「何故週刊雑誌が順番通り到着しないのか?」雑誌の到着状況に限ってみても、図書館には多くの質問が寄せられます。そこで雑誌の到着の遅れや未着などの主な原因についてご説明することに致します。

**◎「発行・発売されたはずの雑誌がない」**

新聞などでは当日発行のLancetやNew England Journal of Medicine の論文が紙面を賑わせたりしますが、本国からの情報ですので、遠隔地の日本に雑誌が届くには、やはり時間がかかります。それでも近年では航空貨物の利用によって、到着状況はかなり改善されています。また日本での発行体制が整っているNature などは、本国とのタイム・ラグはあまり見られませんが、先日の湾岸戦争時は影響を受けて発行が遅れました。

学会誌などは会員直送ですから、図書館への到着状況や新着雑誌展示のタイミングによっては「遅い」と感じられるでしょうし、また書店経由で購読している雑誌も、発売日と図書館への納品に差があれば、同様の印象をもたれるでしょう。尚、臨時増刊号の場合、取次会社での扱いが通常号と異なるため、書店側でもチェック漏れが時々あり、我々からのクレームで気がつくということもあります。

**◎「順番通りに雑誌が届かない」**

外国雑誌は郵便事情によるものがほとんどです。千葉大学の場合は成田空港などから地域の中央郵便局経由で、図書館に配達されますが、局側の処理状況により、週刊誌で２～３号分まとめてとか、巻号が前後するなどして到着することがあります。また誤配などによる遅れもあり、郵便物に添付されるメモには「オーストラリアに誤送されたため遅れました」といったことなどが書かれていることもあります。この他に戦争やクーデターなど社会情勢の悪化による影響もあります。

**◎「他所にはあるのに当館にはない」**

利用される方が一番不審に思われるのは、この例だと思います。主な原因としては、郵便事情、他の図書館が航空便扱いで当館が通常便扱いの場合、それに業者側の発注遅れや漏れによる場合等が挙げられます。91年の発注トラブルでは、ある学会が関連外国雑誌の一括購入を行い、廉価で頒布するという方式をとったため、依頼により申し込んだものの、肝心の雑誌が出版社から全然届かず、学会から出版社に問い合わせても何の回答もない、といった事態が起こっています。

図書館では、未着雑誌が判明次第、クレームを出していますが、国によっては出版や契約の慣習の違いから、国内雑誌のように欠けた部分がスムースに埋められない場合があります。利用に際して、大変ご不便をお掛けすると思いますが、これらの諸事情についてご理解頂きたいと思います。尚、ご質問等がある場合は図書館カウンター(内2808)もしくは目録情報係(内2805)までご遠慮なくどうぞ。

## ジャーナル情報

このページでは、亥鼻地区で受け入れのタイトルについて、新規受入、受入中止、誌名変更、休・廃刊等の情報をお知らせします。

**1991年度新規購読**

1．Age & Ageing（老　看）
2．Current Biology（遺伝子）
3．Discussions in Neuroscience（図書館）
4．European Respiratory Review（図書館）
5．Hippocampus（機　代）
6．生き生きジャーナル（看　校）
7．実験医学（微　2）
8．オペナーシング（手術部）
9．産業医学レビュー(含むバックナンバー)（衛　生）
10．ターミナルケア（成看1）

**1992年度新規購読**

1．Advances in Nursing Science（成看1）
2．American Journal of Occupational Therapy（理療部）
3．Atherosclerosis（内　3）
4．Cell（遺伝子）
5．Cytometry（輸血部）
6．Geriatric Nursing（成看1）
7．Home Healthcare Nurse（看　管）
8．Journal of Experimental Animal Science（動実施）
9．Journal of the Forensic Science Society（法　医）
10．Journal of Forensic Sciences（法　医）
11．Journal of Nurse-Midwifery（母　看）
12．Magnetic Resonance Imaging（放技校）
13．Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America（遺伝子）
14．Toxicology Letters（衛　生）
15．大学と学生（看　教）
16．Human Sexuality(別冊健康教室)（図書館，地看）
17．IDE・現代の高等教育（看　教）
18．Innervision（放技校）
19．医用画像工学会雑誌（放技校）
20．JJNスペシャル（図書館）
21．実験医学（高　次）
22．看護管理（助産校）
23．看護研究（助産校）

24．看護展望　（助産校）
25．日本歯科麻酔学会雑誌　（歯　口）
26．脳と精神の医学　（精　神）
27．産業医学レビュー　（衛　生）
28．ターミナルケア　（図書館）
29．蛋白質・核酸・酵素　（高　次）

**1992年度購読中止**

1．A.S.A.I.O. Transactions　（外　2）
2．Acta Chirurgica　（外　2）
3．Acta Physiologica Scandinavica　（高　次）
4．American Journal of Surgery　（外2，成看2）
5．Annals of Surgery　（外2，人工腎，成看2）
6．Archives of Surgery　（外2，人工腎）
7．Bibliography of Reproduction　（解　2）
8．British Journal of Pharmacology　（高　次）
9．British Journal of Surgery　（外　2）
10．Cancer　（外2，人工腎）
11．Cancer Research　（人工腎）
12．Clinical Transplantation　（外　2）
13．Current Surgery　（外　2）
14．Digestive Diseases and Sciences　（外　2）
15．Gastroenterology　（外　2）
16．Hospital and Community Psychiatry　（精　神）
17．Journal of Small Animal Practice　（動実施）
18．Journal of Surgical Research　（外　2）
19．Klinische Monatsblatter für Augenheilkunde　（眼　科）
20．Orbit　（眼　科）
21．Psychophysiology　（精　神）
22．Surgery　（人工腎）
23．Surgery, Gynecology and Obstetrics　（外　2）
24．Toxicology and Applied Pharmacology　（衛　生）
25．Transplantation Proceedings　（外　2）
26．Zentralblatt Rechtsmedizin　（法医学）
27．癌と化学療法　（人工腎）
28．外科診療　（外　2）
29．ICCとCCU　（成看2）
30．医学教育　（基　看）
31．Immunohaematology　（輸血部）
32．からだの科学　（薬剤部）
33．胸部外科　（外　2）
34．民族衛生　（生　体）
35．ナーシング・トゥディ　（助産校）

36．日本薬理学雑誌　（薬剤部）
37．臨床外科　（成看２）
38．臨床放射線　（外　２）
39．臨床成人病　（成看１）
40．リウマチ　（整　外）
41．最新医学　（外　２）
42．整形・災害外科　（整　外）
43．生体の科学　（高　次）
44．神経内科　（精　神）
45．神経精神薬理　（発　達）

**バックナンバー購入**

1．Biochimica et Biophysica Acta: Bioenergetics　1015-1020(1990)　（図書館）
2．Biochimica et Biophysica Acta: Molecular Cell Research　1051-1055(1990)　（図書館）
3．Biochimica et Biophysica Acta: Reviews on Cancer　1032 (1990)　（図書館）
4．Carcinogenesis　6(1985)-7(1986)　（図書館）
5．European Journal of Haematology　44-45(1990)　（内　２）
6．Journal of Arthroplasty　1(1986)-4(1989)　（整　外）
7．Journal of Continuing Education in Nursing　1(1970)-2(1971)　（図書館）
8．日本看護科学会誌　3(2)(1983), 4-5(1985)　（基　看）

**新規寄贈受入**

・ポイント オブ ビュー　10(4)(1990)-　（図書館）

**寄贈中止**

・BIOmedica　（図書館）

**誌名変更**

・Acta Chirurgica Scandinavica -156(1990)
　⟶ Acta Chirurgica 157(1991)-
・Cleft Palate Journal -27(1990)
　⟶ Cleft Palate-Craniofacial Journal 28(1991)-
・Stain Technology -65(1990)
　⟶ Biotechnic and Histochemistry 66(1991)-
・Zahn-, Mund- und Kieferheilkunde mit Zentralblatt -78(1990)
　⟶ Deutsche Zahn-, Mund- und Kieferheilkunde mit Zentralblatt 79(1991)-
・Zeitschirift für Rechtsmedizin -103(1989/90)
　⟶ International Journal of Legal Medicine 104(1990/91)-
・Zeitschirift für Kinderchirurgie -45(1990)
　⟶ European Journal of Pediatric Surgery 1(1991)-
・衛生検査 -39(1990)
　⟶ 医学検査 40(1991)-
・芸術療法 -20(1989)
　⟶ 日本芸術療法学会誌 21(1990)-
・公衆衛生院研究報告 -39(1990)
　⟶ 公衆衛生研究 40(1991)-

・日本平滑筋学会雑誌 -26(1990)
　⟶ Journal of Smooth Muscle Research 27(1991)-

**休・廃刊**

・Bibliography on Stomach Cancer -20(2)(1990)//
・Japanese Journal of Experimental Medicine. -60(1990)//
・Zeitschirift für Urologie und Nephrologie -83(1990)//
　(Akutuelle Urologie に吸収・合併される)
・医生物走査電顕 -19(1990)//
・国内胃がん文献速報 -19(3)(1990)//
・ナース・ステーション -20(1990)//

〈オンライン検索にゅーす〉

# JOIS利用料金改定

JOIS 利用料金が4月1日から改定され、現在、下記の料金でサービスを行っています。

関連する主なファイルとしては、JMEDICINE国内医学文献ファイルが、接続料金161円／分→171円／分(出力料金は変わらず)、EMBASE医学・薬学文献ファイルが、接続料金267円／分→265円／分、回答出力料金30円／件→50円／件となっています。

**JOISサービス料金表**

**1．オンライン料金（消費税は含まれておりません）**

| 料金 / データベース名 | ファイル接続料金 | オンライン回答出力料金(ヒットチャージ) | 手配料金 | 回答出力料金 Aタイプ(抄録付) | 回答出力料金 Fタイプ(抄録無し) |
|---|---|---|---|---|---|
| JICST | 160円／分 | 50円／件 | 500円／回 | 75円／件 | 57円／件 |
| JICST-E | 130円／分 | 50円／件 | 500円／回 | 61円／件 | 61円／件 |
| JCLEARING | 160円／分 | 45円／件 | 500円／回 | 58円／件 | 52円／件 |
| JQUICK | 160円／分 | 25円／件 | 500円／回 | 30円／件 | —— |
| JCATALOG | 50円／分 | —— | —— | —— | —— |
| JMEDICINE | 171円／分 | 54円／件 | 500円／回 | 68円／件 | 56円／件 |
| NK-MEDIA | 187円／分 | 53円／件 | 500円／回 | 78円／件 | 60円／件 |
| JAFIC | 160円／分 | 45円／件 | 500円／回 | 70円／件 | 52円／件 |
| OSAKA-UE | 160円／分 | 45円／件 | 500円／回 | 70円／件 | 52円／件 |
| MEDLINE | 90円／分 | 25円／件 | 500円／回 | 49円／件 | 39円／件 |
| TOXLINE | 143円／分 | 29円／件 | 500円／回 | 53円／件 | 43円／件 |
| CANCERLIT | 90円／分 | 25円／件 | 500円／回 | 49円／件 | 39円／件 |
| MeSH | 50円／分 | —— | —— | —— | —— |
| EMBASE | 265円／分 | 50円／件 | 500円／回 | 75円／件 | 50円／件 |
| MALIMET | 50円／分 | —— | —— | —— | —— |
| INIS | 180円／分 | 50円／件 | 500円／回 | 75円／件 | 57円／件 |
| IRRD | 160円／分 | 30円／件 | 500円／回 | 55円／件 | 37円／件 |
| INFOTERRA | 160円／分 | 30円／件 | 500円／回 | 55円／件 | 37円／件 |
| 研修ファイル | 無料 | —— | —— | —— | —— |

**2．ユーザSDI料金(消費税は含まれておりません)**

| データベース名 | 基本料 | 回答出力料金 |
|---|---|---|
| JICST | 890円／1検索 | 75円／件 |
| JICST-E | 830円／1検索 | 61円／件 |
| JMEDICINE | 1,470円／1検索 | 68円／件 |
| JQUINE | 660円／1検索 | 30円／件 |
| MEDLINE | 430円／1検索 | 49円／件 |
| EMBASE | 1,240円／1検索 | 75円／件 |

**3．その他のオンライン料金(消費税は含まれておりません)**

| 項目 | 料金 |
|---|---|
| 質問滞泊料金(1質問当り)(ストアサーチ質問及びヘッジ質問) | 125円／週 |
| オンライン複写申込(¥ORD)接続料金 | 無料 |
| 会話退避料金 | 360円／回 |
| NEWS | 無料 |

## 「文献のさがし方ガイダンス」の実施

当館では例年医学文献、看護学文献のさがし方ガイダンスを行っていますが、今年度は新たに看護学校生へのガイダンスが加わり、以下の日程で実施しました。

**「医学文献のさがし方ガイダンス」**

(Index Medicus, 医学中央雑誌等の二次資料の説明と演習。終了後、希望者へはCD-ROM MEDLINE のデモンストレーション)

- 医学部院生・研究生、研修医（同内容を２回）
  6月4日(火)、5日(水)
- 医学部学生－4年生を中心に（同内容を２回）
  6月10日(月)、17日(月)

**「看護学文献のさがし方ガイダンス」**

（講義時間を利用。日本看護関係文献集、International Nursing Index 等の二次資料の説明と演習）

- 助産婦学校生
  4月19日(金)
- 看護学校３年生
  4月23日(火)
- 看護学部３年生（半数ずつ２回に分けて実施）
  7月2日(火)、9日(火)

**お知らせ**

## 2階雑誌室から書庫への移動について

前号でお知らせしました雑誌の大移動に続き、今回再び雑誌室の一部を書庫へ移動することになりました。

雑誌室の棚のスペースの不足が予想以上に早く進んだためで、現在移動作業中です。

作業中は何かとご不便をおかけしますが、ご了承下さい。

移動部分は和・洋の1980年から1984年までの５年分で、和は書庫１階の部屋の中、洋は書庫２階から４階の廊下部分で、それぞれのタイトルの1979年に続けて配架される予定です。

**千葉大学附属図書館亥鼻分館報“らいぶらりいゐのはな„ No.26** 1991年12月25日発行
千葉大学附属図書館亥鼻分館発行　　発行者：橘　正道
千葉市亥鼻１－８－１　電話 0472(22)7171(代)